	==	授	業	科	目	Ø	概	要	
	科目	学群 人間文化学類)							
	区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
	初年次教	基礎ゼミI	習識を姿というの目	を学ぶ。受 って講義の をようなような いを発見す	け身の態度 参加し、 人数クラス 学生活を過 る手助けを	で講義に臨 まざまな課 での対話を ごすかを考	むのではな 題に対して 通じて、大 え、本の読み	めの基礎的な学 会の場合問題組 主学のいたをが が を が は た た 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
	教育科目	基礎ゼミⅡ	の技術と深いる。	と姿勢を養 ためのこと かと、相 をめぐって	う。自分で の習熟を目 目標とする の積極的な	調べ、、それにそれらいまでは、それらいまでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	らを整理し に、自己に 基本的に、 よって進め	充実させるため、 、他者に明解と認 かかにこのいて生の主体の 参加学名。個々の 通して、大学で	
人間総合学群		仏教学 I	マ基ド史るまで	ッダの生涯の生涯の生涯のない。 がかというないないないないない。 があるでは、 があるでは、 があるでは、 があるでは、 があるでは、 はいない。 はいない。 はいないできる。 とっともないできる。 はいないできる。 はいないできる。 とっともないできる。 とっともないできる。 とっともないでもないできる。 とっともないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないで	とその教え そくジョン とろびデータ で が が が が が が が が が が が り で り で り で り で	を知りと・文をというというというというというというというというというといいにはいいといいた。	教学および 的背景を引き 生涯と仏教 で 学習する。	で開祖、ゴータ に関するン 具まえないで解さいで はに関するン はたないで解説にはないが、 はいでや、 はいがが、 はいがが、 はいがが、 はいがが、 はいがが、 はいがが、 はいがが、 はいががが、 はいががが、 はいがが、 はいがががががががががががががががががががががが	
教養教育科目	建学の精神	仏教学Ⅱ	禅師知識るをおります。事	生涯とその を 学みに を が に え な は る は る は る は る は る は る は る は る は る は	教えを知えを知るを知るを知る。のまたのは、またのでは、またのでは、またのでは、これの	、仏教学お を目的と心と の人継承 としれ に 想について	よび宗教学 る。具体の しての 道 を で が で が で が で が で が で が で が で が で が で	宗の開祖、道元  に関する基本的  にはは仏教学 I には仏教学 Y 化的  歴史の生涯とと化的の生語の単語の単語の単語の思い  でない。  作法も身につけ	
	を学ぶ科目	仏教学Ⅲ	史とそ修 とくびま代思 り や思	の教えを知えるとなるというないできないできないできないできないできないできないできないできないできないでき	り、仏教と を目代を 自時代教 を は教行事 仏教 で る。	および宗教 る。具体的 心としる各 に る文化	学に関する には仏教学 本の歴史い 派についてさ の坐禅堂に	て日本仏教の歴 教養Ⅱにおける : I・ I・文化的背景を けっていまする。 は説はは本の哲学 で2回程度の坐禅 で2回程度の	
		仏教学IV	の得びな代思にがに想に	をという 知をという をという を は は は は は は は は は は は は は は は は り た し た り た り た し た し た し た し た し た し た	教学および とする。文化 曹洞宗事や で で で で で で で で を で を で を を を を で を で	宗教学に関 体的には仏 に関する歴 史上の人物 宗の文化的	する教養や 教学Ⅰ・Ⅱ 史的・文化 につる、さて と禅堂にて	て禅の歴史とそを知識をひろく修・Ⅲに景をかける学え的背景をふまま現。 に対ける学えの哲学の哲学の哲学の哲学の哲学の生禅の生神の生神実	

			業	科	目	Ø	概	要	
		学群 人間文化学類)							
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
人間総合学群 教養教育科目	建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	育イ ( 健てど (駒会う (駒の図 (創な本 (前近駒う (石駒このデ オ 1 学、に 7 沢と。 12 沢内る 31 立がの 17 半隣沢。 7 川沢れ特ン ム 光のテつ 佐女摂 女容。 者ら様 はの学学 佐創女ま	色テ ニ 任精一い モ子心 千子、 安、山子 皆稲高園園 ミノ子でなイ バ 督神ヲて 木大会 葉大解 藤山上も 川城勝の内 木回六学 なイ 方 良ふメ講 道の誕 慈のな 則曹生介 孝自、み施 俊)の修学一 式 11まイ義 14生 /歩ど /源のす /然三を設 道(学の)	ぶを / 回えドを / 2と記 20みに 20先教る 40と沢草や 1にさ 20 た教行 10 題日 とつ 15 駒育う 1 し、 歌て 生つ 、どかを 葉 でよせ ) 女ミ て遅 ・の 遅い 稲をら歩 葉 の でい ない	oc 子ッ 学锋 交載 とて 成敗戦く 慈 アグル で、と サッ 一	マテと す女 まな 、校 と こ こっと 藤 ( ) かく できる と、 り、に 歌を いっと い理現対 則 をている を 、 り、に 歌を いっと で解在す 則 をている でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でんき でんしょう かんき でんしょう かんしょう かんしょう はんしょう かんしょう しょうしょう はんしょう かんしょう しょうしょう はんしょう しょうしょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょく はんしょ はんしょく は	まみ生生 かい で で で で で で で で で で で で で で で で で で	オムニバス方式 共同 (一部)
	入門	日本文化入門 I	ついて、 欠な教 た、日 につい も学習	、 、 太 を 学 習 を と 活 に に に に に に に に に に に に に	知識を習得 る。具体的 の周辺にこれ さびを通じ 学びを通じ	し、日本文 にはより はな身 が と で と で と で な で 、 と で く と で く り た 、 り た 、 り て 、 り た 、 り た 、 り た 、 り た 、 り た 、 り た 、 り た 、 り た 、 り た り た	化の専門的 文化を生み 文化事象本 と と に こ め ら と た り と た り と り と り と り た り と り た り と り ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	たる日本文化に 学習に必要不可 出す土壌とない ある精神につい、 れた意味と、 現 と のけ が は り に り り り り り り り り り り り り り り り り り	共同
	科目	日本文化入門Ⅱ	ついて、 欠な教 儀礼・ につす	、 、 な学者と を を な と と と に な に に に に に に に に に に に に に	知識を習得る。具体的 文化を生み そこに根ざ びを通じて	し、日本文 には、日本文 にはす土壌色 した日本文化	化の専門的 の中に神を な生活文 にこめられ	たる日本文化に 学習に必要不可 見出し、祭祀土 本の多彩な風土 の歴史につい現代 た意味と、現代 少身につける。	共同

	問総合	授学群 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		人間関係入門 I	の理再を紹む ( 心る (社る (11 世界) (12 世界) ( 12 世界) ( 12 世界) ( 12 世界) ( 14 年) ( 15 世界) ( 16 世界) ( 17 世界)	ニ会反学。目 ヾ 友視 恵視 ケ学省生各様	ョンに対し、   は	て、人文科研 スディ供 文学 文学 文学 文学 大学 で 大学 大学 で 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	全・社会際 社会際れー概 が の の の の の の の の の の の の の	、	オムニバス方式
人間総合学群 教養教育科	入門科目	人間関係入門Ⅱ	(に) (に) (に) (に) (に) (に) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は	、	、身体文化 生を対象に 各分野・毛 を 全15回) (5回) と研究対象 (5回) と研究対象 (5回) と研究対象	論、メディフ それが変と鬼 去の特徴と鬼 こついて研究 こついて研究	で研究、国 で学的アプト は力につい で事例を紹 で事例を紹	関連する諸学問際社会論など) に対して概括的な理解 介しながら解説 介しながら解説 かいながら解説 かいながら解説 しながら解説	オムニバス方式
目		英語コミュニケーション入門 I	語成ンン表し、からないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	力を養う 1人のマ 1人のマ い で で 認 気 で る に る の マ の マ の マ の て の マ の に の に の に の に の に の に の に の に の ら の の ら の の の の	とともに、ヴ おイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2) 果を高める	版りを行数りを行数を対している。 教員が少担当 はないをしたがいる。 はないののでは、 ないののでは、 ないののでは、 ないでいる。 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	けい、自律 とながいました。 はいれる は話内を個別 は一ででは、 はいる。	し、基礎的な存 のなう。 かり、基礎的な存 のカードをでした。 かり、アードルでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	共同
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	礎成ンン表し、 かす、テ現の個 で、ファスミャ	語運用能 1人のマ リーで認 いで い で い で い で い で い で い で い で い で い	力を養う。 語ネイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2) 果を高める	辰り返りを追教してを追教している。 教員が少担当 かまでしたといる。 からのおりの指導を ための指導を	値し、自律 めがいた は は は は は は は は は は は は は は に い に い に い	活動をでは、基育の という	共同
		観光文化入門 I	が進展し すれる も 重要産業	、き現ての親にないとび ( とののの観いとび ) しょう いんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	豊かさが求 ていくと思 光が国の経 る。この授 して成長し	められる中で われる。また 斉や文化・国 業では、観光 た観光に関わ	<ul><li>ご、観光の</li><li>二、「観光</li><li>国民の生活</li><li>社の意義を</li><li>つる基本的</li></ul>	今後高齢化社会 果たす役割はまさ 果国」が推進効果 立にもたらわが国 考え事項を広くく の課題を正しく	

				業	科	目	Ø	概	要	
	<b>間</b> 網 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			観光文化入門 Ⅱ	い 多様 は ま さ っ ・ も に る 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	側意様観媒察中で・な事・るに行効活業観。、	「われる活動 果を高めいう という かま かま が が が が が が と と と と と と と と と と と と と	を含さな、 観概を を と を と を し の を 、 う を 、 の を 、 の を 、 の を 、 の を 、 の の あ 。 の の あ 。 の あ の あ 。 の あ の あ の あ の あ の あ 。 の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の あ の の あ の の る の る の の の る の の る の の の の の の の の の の の の の	<ul><li>観光に関われる</li><li>社会いる</li><li>は成功</li><li>で構成</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>である</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>できます</li><li>でき</li></ul>	iなど公共性の高る事業をはい、 る事を盛んに前提に のまるまなが、 のまれる。 のまれる。 のまれる。 のまれる。 のまれる。 のまれる。 のまれる。 のまれる。 のまれる。 のまれる。 では、 では、 では、 では、 でいても には、 でいても でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、 でい、	
			心理学入門 I	し進める 問題の を を と を と を と を と を と の に を と の に 、 の に り た り た り た り た り た り た り た り た り た り	基礎心理 決や改は 業にはと は、情動と	学と、基礎 に寄与する 者を柱とし こころを理	心理学の知 ことを目指 た授業を行 解するたる 的な知識	見を活かし す応用心理 う。心理学 かの感覚・	は法則の探求を推 て現実生活上の 2学に大別される さの成立過程とい 知覚、学習、通じ 。 それらを通じ	
	<i>フ</i> 門 科	月 斗	心理学入門Ⅱ	生活の中 法・産業 ら解説す 究領域は	でどのよ などの領 るととも 学際的で	うに生かさ 域に焦点を に適宜レポ	れているの 当てる。出 ートを課し する他の学	か、教育・ 来る限り具 ていく。ま 問との相互	、心理学が社会 医療・福祉・司 は体例を交えなが た、心理学の研 連携が不可欠で する。	
人間総合学群 **			住空間デザイン入門 I	い、建築 ルー た、自分 で、自分	・インテ ~にデザイ :会や共同	リアからも ンする「リ 作業などの 表現する力	のづくり( ビングデー 実践の場を	家具、陶器 ザイン」に 通してデサ	本的な知識を養品、織物)までをいて学ぶ。までいて学ぶ。までかる基礎を学に対する力を身に	共同
教養教育科目			住空間デザイン入門Ⅱ	づくり ( ングデザ 会や共同	家具、陶 イン」など 作業現する	器、織物) ついて幅広 の実践の場	までをトー く客観的な を通してデ	タルにデサ 視点から学 ザインの基	アリアからもの インする「リビ さぶ。また、見学 らび、自分 けるこ	#:=
			人間と思想 I	かを考察 原始キリ んだ学説 を行う。	するとかきれることかを材をする。	が本授業の ら中世ルネ 使って、現 料として西	目的である サンスまで 代的な問題 洋哲学を歴	。ギリシア の哲学的知 についての 史的に学び	)ようなものなの (、ヘレニズム、 : 識を紹介し、学 )考察、演習問題 、かつ現代社会 : うになることを	
	養知科	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅱ	存在とし関的、の関連との連	て考えら 大的なで 実践を活	れてきたか ーマにつち カしてる方、現 間について	ということ てもとりあ を講義する 代社会にお	を考察する げて、知識 。哲学史を ける様々な	、間はどのような。。倫理や道徳に 成を増やし、哲学 で覚えるだけでな 事象や社会問題 ができるように	
			人間と文化 I	考察を深 文化を発 はおどろ 語、思想	める。 展させて くほど共 、 教育、	本は古来よ きた。外国 通した特徴	り諸外国か から移入さ がみられる 交通などを	らの文化を れた文化の 。このよう 取り上げ、	P日本人について 受容し、独自の 変容のパターン な観点から、言 近代日本におけ いく。	

, .		<b>∿</b> ♪ -	授	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			言井	義等の内容			備考
			人間と文化Ⅱ	人や日 は、198 移入と ら、現	本文化の特 53年に放送 の関わりな 在に至るま	徴について がはじまっ こしには語る での日本人	考察を深め たテレビを ることができ	る。1945年 中心とした きない。こ について、	ま大戦以降の日本 以降の日本文化 アメリカ文化の のような観点か 戦後の日本や日	
			生命の科学	物とい で ら を す る の 到達	う。生命の な機能を進 解する上で 生命科学の 目標として、	連続は細胞 化させた。 必要となる 基礎知識を	を進化させ 本講義は生 基礎的な知 身につける 我の範囲で生	、単純な形 命科学の最 識を学習し ことを目標	する。これを生態からより複雑新の話題とそれ、加速度的に進きとする。 最低限済事内容が理解で	
			倫理学	る。具の現代の場合の現代である。現代の対象の対象の対象を表現である。	体的には、 展開、科学 終末期医療 紹介する。 を身につけ	倫理学の歴 と倫理、科 と人間の いれらの 学 、倫理的に	史、自由の 学の中立性 厳などの諸 修を通じて	価値、功利 、科学技術 問題につい 、平等や正 どのような	テーマを考察す 主義、倫理学の と倫理、仮をあげ で、関する哲学 にとなのかを学 こい。	
人間総合学群	養	人間を学	人権の基礎	間 を で で に う に の を の に 。 に る に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	厳』という れらがどの な問題性を 表といて理解 で解するこ	観念、これ ひようにして 孕んでいる 再なること、 るこれ	ルを具体化す で形成される かを、人権 の人権獲得	るためのたないないないない。そのようなでは、一体では、これでは、これで、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	ある」とする『人 方法としての「人 た内容を持ち、 たから検討し、 がその保障等の 種人権 現について 標とする。	
教養教育科目	科目	子ぶ科目	女性の人権	すればれてきだい 平論の、でのは何が、	女性の人権 た原因の把 けでなく、 で、なぜ女 の原因を理	が握れまれまれません。 大きないのでは、 はないでは、 はないではいいでは、 はないではいいでは、 はればいいでは、 はればいいでは、 はればいいではいいでは、 はればいはいいではいはいはいはいはいはいいではいはいはいはいはいはいいではい	るかを、女 除という視 点をも取り 別枠で取り 女性の人権	性の人権が 点から解説 入れている 上げられな が充分に保	検討し、いかに はないがしるに際、 はなる。その際の議 はればならない にすることを はならないに できない にすることを	
			心理学 I	を様とをし、している。	学問である 研究を紹介 大非常に無 身ともに発	。この授業 し、心理学 とする状態で 達し大人に	をでは、これ の基礎的な 理学 I では 誕生した赤	1まで積み 知識と考え 、主にんがど ちかを理解	についての研究 重ねられてきた 方を身に付ける の発達について のような経験を し、自分のこと	
			心理学Ⅱ	を行うなを は と 基と 本の 活 で 誰	学問である 研究を紹目で おかかかい がかが体験 であるかいないかい	。この授業 し、心理学 とする。ムに カニズてどの ることが心	をでは、これの基礎的な 理学Ⅱでは ついて説明 ようなこと	いまで積み 知識 知識 知知 知る はない はない はない はない はない はない はない はない はない はない	についたの研究 重力を身にではいる 方を身習といびできたる で、他のか、は常生 で、これでいるの で、これでいるで、これで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これ	
			生涯学習論 I	的、 を に と の る 、 る 。 る 。	史「含や生生生学 を学まりの を学まり をでれい を習習 でで で で で で で で で で で で で で で で で で	論、生涯学ける とと本、 にと本、 に を を と を と を と を と を と を と を と を と を と	習の内容やではおけるではいるではいるではいるを 学習を支に異開りを 理論を理解	方法を概説 「達」を概説 学目標と はない は で と り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	学習の意義や目はする。生涯学習の意義や目はする。生涯学習はいけないはないとないでを通りを充分にといることができる。以上の4点	

			授	業	科	目	0	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			言 <b>并</b>	義等の内容			備考
			生涯学習論Ⅱ	や必としのりまして取られば	<ul><li>・職員の役割</li><li>基礎技能を付り</li><li>企り</li><li>基礎技能を付け</li><li>基礎技能を付け</li><li>基礎技能を付け</li><li>基礎技能を付け</li><li>を理算</li><li>を理算</li></ul>	割に習いないるいるででででいる義の明に得の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神	概説し、生 とを目指す。 目的を理解 ②生涯学習 ることがで	涯学習支援 と生する をきるができるができるがきる。 できるがきる。	習に関する制度で制度で担いる制度ではいる担いる担いを担いる担いを関連を表して関連を表してでは、法律を出いでは、企業では、企業では、企業では、企業では、企業では、企業では、企業では、企業	
		人間を学ぶ科目	社会福祉概論 I	でとら祉度理やでとら社のでとら社のでは、	まず社会福行ギリスやででる。 ででででは、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	祉論の基本アメルをリカをがいる のがでいる のがいる のがいる のができる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はい	的視点を紹か 中心に学び、 すさえる。 そ といった 個別 といて 取り上い 社の諸現象に	介し、次に 、 し、本に かる。 で がる。 で が る に が る に と で 、 が る 。 と で 、 が に が に が に が に が に が に が に が に が に が	学習する。授習する。授習する。授習するとは 社のには、いいのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
			社会福祉概論Ⅱ	クの実際 理(ステンク でででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でのでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	祭として、 る。授業後 別援助技術 の具体的 病に関する	社会福祉の 半では、各 (ケースワ な事例に取 知識や技術	実施体制や 自がソーシ ーク)おより 組み、発	社会福祉援 ャルワーカ び集団援助 表と討議を 社会福祉援	ソーシャルワー 助技術について 一の立場に一ついて 大街(グループ 行う。社会福祉 助活動に活用で	
人間総合学群	教養知		日本の歴史	開、社会国と国際日本の変遷を	会や文化の特別とする。 対とする。 竟などの特別 本の文化的特別 を総合的に打	特色、国際 具体的には 色について 特徴につい 把握し、考	関係に関す、 、各時代のi 、歴史資料で学習する。	る基礎的知 政治、経済 や先行研究 の思考力を の思考力を	国家の形成と展 識を修得するこ 、 に基づいて、明 に を 傾 し 、現代社	
教養教育科目	科目	<b>*</b>	世界の歴史	「権利」 びつかる。 に権利を が持つ	と、それら ながら学習っ 対立する を獲得したの 「権利」を	らを獲得する を変こと をる、民こ と と と と と と と と と と と る 、 と 、 と る 、 る 、	るために行え、受講生の! 、そして国! 疑問を考える	われた様々 思考能力を 家のとと いこと いき	えている様々な に「排除いくこよ にがないが が が で が で が き な り り 、 、 。 な り り 、 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	
		文化と歴史を学ぶ科目	戦争と平和の歴史 I	のなが、 界、19† も ま方法。	か?この問いまでの国際 までの国際 世紀後半に ける。国際 を身につけ	いに対する 関係を分析 国際社会で 関係史の基 ることが目	答えを求め デする。欧米 頭角を現す 礎的知識の 的である。「	て、19世紀 その国際関 ようになっ 習得、さら 映像資料を	避けられない世 未から第二ない世 保が日本につない を日本につない を日本会科学的思 を用し、世界 を用し、世界 エ夫をしていき	
		П	戦争と平和の歴史Ⅱ	の冷アカしのだり、つつに	か?この問い終結までの ヨーアフリン 東、現代史の けることが	いに対する ) 国際関係 はも世界と 力と世界知 は 目的である	答えを求める分析するのででは、現るのでは、現るのでは、現るのでは、現るのでは、現るのでは、現るのでは、まずのでは、さいでは、さいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	て、第二次 。 アメアニ オセア形 在進行会 を 多用し、	避けた大戦によった。 世界大戦では、大戦では、大戦では、大戦では、大戦では、大戦では、大連では、大連では、大連には、大きないが、大きない。 国際のは、大きない。 では、たちない。 では、たちないない。 では、なないなななななななななななな	
			西洋文化史	概観し、し、して古いたいした。	一つの文 記、手紙、 ヨーロッ 弋世界(古1 中世、その紀	化の成長が 装飾品や日 パ各地の <i>リ</i> 代ギリシア 結実として	から衰退まで 常の必需品 々の生活と 文化)から のルネサン	での経緯を などの多岐 さ考え方を ヨーロッパ スまでを扱	イドを多用して 研究する。モノを にわたるモノをご 知る。本講義を形 文化の基層を形 う。西洋文化の ことを目標とす	

			授	<del></del>	科	目	の	概	要	
	<b>八間</b> 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			日本美術史	時代別は 基礎知識 工芸の 通じて、 様なデサ	こテーマを 戦を傷を 信仰・ ドインなど	設定し、日 ることを目 に日本美術 種儀式から	本美術史上 的歴史はるの の歴史はされ の特徴、さ	の名品を朝 具体的には いて解説す た美、建築 らに日本の	展開について、各 油に、日本美術の t、絵画・影刻・ る。この学びを そや工芸にみる多 ・ 美意識に大きな 5。	
			比較文化	たときるのでは、たらに、とき考えては、ときのでは、ときを考えている。	の「衝撃ととなる」ですることをすることをなることをできまり、メリカンスをはない。	憧憬と葛藤 界の中の日 目的とする。 ルトガルと 時代のオラ	」について 本を、歴史 。16世紀後 スペインの ンダの実用	く、第一次 的にも、空 半から17世 南蛮文化と 学への憧れ	て化に初めて接し 資料を読みで達し 週間的にも、女工確 記間初頭の安土桃 の衝撃的な出会 と探求、明治期 いつ批判的な交流	
		文	日本の文化	いりし人の行為を行っています。	日本で生ま 常生活仏を おないに いる に で 数 と き き き き き き き き き き き き き き り た り た り た	れ育った者 践し無意識 ・禅から派 拶のような られた心を	は誰でも持 は文化とし 生した言識に、 理解し、自身	会拶と言う と言う となりに付 であること に付いてい に、無意	て化を中心にみて 主業をいる。とない は、日本人の日常 は、日本人のでいる が、 が、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で	
人間総合学群	教養知	文化と歴史を学ぶ科目	観光地理(日本)	特産物ないでは、どのでは、できる。	などについ なできるよ ーチャンく。 る。また、	て幅広く学 う知識を高 旅行を意識 「旅行業務	ぶことに と いる い が ら せ が き 理 者 上 げ た 観 れ だ て 親 ろ に ろ に ろ れ た う に り た り れ り た り れ り た り れ た り に り れ と り た り れ と り た り と り た り と り た り と り と り と り と り	り、「旅行 と現地の時 光資源の特 資源の所在	成の文化・風物、 デ」に対して専門 は像などを利用し は像など位置関係な で得る国界を で得る国界を 説明 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
教養教育科目		I	観光地理(世界)	史・文化 知識を身 家試験に を世形、	と・習慣な すに付ける こ向けての けることも	どを学び、 。「旅知識を 事能となち がなる等	国際人とし 務取扱管理 学ぶ。また ので、講義	てのしっか 者」の資格 、世界遺産 の対象とな	・な観光資源や歴 いな観光資幅広い を得るための国 を得るため理検定 でのた各国の位置 観光資産を合わ	
			日本の文学	記 と ボル 大 に が 、 が 、 る た れ ま た れ 、 る た れ 、 る た れ 、 る た の も た の も た の も た の も の る る る る る る る る る る る る る	道化の華」 说の読み方 大宰の小説 学研究の基 こで、小説	を読み、そのテクスののでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、	れぞれの作 アプローチ 分析を通し けること りについて	家について の仕方につ て、単なる 目的と かよる 独自の論点	を	
			ヨーロッパの文学	代でデリステラ	る外国文学 中世のマジップ かとストリンスの個 いったの個々	のテーマと である『ア 一物語』、 エット』、 グリム童話	その問題性 ーサーアの『 ゲーテの『 ゲーテカ『 を通史的に	を 歴 里 世 世 世 世 世 き ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	下、中世から現まする。 は、中する。で、 は、根のは、カードでは	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	交代に る。 る。 る。 た る。 た れ る。 た れ る。 た る。 た る。 た	スポットラ 幸の日常生 台に対する 来に希望の こ考えると	イトを当て 活は、様々 無関心は、 持てる日本	ながら探る な局面で呼 政治家任せ にする為に 生として知	ことが、本 汝治と密接 の生活を送 、今何をす	後員、官僚、政権 素講義の目標であ に結びついてつなが さるこさかを受講生 さき、き時事問題力を	

( )	L 88 €	<b>公</b> 本	授 授業 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			諱	義等の内容			備考
			世界の政治	るのが される か。日 本政治	この講義の 場合が多々 本が「異質 の特徴や日	目標である ある。なぜ な国家」と 本国憲法の	。国際社会 日本は世界 思われる構	で日本は異 から「異質 造を、国際 証する。ま	ポジションを探質な国家とみなの」と思われるの 政治における日 た、日本を取り かていく。	
			政治と市民参加	権なって議の仕れる。	選挙権、レ いの会を通じる なを通じを なることを	ファレンダ講義して、 一般 古りとする	ム) を通じ 挙権や被選 ファレンダ による政治	て様々な政 挙権の歴史 ム (国民投 参加の可能 選挙権の意	る参政権(選挙と 治参変権の可能と 的変と住民投票) 性と限界につい 後と影響につい よい。	
			日本の経済	する。 ニュは、 デフレ、 経済の	それにより スが理解で 実際の新聞 、GDP、失業 動きを学び	、新聞や発 きるように 記事や雑誌 幸率等の基本 、経済全般	能誌の経済記 なることを 記事、ニュ 対経済用語	事を読む 最低限の目 ースを題材 や現在の日 知識を修得	般について教授 素養、する。 標とする。授業 に、経済 に、経済、卒業 もするさせる。 かけさせる。	
人間総合学群	教養知	社会と自然	世界の経済	視さは源さない	語ることは まな問題は 済の基礎理 仕組みを理	できない状 、世界経済 論や基礎知解すること 問題の原因	況になって! と連動した! 識を身に付! を目的とす	いる。政治 動きを見せ けたうえで る。さらに	外との関係を無 も含めた社会の ている。本講義 、世界経済の根 、現在世界で起 導くための考え	
教養教育科目	科目	を学ぶ科目	新聞と報道	である。社会では、社会では、対策では、対策を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	。具体的に 会問題報道 分類し、そ 一能力を養	は、記事の 、事件・事も れぞれの文 う。そこに 動的に理解	内容を、政 対報道、生活 脈の理解の付 書いている。	治報道、経 報道、スポ 仕方を学ぶ ことをただ	が本授業の目的 済報道、国際報 ペーツ報道、文化 こと動的に受け取 解釈する能力を	
			グローバル共生論	的な、 はでは、 に は、 に に に に に に に に に に に れ に れ に れ に れ に	は近年活発 去最高を記 私た宗教の 語察し、グ	になってい 録し、今後 ]りの「多う どを有する ローバルな	いる。海外で も増加する。 な化」化に目 人々とのコ	で仕事や生活 ことが見込  を向けな:  シュニケー   ちゃ多文化	国境を越えた人人 活をする日本授業 まれる。本授業 がら、異なる大と ションの現状と ショの共生のあり	
			法学	んでい る。か」 る。新 ための	くための手 の授業では ということ 聞やテレビ きっかけを	段であるた 、近代以降 をていねい の社会問題 作り、異な	が、時に私た の市民社会 に伝えてい などについ	こちの生活 のようと のよう のよう のよ に たっ の に たっ か り 近 い り たっ り が り たっ り たっ は たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ	会をよりよく営を厳しく制まえ「法とは裁判例も紹介すに考える治を立てて未解	
			法と社会	各種なとは司法に対していること	格取得や卒 分立と考と 料をがる を がい に 裁と と の き き き は き と る き と う に り に り に り に り る し る し と り と り る し る し る と り る と り と り と り と り と り と り と り と と り と と り と	業後に向け 基本的な 現在の政治 判員制度の 課題を考察	た社会人力の えを確認し、 を立憲民主 実践に触れ、 する。日本	の育成を目 た後、立 主義に照生 主市 基本法 国の基本法	得することで、 指す。国民主権 と行政について して分析する。 を裁判に反映さ である日本国憲 ・提供したい。	

		^ -	授	 業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			日本国憲法 I	業では、東京に対して、東京では、東京のではりにはいいはでは、東京のではりにはいいはでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のではではないはではでは、東京のではではないはではないはではではではではではではではではではではではではではでは	第二次世 第二次世 検証する。 主義」といっ このでは、 このでは、 このでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 といっ といっと、	界大戦後に その上で、 う3つの柱に 。日本国に なる意見を	定められた 「基本的人 ついて、急; おける基本?	<ul><li>●法の基本</li><li>権の尊重</li><li>がずに具体</li><li>はである「</li><li>第道を立て</li></ul>	意味する。本授 的な仕組みを歴   「国民主権」   例を踏まえつの 日本国憲法」の て未解決の社会	
			日本国憲法Ⅱ	人の政治に の中れまれてい 強まえ、	)の国民をか )の国民をか 対が、現在が 、 以 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	人格の担い 定めている。 憲法をめぐ 国における	手として尊重。このでででででいる。このででででいる。このではいるできます。 また はい	重するため では、国家 れている問 る「日本国	制定された。一 に、憲法は国家 統治の仕組みても 題点につい役割 憲法」の社会問題を 決の社会問題を	
			社会学 I	為とが とい、 会の は 会の して も で も で の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の して の の して の の して の の して の の して の の して の の の の して の の の の の の の の の の の の の	己、社会秩序 たテーマを 近な話題と紹 の基本的でで、 なる なる なる なる なる である である である である である である である である である であ	字と権力、済 取り上げる 結びつけなれ 考え会学的 注活の「当	組織とネット といっぱい は 理講義と 記録 を は で は で で で が す る の の ま と り 前 な こ と と た り 前 な こ と	トワーク、講覧 いいての講覧 かいででいる。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 からない。 かいできる。 かった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 と	は何な大ないない。は何ない、相互産、ない、再生でない。本生ないは、相互産ない。学習は、といいない。といいないない。といいないないない。といいないないない。	
人間総合学群	教養知	社会と自然	社会学Ⅱ	な せ マ は で が で の で の で の で の で の で の の で の の で の の の の の の の の の の の の の	見象の理解だい を取り上げ、 がループにな 論や概念ので るようについ 問題につい	ができるよ 、それら、、 分かれて、台 習得と、 おここの理解を ての理解を	う、家族、教歴史を現代でのできる。 を表して教育といる。 ない、教育をは、ない、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	数育、労育、労育、労働を い行うのでは いたのでは いたのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのででいる。 からのでではない。 からのでではない。 からのでではない。 からのでではない。 からのでではない。 からのではないではないできます。 からのではないではないできます。 からいではないできまます。 からいではないできまます。 からいではないできまます。 からいではないできまます。 からいではないできまます。 からいではないできまままます。 からいできまままままままままま。 からいできまままままままままままま。 からいできまままままままままままままままままままま。 からいできまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	に、、より具体的 といった といっ接 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	
教養教育科目	科目	を学ぶ科目	数学の世界	学とは、会話は、会話の	古び付く、 まず数学( ないらも役) 平方と平	人間の本質 の楽しさ、 立つような 方根、一元	と深い関わり 奥深さについ 数学の基礎を	) を もった さ 講じる。 連立 方程	実は、数学は哲学問である。本る。その後、社 具体的には、式 式、グラフと関	
			物理の世界	い。しか の問題に の講義で 洗めたい 造、剛性	いし、物理 にまで展開 では、目にい い。加速度、	学は、物質 するような は直接見え 遠心力な	を極限までタ ダイナミズ』 ない「力」の どの物理学的	そき詰めて ムを秘めた り物理現象 りな理解か	とはほとんどないくと宇宙る。 学問でいてまりについじまりについじまります。 はないではいいまります。 とはいいまります。 はないない。 とはないない。 とはないない。 とはないない。 とはないない。 とはないない。 とはないない。 とはないない。 とはないない。 とはないないない。 といいないないない。 といいないないないない。 といいないないないない。 といいないないないないないない。 といいないないないないない。 といいないないないないないない。 といいないないないないないないない。 といいないないないないないないないないないないないないないないない。 といいないないないないないないないないないないないないないないないないないない	
			生物と生命	得しま程をある。	一見を基り としたのか、 どり着いたの づけること	に講義する。 生物は進作のか、生命が本講義の と生物の多	。地球という としどのよう の大切さを意 目的である。	・ ・ 惑星に生 にしてホ <sup>3</sup> 意識しなが そして個	遺伝子学等から 命はどのように モ・サピエンスに ら生物進化の過 々の生物の生き 人間が生きてゆ	
			地球と宇宙	巨大なる間間ではいる。	会を描いた ている。本記 ことから始い の宇宙の成 目を見つめる	り、運命を 講義は、さ まる。そし り立ちを、	託したり、まざまな民族 て、宇宙創 星の誕生や かけがえのな	また宇宙に	人類は、夜空に まつわる物語を概 きた宇宙観を概 されるとで理解が ぶことで理解す ある地球の特質	

			授	業	科	目	Ø	概	要	
	<b>、間線</b> 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			神	<b>養等の内容</b>			備考
			物質と化学	る。中接に関電話、	でも「化学 わっている パソコンな 本講義では	」は、最も 。たとえば どは、すべ 、実生活に	身近な姿・ 、医薬品や て化学に基	形で私たち 化粧品、香 づく「物質	活を享受してい の日常生活に密帯 料、食構成され、 [』で構成さるこ 識を教授するこ	
	教養知科目	社会と自然を学ぶ科ロ	情報と科学	再においます。再にはいいます。日本にはいいます。	あらたな表 クの仕組み する。特に である情報	現として発 、よおまな 過会という エイスブッ	信するため その安全 現点を重視 を重視 を重視	に必要な、 策について 情報の歴史 したい。こ	得られた情報を IT端末やネッを 理解するこ新をといった。 のような理解を の可能性と限界	
		目	色彩と科学	色的のた要識と	心理的、社 を深める。 的理論の習 感性を養う。 の解説を行 て、色の表	会的、文化 色彩を加える 会に加い 会に かい 会に かい のい のい で と で と で と で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	的に果すさ ュニケーな 視覚後援の を 支援 して	まざいまないまさいまないませいませんといまりませんとといましたといます。	本質を理解し、、学のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	
人間総合学群 教養			ボランティア実習 I	献ンをおいるがある。	ことにより ア活動の実 どを想定し との事前面	、新しい自 施場所は、 ている。① i談、③危根 前提出(学	分を発見す 大学の地元 担当教員に 幾管理ガイタ :生支援課)	ることを目 の稲城市お よる個別カ ダンスへの	・トし、社会に貢 的とする。ボラ はび近隣地域の はイダンス、②担 参加、④ボラン ティア活動記録	共同
教育科目			ボランティア実習Ⅱ	献する 場所を 活動を、 体が行	ことにより 海外を想度 通際社会の う海外ボラ	、新しい自 してるいる。 修者で生きな シティアに	分を発見す 海外ボラン 多様な文化 く術を学ぶ	ることを目 ティ習慣の遺 。 夏季休晴 かすること	トし、社会に貢 的とする。実施 、海外における いを受け入れ、 いを受けみの団 やである。 いる。	
	実践知科目	実習科目	海外英語研修 I	で常語でテコてめ、イミ英る	総合的なスラットのなるでは、 は本のでは、 でででいるできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ミイ講の全ンる英コをような英語の全との変更のできまれた。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	ショ、大学指語の学文を表示を表示を表示の学文を表示の学文を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	ルのののでは、 でのののではなった。 でいるでもでいるでは、 でいるでは とっと。 でいるでは とっと。 でいるでは とっと。 でいる でいる でい。 とっと。 でいる でいる とっと。 でいる でいる と。 でいる でい。 とっと。 でいる と。 と。 でいる と。 でいる と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	は、 は、 に、 は、 にで学しる。、 にで学さいできまでは、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にで学されて、 にでいる。 にでいる。 にの、こムす通路に、 にの、このでは、 にの、 にの、 にの、 にの、 にの、 にの、 にの、 にの	共同
			海外英語研修Ⅱ	生ル的に行等かで既習す学こ「まる	に研修でる選等い常2番でると、 での外ででので、 での外き語き語きに になるがある。 にいるがものでものでものでものでものでものでものでものでものでも。 といるがものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでも	必の間語かを「人」といる。というでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	限の総合的発 いたで講びたいの ではなるでは でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで で	な展が「ない」とこれを思いている。これでは、大きに、大きに、大きでは、大きでは、大きでは、たいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	学キ目校・クラック は、 ・ケックを とする。 学 キョンス を まっと 学 が まっと 学 が で は 定	共同

			授	<del></del>	科	目	Ø	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			2#	義等の内容			備考
		実習	国際協力実習	力には現意つい、場合は、場合は、場合には、場合には、場合には、場合には、	JICA 。開発を に現地を 察と体感す を中や社	) 現場 現場 現場 は は で よ で よ と よ と 経 と 経 と 経 と と 経 と 経 と 経 と に れ に に れ に に に に に に に に に に に に に	助実施機関で 国が中心の本 際協力のを の交にする。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	職員や専門を専門を要して習りです。 を関いて、これで、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	関係者、国際協 家国際協 家国際が 多実習際の カー 関い は は かり は は は は は は は は は は は は は は は は	
		科目	国際協力実習フォローアップ	しらと域にも国気報会与、に社関に、する	協力の現 きの準備を 大学 か、	場視察や援 参加学生実 行はは 学生 で 学 の で の で の で の で の で の で の で の の で り の り の	助関係者な 士でポレゼ の成果とし 人) が国際 をまとめた	どとの交流 のウント 日本 開習報告書	参加者を対象と 対象とがを返りない。 をし、、企業のよい。 政府、にがのと がのとで を作体で を主体で 生主体	
			進路設計	産業構造 と さ て が 卒 人 社 会 く く く く く く く く く く く く く く く く く く	や人口構 。本講義 「子育て 後の就業 」「家族	成は、大き ではなどを しいなとて に 観」をつな	く変化し、 の「生き方」 通して議論を 企業が求め	就業形態や 」について と進める。 る人物像」	済を支えてきた 人生観も多様化 「就業観」「生 この作業を通し と「個人の抱こと 体的に語ること	
人間総合学群	実践知		社会と教養演習A	的な者で を を を で メる 最可 に し に に に に に に に に に に に に に	以外に「 すべき知 を描くこ 限のコミ	社会人基礎 識・知見が とコニケーと めの自己啓	カ」と呼ば 求められる。 、そのうえ ョン能力を	れるような 。本講義で で、社会人 身に付ける	は、大学の専門 、生きていくう は、生自分自身と として必要とさ としてそれを ションスキルの	
教養教育科目	科目	就業力育		業人とし とし は めた に は 体 に は は に は は に に は に に に に に に に に	て個人が の個性を 本的ビジ 、個性を	守るべきル 生かした対 ネスマナー 重視しなが	ールーやマ 応も求めら の習得と個(	ナーがある る。本講義 性の発見を 女子大学生	会人あるいは企 。しかしそこで では身体技法を 目指したい。具 としてふさわし 。	
		成科目	社会と教養演習C	さん「しん」では、一人のと一のとこのでは、一人のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	社会人基 て自立す で働くた	礎力」をさ るために 」がの、実 めの、発信力	らに養って、 、「前に踏いわれる。 的訓練を行	いくことを み出す力」 毎回の授業 う。特に、	るために必要と 目的とする。社 「考え抜く力」 では、これらの チームワーク作 律性を涵養する	
			社会と教養演習D	りわけ、 とは何れが レーう。 そ	道元禅師 を深く学 どのよう ンや、学	- の禅を建学 んでいきた に活かされ 生の自主性 、社会に出	の精神とすい。具体的いるのかを考 とものかを考	る本学なら には、社会 対授したあ グループ学	しての規範、と ではの身体技場 での様々な現場 と、想定シミ習 、体験学習を の素養を身に付	
			キャリアリテラシー	の職己た授てをで」個進。	緩和し、 の自分の としい といい 自分 といい 自分 自分 自分 自分 自分	前向きな気 「軸」を見 ・仕事研べ、 に、社会に に、	持ちで行動 とででですり でない。 おいで、 おいい がい。 おい、 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。	していくこ スを学ぶ。 合うなど 立つ意識や	は、就職活動へ就能したをとを目的には、それではいた。そのでは対いないではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいで	

()	<b>し間</b> 網	総合章	授学群 人間文化学類)	業	——— 科	目	Ø	概	要	
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		就業力育	就業への知識と技能A	ホテル る。様 エピソー 教授する り、社会	・モバイル 々な業種に ードを交え る。業界・	等の業界について実業ながら、業種の社会 関心を深め	こついて、そ 界で豊富な 種や会社を 会的な使命と	この成り立 経験を積ん 研究するた こその実態	リース・航空・えいできる。だ教員が様々を発したが、だ教員が様々ををあるるといる。といるないできない。	
		成科目	就業への知識と技能B	版やおだな知る基本の	動産などの 関係を考える 関係を 関係を 関係を 関係を はなり、	業界や、公 る。様々な エピソード る。組織に	務員・教育 業種につい を交えなが おける様々 に関心を深	職における て実業界で ら、業務を な業務の役	、損害保険・出容積 機々な経験を移った 選出するの実 選択とで した業務	
	実践知		女性と健康 I	によな生れているというない。これではいいないではいい。	て発症し易 埋機能とそって 活題を提供 いて論じて	い病の種類の健康管理 欲しい女性 し、少女かいく。本講	も異なる。 を取り上げの健康と病が ら大通して を通して	本講義は、 る。特に、 気にの成長 性に成本質	こるが、各年代 女性の歳の体の基本 二、具体のをを 、る理解し、 を理解し、を を理能力を を記さい。	
人間総合学群	科目	健康体	女性と健康Ⅱ	に性なしいた達いた達の人	て兼となって 発生病で 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの	い病の種類 ついく。 なに着け、 に着けで、 自	も異なる。 選、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	本講義は、 出産、育児 てして自分で ず家族や友	こるが、各年代 二十歳以降のなと に関係するこ、質を理解した 質をである。 大などの間りの しい予防法に役	
教養教育科目		育科目	スポーツ I	目がるとする。	継続できっているへき向の方にできった。 できったのものできるできる。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない	身体運動( の動機付け 法を自分自 とする。ス	テニスとリ を図り、実 身に当ては ポーツ文化	ラックスョ 践に関する め、応用展 に親しむと	ている。この科 ガ) を選択しな 知識やな能力を追りを 関するに、 とが 最大のねら	
			スポーツⅡ	目は、なる。	継続できる がら、健康 ると共に、 験すること	身体運動 ( 志向への動 その方法を を目標とす	バドミント 機付けを図 自分自身に る。スポー	ンとゆがみ り、実践に 当てはめ、 ツ文化に親	ている。この 修正体操)を 関する知 関する知 は の で も を 技 を 技 た し た と と が 最 し た る 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
	技法知	日本語育	言語表現演習 I	ときっている。またい。またい。	ちとする。 とする と た た た た た た た た た た た く た く た た た た た	具体的には響を与える に欠かせな 文章表現に	は、日本の名 「敬語」のい日本語文 親しみ、各	上会におけ 体系、およ 法について 自の言語生	用能力を養うこった るコミュニケーけることを び、会話にお談をの の基を豊かなも目標 着うことを目標	
	<b>科</b> 目	成科目	言語表現演習Ⅱ	用能力を 振りにして る。また	を高めるこ りつ け、文 た、 大 た 、 大 た 、 大 た 、 た 、 た 、 た 、 た た た た	とを目的と の語彙に触 表記で各種 現に親しみ	する。具体に れて、さま の文章を作 、各自の言	的には、自 ざまな表現 ■成できる 語生活を豊	し、日本語の運 らの言語生活を を生み出す力を 能力を身につけ かなものにしな 身につけること	

	884	<i>~</i> ^ -	授	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			英語A I	的は 日常でよる 見を相	語表現を用 舌にとうにいる こったに いった に に に に に に る た に に る た に に る に に に に	いて、質問、数字や情報 重要な単語や 単なかを意	したり、答り 物の値段の を正確に聞 フレせなが させなが	えたりできたりで日かられたり、たい、このではいった。 たいでいる。 たいで、これではいい。 たいで、これではいい。 たいできる。 たいではいいできる。 たいできる。 たいできる。 でいるでもる。 でいるでも。 とっと。 でいるでも。 とっと。 でいるでも。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっ	を目指す。基本るように等の、できまりに等のでであり、、人の気文であり、できまり、での気でを表す。というできまり、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	
			英語A Ⅱ	を用い りのった 取にする。 手に伝	て、質問し ピッ自分の り、簡単なの えること えること	たり、答え いて、場所 趣味や興味 語やフレー	たりできる 「や時間とい のあること ズを使って、 会話や英作	ようにする いった具体 などを伝え 、自分の気 文での表現	本的な英語表現回 。自分報を見り かなりでする りなりでする いたりでも がある いたりで いた が に で で で で き う は で で き う た り た り た り た り た り た り た り た り た う た う	
			英語AⅢ	や理をしいい。	の家伝では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	校・地域きな 外語でなど 現こ たいこと	ど、身の回 ようにま活の 日常とを意 を書く練習	りの事柄に 。 基面させ、 ま させ、 表 表 表 ま 表 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	は 関単 は は は は き は き い た り り り ま み り 現 い で り り い の で り の り の り の り の り の り の り の り の り の	
人間総合学群	技法知	外国語育	英語AIV	信されています。	るすのを表れるのでは、これののでは、これででは、これででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	なアナウン 的予定語で たの一連の とを意識さ	スを理解し 学生現など 手順を英し せ、表現の せ、表現の	、の明なでで見るででまる。 の明ないでででする。 のでででするでいる。 の幅をないではない。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のでである。 のである。 のである。 のではない。 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	。公共の場で発 の内容を書えるついまでを 体のおポーツ・も 。ように、自分に、自分に、自分に、自分に、自分に を用いるように、自分にするの らればする。	
教養教育科目	科目	成科目	英語B I	する 定 き し し し し し	とを目指す するたり時に 講終分析する 後の学習に	授業である 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 気分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたかどうか 毎年、受講開始 り、分野を特別 得意毎時間演習問 いて学ぶ。	
			英語BⅡ	するこ を 測 き し 、 以 し 、 以	とを目指す するために 講終分析する 後の学習に	授業である 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 気分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたの受講開か 毎年、受講を時間 り、意分時間演習問 は毎時間演習問 とぶ。	
			英語BⅢ	する を 測 と し し し	とを目指す するとでは は とるでは との は で に る で に る で に る で に る で に る に る に る に	授業である、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 受野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたの受講開始 毎年、成績をといい り、意分時間 は毎時間 は毎日 で図る。	
			英語BIV	するこ を 測 き し 、 以 し 、 以	とを目指す するたい時に は分析する との学習に	授業である 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 気分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたかどうか 毎年、受護開始 り、成績を比較 り、意分野を特定 は毎時間演習問 と図る。	

			授	業						
()	人間約	総合	学群 人間文化学類)	1						
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			英会話 I	students' and wri conversal students' topics w structure students become structure (和訳) あう。で表しただけ、	speakin ting, as tion will pronunc ill be prosent that will be confident es.  主にスピース によっては、際にメデッより現実にペアワーク	ng and li: s well. be cover ciation, i rovided an will help ugh a com e given n t in us  ーキ音・取り イアで場面	stening sk Natural ced with a ntonation of students them in bination of multiple a sing the とリス悪きと洗たでの学習を	ills, with and current emphasis and fluenes will be a variety of pair artictivities target グカの自動を変更を対対できるよう	on improving a some reading ent forms of son improving by. Real world given language of real life and group work, to help them conversational を目指す授業でを置いて使用する。で学生たちが積極	
人間総合学群 教養教育科目		外国語育成科目	英会話Ⅱ	I left communication confirmated Specific knowledge on a var Real work exchange. modern E opportunithrough a (和訳)ションス化」という実際にメリで、メリ	off ation skilon and attentic e of coll riety of ld media n Interactinglish with ities to a variety 話強を配ってでいていていていていていていていていていていていていていていていていていてい	and con cills in a clarifi in a clarifi con will coquial En popular a will be ustive structice of commun I」のることに対方向たしばらかり上げらい場面での	tinue to English. ication c be given given glish and und curren sed as a spectures relavided and their leadicative ta えずっで、これであるたができない。これであるためできない。これである。これである。これではいいます。	strength Students onversatio to deve the abilit conversa oringboard ative to construct to the sks. 英字生語をとよるように正を対していません。	sh Conversation nen students' will learn n strategies. Hoping active ty to interact tional topics. for meaningful municating in will be given th each other a こうとを様々なって使用する。そを提供できまする。	
			英会話Ⅲ	(英文) This course will build on the content of English Conversation I and II, providing students with training in a deeper level of natural English communication. There will be particular emphasis on sustaining conversations over longer periods of time. To help with this goal, students will be exposed to various methods of turn taking and conversation strategies that pertain to forming follow up questions and how pause in mid conversation. Students will work on attaining natural English rhythm in their speaking, with the goal of improving their overall fluency. Additionally specific pronunciation practices that relate to the various methods and strategies will be provided on a regular basis.  (和訳) 「英会話 I」「英会話 II」の学習を踏まえ、主に英語による自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」(会話を途切らすという会話の技法)を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。						

		w ^ è	授	業 科 目 の 概 要
	科目区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称	講義等の内容 備考
			英会話IV	(英文) This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations.  (和訳)「英会話I」「英会話II」「英会話III」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Receptive English I	(英文) This is a specialist English course designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key methods used include paraphrasing and summarizing of key content, story-retelling and listening/reading without translation using accessible materials such as graded readers. Students will learn to use existing knowledge to predict the meaning of unknown vocabulary, while developing topic based English ability. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand basic spoken English without listening repeatedly and to read and understand basic written English.  (和訳) 主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。指導方法としては、重要な文の言い換えや要約、内容を理解して第三者に伝えること、または難易度別英語読本等の学習者用英文資料を訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関する英語知識を増やしながら、学生が未知の語の意味を推測する際、既存知識を活用することを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英文であれば一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。
			Receptive English <b>II</b>	(英文) This is a specialist English course which builds on skills developed in Receptive English I designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key additional methods in this course include listening and reading at a near-native speed, listening/reading note-taking skills, using confirmation checks and clarification requests as a means to increase understanding and identifying elements of spoken and written style as a means to understand the intentions of a speaker or writer. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand more complex spoken English without listening repeatedly and to read and understand more complex written English.  (和訳) 「Receptive English 1」の学習を踏まえ、主に基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。授業の方法としては、メモを取りながら自然な速度のものを聞く・読む、「確認」や「明確化」を活用し理解度を高める、(脱落、連結、同化など音変化などの)口述・記述のスタイル要素を認識し書き手・話し手の意図を理解することを含む。内容のある英文を一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。

			授	業	科	目	の	概	要	
			学群 人間文化学類)	T						
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
人間総合		外	Productive English I	support English output this c speed t shift: communi clarifi diffict correct about various student English basic I 特コー確認 する。	t students h. Improvi through s class. Key training fe and turn-t ication a ication fo ulties are ted in det typical Er ts differen ts will ha h without o English ser ) 主に基本すれ確  ) 表	s in acc ang studer speaking a methods methods or writing aking strate or contin encounter tail by the nglish sen to sentence ve an enlextended g ntences. 的なと方法など派 んし、と方法とに添	puiring a lits' abil and writing introduced and speak: ategies in regies such uing conveed. In addition tence form styles. B lanced abil uidance and 用能発膏すった時も	functiona functiona ity to property is a parting this ing, converse both spoken as congresations ition to croom, studer ations and ity to used be confided as the confidence of the confidence	会話技法を紹介 ともに、典型的	
合学群 教養教育科目	法知科	国語育成科目 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	Productive English <b>I</b> I	skills support and writypes of convers, letter, journal matter, phrasir spoken accurace extende English (運再語タフ。よ識の力を支え、表演の方式を表示している。	developed t students itten Engl: of spoken if sation, indiary, lism and students and write and write and ability ed guidance n compositi か方発ビイ題にで容の かった いかく から 英ピイの ない かん ない あん ない かん ない あん ない かん ない あん ない かん ない かん ない ない かん ない	I in Prod in acquir ish. Stude English (s English (s terview, d report, p online will world ective content of to use m of to use m of the end	ductive Ending a function of the course of the confident in は、	glish I , tional comin experie, exch making, pech making, pech making, peritting, pech making, peritting, pe	e building on designed to mand of spoken nce in various presentation, glish (such as rocess writing their subject nd explanatory ing a range of n fluency and will have an nglish without g more complex 本す、会、験に確さ、英いいたと、経動に確さ、英いいたといいであるといいである。とを移りている。	

				 業 科	目	の	概	————— 要	
()	人間糸	総合皇	学群 人間文化学類)						
	科目 区分		授業科目の名称		講	義等の内容			備考
			English Summer Seminar	course and will users of Engl student-centers an English-only communicative will also tead group of peers. her ability to friendships wit	I provide stish outside ed, interact y policy. St activities, ch something. Everyone we communicate th all partic 期く考動アニシーでした。 Everyone we communicate th all partic 期く考動アニシーではなり、カ互ンプ目のようになった。 ない はい はい カラー・ボール はい はい カラー・ボール はい はい カラー・ボール はい はい カラー・ボール はい	udents many of the c ive, and r udents wil discussion (r practical ill leave fe in Englisipants. (共英ツに自戸の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の	r opportuni lassroom. reflective l take an ss, games, in Engli feeling morsh in addi ーーーいム会をもるす はとす 様とすり、 ンメントをなり、 シメントを	The course is and will have active part in and students sh to a small re confident in tion, make new 学習原的に参加者同で参加者同で参加者情指場 の、とな国際 タスクやア	共同
間総合学	法知	外国語育成科目	フランス語 I	フランス あうに練習を使い ある。練習を使い る。 が る。 が る。 が る。 が る。 が る。 で で は な る。 で る。 で る。 で る。 で る。 で る。 で る。 で る。	と発音の関係 る。文法では 分けを理解し oirとêtre、ま ミュニケーシ	を理解し、 、名詞の性 、形容詞の および第一群 ョンを目的	特徴的な音 と数、不致が 性数則動詞の として意識	が発音できるより 短詞をように対して 活用と用法を学し、CDによる練	
教育科目		П	フランス語Ⅱ	第二群規則動計 aller、venir、デ を理解して、デ 名詞・疑問についる はな状況を継続についる がな言語 通ける。	partir、voir ンポよく活用 のある疑問文 て情報交換が る。また、比	などの活用 ができること をできるよ を を を を を も と う と う と う と う こ り た り る し し る し る し る し る し る し る し る し る し	に見られる うにする で、CDや に 級の表現を	共通のパターン はいない、 疑問に、 のさい かった いった にいる はい に いった に いった に いった に いった に いった に いった に いった に いった に いった に いった に いった に いった に に いった に と に に と に と に と に と に と に と に と に と	
			フランス語Ⅲ	フランス語を1年 文や強語・間を1年 文を対話・間では、 日のには、 も、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日のには、 日。 と と と と と と と と と と と と と と と と と と	ど、一定のパ 的語の仕組み に、直説法複 比較しながら を基本的な関係	ターンによ を理解し、 合過去の仕 、フランス K代名詞の用	る表現を身 代名詞に置 組みと意味 語の時間に ]法を学習し	き換えられるよ を理解し、英語 関する感覚を身	
			フランス語IV	単純未来形の活る。また、フランス語らしがら半過去の活表現ができるよ	ンス語独特の い表現に磨き 用と用法を学	しくみであ をかける。 び、会話で	る代名動詞 さらに複合 用いられる	の用法を学び、 過去と対比しな 一般的な過去の	

				 業	科	目	Ø	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			ドイツ語 I	く・話す ルファク アクセン 冠詞の格 ら聴き取	ー・読む・ ドットの ボット・ ドント・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	書く)の習品の音点の長知りに 一本的文型を 一本的、また	得を目指す。 め、ドイツ 親しみ、動 学ぶ。簡単 話す練習を	このドイ 語の単語の現在人 な日常会記 行う。 随時	を本的語学力(聴 ・ツ語 I では、ア ・発音(つづり、名音(つづ詞を ・本変化、名詞が ・を材料にしなが ・実施さい。を 検定試験5級に対	
			ドイツ語Ⅱ	ツ語の基 この再項を 事取り き取り、	基本的語学 ツ語Ⅱで 記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記記	力 (聴く・) な、名詞の 法の助動詞 ら、平易な	話す・読む 複数形、冠記 と未来形、会 会話文の学習 。随時実施	・書く) の 詞類、前置 分離動詞な 習を進める される小デ	基礎としたドイク習得を目指代名は記述の報告を目れて名詞という。 おいい 一般 はいい かいい いいい はいい いいい である はいい いいい いいい いいい いいい いいい いいいい いいいい いいい	
			ドイツ語Ⅲ	ツ語の差 の に 記 い 記 い い い い い い い る い る ら る ら る ら る ら る ら る	基本的語学 て、の語面で で、の時間で で、の でで でで でで でで でで でで でで でで でで で	力 (聴く・ がは、動詞の の格変化、 文の構造に 習熟するこ	話す・読む 三基本形、i 比いいで で特にで とを とれる いた とれる	・ 書く) の 明 記 き ま 記 副 例 取 り る き に く り 、 り り り り り り り り り り り り り り り り り	・基礎としたドイ )習得を目指す。 連存完了形、学イ にたかれ、より にに触れ、取り得 で で 各人が習得の	
人間総合学群	技法知	外国語育	ドイツ語IV	ツ語の基 このドイ 学習する イツ文を	本的語学 ツ語Ⅳで 。聴き取 読解する	力 (聴く・ は、zu不定 り・書き取	話す・読む 詞句、受動! り、話す練? 随時実施され	・書く)の 態、関係代 習と並んで れる小テス	基礎としたドイ 習得を目指す。 (名詞、接続法を 平易な日常的ド トによって各人 )	
教養教育科目	科目	成科目	スペイン語 I	これを を シー リ 動 を の で の で の で の で の で の で の の で の り た の し た の た の た の た の た の た の た の た の た	ーンをすで 記事本的習し 用いて、	る。 今期は 動き、 声に出 名詞、 冠詞、 と を 理 、 関連語句を の の の の の の の の の の の の の	ミゴーペーン ゴーペート・イン ボース 発 記し、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	語の音、! ることに ることとes つけを養う。 対 課が終わる	/ ス良くつける J ズム、イント 貴れてゆく。次 tar、3種類の規 場面に応じた会 教科書を録音 5 ごとに小テス	
			スペイン語Ⅱ	本的な力 直、 は、 場 で し、 場 で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	Jをさらに 是在を中心 こつに応じた Jを用いた	つけること に、目的語 不規則動詞 会話をペア	をテーマと の代名詞、 は種類別に で練習し、 習、小テス	する。今期 北較級・最 学習する。 関連語句を	書き・会話の基 は不規則動詞の :上級など語 I 同 えペイン応 スペイン応 て行う。 スペイ	
			スペイン語Ⅲ	本的な力称の肯定を表現します。	Jをさらに E命令、点 D活用動詞 見則に応じ	つけること 過去の規則 は現在形の規 多いので時	をテーマとす動詞・不規則性があています。 関性があていましたがけています。 で練習し、	トる。動詞 則動詞を中 はまらな↓ 学習する。 関連語句	書き・会話の基 は再帰動詞、2人 心にに学習す、る。 い部ペペインで い部のペインで フを覚える。 フを覚える。	
			スペイン語IV	本去まをしまる。本去まをしまり、	DE完計を記述されて を完計すのででででいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	こつけること 続法現在と 代名詞を使 パン語Ⅲ同 えて応用力	をテーマとそれを用いった後、テーマは、まる。簡単を養力。簡単をき取り練	する。今中なる。 今中なる なかがい ではない ではない ではる ではる ではる ではる ではる ではる ではる ではる	書き、計画を表記の基過では、 ままままでは、 ままままでは、 で、 ままままままままままままままままま	

	問約	公合品	授学群 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			中国語 I	とを目打して、続いて、おります。	指す。ま音音 ・子子 ・子子 ・子子 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、中国語の 正しく聞き 現の練習を 、時間、年 、名詞述語	)ピンインま 取り、かつ 通じて中国 三の表現や数	表記法を学 つ正しく発 語の発音に 数量表現を 間文などの	を身に着けるこ声 び、中国語の声 音できるように 慣れてい動詞 学び、動詞を学習	
		外国語育	中国語Ⅱ	高変択と内基が表別である。	いくことを とまま学 と文章を と文章を に なが、 と と と と と と を き を り に り に り に り り り に り に り り に り り り り	目指す。中に関いた。中に関いた。中に関いた。中に習いた。中に習いたること	国語におけ 学び、疑問 を通じて名 形容詞、名 広げていく	る完了・経 詞疑問文、 着させましい 高 同時に身	の基本的な力を 験・未来おして 反復また、 を経験を はまた、 はまた、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
		成科目	中国語Ⅲ	・ 間 く え を 学 の 文 型 心 に 文 型 の 大 型 に の 大 の に 。 に 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	く・話す」 国語 望や 願習を 話練習を きさま	の力をつけ ベルアッ 頼、 で定着 で は補語の用	、コミュニ を目標に、 謝罪などの せていく。	ケーション 様々な場 表現や関連 豊かな言語 やや難易度	的な「読む・書 の手段として使 に合わを覚え、に 語表現のために の高い文章を正	
人間総合学群	法		中国語IV	目指す。書や資料される	日中を取 与教材のほ 外なども使 中国語、電 バ、授業を	り巻く社会 かに教する 用メート 離れても、	への関心と して新聞や た情報を収 のやりとり	理解を深め インターネ 集するため で使用され について口	力を養うことを科うこと教科、 るために、記を見いい。 をめたりので表事していいで表現でいる。 はない。 はないないである。	
教養教育科目	技法知科目		コンピュータ演習 I	ことを 定 に に 授 に 授 作 を を と ど り 、 に 授 れ の れ る の れ る ろ る ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	目的とする。 ジネスの現 最通信技術 と進めてい 図、表計算	。具体的に 場において (ICT) を使 く。本授業	は、諸々の 基礎的な文 いこなすた では、文書 を必要とす	検定を指標 書処理がで めの知識と 作成、レイ	理の基礎を学ぶ設としたレベルを とした程度)を中心 実技)を中成 実技)・作成、書作 ビジネス文書作	
		情報力育	コンピュータ演習Ⅱ	ジネスの つ、さ Office 情報処理 う。併せ	D現場にお らに発展。 Specialist 理能力を身	いて基礎的 させること t」に沿って につけるこ ゼンテーシ	な文書処理 にある。; ビジネスの とを目標に	が行える程 具体的には 現場で応用 、さらに実	けたスキル(ビ 度)を確認しつ は、「Microsoft 引できる基本的な 践的な演習を行 信能力を高める	
		成科目	コンピュータ演習Ⅲ	伴い私た 発信り分に るよなメラ	たちの扱う 共有する機 け、メディ こなってき	情報も飛躍 会が選択を を を またウェ に たりま	的に広がっ り、情報を 、魅力的に では、イン	てきた。と 処理するこ 表現するこ ターネット	まじく、それに りとけい 情報を とと 中心 たっぱい からい まい とと 中心 活用 するた	
			コンピュータ演習 <b>IV</b>	を確認し 表現で必 度な表現 の機材を	ンつつ、さ 必須となっ 見力を身に と使い、よ	らに発展さ ている写真 つけること り実践的な	せることに 表現や映像 を目標に、 実習を行う。	ある。 具体 表現、アニ デジタル 1 併せて、N	けたウェブ表現 的には、ウェブ表現 がレション等高 眼レフカメラ等 MOSエキスパート 視野に入れる。	

			 業	科	目	の	概	要	
;	<b>、間総合</b> 科目 区分	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本語AI	ることを表表は制作の表現である。	を目的とす ための口頭	る。特に講 表現能力を の語彙・文 や副詞、接	義を聞くた 養うよとに 型を動や いい でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	めの聴解力 重点を置く け、表現力 等について こと、人前	語能力を修得す	留学生対象
		日本語B I	る。書くぎるのでもに違いる。	本的には は とは、 とは、 提 り とは も き は 世 は 世 は 関 出 関 し は 、 は り は り は り は り は り は り は り し も り し く し く り し く り し く し く り し く と り と り と り と り と り と り と り と り と り と	身近な題材 るとともに や語句にの使 た課題につい を含んだ練	についないないないないというないないないないないないないないできるといいできます。 といいではいいできないできる。 といいでも。 といとも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 としても。 とっと とっと と と と と と と と と と と と と と と と	章を書くこを書くこを 連習、文章 また日本に ともに、 ともに、	ことを は とに は る と に は る を ま る 基 本 る 基 本 と に は る を 基 ま る 基 ま る ま る と を と た と と と と と と と も も も き き き き き き き き き き	留学生対象
		日本語A II	る発能具らうになった。	を目的とす こめの口が	る。特に講 表現能力を なま なすを をする。 間 で 話すこ	義を聞くた 養うことに 型をより、 <sup>1</sup> きやすくわ	めの聴解力 重点を置く け、表現力 関用を現を かりやすい	語能力を修得すする。 し、同時にを図る。 の向上を図る。 使でで話せる。 使音で話せる表現 で話せ表現	留学生対象
人間総合学群	特設科目	日本語BⅡ	る。 具体 また また 表 を を を を を を を に の に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 。 に 。 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	本的には、 こよやにはて りつけい おいました おいました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないないました ないないました ないないました ないないないました。 ないないないないない。 ないないないないないないないない。 ないないないない	新聞記事を 本語能力を トの書き方 いて指摘さ	読み、社会 深めて文章 なた問題な 、小論文を	的な題材に 。授業は、 作成を基本 を自らしたり 作成したり	ことを目的とす こついて文書で 文法での練習、文 ことして文書で、文 ことして、として、として、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ではいる。 にはいるに、 にはい。 には、 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 には、 には、 には、 には、 には、 には、	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本語AⅢ	ること さん ここう に する ここう ここう ここう ここう ここう ここう ここう こう こう こう こう	を目的とすと 聴解の観し 日本を通しと とるとと	る。特に日記 口頭表現能 地や日本人 、語彙を増	本人学生の 力を伸ばす の生活習慣 やし、話の ュースに親	中でも臆せるとにない。 などについる とのない。 ではいい。 ではいい。 でもいい。 でもいい。 でもいい。 でもいい。 でもいい。 でいるにいい。 でい。 でいるにいい。 でいるにい。 でいるにい。 でいるにいるにい。 でいるにい。 でいるにい。 でいるにい。 でいるにい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でいるにい。 でいるにい。 でい。 でいるにい。 でいるにい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 で	語能力を修得すって でできまりできる。 ででででいる。 ででは、 できる。 できる。 できる。 できるない、 できるなが、 様々な	留学生対象
		日本語BⅢ	るにテおいるにテおいる。、一よ日本は日本語	本的には、、年このは、、年このは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たら	格助詞の使 および確認 要約や感想 こなすこと につける。!	い方や語句 (テストに取 、レポート によって、 特に、受け	可の使い方 取り組んだ を書いたり 文法や語彙 身や使役と	こをりずない という こと修 与するられたト という は関ったいた ト この しい かん この しい かん この という でいる という はい	留学生対象
		日本語AIV	る思す読でもにという。	を目的とすりとすりとする 本の少子の少子に でいるを増やします。 を増える。 を見る。 としている。 としている。 としている。 はいる。 としている。 はいる。 はいる。 としている。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 は	る。パネル 、ディベー 問題や、高 してスピー 、話の内容	ディスカット等を通い ト等を社会な かし、 に即した表	ション、ク て日本語能 ど ト に き し い で き に き え こ え こ り た り れ こ り こ り こ り こ う こ う こ う こ き る こ る ろ こ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	語フをいること 語フをさいて資料を でのこことである。 はいるである。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいる。	留学生対象
		日本語BIV	る。具体増大のでは、また	本ととなる いとなっている はにつ、、要 での、、要 での、、要	新聞記事を おまざまな でする、 あるに 日本語 に 日本語	読み、語句 文法の問う えで、は自 いない いな に いた に が に い に い に い に い い に い い に い は り と ら と ら と ら と ら と ら と ら と ら と ら と ら り と り と	を調べるこれで に取り を に を に を に を に を と を 関 と を り と り と り と り と り と り と り と り と り と	ことでまたのを生まれた。。 とでまたのを単語・引ママ論文をいた。 まりるといい論文をはおする。 はずずのをおりた。 はずずのをおりた。 はずればない はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい は	留学生対象

	. 問総合:	授 授	業	科	目	Ø	概	要	
	科目 区分	授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
		日本事情 I	に関す、 「 地 に つ い 都 内 の	る基礎的な かに行くこ 交通、施設 て概説する	知識を修得 と」「食い 食事情コス 食い 食い 食い なり 食い なり なり なり なり なり なり なり なり なり なり なり なり なり	することを る」ことな ど、日本で 上のウェブ	目的とする どを出発点 生活するた 情報などを	ぶことで、日本。 具体的には、 ことして、日本のこめに必要な情報 た活用し、実際に 日本に関する情	留学生対象
人間総合学群	特設科目(	日本事情Ⅱ	な知識。 能、伝統 本ななど といって	を修得する 統工芸をは 化の伝用し、 を伝統芸能 た伝統芸能	ことを目的 じめとする な側面につ 実際に日本	lとする。具 日本の文化 いて概説すっ の年中行事 などについ	と体的には 的な側面や る。パソニ や祭りや部 いて調べ、	に関する基礎的 、年中行事、日 観光名所等、日 と関連を を を を を は 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 た 、 、 本 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 た 、 、 た 、 、 た 、 、 、 、	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本事情Ⅲ	できるいや統計がいまする。	日本語力を 資料をもえた いまたことで るいギー問	修得するこ に、日本の 、関連する 本のゴミ問	とを目的とす 国土、気候、 ニュースやす 題やリサイ な問題につい	する。具体 . 政治、経 テレビ番組 . クル、交	広い話題に対応 的には、グラフ 済、社会等につ の映像なども視 通インマ、 具体 たうえで、 具体	留学生対象
		日本事情IV	できるい続力ない。お視聴なれる	日本語力を 資料を どる と で る に る に き に た に た に た に た に た に た に た に た に た	修得するこ に、日本の 学び、関連 、ゴミ問題	とを目的と 農林水産業、 するニュー やリサイク 題について、	する。 具体 、工業、 店 スやテレヒ ル、 交通イ 、 自国と比	居広い話題に対応 広い話題に対応 対策、貿易や国際 番組の映像など 、数であることによ 、対することによ する。	
人間総合学		日本語表現 I	切に使いる事業として	いこなす能 の組みうえい しなびシャ と要な と要な	力を修得す 、語句の意 、語彙量を ルの文章を	ることを目f 味、用法やき 増やすとと 通して言語が 「伝わる日	的とする。 表記などに もに、随い を を 本語」 を 身	状況に応じて適 具体的には、文 ついての知識を に、小説、論説文 っていく。社会人 につけ、言語生	
学群 人間文化学類	基本	日本語表現Ⅱ	切に使い 葉の成々 なスタ、 深め、 「伝わっ	ハこなす能 り立ちや敬 イルの文章 言語感覚を る日本語」	力を修得す 語などについ を通して表 磨いていく。	ることを目的 いての知識 現の特色や 社会人と 文章表現	的とする。 を再確認 言語の必要 と楽しみ、	状況に応じて適 具体的には、様々 たうえで、理解を について理解や 言葉のマ言語生活	
日本文化専攻 専門	科目	日本語表現の実践 I	効果的に スピット の工 を 大 と と と と り と り と り と り と り と り と り と り	に表現する チやよる 面効果の で かく。 価値	能力を修得 ンテーショ 現方法の違 表現する姿	することを ン、ディス いなどについ 勢を身につい し、言語環	目的とする カッて理解と けるとと 竟が急激に	はし、適切かつ。 具体的には、 等を通して、目 深めたうえで、 に、言語感覚を 変化している現 5。	
門教育科目		日本語表現の実践Ⅱ	効果的に 情報など るといっ はていっ	こ表現する 達の文考 きに、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	能力を修得 論理展開の することで の文章を工	することを 文章、随筆、 表して効果的 言語環境が	目的とする . 広告なと の違いにで 的に作成す 急激に変化	はし、適切かつ。 具体的には、 さまざまな文章 いて理解を深め る能力を身につ している現代社	

				 業	科	目	Ø	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			日本の文化と歴史Ⅰ	文化事象に変容色の終	を学び、 目的とは いる いる観察し 終括的な検	世界におけ 。具体的に い歴史の中 、有形・気 証を行う。	る日本文化 は、海外か で育まれて 形の文化遺	の立脚点に ら招来した きたテキス する現代の	こいるさまざまな さでいいで 2 2 3 5 5 6 6 7 7 7 8 7 8 7 8 7 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	共同
	基本		日本の文化と歴史Ⅱ	文こ学提本で製造	を 学 で で で で で で で で で で で で で	世界におけ 。 果体の と り し る こ こ と し に る こ に る こ る に る こ る こ る こ る こ る こ る し た る し た る し た る し ん し ん し ん し ん し ん し ん し ん し ん し ん し	る日本文化 は、日本 によって によって がを通じ	の立脚点に の文化点と の文観視点の 学生、現代の 代日本の 大田本の文	でいるなでは、 さいいいでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	共同
人間総合当	科目		日本の文化と歴史Ⅲ	感覚に富か山大財産に富め、山大財産にできる。	Tんだ視点 D客観的な L建築、海外 Dいて学習	から概観し 観察力の個 世絵、日本 からの視点 する。なお	た場合の日 を得を目的る 庭園、伝統 によって再	本文化とに とする。 具 芸能などの 評価された じて現地を	を関わる では、国際はどのような様相は、体的には、富士のような様相は、富士のでは、富士のでは、ままない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	共同
学群 人間文化学類			日本の文化と歴史IV	感がは社本 は社本 特に にる「E向する」 にる「E向する」	るが視点のかれて、 日本の日本の日本で日本では 日本で日本では 日本ではないで、 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では 日本では	から概観と 客文を観的Iを を という という という という という という という という という という	た場合の日 見察力の修復 Ⅱ・Ⅲ」に れているア 。この学び	本文化とは 特を目る学は を は を は で で で で で に で 現 れ に で で に で に で に で に で に で に に に に に に に に に に に に に	解性 はどの は は が は が の は が の の な が い 、 国	共同
日本文化専攻 専門			古典文学概論	きこじ事背をといる。	要な基礎的 目的とする 要な日本の 解説する。 Yasa Yasa Yasa Yasa Yasa Yasa Yasa Yas	知識を再確 。具体的に 古典文ジャ 様々まれた 学に表れた	認し、古典 は、『竹取 品を取り上 ンルの古典	文学研究の物語』や「 が、作品の 対学を学る で考え方な	っ、古典を読むとう シ基礎作りを行う 『伊勢物語』をは が概ととで、 について、自	
2教育科目	主幹科	言語の	近代文学概論	すといったが、といっては、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	の基礎的 いて概説し こ』なり上 プローチ	な概念を理 た学校 大学 大大学 大大学 大大学 大学 大学	解すること 具体的の 等学校の 国 り い も の と も を き き き き き き き き き き き き き き き き き き	を目的とす 『羅生門』 語教材とし の分析な 行研究によ	をび、文学を研究学をの文学をの文学をの文』 『走れくの文』 『よく文学研究ス』 でよく文学研究等になる。 ではる時題点等を はないら近代の小	
	科目	分野	日本語学概論 I	について と 日 表 表 察 し て る 深 め る で る え ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る	理解する 野を比較 文法 いとともに いとともに	ことが目的 たがえが記 いる で で で で く く く く く く く く く く く う え う く う く う く う	である。具 日本また、い もって もって もって りる を で の 特徴を	体的には、 徴についる 本語の表明 日本語に関 理解し、訪	さらえば、 できる	
			日本語学概論Ⅱ	的学紹を理を表	機を修得す 員論、 い 、 説 が 説 り の い 、 い 、 い 、 の の の の の の の の の の の の の	る ことを 法 を 法 が ま る よ の よ う に と さ の よ ら の は ら ら に の は ら に の は ら に の に る に る の に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 る 。 に る 。 に る 。 に る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 。 。 る 。 。 。 る 。 る 。 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	的とする。 、語彙論な について概 するととも	具体的には どんしる いた に 、 き き も に き き き き き き き き き き き き き き き き	だするための実践 は日本語学の音声 けの研究につい特別 。日本語の特別 。日本 がまな角度から いて日本語と向か	

()	し 間 総	<b>☆合</b> 章	授学群 人間文化学類)	<del></del> 業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			古典文学Ⅰ(上代・中古)	る。具体 記』 文に を で に に と に と し た し た し た し た し た り た り た り た り た り た	的には、 り上げて札 界に親を を かい合う	日本文学の 既説する。 み、現代ま 突める。 を勢を身に	り源泉である 一語一語大 でつづく「 分なりの興 つけ、上代	る『万葉集 切に読み解 日本文学」 味・関心を ・中古の文	まない。 こ』はない。 はないののもでは、 はないののでは、 はないでのでは、 はいでいるでいるでは、 はいでは、 はいでいるでは、 はいでいなでは、 はいでいでは、 はいでいなでは、 はいでいなでは、 はいでいるでは、 はいでいるでは、 はいでいるでは、 はいでいるでは、	
			古典文学Ⅱ(中世・近世)	する的と世間では一時風味・関心を開います。	草る代景想をのの人が、	本等の作品 特には悪い をでは、 本ででの はいる はいる での はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる	を通して古』 平家物総里し、 で説明して語』 を説明して をいる。 をめる。 を数る。 を勢いた	典文学の特 や『徒然草 八大に表』等 そこに表れ ま文学の世 を身につけ	江戸時代を代表を代表を代表を代るこのでは、 質量を非品のを表現のでは、 がたり、 がして、 がして、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	
人間総合学			近現代文学 I(近代)	て、近代 石や芥川 が西洋の いったの 化の様相	の文学の特 龍之介、村 思想文化・ かなどとい	寺質を探る 黄光利一、 のう問題を 理解すると	ことを目的 太宰治等の 5時代とどの 考察する。	とする。具 作品を取り りように向 小説を通し	家の小説を通し 体的には夏目漱 上げ、作中人物 かい合い生とで、 て、日本の近代 学研究へのアプ	
子群 人間文化学類	主幹	言語の	近現代文学Ⅱ(現代)	学的上 と を を を を を を と の と り に の と り に り に り の り と り し り り り り り り り り り り り り り り り り	の日本ので 川端康成や 作品の概 らえている 説とはど	文学という や、大江健 要を考察し るか考察し	観点から学 三郎という たうえで、 ていく。世 っのなのか、	ぶことを目 ノーベル賞 外国人が日 界中で読ま	いて、世界の文 的とする。具体 作家の作品や村 本の小説をどの れている日本の の興味・関心を	
日本文化専攻 専門		分野	日本語学 I	得すると 法 かけのか にする。	とこ各解またととなる。	日本語史の 内と語る。 日本にを語るに ともに、 名で書かれ	主な資料を具体的には、るためにどの文法に 時代の文法に た資料のほ	通覧し、日 、のような変 のな変遷を かに訓点資	関本から 関本から 知識を 知識を 対所を が一に がいる がいる がいる がいる がいる がいる がいる がいる	
2教育科目			日本語学Ⅱ	るを意考するを意考ると	的には、F いるのか材 遷等につい もに、日 <sup>2</sup>	日本語の語 既説したう いて最か い語彙の特 本語で書か	彙全体が意 えで、語彙 する。また 徴について	味的にみて の量的構造 日本語の 理解し、説 まな文章を	ことを目的とす どのような体悪、 辞書についても 明して、 語彙に 通して、 語彙に	
			日本文学史 I	的する。氏物は一般を変化を変化を変化を変化を変化を変化を変化した。	を修得し、 体的にどは 語』が、作品 ととと	文学の史 『古今和歌 の物語文学 品・作者に こ、時代と	的展開につい 次集』などの など、各時 ついて概説	いて理解す の和歌文学 代を代表す しながら、 連性や、文	的に学び、基礎 ることを目的語』 るが取りの作 るがな知識を が変的な発展過	
			日本文学史Ⅱ	的す草様といる。なながる。なながないないないないないないないないないないないないないないないないないない	を修得し、体的にはのいかのができます。	文学の史 『平家物語 江戸時代の 作品を取り つけるとと	的展開についる よどの軍 の 戯作文学、 上げ、作品	いて理解す 記物や『方 近代の小』 について概 と作品との	的に学び、基礎と す記とと、『徒とと、『記・五 説に至るが、、 説し生性、、 いく。	

()	し間線	※合≐		業	———— 科	目	の	概	要	
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		言語の	中国文学 I (漢文学)	とを目的で、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	的とする。 国文学の歴 読解を通じ 与えてきた 自国の文化	具体的には 史や各時代 て、文意を 中国の文学	、漢文訓読 を代表する 捉えるとと についったの ていったの	の基礎につ 作品等につ もに、つね 日本人がど	いて理解するこえいて機能する。いて概能する。いに概能する。いに日本に消化性をいるといい。	
		分野	中国文学Ⅱ(漢文学)	への理解 とを目的 についら それらり 係づけた	解を深め、 めと明なる。 て説物が各 ながら解説	中国文化が 具体的には とともに、 時代にどの	日本に与え、 、中国思想」 諸子百家の ように享受 文化が日本	た影響の大 史の流れや 思想や、『 されたかを	国の歴史や文化 きさを考えるこ 代表記』を読みと想ま で、時代いて、自 響について、自	
人間総合学			日本史I(古代)	知識を作りています。	多得するこ 物語、木簡 奈良時代か こつ代の歴 本古代の歴	とを目的と、出土遺物 ら平安時代 東アジア世	する。具体は 等の日本古代 までの政治、 :界との関係 について理解	的には、六 代史に関す 、社会、信 をも視野に 解する。あ	質に関する基礎国史、古文書、る基本資料を通例、生活、文化、人れながら解説のかせて、史料の	
子群 人間文化学類	主幹		日本史Ⅱ(中世)	知識をが、編集、で列られる。	修得ないない。 修得になる、 をといる。 をといる。 をといる。 をといる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 と	とを目的と 古資料等の 達や庶民の について学 な展開を遂	する。具体を注める。具体を注象ではない。 異体を注める さいいい でいい でいい でいい さいいい でいい さいいい かいいい かいい	的には、古 通して、鎌倉に に、鎌倉 の 学びを ほ の 近 と 世 社 会	質に関する基礎で書、古記録、 家政権の成立過代から戦国時代 で、中世社会の枠組みがどの の読解力や多角	
日本文化専攻 専門	科目	歴史の	日本史Ⅲ(近世)	知識をが、編纂と時代を表記を持ている。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	を得するこ 絵図でを か交通して を学習する	とを目的と 古資料等の 視野に入れ の政治、産 。この学び	する。具体に 歴史資料を つ近世社 業・経済、 を通じて、	的には、古 通じて、 会の形成に 文化や学問 近世の日本	質とは、	
2教育科目		の分野	日本史IV(近現代)	知識を修編を等である。この	修得するこ 等の歴史資 の明治維新 台から第2₹ の学びを通	とを目的と 料を通じて と明治国家 大世界大戦 じて、近代	する。具体  、日本の近 の成立、帝  での日本の 日本に関す	的には、古 代が芽生え 国日本の誕 歴史的展開 る基礎知識	質に関する基礎 文書、古記録、 た幕末の社会、 生から戦時体制 記ついてです を修得し、あわ と身につける。	
			日本文化史 I	に対すれるというになった。	る価値観や とする。具 れぞれの時 ついても側 日本の文化	個々の文化 体的には、 代における 面的に学習	事象につい 古代から近 文化的特徴 する。なお、 などについ	て基礎知識現代 現代い経 に海外が でも学び、	、日本人の文化 を修得すること 文化史を学びる。 察師のこと 察師の はない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない な	
			日本文化史Ⅱ	文化には、政化には、政治を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	おける芸術 神楽歌を また、 ともに、 現	と技芸の全、無いない。 大芸楽、落語にいる。 またの またい	体像を把握 舞伎などの などのさま 像や音楽の 芸能文化に	すること目 日本を代表 ざまな芸能 鑑賞を行い こついても	でなから、日本本的とする。具体である。具体である。とは演劇でいては一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次で	

			授	業	科	目	の	概	要	
	<b>、間約</b> 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			地域文化概論	人は痕で私春らし	といい といい を見い を見い を を を を を を を を を を を を を を を	する知識を 知行する を地域場し には形成され きな影響力	修得するこ域とないで とにいい ない ない を 持って を 持って と	とを目的とに残する。 解説々学習する。 を寺社を通	で営まれてきたする。具体のに、人への学びとなっの学びとなった。しかさら、このがまらにてのまられていた。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	
			歷史資料論	しり 目記 主事 なお必ずなお必ずなお必ずない	の読解、調 する。 関本 で で で で で で で で で と で で と で で と で で で で で で で り で り	査、整理を 的には、古 、絵図、古 の読解方法 、学外の博	行うための 代から近代 古資料等の 、調査・整	基礎知識を までの代表 概要を学び 理方法につ 斗館に行き	料について概説 修得するこま、古 的な古文降のな古 近世学習外の い、近世学習料を閲 い、原本史料を閲 う。	
人間総合	主幹科目	歴史の分野	民俗資料論	つけることでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	既説し、 と と い い 的 説 目 の 誤 と で の と 、 変 り の に り い る り る り る り る り る り る り る り る り る り	の読解、調体 になる。 のす信通と にてて でして でして でいて でいて でいる。	査、整理を 的には、地 ・民具等の 城市および	行うための 域文化を理 民俗 質別 で で の 問 辺 地 ら 、 これら	形の民俗資料に 基礎知識を修得 解するために有 ついて解説し、 域に伝承されて の収集・調査・	
学群 人間文化学類			歷史考古学	し、考えることに関うない。	古学を通史を を目のと すると での世の での歴史 でに、歴史	的に見据える。具体的 ら近代まで 史研究によ 研究だけで	る視点を養には、城郭の考古学の おける考古等 なく、民俗	うための基 、宗教、交 成果につい 学の可能性 学をはじめ	の視点から概説 一般知識を修得す 一で解説して解説して解説して解説して知いて諸分いて諸分が にとするを養う。	
日本文化専攻 専門			歷史地理学	く、地域 修、地域 と的、型域観の可 ではいる。	或的特徴も ること 或の は な 体 的 と 業 と 産 と 業 と 産 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、	視野に入れ 的とする。 くり とし い り い り い り い り い り い り い り り い り り い し 、 り り し 、 り で り で り で ず 関 で り で ず 関 で り で ず り で り で り で り で り で り で り で り で	見据える視 具体的には いて、それ 像について	点を養うた ま、衣食住 を支える人 学習し、新 びを通じて	的特徴だけでな めの世界をかけて、通 ったな歴域から ったな地域から た、地する。 を得する。	
教育科目			仏教文学	読し、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	文まをないています。本学、『じん皆をないのではどいない。これではいいいます。ないではいいます。本をはいます。	れた仏教に 物語集』『 宮沢賢治な を代表する 講読する。	ついて考察 日本霊異記 どの近現代 仏教文学の また履修者	することを 』『沙石集 の文学作品 作品を取り にゆかりの	などをひろる。 は当などをひった。 は当などといは有名 としばといは有名 とが、 とが、 とが、 とが、 といば を を の と と と と と と と と と と は と は と り と は と り と り	
	成 月 和	月 斗	児童文学	学の特別学・児童の別様の別様の別様の別様の別様の別様	質を探るこ 置音楽の記 る児童 会 に 記 り 記 り 記 り 記 り 記 り に う の お き う れ り り り り る り る り る り る り る り る り る り る	とを目的と 世期り上 を取り上げ の童謡やい 相について	する。具体 重要な影響 、芥川龍之 話を通して	的には、日 を与え	になった児童文本の近代児童文赤い鳥』をはじ 赤い鳥』をはじ 郎の作品や、小昭和初期にかけ りの興味、関心 にする。	
			日本の詩歌	的には、 俳諧な 改革理解	中古の和 ども取り扱 動を中心と 解し、作品 などについ	歌を中心と う。また、 して概説す に表れたも	し、上代の 近代以降の る。日本文 のの見方や	和歌、中世 詩歌につい 学における 考え方、現	的とする。具体の連歌、近世のいては正岡子規の 詩歌の意義につ 代における詩歌 とができるよう	

	即從合意	授 授	業	科	目	<b></b>	概	要	
	科目 区分	学群 入間又化学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
		国語教育概論 I	ついて 明治以 構造 説する。	の基礎的な 各今日要領 哲導内容 教科らに「	知識を修得 るまでの国 変遷等につ 単元構成、	することを 語教育の歴 い統性、他 」とはどう	目的とする 史や国語教 るとともに 教科との関	、国語科教育に 。具体的には、 科書の歴史およ 、国語科の教科 連等について概 のか、その本質	
		国語教育概論Ⅱ	科 る と ま ま 表 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	の意義を理 を目め と に 国語教育 の様々な問	解し、国語 る。具体的 書くこと」 の方法や学 題について	科の教員と には現行の 「読むこと」 習指導法、	して必要な )学習指導 の3領域の 教材につい 国語科とは	を通して、国語 知識を身につけ 要領の「話すこ 内内で、概説した で、教え、どう い。	
人間総合学		書道実習 I	もに、またといるという。	表現と鑑すい表美しいで表美しいで表美しいで表美しいであました。 とないないである。 というではいいである。 とのでは、 とのでも、 とのでも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 との	の力を伸ばにの見る。具名、して、人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の	し、書の伝え は、漢字に 名及び変体 の用筆・運 味わい、感	統と文化に つ名を扱いな 仮名を技法を じ取ること	向ついて 向ついて で理解すると で理解すると でででいて でいてな本ささるよう でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて	
子群 人間文化学類	応用	書道実習Ⅱ	も深書いるで書いたじたれ	表現と鑑賞 こと書い を書、仮名 本 本 本 表 で 表 で ま 、 に 表 、 に ま き 、 し た る に る に る に る に た る に た る に た る た た し た た し た し た し た し た し た し た し	の力を伸ば とする。具 についてに 即した用筆 できるよう	し、書の伝 体的には、 は、平仮名、 ・運筆等に	統と文化に 漢字につい 片仮名及 ついて理解 た、書の美	向上を図るとと ついての理解を では、使名を表 びし、表 びし、表 で変 ま で変 ま で変 ま で で 変 と に で で 変 れ で に で 変 れ で に し 、 表 で れ に し 、 、 で れ で に し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 さ に し 、 し 、 し 、 と ら と 。 と 。 と 。 と の る 。 と の る 。 と の る 。 と の る る 。 と の る 。 と の と の と の と の と の と の と と と と と と と	
日本文化専攻 専門	科目	日本の文化財 I	て概説 する。』 がら、「 果たし	し、日本の 具体的には 日本の近代 てきた役割	文化財に関 、近代以降 化と文化財 や、日本の	する基礎知 の欧米社会 保護の歩み	識を修得す との関わり について学 化財の特質	な文化財につい ることを目的と を視野に入れな 習し、博物館の を考察し、文化	
2教育科目		日本の文化財Ⅱ	知識を活った。知識を記憶を記述して物では、一般に対している。	深めること された文化 術工芸品) 流的建造物 学び、近年	を目的とす 財の概要と ・無形文化 群保存地区 注目されて	る。具体的に 、日本を代 対・民俗文 ・選定保存	には、文化 :表する有 :化財・記 技術・埋蔵 産、世界無	文化財に関する 財保機能に関する 財保護化財(は を物・財で が 文化文化 が で が で が で が で が で が で が り で り で り で り	
		文化交流史 I	察する。のおおいまでは、そのなった。そのなった。	ことを目的と諸外国と と諸外についる とないないではないできた。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを目がいる。 ことを見いる。 ことを見いる。 これでい。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでい。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでい。 これでいる。 これでい。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでい。 これで。 これで。 これで。 これで。 これで。 これで。 これで。 これで	とする。具 の交流の事 容した社会 学習する。	体的には、 例を取り上 的背景や意 この学びを や、日本文	縄文時代か げ、海外文 義について 通じて、国	歴史的特質を考 ら平安時代まで 化を取捨選択し の歴文流の中で形 いらどのように理	
		文化交流史Ⅱ	察する。 でない しとその 形作られ	ことを目的 本と諸外国 ら主体的に ない と ない と は に ない と た と は に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に	とする。具 との交流の 受容した社 て学習する	体的には、 歴史を振り 会的背景や 。この学び 義、日本文	平安・鎌倉 返り、海外 意義につい を通じて、	歴史的特質を考 時代から幕末ま 文化を取捨選択 ての歴史的変遷 国際交流の中で らどのように理	

	問総合	授学群 人間文化学類)	業	科	目	の	概	要	
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本文化ゼミI	し、月々る。 製売し	本文化学の 本的には、 し、履修者 る現代日本	基礎知識・ 日本の歴史 の希望する	専門知識を ・文化・文 各分野につ についても	を修得する 学・言語等 いて研究指 、必要に応	F究・報告を実施ことを目的とするとを目的とするを扱った諸文献は等を行う。またいで鑑賞や体験ある。	
人間総合学群 人間		日本文化ゼミⅡ	し、日々 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	本文化学の 本的には、 履修者の ヹミⅠで修 ついても、	基礎知識・ 日本望の歴る 日本望したに 日本望したに 日本 日本望した 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	専門知識を ・文化・文 分野につい に基づいて て鑑賞や体	を修得する 学・言語を て 関連する 験学習なと	「究・報告的とは 実施する。 ととして を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	
文化学類 日本文化	専門ゼミ科目	日本文化ゼミⅢ	し、日本 は、日本 者の <b>和</b> で て で て も	文化学の ドの歴史・ 望する各分で修得した い、必要に	専門知識を 文化・文学 野について 知識に基づ	修得するこ ・言語を扱 研究指導を いて、関連 や体験学習	とを目的と った諸文献 と行う。ま する現代日 などを実施	「究・報告を実施する。具体的に する。具体的に えを熟読し、履修 た日本文化ゼミ 本の文化お、学 する。	
専攻 専門教育科目		日本文化ゼミIV	し、日本 は、日本 文の 文化 文 で で な な る。 な ま る。 な る。 な り の ま の ま の る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。 る。	本文化学の とでは とででは では では では でする では でする では でする でする でする でする でする でする でする でする でする でする	専門知識を 文化の各分 Ⅲで修得し ても、必要	修・野たに合いいたのでは、いいでは、いいでは、いいでいいでいいでいる。これでは、いいでいる。これでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	とを目的と った諸単 が で が い で い 体 験 学	「完・報告を的にする。 でする。 でする。 でする。 でする。 ででする。 ででする。 ででの学習が、 での学習が、 での学習が、 での学習が、 での学習が、 での学習が、 での学習が、 での学習が、 のいまでの学習が、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	
		卒業論文	して選び 析の視点 て深く者	バ、これま ほと自分な き察する方	で修得して りの問題意	きた専門的 識を明確に ける。学習	知識をふま しつつ、追	「象を研究対象と えて、独自の分 「切な方法を用い 体系的、論理的	
人間文化学哲		人間関係の基礎	ケ理解する検索を行え	か能力を おおり が、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	、実践を通 冶に指導の 心を「問い し、これに	じて深める 重点かたた 」 基づいて創 力の向上を	。 特団 に は は に な に た に た に た に た に た に た に た に に た に に た に に に に に に に に に に に に に	産的なコミュニ でで読み取り、 にいと個人レベル が、必要な情報を がが、必要な情報を提 がは、経験値の には、経験値の と践を行う。	
類 人間関係専攻 恵	基本科目	化粧の文化史	れなけるでは、いいでは、いいでは、いいでは、これでは、これでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	- 前の - 前の - 前の - 前の - 一前の - 一 - 一 - 一 - 一 - 一 - 一 - 一 - 一 - 一 - 一	に存在する 存在する のようながら 場合には異	が上味考文といい。 学、特をといい。 がでを察化が、 がでをといい。 が、できない。 が、できない。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 は	に化粧を文 なぜ化粧を といる。 とがら とがら が 自分の	なべれとはみなさ て化と位置づけて でするのか、人間 その歴史を通じて 日本の化粧史に 日本の化粧史に 発生進める。単 化粧や美に対す	
専門教育科目		コミュニケーションの心理学	てコルシの大法を対して対している。	ける。本講 ニケー 大 中 上 た た た た た た た た た た で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	義では、服 ンへの理解 !学などのと 形成につい る、②自己	装や立ちた を深をするとっての無いでの無いでは ないない。 ないはいいいいではない。 ないないないないないないできる。 ないないないないないないない。 ないないないないないないできる。 はいないないないないできる。 はいないないないないできる。 はいないないないないないないないないできる。 はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	振る舞いな と、 言語 と、 ここ る。 ① り 域に迫り	型学的理解についるとの非言語的な字動心理学や学習 カコミュニケーション コニカミュニケーション 「自己洞察」 する	

(ر)	<b>し間</b> 総	<b>☆合≐</b>	授学群 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要		
	科目 区分		授業科目の名称			<u>=</u>	講義等の内容				備考
			コミュニケーションの社会学	めおこと と か能ョ は も き も き ま す は す す す す す す す す す す す す す す す す す	: はない。 の必要性 とは何か ることに る。コミ	そして社会 はが唱えられる。この社会 なったのだ コニケー	会のいたると れている。で はいかにし か。本講義で ションを捉え	ころで「コ はそ「コも てこれらの るための相	ケーションをやョ マニケーションケーニケー ニコマニュニンシー に でいたででででででででいる。 対けのないである。 を目標とする。		
			現代社会の論点	いに近に得してものが講している。	取り間では、 すいまでは、 では、 でいまでは、 でいまでいます。 は、	<ul><li>、論・や記念</li><li>論・や社会</li><li>を計る</li><li>をする</li><li>話を</li><li>話を</li><li>話を</li></ul>	問題提起を整 を行う。学生 内現象を手が 学的思考へと 読むこと (	理しながら 自身が日常 展開ない 展開な理 は は は は は は は は は は は り に る り に る り に る り に る ら り に る り に る り に る り に り た り り と り り り り り り り り り り り り り り り	タメディア情報を 解説するととも 生活のなかでも こから、「社会 こから、 送を実践的にと さい。 の3つのス		
人間総合学	オ 禾	基本科目	国際社会への誘い	と国家に 機構(M 国際安全 界の主な 障」「人	こついて分 ATO) 、欧 ≿保障にお :動き、②	が析する。 の で が が が が は に が は に に が は に が は の に が の に に に の に に に に に に に に に に に に に	とくに、国際 TU)が担う国 の責任につい 呆障を担う国	連合 (UN) 際安全保障 て考察する 際機関、③	を担う国際機構 、北大西洋条約 に底点を当後の一 、①冷戦的安全 の「伝統的て理解を について理解を		
子群 人間文化学類			企画と表現	解できる ント、新	言葉で理 育品、作	温論的に説明	明することが のプロジェク	求められる	れを誰にでも理 。授業ではイベ 表を行い、社会		
人間関係専攻 専門			哲学と思想	など名さる となる なる なる きさ で ま き で ま き で き き で き で り て り て り て り て り て り て り て り て り て り	*徴される *が求要な命 *主要倫理的 *ある。現	ように、 まれて 調題と 記 課題を 各 目 在起こっ	見代は、人間 寺代である。 を概説する。 自で考察でき ている社会的	存在をめぐ 哲学史のな それらにな な問題につ	会的格差の問題 念哲学線の出題 かで、現代社会の で現代本本 で ること本質 を るこて本 資 を 到 に だ の で の で 現 の で の で 現 の で の で 、 の で り の に が の の に が の に の に る に る に る に る に る に る に る と る に る と る と		
教育科目			身体文化論 I	げる。 当てはま において ること、	「声は人な る。言葉 もいえる また社会	きり、語りに を大事に ことである で起きてい	は人生なり」 することは大 る。本講義は いる様々な事	という言葉 切である。 、上手な記 象を的確に	文化」を取り上には今の時代にも それはどの時代 それはどの時代 したを身につけ とらえ、それぞ ことを目標とす		
	主幹科目	文化の分野	身体文化論Ⅱ	実践かれる 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの	身につけ を実際に ション と と と と で の は 学 の に と の た に で の た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	させる。     学ぶ。学   の手法もる   自己表現、	言葉を机上で 生同士でのイ とりいれなが ニュースの	理解するは ンタビュー ら授業を進 客観的分析	ながら、語りの そながらでなく、 かりでループデを かると がると がなど 動を 取れる 人間		
			化粧文化論	ル現に論の寄りという。	ニケーシ 上げと 、 、 、 、 、 、 の の た と か と た た が た が た た が た た た た た た た た た た た	ョンのひと 前提とッセ よる考察と終 、資生堂(	とつに位置づ ての正しい知 セージの発信 圣験を積む。 と粧品を使っ	けられる化 さそれる と を は き は は た は し た は し た と に に る に る に る に る に た れ た し た し た し た し た し た し た し た し た し	に、ノンバーバ た、ノンバーバ をいう身体で がく方法ので がはたる がはたる 大置き ではたる を を を を を を を を を を を を を	講義実習	12時間 3時間

( )	門級	公合市	授学群 人間文化学類)	業	科	目	<b></b>	概	要	
	科目 区分		授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			服装の美意識 I	習すると からない おおり かんしん かんしん でる新してる	ともに、『 とることで、 を を を と で、 を き に で、 を う た り い り い り い り い り い り い り い り り り り り	作今のファ 私考に いて が れ が れ が が が ど が ど ろ に ろ に り に り に り に り に り に り に り に り に	ッション業 生活に潤い る。①多様 することが	界のしくみ を与える現 化でき、② 入れるべき	との関わりを学 を多様な角度か れるファッショ ファッションの アッションをめ か判断する能力	
			服装の美意識Ⅱ	に、当いが、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の服装をする で考察する で民族革命 でとりあげる	再現した映 る。具体的 ザンツ帝国 朝から1830 る。古代か	像資料を鑑定は、古代の服装、中年代までの	賞し、文化 ギリシア・ 世の服装、 服装、近現 での西洋の	学習すると同時 と服装との関わ ローマの服装、 16~18世紀の服 代の服装を、順 機大の歴史を学	
人間総合学		文化の	和装の文化 I	「きれい法を身にない。」 (きずない) (はない) (はな	、」を考えれ 付けるたい 和服を文 の服装と文化 に人の伝統	創造する際 めの授業を り上げ、現 化の関わり	の視点獲得 実践的に進 在の日常的 を考える。 覚について	をめざして める。日本 な衣服とし 具体的には	者が自分自身の 、教養と身体技 、人の伝統的な衣 ての洋服と比較 、 和服の文化検 「きもの文化検	
子群 人間文化学類	主幹	分野	和装の文化Ⅱ	「きれい 法を身内 接業内 を し る。日常	、」を考えれ に付けるたと ドを踏まえて い身体技術 で動作の	創造する際 めので業を たとのと まかに まかに まかに	の視点獲得 実践的に進 服着用時の 体験する動	をめざして める。「和 美しい身体 作実習形式 なければな	者が自分自身の、教養と身体技、教養と身体I」の法技とど注服着用でいた。 でいる いっぱい かいしゅう はいい かいしゃ はいい かいしゃ はいい かいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい	講義 11時間 実習 4時間
人間関係専攻 専門	主幹科目		流行論	み含やをかとをはいる本ではいる。	だまらず、パラングでは、 でまれた でまれた でまれた でまれた でまれた でまれた こまれ にんしゅう はん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱん いっぱ	人びとのるくないとのる。インで、現まないで、現象とのる。ないではない。 大きないないない。ないではないない。 大きないないない。 大きないないない。 大きないないない。 大きないないない。 大きないないない。 大きないないない。 大きないないない。 といっないないない。 といっないないない。 といっないないない。 といっないないない。 といっないないないない。 といっないないないないない。 といっないないないないないないない。 といっないないないないないないない。 といっないないないないないないないないないない。 といっないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	動様式や考流ではまた。 流行はまた。 ニケーショー 社会学的に 常生活のない ともに、流	え方、趣味 、 なた動とも こどにあよう かに たいない かいない	ム、トレンドの ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
教育科目			ビューティービジネス	まつ 様 べ 、 る 。 「 健康 て	- クステン: F技術や新ご Fや化粧の - 方、60代 で美しく」。	ション・S ブランドが 吏用者年齢 以上の高齢 といった美	PA・美容 巷に溢れて が、高校生 が、高校生 き者において 意識上の変	医療・化粧 いる。10年 から10代前 て、「健康 化がみられ	ロマ・ネイル・ :品類等、多種を 前や20年前に比 半へと低下して で長生き」から る。本授業は、 一の向上を図り	
		コミュニケー	恋愛の心理学	る。恋愛 成、間関 は 現 り に 精神的 果	をには「人間 長、危機、原 その諸過程を は、さまる 見実はきわ	   関   関   様   様   ま   ま   ま   ま   ま   ま   ま   ま   ま   ま	エッセンス; った過程を ことにつな; が潜むのも 、。恋愛が人	がつまって研究するこがのでするこかである。一方のである。	について考察す だり、恋そ愛のま とは、「不変の妻」 でが、他方すすの でが、よばす におよず において において において にないて にないて にないて にないて にないて にないて にないて にないて にないて にないて にないて にないて にないで	
		ションの分野	家族関係の心理学	ど化暴能で、親子	)に理解す 別姓、「 見童虐待な。 削について 一間・夫婦「	ることが同 育メン」問題 心理学的 間の人間関	T能だろうか どの社会現 を取り上げ 理解を深める	か。「友だ 象や、離婚 て、現代の る。こうし のかかわり	を、心理学的に ち親子」、非婚 の増加、家庭内 家族の形態・機 た理解を踏まえ 、および、家庭 か。	

( )	、間紙	※ <u>수</u> 호		<del></del>	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			自己分析の心理学	「アイデ について の講義で ワークシ について	ンティティン 、どれだい な、自っている なっぱい なっている なっている。 である。	ィの確立」 け考え、で こつて、 あして、と かくことを	という課題だい してざまを付 さまざまな側 目的とする。	がある。し を認してき 既念を学び 面か己につ	段階におはにはははないでははないただれない。 ただで理計のではいるとなる。 を検でででではいるといるできまではない。 を検でできまでいる。 とを学習をはないた。	
			ビジネスと心理学	て、社会 組織ルス え方、 れてき れてきた	心理学、原団ー個人の 団ー個人の ついて理解 情状態なる	産業組織心: の関係性の 解を深めて ど、心理学 こついて理!	理学、臨床心 特徴やコミニ いく。企業で の研究によっ	ご理学の視 ュニケーシ ごの集団や って検討さ	は出来事につい 座から考察し、 ョン、メンタル の行動や考 個人、明らかにさ できるようにす	
人間総合学			セルフプロデュース	しむ現象 着しかい対って がジュア	がうかが; 共に、海ダ 。本授業 、印象・印 ジ ルコミュ	える。特に 外でも「カ では、自己 象形成・印 ニケーショ	、昨今では ワイイ」がプ 上演出や身体 象分析・自己	「カワイイ カルチャー 装飾の観』 己認知・パ アルプレゼ	表現を自由に楽 文化が巻き相で定こ 現象を巻、身ない たいナーションな ・学ぶ。	
子群 人間文化学類	主幹	コミュニケー	自己表現法 I	た芸ンす考し、術技る察、ど・法。す自	いう表現を 能関係に、 中心に、演業を の感情や の感情や	をすると相 表現の現 より良い人  や音楽など とおして、	手にどう理角 場における い 関 関 い を り し い し し し し し し し し い い の 、 り り る り る り る り り り り し り し り し り し り し	解されるの: 実例や、コ くための方: ともとに自 間関係とい	があるのか。ま か。本講義では ミュニケーではま 法に表現につ・ で で で と で と で り で り で り に り に り に の に の に の に の に の に の に の に	
人間関係専攻 専門	科目	ションの分野	自己表現法Ⅱ	自きをる探理さるよりとてしい。	現するこ。 にするこ。 確に相手に に、面接 く。社会	との必要性との必要性となるとのといるといるといるといるにはいいない。 とはないでは、 というでも、 というでも、 というと、 というと、 というと、 というと というと とこと というと というと とっと とっと とっと とっと とっと とっと とっと とっと とっと と	について理解 する。自分の めのプレゼン いての自己 る上で自己を	解を深め、 り思考を、 /テーショ /アピールの を表現する	ョンにおいて、 よりイはメージリ または自いてが またについてかまいた か方とのを常に必要性を ことを常にそ ことを	
2教育科目			コミュニケーション実習 I	は会考よる 要中る よってする でする	可欠であるである。可欠の回転とコーニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュ	る。より良を速くし、 グを行う。 ケーション ニケーショ	いコミュニク 相手にどの』 基礎的な演 を体感し、写 ンの重要性を	アーション ように伝わ 技レッスン 実生活に応 と理解し、	取るるということ いうこに いためい常と いたので いた いた でで ので で ので と で で の に に を で で の で る る る る る る る る る る る る る る る る	
			コミュニケーション実習Ⅱ	己表現法 な演とと と よう に な た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	の習得を シスンを り、効果的 上させる。	目的とする。 さらなコミス かオフィシ こ合わせる	。即興劇やこ させ、模擬的 ニケーション ヤルな場での	ェチュード 内な番組制 /に対する D会話がス	も大切にした自等にした自等による議を行うスと議を深め、さるというという。	
			報道とメディア	メ産アにデの光が対イ地が対イのではいかが、	について、 り立ちをする 理解をこれ 違いにの特性 にの特性	各メディイ 学ぶの裏以上 いまて、述をの 性を必める と と と と と と と と と の と い と 、 の と い と 、 と と り に り に り と り と り と り と り ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	アの歴史や、 アア読み で で で で で で で り で り い で い り い り い り い り	それを提ぶ よをディ的と とを質し、 とを質ける	スを中心とした 供するメメメ ことでるメメオ情な で信する。5マス する。5マを ま経 きとと いて 考察 ととつい に で で で で で で で で まる で で まる で まる さる さる さる さる さる は な る は な に する と る と る と る と る と る と る と る と る と る	

人)	、間紙	総合皇	授 授	業	———— 科	目	Ø	概	要	
	科目 区分		授業科目の名称			詳	<b>葬義等の内容</b>			備考
		י ד	情報技術と人間関係	の進化 たらし それに につい	と新しいメ ていって まないて は後 て 、 様 の 進	ディアの普 うか。本講 らされた人 事例を紹介	· 及は、人間 議では、情 、間関係およ · しながら立	関係にどの 報テクノロ び人びとの 体的かつ多	うな、情報技術も )ような変化をと、 シラーの進化を、 ショーの生活の変化を ショーの生活の変導 可能性につ	
		ミュニケーションの分	映像広告の研究	響がと持心となりとなった。	日的意義を 訴求は が が が は が は で な は で 、 と る と と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、	学ぶ。映像 つのってが、広 社会学いて さない、 ではて、	表現による 語とテロン たいらい たいらCMを でティング	広告の媒体である。本である。から であるがいと いいを いいを がいた に で に で に に で に に に た に の に の に の に り に り に り に り に り に り に り	マルの社会的を は、 は、 は、 を を を を を を を を を で い た で ら る く に る く で る く で る く に る く と で う く く て で る く で る く く て で る く く く く て そ る く く く る く と る と る と と を と と と と と と と と と と と と と	
人間総合:		野	表現活動とビジネス	の紙メ つある。 したり	ディアが長 。イベント することを	い歴史のな やプロジェ 通して、広	かで養って クトを編集	きた編集の したり、自 するように	雑誌や書籍など 概念が変化しつ 日常を編集 なった編集の未	
学群 人間文化学類	主幹		文化人類学	と検化にを検なと検いと検います。	が違和感を深 理解を深 組みる態度と できること	感じる社会 めてこううなとこうない、となれが などの相対	や文化の事と とを目的要に 化の記 でな、 でな、 でな、 でな、 でな、	象を、さま する。「対 の相互関して をとない。 のな思考	の行動や、人びに対している。 できな角、そのとでは、では、を、人でのは、そのでのでは、 でのでは、となりでは、 できるできるでは、 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	
人間関係専攻 専門	科目		文化社会学 I	たちのれる。 な、現れる。 と、戦れ	社会を問い びとの「文 代社会につ いう日本の社 て、現代社	直す。「歴 :化」に着 E いては、「 を通して、 会史を理解	史」の授業 目することで 消費」「格 その問題を !すること、	では触れら で、日本社 差」「グロ 考える。 到 第二に、そ	から、ことは、 現代の私なと。 現代のをたら、 こと跡をしませば、 は、 は、 は、 は、 は、 にかりかりでは、 にかりかりでは、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	
教育科目		社会の分野	文化社会学Ⅱ	て、私にのかい。 でんかい でんかい でんかい でんし でんり でんし でんり でんし でんし でんし でんし でんし でんし かい	たちの社会 にりかない た焦からで たい が たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい	を捉える講 で、解いる を がすな で が で に に に に り し に り し に り に り に り に り に り に	議紹介 ・ さい ・ はい ・ はい ・ はい ・ はい ・ でい ・ でい ・ でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい	とくに、19 しながら、 には社会。 を批評的に がして がして が	(ラマ等) を通し (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D) (D)	
			家族と現代社会	いる。 家族の は、家 の 家族、	本講義では 本質概念と 族、家族、家族、家族、家族、	、家族につ解を深め、 解を深め、 定義、家族 済、消費者	いて、人文 今日的課題 の進化、家 問題、家族	科学・社会 を探究して 族の多様性 の健康、子	の基盤を担って 科学の視点から 科学の具体的に と普遍性、現代 とともと家族、などに の家族、などに	
			環境問題と市民	題あで解地ることなけれる	ふれている、 北下いる、 北下ではれている。 本でにている。 では、 では、 ののは、 ののでは、 のでは、 ののでは、	。 得あると うるこよで る る り る と う る と う る と う る と う る と う る た る り る た る た る た る た る た る た る た る た	問題は解決 ころが同時 私たちは知 視点が必要に われてきた	することがに、環境に っている。でになるのか 環境利用の わち、文化	D回りには環境間 「望ましい存在で 引題は容易に解決 では、環境問題を 。この講義では、 うあり方を参照す こかり方を参照す	

				業	科	目	Ø	概	要	
()	人間約	総合学	学群 人間文化学類)							
	科目 区分		授業科目の名称			詩	義等の内容			備考
			現代国際社会	し、本意動の一般を深る理解する	講義では まで まで まで きい い 知 に お に き に の に の に の に の の に の の の の の の の の の の の の の	ーロッパを する。EUの 習得し、さ 未来を探る 連合につい	フィールド歴史や通貨らに第二次での基本的	に取り上け ユーなは ッパ統合の 大戦後の 知識を身に	めることを目指で、欧州統合のはじめ、EUについてきないのでいてきないでの動き現代での動き現代での動き現代では標とする。	
			社会学特論	ティ、なる出のる代社会	社会階層と を社会がを を手たいんで と を を と と と と と と と と に い た で に た に た り に る に る り た り た り た り た り た り た り た り た り た り	社会運動なに考察するに、現代の社とはその社とは日本社	ど、現代社 視座に会に 会の歴史かなかしい な新しい事	会のさまさ て紹介なる どのように ・世界的布	ダー、領域のようでは、 エ域に対して、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	
人間総合学群 人間			職業の世界	捉社でげ諸ぐる子のでは、現る者のでは、現る者のでは、現る者が、現る者が、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これ	ことによっ いい 日本の い 「現よび、 および、	て、わたし げて考察し ワイトカラ について具 オフィス・	たちにとっ てみよう」 ラーの職場 体的に紹介 ワーカーた	て身近で切 というのが をおもな考 しつの働き力 ちの働き力	D関わりのなかでで 別実な問題として 本群義のねらしい 落対象に取り上 場場世界における が、女性労働をめ 現代社会論的視	
文化学類 人間関係	主幹科目	社会の分野	チームビルディング	の出をとれるがいる。	化になる かここと かここと がこと がこと がして がい で を の で で で で で で で れ で れ で れ り れ で る り た る り る で る り る で る り る で る り る で る り る り	いると指摘 開き践のない 動との、②基 いた参加す	される。織いる。織いれる。織はない。 ののでき はいい はい	の授業ではがいるをとった。とこっとのではいる。これではいるとこれではいる。	は、 に い に に に に に に に に に れ に に れ に れ に れ に れ に れ に の は の に の る 。 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 。 。 る 。 。 。 。 。 。 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	
専攻 専門教育科目			組織マネジメント	知機がかかい、	スキルは は は は は は 大 で は 、 は 、 な に か か れ 、 な で コ 、 な は の ル ル 織 ジ マ れ が ジ マ ネ ジ マ ネ ジ マ か か か か か か か か か か か か か か か か か か	天 よっと まいかい 大大 よっか なれる はん はん はん はん はん はん かい はん はん いっこん はん	によって初織 おけるメンカ ンカ (カウ ノグスキル、 キル (ロジ	めて身に付 活動の事例 の育成を行 ンセリンク プレゼン カルシンキ	していくためのけられる。このは けられる。このの は要富に使いな でいな動い。 では、 でいたが、 でいたが、 でいたが、 でいたが、 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくだった。 でいくが、 でいとが、 とが、 でいとが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、	
			経済とビジネスI	か。われな影響を各自の経済	れわれの日 を受けてい 日常世界を	常生活は社 るのだろう 経済学的に ンスを解説	会の経済活 か。こうい 理解するた	動や企業活った根源的 めに必要な	明されるだろう 動からどのよう Dな関心に立ち、 、ミクロ・マク 的視座を修得す	
			経済とビジネスⅡ	問題の る。新 になる	事例をいく 聞・雑誌・ ことを到達	つか取り」 Webページの 目標とする	上げながら、 )経済記事を	<ul><li>経済学的</li><li>・概括的に∜</li><li>イフデザイ</li></ul>	、時事的な経済 理解を発展させ っ理解できるよう ン(生活設計) する。	

			業	科	目	<i>o</i>	概	要	
	<b>間総合</b> 科目 区分	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		アンケート調査法	てア説連のをル、基本した法にいる。	的トえをなるび、 考査、うと各既 で扱ま。、 のと各既 のの自存の	ちからす立めた。 実るてな計で自調を計できるでない。 がかが、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もいでは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。	の方法に関 えでで悪いでで でで悪いでで でで でで でで で で で で で で で で で	すざりすフ調価をは、これでは、これででででいる。これででででいるにった。これでででいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	社会調査につい な事項を学いる シト得るを学いての 技法をどり 技法などり あるる 現析での についての についての についての についての に対しての にの にの にの にの にの にの にの にの にの に	講義 11時間 実習 4時間
		フィールドワークの技法	ビュー調 ンタビュ る社会調 企画し、3	査や観察訓 一調査、観 査の各手法 実査を行い	問査の実施 現察調査、 よについて 、データ	方法と分析 フィールド 理解し、そ	方法につい ワークなど れらを実際 調査レポー	を当て、インタで解説する。インタで解説する。イン質的研究によいな自で構想・トをまとめるたい。	実習 2時間
人間総合学		人間関係学実習 I	体技能、 広く学ん ちろん、 ふるまう	ビジネス <i>0</i> でいくこと 接遇や受付 実技練習る	の多くの場 とを目的と けなどの場 を行う。 秘	面で信頼を する。本授 面で「美し	得るための 業では、歩 くしなやか ービス接遇	めの具体的な身 マナーについて き方や敬語はも な女性」として 検定の「実技」 かする。	
,群 人間文化学類	総合実践	人間関係学実習Ⅱ	る実書でを習慣り、大水ルー	まな手をままれる。 要、がとしている。 ないできないできない。 ないないないできない。 ないないできない。	F段である。 タンプだけ いる。この 分の思いを な表現、相	しかし、S でやりとり: 実習では、 豊かに伝え 手の心に届 現の工夫、	NSの発達と をすること 「書く」 る方法を学 く手紙、挨	、「書いて伝え:ともに、短い音に、短い音に、手紙を当こと、手紙を当こと、原語を当まる。旧暦の季節の手が状や手紙文章	
人間関係専攻 専門教育科目	践科目	現代社会総合講座 I	品すキてと ( ) 身 ( 心 ) 国 ( 産 ( 文 ( メ ( 企 ) 賃作中る一議が オ 13体 25理 5際 16業 21化 3 デ 11画 13恵品店。ノ論で ム 石文 倉学 E関 複社 大社 小イ 田表 石生の上の 14年 本会 賃金 林石 澤野 田・3 15年	か教ト掘る ヾ か侖 友見 実侖 環产 恵产 憲刑 秀見 かっ読みれ員にり能 ス おの 恵点 稲の /の 佳視 大宛 司研 お小みカての、下力 方 お視 /的 子視 1視 /視 /宛 り悪れシッキ ジョイタ 磨 / /か 回作 /か )か 回点 回点 回視 ・まる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5 養 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	の応な課述 ほうい に に に に を 内 ・ ラクルしす	まくデてる じ 。 じ じ じ 論 て 実 ・ぎさく イ俯。  る る る じ 論 稲共解まなピカ的 。 。 。 る じ 子同説はまりの的 。 。 る 。 る 16 し、間一ッに	作祭を りいさかとえる りにでからなり がでする。 ででは、 でいていました。 でいなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	オムニバス方式 共同(一部)

( 1	授業科目の概要 (人間総合学群 人間文化学類)								
	科目 区分	授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
人間総合学群 人間文化学類	総合実践科目	現代社会総合講座Ⅱ	合会にな ( ) 身 ( 心 ) 国 ( 産 ( 文 ) 人 ( 企 ) 賃作講の応る オ 3 本 2 5 と 5 と 以 2 と 1 と 1 恵品を譲じい ム 石化 倉学 5 と 損 模会 1 大会 小ア 田表 石 生 から 1 と から	古」やゲル バ 田論 主視 実論 撃学 貫学 末研 睪現 田 3 読える・典とさスデ ス かの 友点 実の 環の 佳視 夫の 司究 お林取ッ的はまトイ 方 り視 16 / 1点 1点 1点 1で り憲れシリス ズ / / 1 / 1の り 素れシリス 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	才ムニバス方式 共同(一部)				
人間関係専攻 専門		人間関係ゼミI	て能けにめる 主なのが とない という という という という という という はい という という という という という という という という という とい	うに捉え、 、その問 、的に考察 とそれい での3点を具 な操作・1	ることがで 題関心に則 する思考力 にもとづく し体的目標と	きるのか、 ]して、各 を習得する ディスカッ する。①セ る、②学術は	どのような   が学術的 ことを目標 ションを基 ! ミ活動に必	学問領域を通じ 理解と発想が明 な視座を身はは とする。受講者 本形式にしソール と要なICTツール レゼンがこなせ	
教育科目	専門ゼ	人間関係ゼミⅡ	め、それ るトレー キルを着 る。①文	らを実践に ニング活! 実に修得っ 献の読解	的に駆使し 動を展開す することを 力を深める	て、問題を る。各自の 目標とする。	主体的かつ 研究活動に 次の3点を カッション	ついて理解を深 多角的に考察す 必要な基礎的ス ・具体的目標とす のスキルを高め	
	ミ科目	人間関係ゼミⅢ	「を相ンと高い」らい。	本格的な学術研究を目指して、自らの問題関心を掘り下げること、「問い」を立てること、情報を集めその「問い」にじっくりと考察をめぐらすこと、などの知的営みに取り組む。また、自分の着想を相手に明確に伝え、相手の主張を精確に理解し、それに的確にコメントするためのコミュニケーション・スキルを磨くことも学修課題とする。次の3点を具体的目標とする。①「問い」を立てるスキルを高める、②文献情報を収集するスキルを高める、③文献の読解力を深化させる。					
		人間関係ゼミIV	各自の研究知見と論点をめぐって集中的に議論し合う作業に取り組み、それらの研究成果を論文としてまとめるトレーニング活動を展開する。互いのコメントから学び合い、また、自分の論考を客観的に読み返し、粘り強く精錬を積み重ねる体験と向き合うことを指導する。学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルを高めることを目標とする。						

		———————————— 授	 業	授 業 科 目 の 概 要								
()	間総合	学群 人間文化学類)	ı									
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容	: 		備考			
人間関係専攻	専門ゼミ科目	卒業論文	力、文 に自分 の修得 つつ、	章表現スキ が興味をい をふまえた 適切な方法	ルを指導すだいた事柄 だいた事柄 うえで、自 を用いて終	る。大学で jを研究対象 らの分析の 深く追究し	学んだこと として選び 視点と問題 ていく。そ	ル、論理的分析 、そのなかで特 、専門的な知識 意識を明確にし の結果を、体系 ぎを支援する。				
人間総合学群 人間文化学類 英語コ	基本	English Workshop I	designed Student the form of the example convers in a restrict that the form will the form will that the form of	ed to hel ts will be bur main en studen sations who learning degular one ts will be graded or ) 設話学」ラ使するとに学すの大変を重まぶ本とに学生のの	p students p given st skills wi nts will ile learni iary; enga e-to-one t e encourage n individua  Workshop I c本能のる置かれ を表上げる置かれ る。同様 る。人教 フィー	s learn ho rategies to the an emperation particily no community of the c	w to lear po enable t chasis on cative strensive reactive strensive reactive a Jap n at their and persona 選続であるため、ころだりである。 できない はいました はいまれる はいままる はいまれる はいまない はいまれる はいまない はいまれる はいまれる はいまれる はいまない はいまない はいまな はいまない はいまな はいまな		共同			
「ミュニケーション専攻 専門教育科目	4科目	English Workshop <b>I</b> I	will f emphasicontinu learnin will b skills socialto-one instruction and pr learnin (る化学重ル時ン集) 乗り	を育成する。日本人教員(井戸・橘田・松山・千葉)が個別指導を行い、個々の学生とのフィードバックを通し、それぞれの学生に合ったより良い学習法を探求する。  (英文) In class a range of strategies will be used which will further develop use of the four main skills with an emphasis on speaking. Students will be expected to continuously learn outside class through writing a daily learning-diary and also reading extensively. A native speaker will be responsible for: developing interactive conversation skills in small groups, vocabulary recycling using the Edmodo social-network system, and carry out assessment through one-to-one videoed interviews. Two Japanese teachers will give instruction and feedback on teacher-made textbook entries, and provide regular one-to-one tutorials to offer advice on learning.  (和訳)「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の力を発展させるため、English Workshop Iで習得した学習技法の使用をより体系化し、学生にとってより良い学習効果を上げることを目的とする。 同本に対象員によりました。 同かに受性に表し、相互交流し意味を確認する能力をつける。 同時に授業内SNS(Edmodo)への宿題提出で語彙力定着を図り、個別インタビューの振り返りを行う日本人教員(井戸・橘田・松山・千葉)が個別指導を行い、個々の学生へのフィードバックを通し、それぞれの学生に合ったより良い学習法を探求する。								

		授	業科目	の概	要	
( <b>人間</b> 約 科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称	講義	等の内容		備考
人間総合学群		English Workshop <b>II</b>	(英文) The English Works learning and develop each individual basis. Students withem to further develop the reading, and particularly for will be responsible for presentation skills. In additionable through videoed interviews a learning through use of an orwill give instruction and feartries, and provide regular advice on learning.  (和訳) English workshop Ⅲはルにあわせた言語力育成を目的置きながら「読む」「書く」「限せるため、学生は個々の学習状で、このでは、英語ネイティヴェス・「大きではでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きでは、大きで	student's profill be given strate skills in liste sus on speaking. A teaching debattion, assessment wand feedback given shine SNS. Two Jajeedback on teacher one-to-one tuto:  「自律学習を促進し、とする。特にスピーとする。特にスピーとする。特にスピーとでに応じたデ習技法行われてきた。プランの指導が加えられた側別・シの指導が加えられた個別指導を行い、	iciency on an egies to enable ening, writing, native speaker te and short will take place of on vocabulary panese teachers r-made textbook rials to offer 学生個人の反点を表して変更の使用を促されて、サビンの大きにの使用を促されて、サビンによる表して、サビンによる表して、サビンには、	共同
人間文化学類 英語コミュニケーション専攻 専門教育な基本科目	<b>本</b> 斗	English Workshop <b>IV</b>	(英文) This class aims to skills acquired in previous lessed expected to take an activork, engage in topical dispontaneous speeches about varite a learning diary, engage regular one-to-one tutorials active teacher will be responted academic communication skills chrough one-to-one interview give instruction and feedle entries, and provide regular advice on learning.  (和訳) English workshop I・裏させることを目的とする。極いよう。多読ではジャンルにとらわった。多読ではジャンルにとらわった。多読ではジャンルにとらわった。表現や行末を読む訓練をすいた役立つ本や記事の感想や準に、それぞれの学生を通し、それぞれの学生なる。	English Workshops. ive role in colla scussions and defarious topics. Stuge in extensive res with a Japane sible for: develops in small groups, ws. Two Japanese back on teacherr one-to-one tuto:  II・IIIで培った知識 的なグループインタ かな アークループインタ かな アークループインタ かな アークループ かき ひょうしょう かなり 本を読み、 ない本を読み、 ています 記載する。 英語 日記 はっています にはています はいます にはいます はいます にはいます	Students will aborative group pate, and give dents will also eading and have se teacher. A ping social and and assessment teachers will—made textbook rials to offer はや技能をよりプラップでよっている。 発記するとなっている。 サール できない アンテン しょう アンドン・ショー 日本人教 フィー・学生とのフィー	共同
科目		Academic Reading I	(英文) This course will teatevels comprehension, and but aught will enable students to rocabulary size: use a wide rescanning, skimming etc.), un on learning through evaluating students will read intensithrough the textbook, and also readers. Students will also other to foster peer learning. (和訳) この授業は、読解の方法を増強することを目的とする。場に読めるようになり、語彙量がなどの読解の方法を学び、様の学習の進捗状況をプログレスにあり、新語獲得のために精読をしたで読み合う。相互学習ができるようにして読み合う。	uild vocabulary. to: read more fluorange of reading s nderstand various ng a personalized ively to learn so read extensivel exchange book rep : 法を指導し、読解力 。この学習を通して 々な文章が読めるよ チャートに書くこと 、graded readersな	The strategies ently; increase trategies (e.g. texts, reflect progress chart. new vocabulary ly using graded ports with each of the control	

()	間総合	授 授業 人間文化学類)	業 科 目 の 概 要	
	科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		Academic Reading <b>II</b>	(英文) This course will further develop basic reading skills widening the range of texts to read from. Using various reading strategies students will be able to read a range of different texts; improve fluency and increase vocabulary size. Students will write reports which will be peer reviewed. The teacher and students and can assess progression through evaluation of a personalized progress chart to monitor speed, comprehension, vocabulary knowledge and range.  (和訳) この授業は、広範囲にわたる題材を読むことで、さらに読解スキルを向上させることを目的とする。様々な読解ストラテジーを使いながら、学生たちは流暢に読めるようになったり、語彙量を増やしたりできる。学生たちはレポートを書き、相互評価を行う。教員と学生は、プログレスチャートを使い、読解速度、読解力、語彙知識などを振り返る。	
人間総合学群 人間文化学類 英語コミュ	基本科	Academic Reading <b>III</b>	(英文) The main focus of this course will be teach to effective reading techniques using texts that are academic in nature. The course will expose students to a range of strategies that will develop reading skills (skimming, scanning etc.), comprehension skills, and vocabulary size. Students will work individually, in pairs, and in groups on reading extracts from various academic sources, e.g., magazines, newspapers, research papers. Students will learn to comprehend, analyze, summarize and paraphrase various texts.  (和訳) この授業は、読み物を使って、効果的に読み取るテクニックを学ぶことを目的とする。この学習を通して、学生たちはスキャニングやスキミングなどの読書方法や読解方法を学び、さらには語彙量を増やすことができる。雑誌や新聞、研究論文などの読み物を題材に、個人で読んだり、ペアで読んだり、グループで読んだりする機会を持つ。学生たちは、多様な文献を通して、理解の方法、分析の方法、要約の方法、言い換えの方法などを学ぶ。	
ユニケーション専攻 専門教育科目	皿	Academic Reading <b>IV</b>	(英文) This class is for students who are generally good readers, but who wish to improve their reading speed and comprehension of a range of academic texts. Various speed reading techniques are covered, as well as vocabulary building. Comprehension skills are reviewed as are the use of analogies and critical reading methods. Written book reviews and summaries are assigned and assessed in each class.  (和訳) この授業は、テキストをより速く読み、より正確に読解できる力を向上させることを目的とする。語彙力の増強を図り、さまざまな速読方法を学ぶ。おしなべて良好な英文読解力を有している学生が様々な学術的文献を読解する力と速度を向上させる。類推したり批判的に読むことで、読解スキルの伸長を目指す。書評や内容要約課題を提出することが求められ、それらは評価の対象となる。	
		Academic Speaking I	(英文) This academic speaking course will teach academic skills including elements of discussion and critical thinking. The aim of the course is for students to develop proficiency in four main areas: fluency and cohesion, lexical resource (vocabulary use), grammar range and accuracy, pronunciation. Students will be encouraged to make reflective presentations about a number of interesting themes and will also be expected to add their opinion and personal viewpoint, answering questions at the end.  (和訳) この授業では、ディスカッションやクリティカルシンキングなどの要素を取り入れ、話す力を身につけさせる。流暢さと結束性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という4領域の力をつけさせることを目的とする。様々なテーマに基づいたプレゼンテーションを行い、自分の意見や考えを加えたり、質問に答えたりできるようになる。	

		授	業 科 目 の 概 要	
	<b>間総合</b> 科目 区分	学群 人間文化学類) 授業科目の名称	講義等の内容 備考	
		Academic Speaking <b>II</b>	(英文) This course will further develop basic skills to enable students to articulate their views and opinions about various themes for academic purposes. Students will be encouraged to make reflective and interactive presentations about a number of interesting themes in which they will add their opinion and personal viewpoint, answering questions at the end. Personal, peer and teacher assessment will be in in four main areas: fluency and cohesion, lexical resource, grammar range and accuracy, pronunciation.  (和訳) この授業は、用意されたさまざまなテーマについて、自分の見方や意見をはっきりと述べることができるようになるための基本的なスキルを身につけさせることを目的とする。学生たちは多数の興味深いテーマについてプレゼンテーションを行い、自分の意見や考えを加えたり、質問に答えたりできるようになる。流暢さと結	
人間総合学群 人間文化学類		Academic Speaking <b>III</b>	東性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という4領域において自己評価、学生同士の相互評価と教員の評価が行われる。  (英文) This course will teach academic speaking skills that can enable students to: give academic presentations, participate in seminars and also engage in discussions. The course will also include elements of critical thinking. Students will develop proficiency in four main areas: fluency and cohesion; lexical resource (vocabulary use), grammar range and accuracy, and pronunciation. Students will be provided with topical news items and given the tools to develop their communicative ability. They will present interactive PowerPoint presentations with attention given to	
英語コミュニケー	基本科目		answering follow-up questions.  (和訳) この授業は、基本的なスピーキング能力を持った学生が、さらにプレゼンテーションをしたり、セミナーに参加したり、ディスカッションに参加することができるようになることを目的とする。また、クリティカルシンキングの要素も取り入れる。流暢さと結束性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という4領域の力をつけさせることを目的とする。時事ニュースを取り上げ、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。	
ション専攻 専門教育科目		Academic Speaking <b>IV</b>	(英文) This course is for students who have developed a good range of basic academic speaking skills and would like to develop these skills further. In class there will be ample opportunities for students to engage in topical debates and have discussions about current affairs. Students will engage in collaborative presentation projects and will also be expected to present individually. Assessment will focus on fluency and cohesion; lexical resource, grammar range, accuracy, and pronunciation. A number of online tools will be provided for students to develop speaking and pronunciation skills outside class time.	
			(和訳) この授業では、プレゼンテーションをしたり、セミナーに参加したり、ディスカッションに参加したりして、アカデミックスキルを身につけさせることを目的とする。また、クリティカルシンキングの要素も取り入れる。流暢さと結束性、語彙使用、文法と正確さ、そして発音という4領域の力をつけさせることを目的とする。時事ニュースを取り上げ、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行う。	
		ライティング・使える英作文 I	基本的な単語や文法構造を理解した上で、日本語を直訳するのではなく、英語らしい英文に直すことができるようになることを目指す。日本文を1文ずつ英訳するところから始め、徐々に分量を増やしていき、最終的には文のつながりや展開にも気を付けながら、まとまった日本文を英文にすることができるように指導する。日本語で書かれた駒沢女子大学の大学案内や地域紹介などを、外国の方々が読んでも理解してもらえるような英作文力を身につける。	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
()	間総合	学群 人間文化学類)	1						
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		ライティング・使える英作文Ⅱ	文を作る 本は と表 い で が 現 と れ に る ま つ で の が 現 く れ く た ろ く る く る く ろ く る く る く ろ く ろ く ろ く ろ く	ことなり がたりやり よだり から から から から から がら から たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ	きえられられる ようで、 展なる、 関なる、 駒沢	なることを英なったとを英がロケーケーとを対して、	目指す。 書すに までしま でよど で大学生活	、英語により、英語により、英語により、最終には、最終にする、大変では、またのでは、またのでは、またのでは、かれば、かれば、ないでも、ないでも、ないでも、ないでは、ないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないできない。	
人間総合		ライティング・使える英作文Ⅲ	らいたになったい方というというではない。 ちょう いっこう はいこう はいこう はいこう はいい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい	文を作るなりである。それであるできないできるというできるというできる。	ことができまれてきまれていませんだり、これではいいます。これではいます。これではいいまからいいます。これではいいまからいます。これではいいまからいまからいまからいまからいまからいまからいます。これではいまれではいまからいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまからいまではいまではいまではいまではいまではいまではいまではいまではいまではいまでは	よったもす、たちををいれるなとけっても付エ女とはなとけってまる。沢まと	るになせ大っとを文、イの文を文、イの文を文、イの文と	を踏ま、高いないない。を踏まる、単に最ものでは、単に最いないののというでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないが、単一では、大きないが、またないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、はいいが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、大きないが、はいいが、はいいが、はいいが、はいいが、はいいが、はいいが、はいいが、は	
学群 人間文化学類	基本科目	グラマー・使える英文法 I	称、助動 クを注目 と 大 と は と は と は と は と り と は り と り と り と り と	詞、不定語 た英語の ながら、 の習得に かの中で	詞、分詞、 スキットを 英語でらう とどまらず	動名詞の各 聞き、英語 ュニケーシ 、学習した よう、言語	項目につき で答える練 ョンが取れ 文法項目を	する。 時制、 人ッ 身近なる。 する うに うに うに うこ き 際 頭 練 習 を そ う に う こ る 。 た る 。 た る 。 た る 。 た る 。 た る 。 に る 。 に る に に る に に る に に る に に る に に に に	
英語コミュニケー		グラマー・使える英文法Ⅱ	について 各項目答 語でョンが た文法項	学習する。 うき、身 うき、習をよって 取れるようで 目を実際の	名詞、代 近なトピッ する。する。 カコミュニ	名詞、関係 クを用いた に注目しな 文法知識の	詞、仮定法 英語のスキ がら、英語 習得にとど の中で使用	まらず、学習し できるよう、言	
ション専攻 専門教		グラマー・使える英文法Ⅲ	構認のら得中でなお英と使用	いて、e-1 ら、文法 トを聞き でコミュニ まらず、	earning 頁目の定で 、 英一した 音 で まって で まって まって まって まって まって まって まって まって	教材を用い を図る。身 える練習を ンが取れる 法項目を実	した。 個々のピッ になる。 とするにする ように こする	要な文法事項や 主生の理用いた 生のを用注目し 法主文法主 主文法注 大に文法知識のの にない、知識の定	
育科目	主幹科目	Core Studies (Basic) I	research will be question course w upon the subject and crit (和訳) し方、読 査したこ	techniqu covered as and how ill featu se subject of resear iquing or この授業/ み方、ま とについ	es in gen are resear to write re English ts. Lectu ch, design al present よ、基本的 とめ表 て発表する	eral studi ch methodo and admini h lectures res will b ning a rese cations and な調べ学習 表の方法等	es. Specificlogies, for ister quest designed to given or earch appromini pape の入門編での基本を解	ntroduce basic ic topics that prining research tionnaires. The co fully expand identifying a pach and giving rs. な 対 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で で 表 で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で ま で で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で	

/ 1	即必合	授学群 人間文化学類)	業 科 目 の 概 要	
	科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合		Core Studies (Basic) II	(英文) This English medium class will expand upon the foundational topics in Core Studies (Basic) I. Specific topics that will be covered are preparing a research proposal, conducting interviews, and data analysis. The course will feature English lectures structured to fully expand upon the subjects of the lectures. Lectures will be given on designing a research proposal, collecting and analyzing data and presenting findings. Further lectures will cover preparing written research reports complete with literature reviews and reference citations.  (和訳) Core Studies (Basic) Iの学習を踏まえ、さらに学習を深める。文献の探し方、読み方、まとめ方、発表の方法に論文作成等の基本を学び、これらの事柄を理解させるために、解説やアクティビティを行う。文献調査、情報収集と発表、先行研究のまとめや文献引用の方法について講義を行う。	
学群 人間文化学類 英語コミュニケーション専	主幹科目	幹 科	(英文) This English medium class will introduce students to practical and theoretical aspects of language teaching. In this first class, students will focus on teaching listening and speaking. The concept of pushed output will be explored as well as foundational concepts in learning science. Students will receive lectures about designing communicative activities to encourage student interaction. Students will also be exposed to current methods of teaching pronunciation and designing effective listening practices for students. Using the knowledge gained in this class, students will learn, with the guidance and support of the teacher, to design a lesson covering a relevant aspect of listening and speaking.  (和訳) 本授業では、言語教育の実践面と理論面の学習を行う。Core Studies I では「聞く・話す」指導に焦点を当てて学習する。学習者が相互活動に積極的に取り組めるようなコミュニケーション重視の活動方法について解説する。発音指導や効果的なリスニング指導法についても学習する。この学習を通して、学生たちが「聞く・話す」活動を実際の授業の場面でどのように行うか考える機会を提供する。	
攻 専門教育科目		Core Studies <b>I</b> I	(英文) This English medium class will continue where I left off, deepening students' practical and theoretical knowledge of language teaching. This class will examine topics in SLA (Second Language Acquisition) pertinent to practical language teaching through the instruction by the teacher. In particular, students will be exposed to current thought on sociocultural theory, as well as models of scaffolding and student centered interaction. Current research in motivation studies will also be covered. From the practical side, students will receive instruction in current techniques relative to teaching reading and writing. Students will also learn how to choose effective reading material as well as design meaningful tasks.  (和訳) Core Studies I での学習を踏まえ、言語教育の実践面と理論面の学習を深める。Core Studies II では「第二言語習得」に焦点を当てる。社会文化的理論や、足場作り、学習者中心の授業、動機づけ等について学習する。また、実践面から「読むこと」「書くこと」に関して最近の指導法について指導を受ける。「読むこと」については教材選びからタスク選定までを学ぶ機会とする。	

		授	業	科	目	の	概	要			
	<b>間総合</b> 科目 区分	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考		
人間総合学群 人間文化学類 英語コミュニケーシ		Core Studies <b>II</b> I	establi student compone be exp TESOL encourar for pr differe managem a lesso effecti lesson. (和訳)教育の活躍立て、配分、	(英文) This class will continue to build upon the foundation established in the previous two classes, further expanding students 'knowledge of both practical and theoretical components of language teaching. In this class, students will be exposed to various important thinkers in the field of TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) and encouraged to form their own teaching philosophy and mission. For practical training, students will be presented with different styles of assessment as well as classroom and time management techniques. Students will be taught how to design a lesson incorporating the four skills as well as design an effective way of assessing student comprehension of their lesson.  (和訳) Core Studies I、Core Studies II での学習を踏まえ、言語教育の実践面と理論面の学習をさらに進める。Core Studies II ではTESOLにおける様々な分野の考え方を学び、学生が自らの教育理念を確立できるよう援助する。多様な形態のクラスマネジメントや時間配分、さらには評価方法を学ぶとともに実践演習も指導する。講義を通して4技能を伸ばす授業や評価の方法を考える機会とする。							
	主韓科目	Core Studies <b>IV</b>	synthes classes approac coopera Methods particu action work to researc could b (和訳) 法、 いショ	ize the in thickes will tive least of profession are sense of the control of th	knowledge is class, be taugh rning, an since the sis place. As a firm teach r lesson a d. の授業在広へ、現在広へ、これたカテ	gained current a att, such and community velopment d on teach all project a lesson and present なんできた理、用いられてイブな指導、学習する。	in the production the production that the production in the production of the prod	learn how to previous three used teaching ased learning, esson design. structed, with nts how to do will be given perform action nich the lesson 融合する機会とスク中心の教授、て学ぶ。またアは教員の指導のきるように指導			
ョン専攻 専門教育科		イギリス文学I	この授美 ことを の背景( 間やそ)	目的とする こある歴史 の後の作家	。具体的に 的・文化的 に与えた影	は、主要な 経緯につい 響について	作家や作品 て解説し、 理解する。	が概要を理解する について、作品 作品が当時の人 また、映像資料 ても紹介する。			
目		イギリス文学Ⅱ	ことを の背景 に 間やその	目的とする こある歴史 の後の作家	。具体的に 的・文化的 に与えた影	は、主要な 経緯につい	作家や作品 て解説し、 理解する。	概要を理解する について、作品 作品が現代の人 また映像資料な っ紹介する。			
		アメリカ文学 I	理解する品について、アン	ることを目 いて、作品 メリカ建国 する。また	的とする。 の背景にも の特徴やそ	具体的には っる歴史的 れを支える	、この間の ・文化的経 アメリカ人	カ文学の概要を 主要な作家や作 緯について解説 の精神性につい カ文学への理解			

(人	、間総合	授学群 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
;	科目区分	授業科目の名称			<u>≘</u> ≇ □ <del>[</del>	<b>養等の内容</b>			備考
		アメリカ文学Ⅱ	するこ。 ついて、 学から	とを目的と , 作品の背 みたアメリ	する。具体 景にある歴 カの社会や	がいには、これを は は は り い り に り に り に り に り に り り り り り り り り	の間の主要 的経緯につ 解する。ま	学の概要を理解 な作家や作品に いて解説し、文 た文学作品の読	
		英語学概論 I	な知識る 発音、記 語の特質	を修得する 語彙、文法 質について するととも	ことを目的 、意味、歴 概説してV	]とする。具 空の各分野 く。英語の	体的には、 の研究につ 特質を理解	るための基本的 英語学における いて紹介し、英 にし、説明できる 察する方法論を	
人間総合学群 人		英語学概論 Ⅱ	実践的対会、文化の表別では、	な知識を修 ととの関わ 英語の特 まざまな角	得すること り、英語の 質について 度から英語	を目的とす。 語用と解釈: 概説してい	る。具体的 などの分野 く。英語の ことで、自	研究するためのには、英語と社の研究については、 の研究につ理解を深く理解 分なりの問題意 ける。	
間文化学類 英語コ	主幹	英語教育学概論 I	的したえの授えいが	項を学ぶる学 要で 英 が 対 が 対 た で 表 が 対 た て で 発 力 し て で え が 対 た て て れ た る た う て た る た る た た る た た る た る た る た る た る た	とを目的と をにしてきた をのい答を の回答 と が と が と が と が と の と の と の と の と の と の	する。言語 。英語学習 経験を踏ま 語の学びは させる。自	習得と 表と いい かい い よ の に さ っ に さ っ に っ こ っ こ っ こ っ こ っ こ っ こ っ こ っ こ っ こ	英的な理論を受ける。 同時にこる英語とは を を で で の を 理 業 を を 受 に る の の の の に る る 語 い る の ら の る う に る る 語 い る き に る も き こ る き に る き き る き る き き る き る き る き る ら る ら る ら	
ミュニケー ション専	科目	英語教育学概論 Ⅱ	的業者えど業者えど業	質を学ぶこ 関を学ぶの で と で の に た い に た る に る に る に る に る に る に る に る に る に	とを目的と 則を理解し 業を受けた を が」 に 別を に が の の の の の の の の の の の の の の の の の の	する。言語 、説明でき 、経験、英語 。 ることが大 。 問いに対し	習得の理論 るよ習をの回と ののい の小中高の のかをの	英語学習の基本授習まで、英語学で、英語学で、英語学で、英語学で、英語学で、英語学では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	
攻 専門教育科目		アメリカの文化と歴史 I	争かや異カるようなない。	までを概説といいます。「一次ではない」で、「一次ではない」ではいいいいいではいいいいいではいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	する。アメののはないという。のはないのにない。にない。これではない。これでは、四にないに、日のののではない。これでは、四にない。これでは、四にない。これでは、四にない。これでは、四にない。これでは、四にない。これでは、四にないない。これでは、四にないない。これでは、四にないない。これでは、四にないない。これでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日ののでは、日のでは、日	リカ合衆国 である。 されても少なる でした。 であるがく であるがく であるがく	は、好むとと が、 ないな ない ない ない ない と 楽い ア と リ の だ り の り の り の り り の り り り り り り り り り	時代かるない。 時代からという。 時代がでは、でいる事実とに知れないでは、でいいは、でも、 ではしている。 といする。 といする。	
		アメリカの文化と歴史Ⅱ	を概説で概念というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	する。アメ の関係はをに のように 解に基づく けなもに、 とともに、	リカ合衆国である。 でれているでれるのと がないないないない。 と関係	は、好むと! また、アメリ  が、それら  :くない。本  :  活義と楽し	好まざるけかまざくない。 かな業ではいないでいいないないないないない。 かったいないないないないない。 かったいないない。 かったいないないない。 かったいないない。 かったいないない。 かったいないないない。 かったいないないない。 かったいないないないない。 かったいないないないないないない。 かっないないないないないないない。 かっないないないないないないないないないないないないないない。 かっないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	で、 にかか いか も 現 いか か も 事 実 と 男 み る 事 実 と 男 み る を 関 表 の を し る を り る を り る を り る た り る た り る た り る た り る た り る た り る た し た し る た し た う た う た う た う ん う 。 ら 。 ら 。 ら 。 ら 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	
		異文化理解 I	し、異! は、文( やオラ)	文化理解の 化の意味や ンダ文化の	基礎知識を その伝播、 日本への移	: 修得するこ さらに中世:	とを目的と 末から近世 取り上げ、	化を中心に概説 する。具体的に 初頭の南蛮文化 日本への西洋文 5。	

		授	業	科	目	の	概	要	
()	間総合	学群 人間文化学類)							
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		異文化理解Ⅱ	の方策 目的と ギリス か、事	を解説しな する。具体 などの諸外 例を取り上	がら、異文 的には、幕 国に対して げ考察する	化理解の意 末の開国以 、日本人が 。さらに、	義について 来、アメリ どのように 明治期にお	いの理解のため 理解することを カ、ロシア、イ 対応していたの ける欧米列強と 理解を深める。	
人間総会		時事英語 I	る英文の学びには、こ	記事を、聴 を通じて、 たとえばNHI	解、読解す 発信型の基 {の『ニュー 用いられて!	ることに慣 本的な英語 -スで英会記	れることを 表現を身に 』(テレビ	が表現されてい 目的とする。そ つける。具体的 ご 等を題材とす EICテスト等の資	
合学群 人間文化学類		時事英語Ⅱ	る英文 目的 と つ じ)等	記事を、よ する。その 。 具体的に を題材とす	りスムーズ 学びを通じ は、たとえ る。実践力	に聴解、読 て、発信型 ばNHKの『 を養うこと	解できるよ の発展的な ニュースで を目指す。	が表現されていうに表現されているでは、 英語表現を身にテレスを、 英会に、問題演習を いたの問題で用を	
類 英語コミュニケー	主幹科目	英語音声学 I	習しな や文章 行う。 などを	がら、個々 を用いて、 英語の個々	の音に対す 実際に個々 の子音や母	る理解を深 の音が正し 音について	めていく。 く発音でき 、発音の方	などについて学 その上で、単語 るように練習を 法や強勢の位置 できるようにな	
- ション専攻 専門教		英語音声学Ⅱ	て、発 深める 動のできる	音方法など いく。その を行う。英 置などを習	について学 上で、単語 語の個 実際 ことを目指	習しながら や文章を用 子音や母音 に単語や文 す。また、	、個々の音 いて、聞き について、 を正しい発	される音についたがは対する理解や発明の方法や強音で読分けることと	
教育科目		映画の英語 I	映容訳る成を記るは伝え	通して学ん 分の実生活 ていくこと 容理解の確 単純な英文	でとていることでいる。こしかで、といいのでは、い	を目的とし わせてを英語 日本語字幕 く、語	ている。登 きるだけえら で成を が た字数の中	英語の違いを、、 場人物の言葉にです。 場し、ままで、 場し、ままで、 場でである。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
		映画の英語Ⅱ	く。字 学る。 会 を 英 を 、 を 、 を 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	幕作成を を は、 な 大 を を を を を が は が は が は が は が が が が が が が が が が が が が	ていく際に くに対しで した映画話で とがけが ない分けがで	、会話を 会話な の の の の に の に の に の に の に の に の の に る に の に る に る に る に る に る に る に る に る に 。 に る に 。 に る に 。 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	ている登場 の使いかたい にはいない がいた いた ので がいた ので に に ので に は ので に は の に は の に る に る に る に る に る に る し て る し て る し て る し て る し て る し て る し て る し る し	り発展させていた。 人物の記しとに語したに語いた。 を必要の社にに語った。 にいるののではいででは、 がある。 になる。	

( )	. 間総合:	授学群 人間文化学類)	業	斗 目	Ø	概	要	
;	科目 区分	授業科目の名称			講義等の内容	:		備考
		キャリア・イングリッシュ I	を目指しただを身につける 目標とする資 れている 4 打む」「書く」	受業である。 ると同時に、 資格試験に合 技能型の試験 すべてを統行 す。(参考:	各種資格試験合過去間演習など 過去問演習など 格できるだけの に対応するたら 合した授業とな	格に必要な を通して問 力をつける め、「聞く る。この講 る。この講	で 高 全 を を を を で は で は で は で は で は で は で は に で は で は で は で は で は で は で は で は で が は で は で が は で は で が は で は で は で は で は で に ば に は で に ば に は に に に に に に に に に に に に に	
		キャリア・イングリッシュⅡ	を目指しただを身につける 目標とする資 れている41 む」「書く」	受業である。 ると同時に、言 資格試験の試験 技能型の試験 すべてを続ってを考:	各種資格試験合 過去問演習など 格できるだけの に対応するたら 合した授業とな	格に必要な を通して問 力をつける め、「聞く る。この講 る。この講	で 高 重 力 や 文 法 力 を で は で は で は で は で は で は で は で は で は で は で は で は で は で は で に で も し し し し し し し し し し し し し	
人間総合学群 人		キャリア・イングリッシュⅢ	を目指しただを身につける 目標とする資 れている41 む」「書く」	受業である。 ると同時に、 資格試験の試験 技能型の試験 すべてを統行 す。(参考	各種資格試験合 過去問演習など 格できるだけの に対応するたら 合した授業とな	格に必要な を通して問 力をつける め、「聞く る。この講 る。この講	る資格試験取得 語彙力や文法力 題形式に慣れ、 。現在広く行わ 」「話す」「読 座ではCEFR BIレ OEIC L&R550~,	
間文化学類 英語コ	実用は	キャリア・イングリッシュIV	を目指しただを身につける 目標とする資 れている 4 打む」「書く」	受業である。 ると同時に、言 資格試験に合 技能型の試験 すべてを統行 す。(参考:1	各種資格試験合 過去間演習など 格できるだけの に対応するたら 合した授業とな	格に必要な を通して問 力をつける め、「聞く る。この講 る。この講	る資格試験取得 語彙力や文法力 題形式に慣れ、 。現在広く行わ 」「話す」「読 座ではCEFR B2レ DEIC L&R 785~,	
ミュニケーション専	科目	通訳・ガイドI	の分野に興味 能力」対話に対して が と が と が と が と が と が と が と が と が と が	未を持つ学生 导を目的とす 解説すること 解説な好の機 な背景がある。	を対象とし、「 る。日本人が自 性は年々増して は、日本人にと 会となる。当然	「日本文化を 国いることを いってみな き いってみまして で き	学生、である訪問、または英語問外国力であるの日本自己の日本自己の日本自己の日本自己の主義の本本通じ、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、るは、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、ない、	
攻 専門教育科目		通訳・ガイドⅡ	続きが、にのというでは、このとのというでは、このとのでは、このとのでは、このとのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	通訳、旅行 つ学生を対象 りとする。日 解説する際の 背景と歴史を	関連の仕事を自 とし、 がい は し、 がら は を は が 的 世 が が は 世 が が が が か 世 が が が が は 世 が り 世 が が が が は 世 世 が が 世 世 世 が を 世 が を 世 が を し 世 を が を を を が を が を を を を を を を を を を を	指す学生、 化を解説で 化を外国か より発展さ 比較しなが	容まさのは、 るこのは なこの をたる をたる がま いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる	
		通訳・ガイドⅢ	対味成説よずまでは、通過性は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	R、旅行関連 生を対象とし、 する。日本の ま本的な技術 する。また日 進に、世界史 表現する鍛	の仕事を目指す でします。 では事本外国では、 では発展といい。 を発展とのでは、 を文は較しながら と比較しながら。	学生、できるに、できるに、できるに、できるに、できるという。	なる。引き続き観音になる。引き野にのできれて、一切できれて、一切できれて、一切できれて、一切できれて、一切できれて、一切できれて、一切できれば、いい・文化観の間が、いい・文化をは、いい・文化をは、いい・文化をは、いい・文化をは、いい・文化をは、いい・文化をは、いいいのでは、い	
		通訳・ガイドIV	ガイド、通割味で英語によるのた用的な技術 に関するのが開かれた。	R、旅行関連 Eを対象とする 3日本の文化 の文化を外国 所を習得し、 また日本文化	の仕事を目指する。将来的には を中の説明がで からの訪問者に 歴史文化的事象 の背景と歴史	学生、また 資格取と きるして英語 を的で、既 を学び、既	な は 受 い の り り り り り り り り い り き け さ う い う り き り き う き う い う い う い う い う い う ら り き う っ る ら ら う ら っ の ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
人)	間総合	学群 人間文化学類)	1						
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本紹介の英語	skills range c introduc presente introduc regions may be Japan f to deve	necessary of regions cing Japa ed to stu- ce the pl of Japan, commonplace or the fin lop core	to introduction to introduction and independent and learned to them rest time.	duce Japan fic and of ts culture dents will culture re n to expla but unfam: In addition	to a fore diverse so e via Eng develop epresentat: in things iliar to so on to active tudents wi	e communicative ign visitor. A urce materials glish will be the ability to ive of various Japanese which omeone visiting vities designed 11 engage in a communicative	
人間総合学群 人間文			めに必要しる。にからいる。これでは、人ができる。これでは、人ができる。	要なコミュを コロースを コロースを コマを はな はな に に に に に に に に に に に に に に に に に	ニケーショ 紹介している場所はあいないないないなかなかなかなかなかなかなかなかなかなかなかなかなかなかなかなか	ンスキルを いる様々なな 化まれなこ かなこと 伸ばすため	学ぶことをマテリアと紹介できる 紹介がいい とだらについ の活動の他	いて紹介する。 目的とする。 目的とすりとなる。 を使っつけるを 力めて説明者を が、 多様な る様な るが、 る様な るが、 るが、 るが、 るが、 るが、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので	
化学類 英語コミュニケーシ	実用科目	月 斗	participan under and est these the practical specifical strategions involves aims to activiti	pation in rstanding ablish the coordinate of the	volunteer of a wide e communic people in h skills, lary and y aspect ' contrib a Japanes	activitie e variety cative ski English. students problem of assesse outions to e/English uture be m	s. Student of volunte lls necess. In additi will wo solving d output an ongoing phrasebook	ish skills for s will develop er activities, ary to explain on to general rk on context communication in this course project which for volunteer ble online for	
ョン専攻 専門教育			ルを学る とともら ニケーシ 学習を行 ティア沿	ぶことを目的 こ、他の人 ションスキル うったりす	的とする。 々に英語で ルを学習す る。この に活用でき	様々なボラ ボランティ る。また、 g業を履修ち	ンティア活 アについて 語彙を学ん 学生は、最	践的英語のスキ 動についてミュ 説明するコ関解 だり、問題解決 終的にはボラン 対訳付のボラン	
科目		Japan Studies <b>I</b>	to Angl contempo through knowledg lectures Japanese	ophone Ja orary Jap a variet ge of Jap s and set e islands	pan Studi panese Cul ty of top anese Cult readings	es. Basic tural His ic based tural Histo on the div ulture, c	knowledge tory will lectures. ory will b ersity of	in introduction of modern and be developed A foundational e developed by society on the ulture, sleep,	
			現代日本 そして、 日常	xについて 戦後日本 対生活、家	の知識を、 における「 族と宗教に	様々な講義 多様な日本	内容を通し 社会」を、 ながら、国	なる。基礎的な て学んでいく。 食文化、消費文 際的研究に適応 つる。	

		授	業	科	目	の	概	要	
	<b>、間総合</b> : 科目 区分	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
	実	Japan Studies <b>Ⅱ</b>	to moder in Japa develope continue History introduc architec and the (和訳) 知の難能 技術と見 に主眼を	rn and con Studies ed and ne en to de en to de necessary ced by toture, 3.1 arts in publication 要素にはJapan 課題を基質と表すが	ntemporary s I. Basic w concepts velop the y for criti he instruu 11, politic postwar Jap は、Japan S 、より発の内 を通して 本大震災、	Japanese C Japan Str introduced knowledge cal thinki ittor, partiss, securit an. Studies Iの 的容をもとに 成される衛 さを英語圏に	ultural H udies kno l. Ongoing of Jap. ng relatec icularly y and def 基礎うよし、 表議廃戦 を発験して を発験して を発	he introduction istory provided wledge will be g lectures will anese Cultural to the topics technology and ense, education で代・現代の日本史的なレベルの到後日本におけると、研究に基づいた	
人間総合学群 人	用科目	海外留学準備	象を発は連びがまる。	留学準備 社会の間の で会の間のな 機識を英	授業では 大変でに 大変でに 大変でに 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で 大変で	。留学対象  をする際の ている英語 手続きや病  る。この授	国での習慣 知識の習得 の知識の の知識の に での 講 を 受講す	えされた学生を対 や、生活態度、 する。留学に出 !上などにで、 ることで、 ることで うることで うることで うることで うることで	
間文化学類 英語コミ		6 か月留学	ずる観をる。たるはない。	1一よった。 こうことがいてでやなに、 歴なより	視野の獲得 日本れまいうを 生というというというというというというというという では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	を目指す。他的に見るこれがあると思います。 たり前と思いまのの重要性 でいるとはない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	貫れ親しん とが可能に って再認と 留学生との の中でどの	の向上のみなめられて環境の自国を開始したでである。自国を経ったというとがでいますとがで、まることを受けます。 講義を受けある いかを学んでい	
ュニケーション専攻		英語コミュニケーションゼミ I	理論など 本的スキ ンゼミ I	がの各テー ・ルを修得 では、基 報告発表	マもとに、 することを 本文献の購	本格的な研? ねらいとす。 読をベース(	究活動に着 る。英語コ こ、専門的	:、第二言語取得 手するための基 ミュニケーショ な学術情報の収 思考などの指導	
専門教育科目	専門ゼ	英語コミュニケーションゼミⅡ	理論などのこうとのことをあった。	での各研究 ウヒントや ーを立とと でのついて でについて	分野においた 、具体的に 、展開の仕 と展開の仕 基本スキル て方、リサ	て、各自ので ついて相互 論点を提示 方、複眼的に を確実に身	研究活動を に学び会 ・共有し な思考、 につける。	、第二年 第二年 第二年 第二年 第二年 第二年 第二年 第二年 第二年 第二年	
	ミ科目	英語コミュニケーションゼミⅢ	語コミュ テーマを フィール 情報や資	ニケーシ : 設定し、 ンドワーク : 料・デー	ョンゼミ I 研究計画を や共同リサ	・Ⅱで学んだ 立てる作業に ーチ活動を 注力する。)	だことを基 に取り組む 実施し、問 定期的に進	捗状況を発表報	
		英語コミュニケーションゼミⅣ	て、研究 む。論文 深める。 ついても	E成果をレ ・報告書 論述ある 考察する	ポートや論 やプレゼン いは口頭発	i文・報告書 テーション( 表での、適 他の研究発	きにまとめ の構成要件 刃かつ効果 表に対する	だテーマについ る活動に取り組 について理解を につな表現方法に 客観的評価の方	

	———————— 授	 業	——— 科	目	の	概	————— 要	
(人間総合:	学群 人間文化学類)							
科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
英語コミュニケーション専攻専門ゼミ科目	卒業論文	育発は口場査ルざまります。	グた計表明日本の分に、 一論構た能の分引 でないののができる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	ビジネスの ま質 も で と 紙筆の に を を に そ と に そ と に そ と に と に と た と た と た と と た と と と と と と と	各め、うにな必応野に業実語と英要にな必応で施教ら育れま	化あ、育ずのるユニーで教ををシールを、育ずのるユニーで教を表現のののユニーで教ををシールを表している。	語力言を開始できません。 英語研算を語解実施との表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表	
	日本文化実習	を深るこれを設め、	その意義 とを目的と うとともに けて、日本	を深く考察 する。具体 、実際に茶	しつつ、作 的には、茶 道や華道の や日本人の	法や所作を 道や華道の 基本的な作	についての理解 実践的に身につ 歴史に関して講 法を実践する機 然観の特質を体	
	仏教文化実習	を中心しを実践や写仏の	に日本文化 し、包括的 の歴史など の経験を通	と仏教の関 に学習する を講義し、	連性につい ことを目的 学習者もそ	ての理解を とする。具 れぞれにつ	仏教由来の文化 深め、それぞれ 体的には、写経 いて実践を体験 的に理解できる	
人間文化学類共通科目	日本文化研修	す的料史取り取り	での実践的、学外の博 古資料等の おうりでの が現地調査 でいる。	な知識や技 す物館・資料 原本史料の の方法等を	能を修得す 計館に赴い 取り習する。 付け、日本	ることを目 古文書、 調査の方法 この学びを 文化や日本	史を調査・研究体 的とする。民俗な 古記録、・神社 、・神と 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
П	身体文化実習 I	美しいを だいました。 作品に対 中心の打	姿勢、身の の特性、身 しい要素を 対する理解	こなしを学 体の使し日々 を深め、 課題曲(	ぶ。実際に を理解し、 に活かす。 賞する際に	バレエを体 普通の生活 教養として も役立つ知	練習を通して、 験することで、 のないで実践 のないの歴史 と で のなかの歴 と のない の を と の と の と の と の と の と の と の と の と の	
	身体文化実習Ⅱ	② 日 表 り き る る る る る る る る る る る る る る る る る る	舞踊の演習 を通して、 カになり、 うに、各自、	を通しての 本文化の 以上の3点を 着物のたた	品格ある立 発究と日本が 1日指す。自 1日本が 1日本が 1日本が 1日本が 1日本が 1日本が 1日本が 1日本が	ち居振る舞 女性とりで着 りたうえで きしくまと	機能性の追求、い、③日本舞踊 い、③日本舞踊ー かっミュニケで 物のきつけがで 、日本舞踊の基 い、日本舞踊を	

	問約	公会市	授 授業 人間文化学類)	業	科	目	<b>の</b>	概	要	
	科目区分		学群 入间又化子類/ 授業科目の名称			善	義等の内容	<u> </u>		備考
			プレゼンテーション実習I	を指導すり」 り」 り と 状況に の 効果的	る。非言 し方」の 応じたプ な使い方 拭し、自	語的コミュ: スキル、リー レゼンのスク 、などを取り	ニケーショ サーチ情幸 タイル、フ り上げる。	ョンの重要性 服の整理と提 プレゼンテー "人前で話	的な発表の技法語、基本的な 聴来 一次の工夫、地方の工夫、サラッカン・リーン・リーン・リーン・リーン・リーン・リーン・リーン・リーン・リーン・リー	
	人間文化学!		プレゼンテーション実習Ⅱ	案プレゼ たプレゼ を生かし る。 理論	ンテーション シテーション た独自の	ョン」の2種ョン技術を何における自分ででいます。 における自分ででいます。 おいではいます。 おな「納得の	重類あるこ 本得する。 みの強みと ーション!	ことを学び、 同時に学生 :弱みを理解 技術を修得す	ション」と「提 それぞれに適し それぞれが、プ し、自身の特性 ることを支援す ーション」スキ	
	類共通科目		チャレンジTOEIC	対象ととる 習や文法 動がリスニ	た授業で、 学習を体 に行うこ ング問題 び、問題	ある。リーラ系的に行う。 系的に行う。 とにより両打 の出題傾向	ディングや と共に、リ 支能の向」 から正答 て実践力を	マリスニング リーディング こを図る。 リ を導き出す と養う。 各自	えている学生を に必要な語彙学 ・リスニングおう ・リティングおう ためのスト 目標を設定し、	
			ビジネスインターンシップ	後の進路 社会生力 を 学で、 学で、 学	や今後の への適応 身に付け り、 での就業	大学生活でき 能力や、社会 ることを目的 で必要など 体験実習に、	学習すべき 会人とする。 ジネスマ より、組編	き課題を自覚 て相応しい人 具体的には ナーや社会	常識を学んだ上 動力・思考力・	共同
*4.	П		日本語学概論 I	について と 日 主 記 法 え 終 と で る ろ 終 め る ろ く る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る	理解する を と と と と と と と と と と と と と	ことが目的 <sup>*</sup> たうだいでいる。 段何気なく( 、客観的に <sup>2</sup>	である。 日本語の特 まっている その特徴を	具体的には、 持徴について 日本語の表現 6日本語に関 ご理解し、説	らえ、その特語、 そのな言語、 方とを発に持ちる。 たかをできる。 で修得する。	
教育職員養成課程科目	本文化専攻 中一	国新	日本語学概論 Ⅱ	的な知識 学、介 紹 理 解 を 理 解 を 表 き し し く く と り に り く り く り く し く も し も く も と も と も と も と も と も と も と も と も と	を修得する 論、文 は が 説 い 、 説 り で 、 説 り で 、 こ 、 こ 、 こ 、 こ 、 こ 、 こ 、 こ 、 こ こ こ こ	ることを目的 論、文法論、 本語の特質/ きるようにで	内とする。 語彙論な こつととも よりの問題	具体的には よど、各の 既説してきい でいまさい でででいまる ででである。 関連をもった。 では、 ではいい。 では、 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 ではいい。 でいい。 で	するための基礎 日本語学の音声 の研究についい 日本語の特別 日本語の 日本語の 日本語の 日本語から 日本語と向か	
目 教科に関する科目	種・高一種免(国	語学	日本語学 I	得法かい な学て かい にする。	とこと とと とと は と に を 代る、 を に を た た た た た た た た た た た た た た た た た	日本語史の 的とする。 日本語を知 ともに、各 名で書かれ れ	主な資料を 具体的には るためにと 時代の文統 を資料のは	と通覧し、日 は、奈良時代 どのような遷を まかに訓点資	関する知識を修 本語学江戸時代によう から調でも間でもればいれる。 料・・説明できる 料・で説明できる	
П			日本語学Ⅱ	る。 具体 を 意察 きる と と	的には、 いるのか 遷等につ 。日本語 もに、日	日本語の語 概説したうだいて いて 動いて も の 語彙の特征 本語で書かれ	量全体が えで、語動 えでる。また おについて れたさまる	意味的にみて この量的構造 に、日本語の て理解し、説	ことを目的とす どのような体系: 、語彙の変遷、 辞書についても 明できるように 通して、語彙に	

()		公合:	授 授学群 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			古典文学概論	きに必要: ことを目じめ主要: 事項を解: 背景を踏:	な基礎的知 的とする。 なする。 対 まえ、 文	知識を再確 具体的に 古典文学作 ま々なジャ 学に表れた	認し、古典] は、『竹取! 品を取り上! ンルの古典』	文学研究の』 物語』や『 げ、作品の 文学を学ぶ や考え方な	、古典を読むうう 基礎作りをでいう 伊勢や基礎をもいる 概とでいいて、自 どについて、自	
			近代文学概論	するためのというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の基礎的な て概説した 『など、『 を取り上に プローチの	は概念を理解を表する。 たうをで、高いでは、 たいでは、 たいでは、 はいでは、 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。	解すること 具体的には 等学校の国 の比較や語 明する。先	を目的とす 『羅生門とす』 語教材としな 行研究にお	び、文学を研究 で る。 で 表れく で ま な り で と 、 で と 、 で と 、 で と 、 で と 、 で り で り で の ス り で り で り で り で り で り で り で り で り で り	
***			古典文学 I (上代・中古)	る。具体 記』を取 文学の世 点につい 作品と向	的には、 り上げても 界に親をを かい合う	日本文学の 既説する。 み、現代ま なめる。自 姿勢を身に	が原泉である 一語一語大 でつづく「 分なりの興! つけ、上代	る『万葉集』 切に読み解 日本文学」 味・関心を ・中古の文:	こととを目的と古事典目される。 こととをび『古古とのと古りと古まながられる。 こととがらいる。 ことをでいる。 ではいる。 でいる。	
教育職員養成課程科目	本文化専攻 中一	国文	古典文学Ⅱ(中世・近世)	するのと色のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	草子や読える代景をはいている。またいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	上等の作品 りには、『 竜沢馬概を で理解を深 作品と向か	を通して古りでである。 『南朝明』では、一大学には、一大学学には、一大学にはいいは、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学にはいいいは、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学には、一大学にはいいいは、一大学にはいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	典文学の特 や『徒然草。 八犬に』等 そこに表れ そこと学の世 を身につけ	江質を保存と では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
教科に	•	2学	日本文学史 I	的な知識する。 『源氏の 品を いる。 いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる	を修得し、 体的には 語』なで 話 とと ると	文学の史 『古今和歌 の物語文学 品・作者に こ、時代と	的展開につい など、各時でなどのなど、各時でいて概説	いて理解す )和歌文学 <sup>。</sup> 代を代表す しながら、: 連性や、文	的に学び、基礎 ることをりました。 というでもいた。 のでは、 のでは、 のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
			日本文学史Ⅱ	的な知識 する。など 様々なジー 礎的な知	を修得し、 体的には の随筆、ネ ヤンルの作 識を身につ	文学の史  『平家物語。 江戸時代の 作品を取り つけるとと	的展開につい 』などの軍 。 戯作文学、 上げ、作品	いて理解す 記物や『方 近代の小i について概i と作品との	的に学び、基礎と ることを『とをを 見に こと』、ま が 記に るがら 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
			近現代文学 I (近代)	て、近代の 石や芥川 が西洋の いったの 化の様相	の文学の特 龍之介、権 思想文化の かなどとい	時質を探る 貴光利一、 の流入する いう問題を 里解すると	ことを目的 太宰治等の 時代とどの 考察する。	とする。具作品を取り、 作品を取り、 かように向な 小説を通し、	家の小説を通し 体的には夏目漱 上げ、作中人物 いい合い生きしい て、日本の近代 学研究へのアプ	
			近現代文学Ⅱ(現代)	学の中で的には、 上春間に 現代の小	の日本の3 川端康成3 作品の概9 らえている 説とはど	文学という や、大江健 要を理解し るか考察し	観点から学 三郎という たうえで、 ていく。世 のなのか、	ぶことを目 ノーベル賞 外国人が日 界中で読ま	いて、世界の文 的とする。具体 作家の作品や村 本の小説をどの れている日本の の興味・関心を	

		<b>мΛ</b> -	授	 業	科	目	の	概	要	
	科目 区分		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		漢文	中国文学 I (漢文学)	とを、一世で、一世で、一世で、一世で、一世で、一世で、一世で、一世で、一世で、一世で	的とする。 国文学の歴 売解を ラえて ショ 国国の文化	具体的には 史や各時代 て、文意を 中国の文学	、漢文訓読 を代表ると 捉えるとて、 にいったの	の基礎につ 作品等につ もに、つね 日本人がど	いて理解するこえ いて学んだうる。 いて概説する。 に日本らに消化吸 とともに、中国	
	日本文化専攻 中一種	文学	中国文学Ⅱ(漢文学)	への理解 とを目的 についら それらり	解を深め、 内とする。 て説明する ひ書物が各 ながら解説	中国文化が 具体的には とともに、 時代にどの	日本に与え 中国田家 子百事 まうに享 文化が日本	た影響の大 史の流れや 思想や、『 されたかを	国の歴史や文化 きさを考え思想家 代表的』を読みと 史記時代いて、 り 響について、自	
****	僅・高一種免 (国語)	肿	書道実習 I	もことにない。これによった、そのでは、そのでは、これになった。	表現と鑑賞 目的とは、 い表した の美しさと	の力を伸ば 。具体的に 仮名、片仮 理解し、そ 表現効果を	し、書の伝は、漢字に 名及び変体 の用筆・運 味わい、感	統と文化に 公名を ななな を なな を な を な を な と て を を を を を を を と て を り る る る る る と る と る と る と る と る と る と と る と	向した 向ついて ででででででいてでででいるとす。 を工程行きな本のでででいる。 をでいてでいる。 をでいてでいる。 をでいている。 をでいている。 をでいている。 をでいている。 をでいている。 をでいている。 をでいている。 をでいている。 をでい。 をでいる。 をでいる	
教育職員養成課程科目		道	書道実習Ⅱ	もに、 深めび 書い、 き に に た じ た じ た り た り た り た り た り た り た り た り	表現と鑑賞 ことを目的 家書、仮名 本や書風に 構成を工夫	の力を伸ば とする。具 について用 即した用筆 できるよう	し、書の伝 体的には、 は、平仮名、 ・運筆等に	統と文化に 漢字につい 片仮名及 ついて理解 た、書の美	向上を図るととを図ると解析 ついて、草書、をでは、体現・ がし、まで、表代のというでは変な。 大きにない。 は、までは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
教科に関する科目	英語 コミ		英語学概論 I	な知識る 発音、記 語の特質	を修得する 吾彙、文法 質について するととも	ことを目的 、意味、歴 概説してい	とする。具 史の各分野 く。英語の	体的には、 の研究につ 特質を理解	るための基本的 英語学における いて紹介し、英 し、説明できる 察する方法論を	
П	ュニケーション専攻	英語	英語学概論Ⅱ	実践的な会のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	な知識を修 との関わ 英語の特 まざまな角	得すること り、英語の 質について 度から英語	を目的とす 語用と解釈 概説してい	る。具体的 などの分野 く。英語の ことで、自	研究するためのには、英語と社の研究については、英語と社の研究について 特質を深く理解分なりの問題意 る。	
	中一種・高一種免	学	英語音声学 I	習しなれ や文章 行う。 などを る	がら、個々 を用いて、 英語の個々	の音に対す 実際に個々 の子音や母	る理解を深 の音が正し 音について	めていく。 く発音でき 、発音の方	などについて学語 その上で、東習を るように練習を 法や強勢の位置 できるようにな	
	(英語)		英語音声学Ⅱ	て、発音を設定して、発音を表する。	音方法など いく。そ を行うどを 置な になる	について学 上で、単語 語の個々の 得し、実際	習しながらや文章を用子音や母音に単語や文また、	、個々の音 いて、聞き について、 を正しい発	される音についに対する理解を取りの練習や発強で読むことがはまかけること	

			授	業	科	目	Ø	概	要	
人	間約	论合学	学群 人間文化学類)							
	斗目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			アメリカ文学I	理解する品について、アク	ることを目 ハて、作品 メリカ建国 する。また	的とする。 この背景にも この特徴やそ	具体的には ある歴史的 れを支える	、この間の ・文化的経 アメリカ人	カ文学の概要を 主要な作家や作 緯について解説 の精神性につい カ文学への理解	
	英	英米文	アメリカ文学Ⅱ	すること ついて、 学からみ	とを目的と 作品の背 みたアメリ	する。具体 <sup>・</sup> 景にある歴	的には、こ 史的・文化 精神性を理	の間の主要 的経緯につ 解する。ま	学の概要を理解 な作家や作品に いて解説し、文 た文学作品の読	
教育職員養成	語コミュ ニケーション	文学	イギリス文学I	ことを目の背景に間やその	目的とする こある歴史 り後の作家	。具体的に !的・文化的 !に与えた影	は、主要な 経緯につい 響について	作家や作品 て解説し、 理解する。	が概要を理解するについて、作品 作品が当時の人 作品が当時の人 また、映像資料 こも紹介する。	
程科目 教科に関す	ン専攻 中一種・高一		イギリス文学Ⅱ	ことを目の背景に間やその	目的とする こある歴史 の後の作家	。具体的に !的・文化的	は、主要な 経緯につい 響について	作家や作品 て解説し、 理解する。	概要を理解する について、作品 作品が現代の人 また映像資料な シ紹介する。	
る科目	一種免(英語)	英語コミュ ニケー ション	日本紹介の英語	skills range (introdu present introdu regions may be Japan f to deve wide vatasks. (め語るにた学ぶるにた学ぶるした学ぶ。	necessary of region cing Jap ed to stu ce the p of Japan commonpla for the fil elop core ariety of 要じた子人は を本人と で基本に に 語	to introdually spectan and i udents. Struitaces and in and learning time. I anguage student ceto them irst time. I anguage student ceto them irst time. I anguage student ceto them in the ceto them is to the ceto them is the ceto them is the ceto them is the ceto	duce Japan ific and of ts culture ts culture udents will culture r n to expla but unfam In additionability, sentered sk からスキャルないる様のいなことめすかはすためすけたいまたのはすためなけたといるはすためなけたという本師はすためないるととめ	to a fore diverse so e via Engl develop e presentation things iliar to so tudents wiills based に	e communicative ign visitor. A urce materials glish will be the ability to ive of various Japanese which omeone visiting vities designed ll engage in a l communicative かいて紹介する。習としておっておっておっておっておっておっておっておっておっておっておっておっておって	

	授業科目の機要 し間総合学群 人間文化学類)											
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考		
	英語コ											
教育職員養成課程科目 教科に関する科	ミュニケーション専攻 中一種・高一種	ュニケーション	Japan Studies <b>I</b> I	to modern an in Japan St developed an continue to History need architecture and the arts (和訳) この研究の知識はJapaを対した技術と建築、	nd content cudies I nd new co o develope essary fo by the c, 3.11, s in post か授業は、 は 記書により に 無関をする まながら、	mporary . Basic concepts op the or critic instruct politics twar Japan S より発の内に ままして、それに、	Japanese Co Japan Stu introduced knowledge tal thinkin cor, parti tor, security n. udies Iの なををもとに なををもとに なさなと防衛に な安語圏に	ultural Hidies know dies know Ongoing of Japa ng relatec cularly and defe 基ヴよりな 登場のより 大き論、 を論、 を論、 を論、 を論、 を論 といる を記 のは はな にな のは にな のは	ne introduction istory provided wledge will be lectures will anese Cultural to the topics technology and ense, education ens			
. 目	免(英語)	異文化	異文化理解Ⅰ	し、異文化理 は、文化の意 やオランダ文	<b>単解の基礎</b> 意味やそℓ で化の日本	楚知識を値 の伝播、さ なへの移え	を得するこ らに中世 くについてE	とを目的と 末から近世 取り上げ、	化を中心に概説 する。具体的に 初頭の南蛮文化 日本への西洋文			
		化理解	異文化理解Ⅱ	の方策を解認 目的とする。 ギリスなどの か、事例を取	やオランダ文化の日本への移入について取り上げ、日本への西洋文化の移入から見える異文化交流の意義について考える。  この授業は、日本人と西洋文化の交流について、互いの理解のための方策を解説しながら、異文化理解の意義について理解することを目的とする。具体的には、幕末の開国以来、アメリカ、ロシア、イギリスなどの諸外国に対して、日本人がどのように対応していたのか、事例を取り上げ考察する。さらに、明治期における欧米列強と日本人の交流も踏まえ、異文化理解の意義について理解を深める。							
教科又は教職		日本文化専攻 中一	国語教育概論 I	本講義は国語の場合は基礎では、本講義の降今導場では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学								
に関する科目		一種・高一種免(国	国語教育概論Ⅱ	本講義育と聞えているとう。本語をは、のをこれのをこれのです。これで、のですが、のですが、のですが、のですが、のですが、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは								

(人	間総合	授 授業 人間文化学類)	<del></del>	科	目	Ø	概	要	
ź	科目区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		児童文学	学の特質 学・児童 別未明章 ての児童	〔を探ること 査音楽の創せ り児童雑誌を か北原白秋 武文学の諸村	とを目的と 世期り最も を取り上げ の童謡やいて 目について	する。具体的 重要な影響を 、芥川龍之が 話を通して、	内には、日 を与えた 下 大 大 こ に よ た よ た よ た よ た よ た 、 た 、 た 、 た 、 た 、 ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	になった児童文本の近代児童文 本の近代児童文 赤い鳥』をはじ 郎の作品がいかい いかの興味、関心 にする。	
		日本の詩歌	的には、 俳諧なと 改革運動 いて理解	中古の和歌 も取り扱う を中心とし なし、作品に	飲を中心と う。また、 して概説す こ表れたも	し、上代の利 近代以降の記 る。日本文学 のの見方や表	和歌、中世 寺歌につい 学における 考え方、現	的とする。具体 の連歌、近世の ては正岡旁義に 詩歌の意義に 詩代における よう とができるよう	
教育	1	介護等の体験	業はその に は と な い て 、 動 を あ て 、 動 を	体験を行う。 歩年の高い 、私たちが 状を把握し 行うためい	う前の予備 高齢社会や が人として こ 、 こ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	知識と行動規 障害者の社会 、学生として ら何が出来る	見範を身を 会参 な を ま を ま を ま る た た る る る る る る る る る る る る る る る る	須である。本授 つけることを時代 変わりゆく大けと していきたい。 ともに、社会人	
職員養成課程科目 教	日本文化専攻 中一種	視聴覚教育メディア論	教材、メ 育の始ま する。 動等)、 機能や種	ディアとの する で で で で で で し で は で は で は で る で る で る で る で は る で る た る に る に る た る に る た る に る た る に る に	の関係性や 視聴覚教 5用する視 (PC、Web等 方法が身に	重要性を知り 材の長所短所 徳覚機器(ラ いなどの教 こつくように	)、日本に 所を検討す ・レビ、DVI 育メディア :授業を展	え、その意義や おけるとを目が、 ることを目が、 ることを目が、 いついて、その 開させていきたる 現場を見学する	
4科又は教職に関する	(・高一種免(国語)	ボランティア実習 I	献するこれ かかっと おかま おりま とう かいま とう とう とう とう かいま かいま とう とう かいま	とにより、 活動の実は を想定して この事前面	新しい自 施場所は、 ている。① 談、③危機 前提出(学	分を発見する 大学の地元の 担当教員に。 後管理ガイタ 生支援課)、	ることを目 の稲城市お よる個別ガ ンスへの	トし、社会に貢的とする。ボラよび近隣地域のイダンス、②担参加、ア活動記録	共同
科目		ボランティア実習Ⅱ	献するご海場所を通行を通行を通行を通行を通行を通行を通行を通行を通行を通行を通行を通行を通行を	とにより、 f外を想定し して、履信 所社会の「 海外ボラン	新しい自 している。 修者が多種 中で生き抜 /ティアに2	分を発見する 海外ボランラ 多様な文化、 く術を学ぶ。	ることを目 ティアでは 習季休暇 加すること	トし、社会に貢 的とする。実施 、海外における いを受け入れ、 いをで、学外の団 が要件である。 いる。	
		生涯学習論 I	的にとのません。 を とのまな、 る、 る、 ると	や基礎では、そのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	論、生と本、生涯だ授生と本、( る解歴を主題を をなる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 となる。 と	習の内容やっ でにおける にはおりで に 学 習 を 要 開 ) 理 理 発 理 発 理 発 理 発 り る え る え る え る え る え る え る え る え る え る	方法を概説 「達者解した」 「大学になる。 「大学ではいる。 「大学ではいる。 「大学ではいる。」 「大学ではいる。 「大学では、 「たっと、 「たっと、 「たっし。 「たっと、 「たっと、 「たっと、 「たっと、 「たっと、 「 と 「たっ と 「 と 「 と 「 と 「 と 「 と 「 と 「 と 「 と 「 と	学習の意義や目 する。生涯学日 ればいけないすないはないで、 でかることで自覚できることできるこが よりになることできる、 以上の4点	
		生涯学習論Ⅱ	や必にて取り生活の対象を選出を表現の対象を表現の対象を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	職員の役割では一般では一般では一般では一般です。 できる	劇に 得得 で で で で で で で で で で で の で の で の の の の の の の の の の の の の	概説し、生物と目指す。 を理解し、生活を理解し、生生 生涯学習をきる ことができる	重学習支援 学習要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要	習に関する制度で担いる制度で担い手としています。 おける到手とでは 援の担い手と では 法会進出で の社会進出で の性を進出でする。	

( 1	問総会⇨	授 授業 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目 区分	授業科目の名称			詩	<b>義等の内容</b>			備考
	(国語) 一種・高一種免 日本文化専攻 中	道徳教育の指導法	行 行 れ し し し あ り の お に で の の の に の の に 。 に 。 。 に 。	と合す物とを原則とのがあるととをするをです。としているとしてでいる。	し、その教 で方容や諸問際にかける でかられる。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	で育活動全体 発が設定さ 関題について 加える研究 材の育成を	で 行 う う い し う る 、 し う す し 、 。 、 道 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	で育活動を通して 長教育を補充、こ 長教書をでは、 本本講道徳の授 いいでは、 はいに、 はの でいる でいる での でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	
		英語教育学概論 I	的したえの授えいで	頂を学ぶる学 学さ語学切りで が が り が り で 対 が し て 対 が し て 理 が し て で き が し て で う た う し て う た う に う た う た う に う に う に う に う に う に	とを目的と をにてて をいい の答を の答 を の を の と の と の と の り の り の り の り の り の り る り る り る ろ り る ろ り る ろ り る ろ ろ ろ ろ ろ	する。言語 。英語学習 経験を踏ま 語の学びは させる。自	習得の基礎者と、のといいでは、これでは、これでは、これではでいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	英語学習の基理解 語の理解と 語が表現の 語のの理解と 語のの理解は にのの理解は は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
教育職員	英	英語教育学概論 Ⅱ	的業者えど変素というなのと、ので学業	頃を学ぶのと 学法ののと でといい でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる で	とを目的と 則を理解けた 英語を対える か」即を用	する。言語 、経験、を語れることが 、とがし いに対し	習得の理論 るようにさ 学習をして 切なの回答を の小中高の	英語学習の基本 はなる。 はなる。 を表記の英語学習の される。 英語学習 される。 英語学習 される。 英語学習 される。 英語学習 される。 英語学び される。 を終め学び はった。 で表記させる。 の課題 で表記を で表記を で表記を で表記を で表記を で表記を で表記を で表記を である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	
養成課程科目 教科又は教職	語コミュニケーション専攻	英会話Ⅲ	Convers deeper particu periods exposed strateg how pa attaini goal conspecifi	ation I a level of dar empha of time. I to variouse that muse in ng natural of improve c pronunc	and II, pr natural Er sis on su To help bus method pertain t mid conve 1 English ving thei iation pra	oviding stunglish communications of turn of forming ersation.  rhythm in roverall actices tha	dents with unication. onversatio goal, st taking ar follow up Students their spea fluency. t relate	ent of English a training in a There will be ns over longer udents will be ad conversation questions and will work on aking, with the Additionally to the various gular basis.	
に関する科目	中一種・高一種免		る自然がのため、いうとに重	なコミュニ 補足質問 話の技法) 重点を置き	ケーション を作ること を学生に紹 、会話の進	ができるよ や「会話の 介する。本	うになるこ 調整」(会 講義では会 技法を指導	、主に英語によ とを目指す。そ 話を途切らすと 話を長く続ける ける。英語の発	
	(英語)	英会話IV	synthes making communi fluent, and iss of con America particu disagre differe	students cation s extended sues. The exercise amph ements. S ences amone	confidentyles. So conversat difference will be citish culusais pla Students was standard to see the control of	thus far 1 t and nat tudents wi ions about es in casu studied. ture will ced on 1 vill become	earned witural in ill work pertinent al and more Pragmaticalso be nedging as esensitive peakers ar	aversation will the the goal of their English on sustaining current events be formal types the series of the series of the examined, with and expressing the to cultural and how interact tions.	
			自信を持ては時間に主眼で活の相談	時って自然 事問題を話 を置く。ま 違について	な英語を使 題にして、 た、「カジ	えるように より長く英 ュアル」な 英米の文化	なることを 語で話せる 会話と「フ	学習を踏まえ、 注目指す。本講義 ようになること フォーマル」な会 え、自身の考え	

		授	業	科	目	の	概	要	
	<b>、                                    </b>	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		アメリカの文化と歴史 I	争時代まず、 や情報る歴史 るようよう	でを概説する でを概説する 日本水」の の い い い い い い い に い に い に い に に い に り に り	ける。係りとなっています。係らないのはないできません。ないできないできません。ないできないできません。	リカ合衆国 である。ま れているが のも少なく 史を学ぶ意	は、好むと た、それら ない。 楽しアメ とアメリ	時代から南北戦 好まであると知識と 力にには、でもには、でも国ではしてう他国の を感じてう他国の さとする。	
		アメリカの文化と歴史Ⅱ	を概説すの「洪水」ののいまればでいます。	る。関はいい、 とり、 とり、 という という という という といい といい といい といい といい といい	リカ合衆国 でれるのでれるのでなる。 これののででは、 これのでは、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	は、好むと! た、アメリ が、それら くない。本! 意義と楽し	好まざ関すると、 のな業で関にないないで がないではじい がないないがない。 がないないがない。 がないない。 がないない。 がないない。 がないない。 がないない。 がないない。 がないない。 がないない。 がないでいる。 がないでいる。 がないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないでいる。 がないないないないないない。 がないないないないないないない。 がないないないないないないない。 がないないないないないないない。 がないないないないないないない。 がないないないないないないない。 がないないないないないないないないない。 がないないないないないないないないないないない。 がないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	代から現代まで、 現代まで、 現代する 現代する を は知識と 異なる と は も な を ま り る ま と り の は り る ま と り り る ま と り り る り る を り る を し り る を し り る を し り る を を た り る を し り る を し り る を し と し と し と し し も し も し も し も し も し も し	
教育職	英語コミュ	介護等の体験	業はそので、現 になかで、現 に動をを	体験を行う。 近年の高 、私たちが 状を把握し 行うために	う前の予備 高齢社会や ぶ人としれ こ こ 最低限必	知識と行動 障害者の社 、学生とし ら何が出来	規範を身に 会参がな を なな と る と る と る と る と る と る と る と る と る	須である。本授 つけることを目 変わりゆく会し していきたい。 ともに、社会人 ともに、社会人	
員養成課程科目 教	ユニケーション専攻	視聴覚教育メディア論	教材、メディーのでは、対している。教育のでは、対している。教育のでは、対している。   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ディやとの イやの機利で 育報、 で と義、活 情報、 に に に に た	D関係性や 視聴覚教 E用する視 (PC、Web等 方法が身に	重要性を知 材の長所短 徳覚機器 (ラ ) などの教 こつくように	り、日本に 所を検討す テレビ、DVI 育メディア [授業を展]	え、その意義や おけるとを ることライで、 とっていいでいい についせていい はさせる 現場を見学する	
科又は教職に関する	中一種・高一種免	ボランティア実習I	献すること 施設 という おりまれる という おりまれる という おりまれる という かいまれる という はいまれる という こう はいまれる という はいまれる という はいまれる という という はいまれる という という はいまれる という という はいまれる という という という という はいまれる という	とにより、 活動の実施 を想定して の事前面 動届の事前	新しい自 歯場所は、 ている。① 談、③危機	分を発見す 大学の地元 担当教員に と管理ガイタ 生支援課)	ることを目 の稲城市お よる個別ガ ブンスへの	トし、社会に貢 的とする。ボラ よび近隣地域の イダンス、②担 参加、④ボラン ティア活動記録	共同
科目	( 英語)	ボランティア実習Ⅱ	献することにはあることにはある。これにはいる。	とにより、 外を想定し い社会 の中 毎外ボラン	新しい自 っている。 き者で生きを シティアに2	分を発見す 海外ボラン 多様な文化 く術を学ぶ。	ることを目 ティア慣のは 、夏季休暇 加すること	トし、社会に貢 的とする。実施 、海外における いを受け入れ、 中に、学外の団 が要件である。 、る。	
		生涯学習論 I	的 に と し き る 、 ③ 生 え る 、 3 。 3	や基礎理記 学びれて理解 目がでで理解 目がでででででででいる。 では、これでは できる。 では、これでは できる。 では、これでは できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	論、生と本、生涯だ授生と本、に るると大、に るると、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	習の内容や」 ではおけるく、 における支えを 学展開)を 理論を理解 理論を理解	方に 大 大 学 は で は で と で で の ・ 説 い き き の ・ 説 り に り の ・ 説 り い う い う い う い う り り り り り り り り り り り	学習の意義や目する。生涯学習の意義や目する。生涯学習ればいけないこて、分生産学習を充分にはうなこなっているこのできることがある、以上の4点	
		生涯学習論Ⅱ	や施設・」を施設をとして、ののでは、ののでは、ののでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	職員の役割 の役割 受生を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	前についる ととなる ととなる ととなる のは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	概説し、生 と目指す。 目的を理解 で で と が と と と と と が と に と が と に が と に る と に る と た と た と が と た と た と た と と た と と た と と が と と が と と が と が	涯学習支援。 と学習業に とを とを と を き る が で こ と き る 、 で き る 、 で き る 、 で る 、 で る 、 で る 、 で る 、 で る 、 で る 、 で る 。 で る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら ろ き ろ き と う と う と う と う と う と う と う と う と う と	習の担いる計ででは関するとは関するとは関います。因れて対して、対して対しては、はは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	

	問級合意	授学群 人間文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目 区分	授業科目の名称			書	義等の内容	:		備考
教科又は教職に関する科目	語) 種・高一種免(英 ション専攻 中一 英語コミュニケー	道徳教育の指導法	行化うののおりです。	とをす物と 原則目 をするを を を を と し て 深 る と し て る と し て る と し て る と し て る た る た る た る と し て る と と し て 、 の と の た の と の と の と の と の と の と の と の と	し、その教 で内に で容を検しい でない でわいの おりの はず	育活動全体 業が設定さ 題について 加える研究 材の育成を	で 行 う う る 、 に う す る 、 。 。 〕 道 る 、 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	を育活動を通して 要教育を補た、深 教育を補は、深 本講義徳の後 に いたに道徳教育 間時に、道徳教育に 道徳教育の指導者	
	教職の意義等に関	教職入門	び、 教 する、 も と )、	育全般およ 具体的には 分の受けて 教育現場の 学校制度、	び教師の仕 、・高等学校 ・高学校(生 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ き ・ き り き り	事について けてきた中 についら学ぶ 着に関わる	理解を深め 学る、校教 で、私の・保 にといった順	教育について学かることのいてにないできた。 で有にといくでは、では、では、できた。 では、では、では、では、では、では、では、できた。 では、では、では、では、では、では、では、では、できた。 では、では、では、では、では、では、では、できた。 では、では、できた。 では、できたいできた。 できたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできたいできた。 できたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたい	
	教育の基礎理論	教育原理	にであるのっき、	なければなく、 は理論を備が も不可欠に	らない。 を批判して ない。 たって なって なお である である には でいる でいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	かし、教会といい、教会といい。教育状況を対している。教育状況を対い、対策を対している。	はそれらに 革する、教育の 打開し、こ 、このよう	た会、文化の要請 に知応すべきもの 対育固有のい論理、 対論理あるの教育理、 れからの意識に関い は、教育の本質に は、教育の本質に	
教育職員養成課程科	品に関する科目	発達心理学	達心理 する。 ように れる」	学的視点か また講義の 「成人の精 ことを理解	ら、誕生か なかで、心 神構造は子 し、大人の	ら青年期に 理学者のジ 供のそれを	至る心理過 ャン・ピア 基礎として との対話は	で参考にしつつ発 過程について解説 ジェが指摘した 一発展的に構築さ は、自分自身の精 いく。	
付目 教職に関する科目	教育の基礎理論に関する	教育制度論	で講述で調金のとかでする。	し、教育の学校教育を 学校教育を 史資料を用り 制度を主要 の公教育と	社会的、制 中心と習い いて学習と比 その具体的	度的、行政 明治以降の る。後半し、 較検討し、 な表現であ	的な知識の 教育を辿り 、教育の制 続けて教育 る学校制度	日出来事との関連 型 来事との関連。 型 で 表 で で で で で で で で で で で で で で で で で	
	教育課程及び指導	教育課程論	その上で 理していても理解	で教育課程 いく。さら 解を深める。	の変遷を概 に、教育課 。教育実習	観すること 程の編成原	で、その成理、展開過 き、指導計	音源から理解し、	
	導法に関する科目	国語科教育法 I	等、国 る。①[ 領(国	語科教育に 国語科教育 語)の内容	関する重要 の意義につ を理解する	要事項等に <sup>*</sup> いて理解す	ついて学ぶ る、②高等 導計画につ	や学習指導要領 ための授業であ 学校学習指導要 いて理解する、 としたい。	

, ,		授	業	科	目	Ø	概	要	
	<b>間総合</b> 科目 区分	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			≘井	義等の内容			備考
		国語科教育法Ⅱ	につい ての教 せる。(	て学び、実 養を身につ ①国語の授	際に模擬授 けるととも 業を行うた	業を行う授 に、国語教	業である。 育の課題に 身につける	業の方法と実際 国語の教員とし ついても考えさ 、②実践的な国	
		国語科教育法Ⅲ	ら る。 に も も に 科 国 (国	、中学校国 学校の国語 国語の教員 育の目的に	語科教育の 科の教員を といて理解 を理解する	内容およな おすま も も も も も も の い の 中 学 校 校 の の り り で り で り で り で り で り で り で り で り	指導につい の重要事項 につけるよ きる、②中	の目的や歴史な で学得すると を習得する。 うに 学校 学校 学校 で の いて理解	
教育	i	国語科教育法IV	ついて の教養 る。①[	学び、実際 を身につけ 国語の授業	に模擬授業 るとともに を行うため	を行う授業 、国語教育	である。国 の課題につ につける、	の方法と実際に 語の教員として いても考えさせ ②実践的な国語 い。	
職員養成課程科目 教職	教育課程及び指導法に関	英語科教育法 I	シ的指す具語帯学習	をすること す。①英語 の 受材 で が が が が が が 表 は 、 英 に 英 が の れ が も れ 、 も た う に う た う に う た う に う た う た う た う た う	で科のの書、法と意理理、語期とのをを析英定とののままが、	実践面からて 譲ないる、 解する が表書の が表書、 が扱授業(学校	理解を深め、 理解する 学習指点を との4点 これ とい 記 に 科目	が、 が、い。 で、ことで学いたで、 で、ことでで理じますが、 で、ことででは、 で、ことでででは、 で、ことででは、 で、ことででは、 で、ことででは、 で、ことででは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 で、ことでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
に関する科目	する科目	英語科教育法 Ⅱ	シ的な教の案をを表している。	をすること る。①英語の 教授法の選 ・ 教材の選 、 、 マイクロ	で、理論とで、選挙を以るで、業とのでのできる。できるでは、変にのできる。できるできる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	実践面から うための知言 の2点を学習 導入活動の 、定着活動 グ(分詞・	理解を深め 龍を身につい 目標とする 工夫、題 関係副詞・	み、、 デくこ。 でいる、 でいる。 ののは でののは ののは でのが ののは でのが ののは でのが のが に が のが に に が に が に に に に に に に に に に に に に	
		英語科教育法Ⅲ	ションは対対の対対を対対では対対では、対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が対対が	をすること 習指理理 習れ 習れ を で の で で の で の で の の の の の の の の の の の	で、理論と目のの教芸のの語学習(多ので、教英のので、のので、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、ののので、といいで、といいで、といいで、といいで、といいで、といいで、といい	実践面からて外になる。 実践面からて内容を学習の名を学習の表表を学習がまる。 でいる でいる はいい まん はいい はい	理解を深め 理解し、③ する、定校の では でいま でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	ッ目中指、展筆 が、総括、 と、総括、 と、総括、 と、総括、 と、総括、 と、総括、 といった。 と、総括、 といった。 と、総括、 といった。	
		英語科教育法IV	シ行と語業評動の	をすることであることであるこれでは、それでは、それでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	で実はい立て動いなが、 、践、で、みにではいない。 ではいてがいるが、 がでいるが、 がでいるが、 がでいるが、 がいないない。 がいないない。 がいないない。 ではいいない。 ではいいない。 ではいいない。 ではいいない。 ではいいない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないない。 ではいいないないがい。 ではいいないがいるが、 はいいないないが、 はいいないないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないがいが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいいないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないないが、 はいないがは、 はいないがは、 はいないがは、 は	実践面から 語の教授法 ィブ・ラー ことのteam t 計画の作成、 ーチング (	理解を深め を身とが、 caching り り り り り り り り り り り い 、 、 、 、 、 、 、 り り り り	み、ディスカック 、 ディスカック 、 英ること ウト 、 エンドア 使った たい	

	88 W A J	授	業	科	目	Ø	概	要	
	<b>間総合:</b> 科目 区分	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容	:		備考
	教育課	道徳教育の指導法	行化うののおりである。	さを原則と を原則と 首徳を 首徳として で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	しで内容と そのの語言を でのの語言を でいるでいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 で	育活動全体 業が設定さ 題について 加える研究 材の育成を	で 行 う う る 、 に う す る 、 。 。 〕 道 る 、 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	を育活動を通してで、 要教育活動を通して深まな構成は、 要教育を補では、 では、 では、 では、 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	
	程及び指導法に関す	特別活動の指導法	会のののを問題を表現した。	te会活動、等 会活動、等 会ははいるにはない。 理論にする。 で容、問題	学校行りない。 学校行りない。 学校のでは、 学校のでは、 学校のでは、 学校のでは、 学校のでは、 学校のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	いったもの るだろう 集団 り上げ 学級活動、	が特別活動、特別活動、特別活動、特別になけらるはない。特別にながまた。特別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別にある。	ルルームの いがあり、いず活動が、いず活動でれる。特別能能でいる。特別能能ではいる。 がいるが、のでは、別のでは、別のでは、別のでは、別のでは、別のでは、別のでは、別のでは、	
教育職員	る科目	教育方法・技術	をす礎る活育をといる。	学び、受講を また、学校 おおい。 おおい。 おおい。 おおい。 おい。 といった。 だといった。	者で方構児び方構児が新活子践考にまる。	育実践にお を を の で で で で で で で で さ る と の で さ る と の で さ る と の で さ る も る と る で さ る と る と る で る も る と る る と る と る と る と る と る と る と る と る と る と る と る る る る る る る る る る る る る	いて活かせ 開発 業に なること かっこう はい かっこう はい ない こう	しについてす事例等と まなことをとなるためでいてである必要となる必要となるでいて成りなりでは、 教育情報機器を かした授業構成	
(養成課程科目 教職	生徒指導、教育相談	生徒指導論 (進路指導を含む)	ることを 働く実際 限り詳組 及び理論	を主眼に置き いな場面の いつ具体的 の理解と、	き、生徒指 と諸問題に 的に解説し 実際的場	導の意義と ついて実践 、理解を深 面で用いら	役割、さら 例を取り上 めていく。 れる児童理	は形成の一助となっには指導機能が には指導機能が にげながらで知識 生徒指導の方法、個別 と目標とする。	
に関する科目	科目及び進路指導等に関	カウンセリング論	的には、 史、③ ラーの賞	①カウン カウンセリ Y質と姿勢	セリング⊄ ング法、④ などについ	)定義と意 )カウンセ!	養、②カウ リングの理 めたうえて	的である。具体 ンセリングの歴 ふ、⑤カウンセ 、教育現場にお していく。	
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	を定け感関に究目のでは、	かに いに いに こ に る が 感 の で で で で で で で で で で で で で	不よあ的理身疑とし、。情やので、で教教等学けな教等学けな教をでいる教教等がなる。	るとと関経なるとと関経が表現してる等に、では、 でいる でんしょう はい でん	能等を演習 限必要な4つ ②社会性や する事プレンを でを で で で で で で で で で で で で で で で で で	課題であること 関等により身によりを 対象では、一つのの が対ののののでは、 が対ののでは、 は、 であり、 のののでは、 のののでは、 であり、 のののでは、 であり、 でいては、 については、 については、 については、 については、 については、 については、 については、 について、 にっしいて、 にっいて、 に	共同
	教育実習	教育実習指導	見ら生教教点が発達の	度、技能を存 質能力、 態)、駒沢 り、中学 に と 授 に り に り に り に り に り に り 、 り 、 り 、 り 、 り	得する 学量女 大とと子 学生 大きを 大きを 大きを 大きを 大きを 大きを 大きを 大きを	学習を行う (中学生の 学・高等学校の 究の意義、	。具体的に 実態) 実態見 受場 を を を を と の の の り の り り り り り り り り り り り り り り	教員に必要な識 は、数とは、数は、 は、数は、 に校生とは、指導、 に他(生きらし問題 はの素晴等のの自 で、 に、 で、 に、 で、 に、 で、 に、 で、 に、 で、 に、 で、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	

	即公人		業	科	目	Ø	概	要	
	科目 区分	授業科目の名称			講	養等の内容			備考
教職に関	教育	教育実習 I (中学校)	に中学校 現場にお	あるいは高 ける体験を	5等学校で表 とおし、	数員生活を3 数師として。	実習体験す 必要な教科	得るために実際 る。実際の教育 の専門的知識、 することを目標	
する科目	実習	教育実習Ⅱ(高等学校)	に中学校 現場にお	あるいは高 ける体験を	等学校で とおし、	数員生活を 数師として	実習体験す 必要な教科	得るために実際 る。実際の教育 の専門的知識、 することを目標	
	田本田	日本国憲法 I	業では、 ではに検 下平解を 理解を と と と と と と と と 、 と 、 と 、 と 、 と 、 と 、	第二次世界 証する。う 証すといく。 かく、異ないく。 まえ、異な	大戦後に死 その上で、 3つの柱に 日本国に いる意見を いる意見を	定められたが 「基本的人 ついて、急 おける基本	憲法の基本 、権の尊重」 がずに具体 法である「 筋道を立て	意味する。本授的な仕組みを歴」「国民主権」「例を踏まえつつ日本国憲法」の日本解決の社会	
教育職員養成課程	憲法	日本国憲法Ⅱ	人のとりの中心に対しています。 かかに対しています。 からないでは、 からないでは、 からないでは、 からないでは、 からないできる。 からないでもる。 からないでもる。 からる。 からないでもる。 からないでも。 からないでもる。 からないでもる。 からないでもる。 からないでもる。 からないでもる。 からないでも。 からないでも。 からないでも。 からないでも。 からないでも。 からも。 からをも。 からをも。 からをも。 もっと。 からも。 からをも。 からをも。 からをも。 と。 から。 もっと。 から。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと	の国民を人 あり、現在を び、日本 と なる意見	、格の担い どめている。 ほ法をめぐ・ 関における。	手として尊り この授業 って議論され 基本法であり この である。	重するため では、国家 れている問 る「日本国	制定された。一に、憲法は国家統治の仕組みを 観点についても 憲法」の役割を 決の社会問題を	
怪科目 教育職員免許	体	スポーツ I	目は、継がら、健なと共にいいます。	続できる身 康志向への 大を目標と とスポーツ	r体運動 (注) 動機付ける を自分自 する。スス	テニスとリ を図り、実践 身に当ては ポーツ文化	ラックスョ 桟に関する め、応用展 こ親しむと	ている。この科 ガ)を選択しな 知識や技術を得 開するに、健康 とも とが 最大のねら	
计法施行規則第66条	育	スポーツⅡ	目は、継 択しなが 術を得る 力を体験	続できる身 ら、健康 と共にとと かため、 ア	/体運動(/ 応向への動札 の方法をF 目標とする	バドミント: 幾付けを図り 自分自身に る。スポー:	ンとゆがみ り、実践に 当てはめ、 ツ文化に親	ている。この科 修正体操)を技 関する知識や技 応用展開する能 しむととが最大 作ることが最大	
米の6に定める科目	外国語コミュニケー、	英会話 I	students' and wri conversal students' topics w structure situation students become structure	speaking ting, as tion will pronunctill be presented that we have a specific production of the pronunction o	g and lis well. be cover iation, in ovided an rill help gh a comb given m in us	tening sk: Natural a ed with a ntonation a d students them in a nination or ultiple a ing the	ills, with and curre n emphasis and fluend will be a variety f pair an ctivities target	on improving a some reading ent forms of son improving ey. Real world given language of real life d group work, to help them conversational	
	ション		ある。 本 行う。実 ことで、 きるだけ	、講義では 際にメディ より現実に ペアワーク	発音・抑揚 'アで取り <sub>-</sub> '近い場面'	の改善と流 上げられた での学習が プワークを	暢さに重点 英文を材料 できるよう	を目指す授業で を置いて指導を として使用する に工夫する。で 学生たちが積極	

		授	業	科	目	の	概	要	
	<b>、間総合</b> 科目	学群 人間文化学類)				24 44 - J. J.			, m, 40
	区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
教育職員養成課程科目 **	外国語コミュニケーン	th Conversation hen students' will learn a strategies. Iloping active ty to interact tional topics. for meaningful mmunicating in will be given the each other							
教育職員免許法施行	ション		化」という トピックに 実際にメラ で、より	う会話のた こついて育 ディアで! 現実に近い	土方を学ぶ 前向きに考 取り上げら い場面での	。本講義で えることに っれた英文を 学習ができ	は口語表現 重点を置い を材料とし るように工	確認」や「明確 の学習と様々な で指導すること で失する とを提供 をを提供	
2規則第66条の6に	情報機器	コンピュータ演習 I	ことを目的に変して、「大きない」に授業を対して、大きないに表、作図、	内とする。 ネスの現場 通信技術 進めていく 表計算な	具体的に 場において (ICT) を使 (。本授業	は、諸々の 基礎的なすな いこな文ま では、文書 を必要とす	検定を指標 書処理がで めの知識と 作成、レイ	理の基礎を学ぶ としたレベルを とる程度)を中心 実技演習を中心 アウト作成、作 ビジネス文書作	
定定める科目	を検作	コンピュータ演習Ⅱ	ジネスの5 つ、さら Office Sp 情報処理能	見場におい に発展さ ecialist」 能力を身に て、プレセ	いて基礎的 をせること 」に沿って こつけるこ ヹンテーシ	な文書処理 にある。 ビジネスの とを目標に	が行える程 具体的には 現場で応用 、さらに実	けたスキル(ビ 度)を確認しつ 、「Microsoft できる基本的な行 できる基本的な行 践的な演習を行 信能力を高める	
学校	##1	学校経営と学校図書館	持っている おいて学れ 講座図書館利流 を関い。司	る。司書 交図書館活 ①司書を のででである。 のででは、 ででできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でい。 でいる。	対論はのと話し、 、リし活いと 対能・際教 でして動以 にして動い。	校図書館運 ダーとなる 活動する際 など)の理 上の2点に重	営の中核と ことを要な に必要の司 に点を置き学	活動の対しています。 活動り教でなられいのでは、 関方活。。(学校のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
図書館司書教諭課程	講習規定に定める科目	学校図書館メディアの構成	ての役割が役割ができません。それである。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	だけではなった。 では織いないない。 で組織ン管理 を習得する。	なく、、学習 なけれ可いながれていい が水が法を 関方ること	情報センタを受える。本き教 あるる司書館 が、校学を教館	ー・教材セ のために、 変では、 でな探ってい 論として 組 におけるコ	書ン、校へととなったない。というでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	
科目	I	読書と豊かな人間性	学り組成でなが、特別では、これでは、これでは、対学を対して、対学によった。	われる読書 うわれれる 交育ない かうがい でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でい	いますが重 とこれでは いまれる。 いまれる いまれる いまれる に いまれる に は に れる に れる に れる れる れる れる れる れる れる れる れる れる れる れる れる	要視され、 もの読書活 それに対応 性の涵養を ル等の作成	各学校種に 動をでします。 目を行う。 が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	っている。 特なに おくり がなり、 でいて状 でいて状 でいた がのかに いた のかに がの がの が の が の が の が の が の が の が の が の	

			授	業	科	目	<b>の</b>	概	要	
7	<b>.間総</b> 科目 区分	合自	学群 人間文化学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
学校図書館司	一講習規定に		学習指導と学校図書館	して目話のは教た別に変している。	役と能て対学を理解具成るう館をでいる。	は、教科の 体的に任やは、 、そ学校 、 でき学輸と	学学科で書した。 学学科で書している。 学館である。 学館である。 学館である。 学館である。 学館である。 学館である。 学館である。 学館である。 学館である。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	どう支援す 支援して おしてス活動 大変動 活導計	報センター」とと情報センタ学ぶな合語書では、一点をは、一点をは、一点をは、一点をは、一点をは、一点をは、一点をは、一点を	
書教諭課程科目	定める科目	<u>=</u>	情報メディアの活用	たはうに学と多様なり	や被害の低 のような きった を で を で れ り に り に り に り に り れ り り れ り り れ り り り り	(年齢化がける) (現をかける) (なける) <td>てきな社会問 、情報メデ らないのか のノウハウ 性や高度情 学校図書館</td> <td>引題となっ イ教をおいる イ教授キュに 報書 教諭 記述 おおいる おおいる おおいる おおいる おおいる おおいる おおいる おおい</td> <td>ディアに関連し義大でする。に関連し義よの際に、いてする際に、いては関連し義よの時にの報にのいと人はない。ないとはない。といてはない。というない。</td> <td></td>	てきな社会問 、情報メデ らないのか のノウハウ 性や高度情 学校図書館	引題となっ イ教をおいる イ教授キュに 報書 教諭 記述 おおいる おおいる おおいる おおいる おおいる おおいる おおいる おおい	ディアに関連し義大でする。に関連し義よの際に、いてする際に、いては関連し義よの時にの報にのいと人はない。ないとはない。といてはない。というない。	
			生涯学習論 I	的、歴 にと」 き る、 3 る、 3	史「含や生生学となった。というないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	[論、生涯学けるととだった。」。 こ。本、とだ授業といる。 歴史、のをといる基礎となる基礎とは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、といるとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	習の内容やではおけるではいるではいるではいるを 学習を支と展開)を 理論を理解	方法を概説 「達る理と をばとと はなと は で と で の の い 説 り に り に り に り に り に り い り に り に り り り り	学習の意義や目 する。生涯学習 ればいけないこ て、①生涯学習 を充分にとが当 することできるよう ことがよりなり は上の4点	
			博物館概論	きとけ育歴とらいす、とり、、	本講義は、 。生涯誤学で を を を を を を を を を を を の は の は の り の り の り の り の り の り の り の り	博物館に関  社会へと利  れた役割に  対  がはこついて  は大と課題、  が  が  が  が  が  が  が  が  が  が  が  が  が	する基礎的: を行する中で ついて考え 、存在意義 といっする。 と紹介する。	知識を習得 で、こと いこかから にたかから に、 でいる に、 でいる に、 でいる に、 でいる に、 でいる に、 でいる でいる でいる に、 でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	果たすなとりというでは大的でまたすの基本へのおりである。 専門質的説のなりの明したがいいいないのではいないないがいないがいないがいないがいないがいないがいないがいないが、	
博物館学芸員:		省令必:	博物館資料論	と知識される。となる。となる。となる。となる。となる。となる。となる。となる。となる。とな	を含めた、 きせに即り 大いでは 大いで はいで はいで はいで はいで はいで はいで はいで は	資料に対す 古・ おける は 対する 基プ 一次 資料と で が に が り の り の り の り の り の り の り の り の り の り	る基本的な 美術・歴史 料の取り扱 本的な考え力 二次資料、	能力を養う を大きを養史に を講じい がを がな が が で が で が で が で が で が で が で が で が	の方法等、理論 ことを目標とす 料等、具体的な ついて学科のでい あと、資料の収 料等について解 動がいかに行わ	
養成調程科目	<b>文</b> 县 呈 十	修科目	博物館展示論	についが民が民から、展まと、展	て解説し、 示解説し、 ない	また具体的 てたを目が ことを、展示 のか、展示 資、展示資	事例、ある インの仕方 とする。博 の意義や実 料の選定、	いは特定の 等を講じる 物館を一般論 展示の設計	ら博物館の展示 展示を想では 関定と は は は は は は は と 、 的 に と が と 、 的 に と が さ い ら に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	
			博物館資料保存論	る。展えの世内が、の一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	示環境、収 に引きな が が が が の の に の と は の に り の り の り の り の り の り の り の は り の し し し し し し し し し し し し し り り し り	蔵環境を科 でいたまたい 活動状調査、 境(劣化条 の役割等に	学的にとら の知識を習 ていかに大 資料の修理 件・災害・約	え、資料を 得なことが 関との 関との の の の の の の の の の の の の の の の の	ことをとすいた。 として とり とう	
			博物館経営論	ついて、ジアム物館経備、組織マーケ	、具体的事 ・マネジメ 営の基盤と 織と職員等 ティングと	例を通して ント)の基 なる、博物 について学	学び、博物 礎的能力を が館行政制度 んだあと、 ィ活動、地	館を経営す 養うことを 隻、博物館 博物館経営	理運営の方法に ること(ミュー 目的とする。 目的とする。 の財務、施設 の使命と評価、 物館等、博物館	

			業	科	目	Ø	概	要	
科目		学群 人間文化学類) 授業科目の名称			<b>∋</b> #±:	義等の内容			備考
区分	<del>)</del>	授業科目の名称							加考
		博物館教育論	らいとなるとするとなるというとないとないとない。	る。意とという。 受実的 人一般 という	では、具体に まに関する。 ぶ身に付く。 が身、人材 の場、人材	的職と 事例を まる を は を は を は を が ら を が ら の 説 が ら の が ら の が り が り り り り り り り り り り り り り り り り	示しながら と と は は は 域 を の も も の も の る の も の る の も の る の も の る の る	さ、博物育にというというできます。これのでは、大きな、大きないできます。これのできません。これのできまましん。これのできません。これのできません。これのできません。これのできません。これのできません。これのできません。これのできままりのできません。これのできままりのできません。これのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできままりのできまれいいできままりのできまりのでき	
		博物館情報・メディア論	等につい! ける情報は 等を交え	て、ソフト リン基礎 サンディア で、博物館 て教授する	、面、ハー ě的能力をき で歴史とき なにおけるき	ド面ともに 養うことを 意義、博物! デジタル情!	理解し、博 ねらいとす 館活動と情 報発信の基	情報発信の課題 物館の情報提供 る。博物館にの報 報ネシネト化ト実 本を物館の知的	
	省令必修科目	博物館実習A (見学実習)	うてる定定接話のした りょう でんしょう こうしょう かしと かいした しき おいま といい かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん かい	ら、さまさ た知識を済 、学生が単 マ( 展示物 ポートを調	がまなは、はまないでは、はないでは、いまないでは、いまないでは、いまない。 いまないでは、いまないでは、いまない。 には、いまないでは、いまないでは、いまないでは、いまないでは、また、いまないでは、またいではでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいではいいでは、まいでは、まいではいいではいいでは	館を見学し を目めと る明と が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	、他の博物 る。 見 い る。 ど ち ら 終 子 資 料 れ た 博 物 館 れ た り れ た り れ た り れ た り れ た り れ た り れ た り れ た り れ た り れ た り れ れ た り れ れ た れ た	仕方を関するといしては を できる といり を できる を できる を できる	共同
博物館学芸員		博物館実習B (実務実習)	博物館に 資料の取 究の手法 が所蔵す 資料の取	関する科目 り扱いやい 等資料いいて る り扱いに関	の補足を    集・保管  学ぶに直接    する注意	兼ねて、学 ・展示・整 を目的とす 接触れるた	内の実習施理・分の実習施の実習を のの実質を ののででである。 のでである。 のでである。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 とい	習の準備と他の設等において、研習等には、調査的なは、博物館学内によいて、	共同
養成課程科目		博物館実習C (館園実習)	でに管一け前にを当まれている。	経理・う員習になるによっています。	とで、博物でといるという。 はいの できまる でいまま でいまま でいまま でいまま でいまま でいまる でいまる でい	物館の理念に 関係で 関係で 関係を 関係を 関係を でる でる でる でる でる でる でる でる でる でる でる でる でる	や設置目的 資料の取ま 動、来館者 責任感や社 とを目的と	を博物の現場等では 博物の現外ででは ででは ででは ででは ででは ででは ででは ででは	共同
		日本美術史	時代別に 基礎知識 工芸の美 通じて、 様なデザ	テーマを記 を得いない ではいなど、 でいなど、 でいなど、	を定し、日本 ことを 日本美術 「日本美術 日本美術	本美術史上的とする。 の歴史につい とみ出される の特徴、さ	の名品を軸 具体的には いて解説す た美、建築	開について、各 に、日本美術の 、絵画・彫刻・ る。この学びを や工芸にみる多 美意識に大きな 。	
	基礎選択必修科目	西洋文化史	概観し、 に 通 は し 、 古 、 古 、 古 、 古 、 古 、 古 、 古 、 古 、 古 、	一つの文( 、手紙、装 ヨーロッ/ 世界 (古代 世、その紹	との成長が も飾品や日で い各地の人 はギリシアこ も実としての	ら衰退まで 常の必需品 々の生活と 文化)から のルネサン	での経緯をたなどの多岐 などの多岐 と考え方を ヨーロッパ スまでを扱	イドをする 用しさ を 事 に で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で	
		日本文化史 I	に対するでする。すると、一大な目のと、一大はこれではまない。	価値観や個 する。具体 ぞれの時代 いても側面 本の文化や	国々の文化 本的には、 はにおける 前的に学習 で世界遺産	事象につい 古代から近 文化的特徴 する。なお	て基礎知識現代 現代いい は で は の 外が び 、 も 学 び 、 、 の り の い い い い い が り び り が り び り び り 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、	、日本人の文化 を修得すること 文化史を学びつと 察する。また風 評価されるさま 社会人として理	

		授	業	科	目	の	概	要	
(人間	総合	学群 人間文化学類)	1						T
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本文化史Ⅱ	文的め説芸お、世紀には映ると大きのは、一般にはいいます。	おける芸術 神楽歌語・ またに、 ともに、 またに、	と技芸の全歌語に大変のを歌語映している。とない。	体像を把握 舞伎などの などのさま 像や音楽の 、芸能文化	すること目 日本を代表 ざまな芸能 鑑賞を行い こついても	本体: でながらる。 大する。をは はする。をはで はする。をはで がとて演劇ついな古。 、伝統学ぶ、 になく にないなな。 、ののでは、 はないのでは、 ないのでは、 ないのでは、 はないのでは、 はないのでは、 ないのでは、 は	
		地域文化概論	人は痕て私暮の石が教ちしに	事らしに関 き物、え見い う見や は いま で ま が ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で	する知識を 、年中域文化 には登場し が形成され きな影響力	修得することなど、 など、 なにい ないい が が が が の と い を け い に い に の に の と の と の と の と の と う る こ る し る し る し る し る し る て り る て り る て り る て り る て り る て り る て り る て り る て り る て り る と り る と り と り と り と り と り と り と り と	とを目的と に残する。 解人々習する。 を寺社を たちる。	で営まれてきたする。具体的にする。具体的に人々の学びを通りできる。 しいさらにえてくて でいてて でいていて	
博物館	基	世界遺産研究	える責利 ユネスコ 遺産の和 に、DVD	客を負う人 コ総会で採 重類、登録 で登録され	類共通の財 択された世 の基準と手	産である世 界遺産条約 続きなど基 遺産を鑑賞	界遺産につ に記されて 本的な理解 (する。また	きぎ、未来へと伝いて、1972年にいる定義、世界 といるに義、世界 を深めるととも に、「危機遺産」 5。	
50字芸員養成課程科目	<b>基礎選択必修科目</b>		収の選品ををいまれる。	e中心に、 を解説する。 その文化 り、問題点 ジアムの特	ビデオやス。 。次に、収 。次に、収 的価値につい を探る。最終 徴を学び、 の文化と歴 り	ライド等の映	映像資料を多りよく知られた。 会討を加え、 全文化資源と との成立過程	対立過程とその 多用して、各額 におきない は一般では では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	
		世界のミュージアム	海外にま を述べる (26 羽鳥	らけるミュ る。 鳥修/5回)		受割について	てそれぞれの	共同) )立場から概要	オムニバス方式 共同(一部)
			(28 糟名 ドイツ、 (27 加萠	が惠次/5回 オースト 豪ナツ子/	回) リアの主要が	なミュージフ	アムを紹介す	ける。	
		日本のミュージアム	の昭の第二の知識の知識の知識の知識の知識の知識の知識の知識の知識の知識の知識の知識の知識の	品を中心に 寺徴を解説 び、その価 ミュージア	、ビデオや する。次に 近値について ムが現在抱 々の館の垣	スライド等 、収蔵品の 「検討を加 <i>"</i> える問題を	の映像資料 中からよく え、その魅 取り上げ、	の成立過程とそ を多用して、そ 知られた作品を 力を探る。 さら 解決策を考察す ムを巡る観光ツ	

( L 884	<b>松</b> 今 ÷	授 学群 人間文化学類)	 業	科	目	<b></b>	概	要	
科目区分		学研 入间又化学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
	基礎選択	西洋美術の旅 I	16世紀パ 等によっ の鑑賞等 を彫刻る 依頼者と	レネサンス って概観した きをおこの個性 こ確執を明し	までの西洋 ながらとになる ないとに求し ないにする	美術の流れ 時代と各地 って、西洋 ながら、一	を多くのス の特徴を提 美の作品の は西洋美術	、ゴシックから ライドやビデル える。また作品 的な特質と画家 背後にに動なれた の基本的な知識	
	必修科目	西洋美術の旅Ⅱ	て概観し 対比探求 相違 表 成 と キョ	ながら、1 つて、西洋 る。対象。 8世紀ロココ 対比、19†	各時代と各 羊美術の様 とするのは コ様式、18 世紀後半か	地の特徴を 式的な特質 、バロック 世紀後半か らの印象主	捉える。ま と画家や彫 様式と17世 らの新古典 義とそれ以	やだないないでは、大きないいでは、大きないでは、大きないいでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	
		日本の文化財 I	て概説しする。具がらして	、日本のこ は体的には、 日本の近代化 こきた役割。	文化財に関 近代以降 化と文化財 や、日本の	する基礎知 の欧米社会 保護の歩み	識を修得す との関わり について学 化財の特質	な文化財についることを目的と を視野に入れな習し、博物館の を考察し、文化	
博物館学芸員		日本の文化財Ⅱ	知識を消化を消化を変われる。 知識を はままる はままる はままる はいま いっぱい はいい はいい はい	そめることで された文化 所工芸品) 花的建造物種 とび、近年2	を目的とす 財の概要と ・無形文化 详保存地区 主目されて	る。具体的 、日本を作 公財・民俗プ ・選定保存	には、文化 大表する有 文化財・記 技術・埋蔵 産、世界無	文化財に関するっ 財保護法にまま 意物・財保を を物・財で が 文文文 で で で で で で で で で で で で で で で で	
養成課程科目	専攻選択	歷史資料論	し、その 目的とす 記録等の 文書等の なお必要	)読解、調 つる。具体的 う文献資料、 )原本史料の ででででである。 であるでである。 であるでは、 である。 である。 である。 である。 である。 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	査、整理を 的には、 と図、考 の読解方法 、学外の関	行うための: 代から近代 古資料等の: 、調査・整:	基礎知識を までの代表 概要を学び 理方法につ 料館に行き	料について概とを的いて概を的な古文書、いて本は以下のでは、いて学本史料をのい、「う。	
	必修科目	民俗資料論	ついて する を 対 を 内 た 民 係 た 民 た に る た れ た る た ろ た ろ た ろ た ろ た ろ た ろ た ろ た ろ た ろ	既説し、その を目的と 留・伝説・付 で な で な で と で と で と で と で き で き で き で う と う と う と う と う と う と う と う と う と う	の読解、 計解、具体 ででででいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 で	査、整理を 的には、地 ・民具等の 城市および	行うための 域文化を理 民俗資料に その周辺地 ら、これら	形の民俗資料に基礎知識を修得得解するために有のいて解説し、「域に伝承されて、」の収集・調査・	
		歷史考古学	し、こと関近という。	「学を通史的と目的と目的として での世から での歴 での歴 での歴	的に見据える。具体的 る近代まで 安研究にま 研究だけで	る視点を養 には、城郭 の考古学の らける考古学 なく、民俗	うための基 、宗教、交 成果につい 学の可能性 学をはじめ	の視点から概説 一般知識を修得単 一の視点を 一で 一般知識を 一般知識 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般	
		歷史地理学	く、地域修得地域 史的 収 対観の可	は的特徴もそ ることを目 はの産業とく な体的な歴 び能性につい	見野に入れ 的とする。 くしにしる としに地域 となる となる となる となる となる となる となる となる となる となる	見据える視 具体的にに いて、それ 像について	点を養うた は、衣食住 を支える人 学習し、新 びを通じて	的特徴だけでな めの基礎知でなを の世界だけて、、 々を含め東観、 たな歴域から 、 後 り で り り り り り り り り り り り り り り り り り	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(人間紀	総合与	学群 人間文化学類)							
科目区分		授業科目の名	称		計	<b>素</b> 等の内容			備考
博物館学芸員	専攻選択	文化交流史 I	察する の日本 ながら その特 作られ	ことを目的 と諸外国と 主体的について できた日本	とする。 よする。 多 の 交 に な 会 習 す る 。 ま 文 に れ る の ま ま の を と す る の ま も も も も も も も も も も も も も	k体的には、 例を取り上 的背景や意 この学びを	縄文時代か げ、海外文 義について 通じて、国	D歴史的特質を いるでは いるで の で で の で の で の で の で の の で の の で の の で の の の の な り の り り り り り り り り り り り り り	きで でし 圏と *形
養成課程科目	必修科目	文化交流史Ⅱ	察する での日 しなが とその 形作ら	ことを目的 本と諸外国 ら主体的に 特徴につい	とする。具 との交流の 受容した社 て学習する 本文化の意	体的には、 )歴史を振り 会的背景や 。この学び 義、日本文	平安・鎌倉返り、海外意義につい を通じて、	D歴史的特質を は時代から幕系 文化を取捨る 文の歴史的 国際交流の中 はらどのように	₹ま 軽択 変 <b>遷</b> コで

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合者しくは届出を行おうとする場合は、この書 類を作成する必要はない。

		授	業	科	目	の	概	要	
()	間総合	学群 観光文化学類)							
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
	初年次教	基礎ゼミI	習識を姿というの	を学ぶ。受 で養うな養 をような見 を発見す	け身の態度 参加し、さ 人数クラス 学生活を過	で講義に臨 まで対 まな対 が する。 また	むのではな 題に対して 通じて学生ひ 、本の読み	めの基礎的な学意 く、、的問題 主体的にを 主体でなにと がなとり がとり が 、 講義の聞き 、。	
	教育科目	基礎ゼミⅡ	の技術伝える識を深めたって	と姿勢を養ためるというというというというというというというというというというというというというと	う。自分で の習熟を目 目標とする。 の積極的な	調べ、それん に で い き 見 を し た に た り た に た り た り た り た り た り た り た り	らを整理し に、自己に 基本的に、 よって進め	充実させるために 実させるを確に を表すて理解と主体 を加い学生のは をいい学とので がして、大学で	
人間総合学群		仏教学 I	マ基ド史る来でよる。	ッダの生涯 な知識をする じ物として たこれらに 年中行事の	とその教え とろく修得の歴 アジータマ 基づいて現 文化的事象	を知り、仏 ることを文化 を文化・グの でに継承されても	教学および 的背とは を り を は と と と と と と と と と と と る き き と と き き と る き き き と き き と き き と る き る る る る	の開祖、 ゴータ 宗教学に関するン 実体のがい解するン またない、仏教に もので、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
教養教育科目	建学の精神	仏教学Ⅱ	禅師知は おけまった 事の もない、	生涯とそのを とそく基 とろにえない はこれない はいがる はいがる はいがる	教得きらいまない。教育を知るを知るのでは、、をはいるのでは、、をはいるのでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	、仏教学と を代のに継の ををを を を を を を を と さ と さ と と と と れ と さ と れ と と と と と と と	よび宗教学 で、具体本の はの は が は が は が は が は が で が る で の に の に の に の に る で り る で り る で り る で り る で り る で り る で り る で り る り る	宗の開祖、道元 に関する基本的にはは仏教学Iには仏教・文化的・ 歴史的・選と思的 師の単宗の生宗と思的 でない。 に法も身につけ	
	を学ぶ科目	仏教学Ⅲ	史とそ修り 学ふ現代 思想 である。	の教えをといるをなるというないできる。またいできないできないできないできないできないできないできないできないできないできな	り、仏教学 を目的とす 倉時代を中 本仏教行事や 仏教行事や	および宗教の心ははいいないはいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	学に関する には仏教学 本にの歴いい い事のでいいさい の生禅堂に	て日本仏教の歴 教・Ⅱにお書い ・文化的背景を ・文化する。 ・文化する。 概説は は で と で で 2回程度 の と で に さ り に さ り に さ り で り さ り さ り る り る り る り る り る り る り る を り る り る り	
		仏教学IV	の得びな代思 は は は に が に 想 に が に 想 に れ に が に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ	を知り、ほとさが、ほときでない。日日とは一年では、ままでは、ままれてもでいます。	教学および とする。 と神宗文化 曹洞宗の歴 教行事や禅	宗教学に関 体的には仏 に関する歴 史上の人物 宗の文化的 お照心館の	する教養・I 教学 I・エ サウン サウン サンフ サンフ は で は で り い で り の り で り の り り り り り り り り り り り り り	で 単の歴 ・知識に をひろろる。 ・的背景を。また ・的背景の。 が記さ には での ・の での ・の での での での でい の でい でい の でい でい の でい でい の でい でい の でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい	

			 業	科	目	の	概	————— 要	
()	【間総合	学群 観光文化学類)	ı						
	科目 区分	授業科目の名称			計	義等の内容			備考
人間総合学群 教養教育科目	建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	育イ ( )建てど (駒会う (駒の図 (創な本 (前近駒う (4)駒このデ オ 8 学、に 18 沢と。 26 沢内る 14 立がの 32 半隣沢。 18 沢れ特ン ム のテつ 女摂 女容。 者ら様 はの学学 石女まで	色テ ニ 光情一い 佐子心 千子、 安、山子 皆稲高園園 佐川子でなイ バ 田神ラて 々大会 葉大解 藤山上も 川城勝の内 々創大のをィ 方 良ふメ講 俊の誕 慈のな 則曹生介 孝自、み施 俊4の修学一 式 /まイ義 道14生 /歩ど /源のす /然三を設 道))学の	ぶを / 回えドを /と記 回みに 20先教る 40と沢草や ・ 生こ確 全 15 駒育う )して、 一下で、 一切にさ 回 アス・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	oo 子ッ 学と 交講 とて 成教戦く 公 アグアストラー 大シ 燈と きを 有義 文す、と ・ デー を	マート で	まさ生 ででで でで でで で で で で で で で で で で で で で で	オムニバス方式 共同 (一部)
	入門	日本文化入門 I	ついて、 欠な教 た、日 につい も学習	、広く基礎 を学習や 常生活やしい ない。この	知識を習得る。 る。具体的 の周辺にこれ で り で が を が を が を が で が し に こ の に こ の に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	し、日本文 には、日本日 はる身近な うを育んで て、日本文	化の専門的 文化を生み 文化事象本 た日よめら 化にこめら	たる日本文化に 学習に必要不可 出す土壌とない ある精神につい、 の精神に が れた 意身に つけ を り に り り り り り り り り り り り り り り り り り	共同
	科目	日本文化入門Ⅱ	ついて、 欠な教 儀礼・ についす	、広く基礎 広く学習と 芸能は に ながいし、 に の の に の の に の の に の の に の の に の の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 。 に る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	知識を習得 る。具体的 文化を生み そこに で を通じて	し、日本自 には、 は、 は、 は は は は は は は た は 、 は と は 、 は と り た り た り た り た り た り た り た り た り た り	ん の 中 に 神 に た 、 た 、 た 、 と た 、 と た 、 と た 、 た 、 た 、 た	たる日本文化に 学習にし、祭祀・ 見出し、祭祀風土 本の歴史にと、現代 ・身につける。 ・身につける。	共同

	授業科目の概要 (人間総合学群 観光文化学類)									
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考	
		人間関係入門 I	の理再を紹む ( 心る (社る (24 田))	ニ会反学。目 バ 支視 恵視 一条のでは、 大 変座 住と デーン・対野す 式 15 研 一条の で 15 研 一条の 15 研 ー系の 15 研	ョンに対し、 体を 体を を を を を を を を を を を を を を	て、人文科学 メディ研究 文学を提供する でれの対力になっ いて研究事 いて研究事	全・社会学院 という という という という という という かん	、人びとどうしん 学の諸学問は、 会論など間に関スののな理解をつか しながら解説す しながら解説す をえながら解説す	オムニバス方式	
人間総合学群 教養教育科	入門科目	人間関係入門Ⅲ	(心理かられた) (心理のでは、 (心理のでは、 (ではないではないでは、 (ではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	:、身体文化 注生を分野・手 標とする。 /全15回) /5回) :と研究対象( /5回) :と研究対象( /5)	論、メディフ 、それぞれの 生の特徴と鬼 こついて研タ こついて研タ	で研究、国 )学的アプト 生力につい で事例を紹	関連する諸学問際社会論など)で一手のながら解説 介しながら解説 かしながら解説 しながら解説 しながら解説		
皿		英語コミュニケーション入門 I	語成ンン表し、おり、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	力を養う 1人の確 1人の確 で で で で で で で の て に の て の て の て の て の に の に の に の に の	とともに、 語ネイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2) 果を高める	振り返りを行数の 数員が少人と ション最音と の日本人教 ための指導を	示い、自律 関グルキー 自力 は は は は は は は は は は は は は は は は は は	し、基礎的な英育 かとでは、基礎的な英育。 かとででは、 かったででは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	共同	
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	(礎成ンン表し、 大の なるマンの個 はんこく こうしゃ しょう しょう しょう しょう しょう はんしょう はんしゃ はんしょう はんしょ はんしょ はんしょ はんしょく はんしょ はんしょ はんしょ はんしょく はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ はんしゃ	語運用能 1人のマン 1人の確認気ン の学習効 の学習効	力を養う。 語ネイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2 以来を高める	版り返りを追数のを追数のでは 教員が少人と かままるとした。 の日本人教 ための指導を	通し、自律 関グルキー 自然に内では は は は は で が に が の に が に が に が に の に の に の に の に の	活動を行い、基 的学習能セーシー カンバやモーシー アカード、発音の 東聴し、 再導時間を設 指 生は授業 と と は と は と に で の で の で の で の で の で の で の で の で の で	共同	
		観光文化入門 I	がままれる を はまい いま を 変 を き で の ま で ま で ま で ま で ま で き で き き き き で う を き き き き き き き き き き き き き き き き き き	、生活の まくな、 現在、 での 、 での 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	豊かさが求 ていくと思 光が国の経 る。この授 して成長し	められる中で われる。また 済や文化、観光 た観光に関れ	<ul><li>ご、観光の</li><li>二、「観光</li><li>国民の生活</li><li>立の基本的</li></ul>	今後高齢化社会 果たす役割はま 立国」が推進さ にもたらす効果 考え、項を広くく の課題を正しく		

				業	科	B	の	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			≘#	義等の内容			備考
			観光文化入門Ⅱ	い	側意様観媒察中で・な事・るに行効活業観。、	われる活動 果を高めいる と 動の ま う と を と と を と 、 も と を と を と を と を と を と を と を と を と を と	かを含む、 観光を持い 観念し、 のは を 変業を を を の を 変えを の を の を の を の を の を の の を が の の の の の の の の の の の の の	観光に関わ 社会的る。 で構から 素から観光 る旅行・ な	高など公共性の高高など公共性の、 る事を発をにした。 記載をあるのは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
			心理学入門 I	し進める 問題の を を と で と で 、 を と の に 、 を と の に 、 の に 、 う に う 、 う た う た う に う う に う た う た う に う た う た う	基礎心理 決や改は 業にはと は、情動と	学と、基礎 に寄与する 者を柱とし こころを理	心理学の知 ことを目指 た授業を行 と解するたる を を と を と を と を と を を を を を を を を を を	見を活かし  す応用心理  う。心理学 めの感覚・	は法則の探求を推 て現実生活上の とでは大別される との覚えな過程とい 知覚、学習、通じ 。 それらを通じ	
	<i>フ</i> ド 利	月 斗	心理学入門Ⅱ	生活の中 法・産業 ら解説す 究領域は	でどのよ などの領 るととも 学際的で	うに生かさ 域に焦点を に適宜レポ	れているの 当てる。出 ートを課し する他の学	か、教育・  来る限り    ていく。ま  問との相互	で、心理学が社会 医療・福祉・司 体例を交えなが た、心理学の研 ご連携が不可欠で する。	
人間総合学群 **			住空間デザイン入門 I	い、建築 ルー た、自分 で、自分	・インテ ~にデザイ :会や共同	リアからも ンする「リ 作業などの 表現する力	のづくり (   ビングデ <sup>・</sup> 実践の場を	(家具、陶器 ザイン」に ·通してデサ	本的な知識を養 素、織物)までを っいて学ぶ。ま 「インの基礎を学 比判する力を身に	
教養教育科目			住空間デザイン入門Ⅱ	づくり ( ングデザ 会や共同	家具、陶 イン」など 作業現する	器、織物) ついて幅広 の実践の場	までをトー く客観的な を通してデ	タルにデサ 視点から学 ザインの基	νテリアからもの "インする「リビ 生ぶ。また、見学 E礎を学び、自分 1を身につけるこ	#.同
			人間と思想 I	かを考察 原始キリ んだ学説 を行う。	するとかきれることかを材をする。	が本授業の ら中世ルネ 使って、現 料として西	目的である サンスまで 代的な問題 洋哲学を歴	。ギリシア の哲学的知 についての 史的に学び	のようなものなので、 なヘレニズム、 コ職を紹介し、学 の考察、演習問題が、かつ現代社会 でいなることを	
	養知科	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅱ	存在とし関的、の関連との連	て考えら 大的なで 実践を活	れてきたか ーマにる方 用してるて、現 間について	ということ てもとりあ を講義する 代社会にお	を考察する げて、知識 。哲学史を ける様々な	、間はどのような 。。倫理や道徳に 成を増やし、哲学 ・覚えるだけでな ・事象や社会問題 ・ができるように	
			人間と文化 I	考察を深 文化を発 はお どろ 語、 思想	める。 展させて くほど共 、 教育、	本は古来よ きた。外国 通した特徴	り諸外国か から移入さ がみられる 交通などを	らの文化を れた文化の 。このよう 取り上げ、	○日本人について ・受容し、独自の ・変容のパターン な観点から、言 近代日本におけ いく。	

, .	884	<b>∿</b> ♪ -	授	業	———— 科	目	<b>0</b>	概	要	
	科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			2#	義等の内容			備考
			人間と文化Ⅱ	人や日 は、198 移入と ら、現	本文化の特 53年に放送 の関わりな 在に至るま	徴について がはじまっ こしには語る での日本人	考察を深め たテレビを ることができ	る。1945年 中心とした きない。こ について、	京大戦以降の日本 以降の日本文化 アメリカ文化の のような観点か 戦後の日本や日	
			生命の科学	物とい で ら を す る の 到達	う。生命の な機能を進 解する上で 生命科学の 目標として、	連続は細胞 化させた。 必要となる 基礎知識を	を進化させ、 本講義は生 基礎的な知 身につける よの範囲で生	、単純な形 命科学の最 識を学習し ことを目標	する。これを生態からより複雑新の話題とそれ、加速度的に進 、加速度の最低限でする。理解で	
			倫理学	る。具の現代の場合の現代の表記では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	体的には、 展開、科学 終末期医療 紹介する。 を身につけ	倫理学の歴 と倫理、科 に は い は い い い の 学 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	史、自由の学の中立性 厳などの諸  修を通じて	価値、功利 、科学技術 問題につい 、平等や正 どのような	テーマを考察す  主義、倫理学の と倫理、医療と で、事例をあげ 義に関する哲学 となのかを学 とい。	
人間総合学群	養	人間を学	人権の基礎	間権の権の権要概略を	厳』という れらがどの な問題性を 表といて理解 で解するこ	観念、これ ひようにして 孕んでいる 再確認こと、 ひこれ	を具体化す で形成され、 かを、ささと の の 人権獲得	るための力 どまないな観点 はの歴史と を保障の を保障の実	ある」とする『人 方法としての「人 た内容を持ち、 たから検討し、 がその保障等の 種人権 現について 標とする。	
教養教育科目	科目	子ぶ科目	女性の人権	すればされてきだい。これできれていますが、これでは、いかいは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	女性の人権 た原因の把 けでなく、 で、なぜ女 の原因を理	が握権性解いた。	るかを、女 除という視 点をも取り 女性の人権	性の人権が 点から解説 入れていく 上げられな が充分に保	検討し、いかに はないがしるに際、 はなる。その際の議 はればならない にすることを はならないに できない にすることを	
			心理学 I	を行うな様とをしい。	学問である 研究を紹介 大非常に無 身ともに発	。この授業 し、心理学 とする。 力な状態で 達し大人に	きでは、これ の基礎的な 理学 I では 誕生した赤	いまで積み 知識と考え 、主にんが ちゃんを理解	についての研究 重ねられてきた 方を身に付ける の発達について のような経験を し、自分のこと	
			心理学Ⅱ	を 様こた 団活で 誰	学問である 研究を紹目で おかかかい がかが体験 である	。この授業 し、心理学 とする。ム カニズ てどがん ることがん	では、これの基礎的なが 理学Ⅱでは ついて説明 ようなこと	いまで積み、 知識と考え、 知覚を 知りまる いない いように のように のように のように のように のように のよい のように のように のように のように のように のように のように のように	についたの研究 重力を身にではいる 方を身習といびできたる で、他のか、は常生 で、これでいるの で、これでいるで、これで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これでいるで、これで、これでいるで、これでいるで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これ	
			生涯学習論 I	的、 歴 に と し 意 る 、 る 。	史「含や生生生学 を学まりの を学まり をでれる とでなる とでである。 という という という という という という という という という という	論、生涯学ける 生と本、 し、 と本、 し、 し、 と を と を と を と を と を と を と を と を と る 。 し 、 る る る る る る る と る る る る と る る る る る と る る と る る と る る と る る る と る と る と る と る と る と る と る と る と る と る と る と る と と る と と と る と	習の内容や ではおける支 における支 と 展開)を 理論を理解	方法を概説 「達者を概説 学目標の・説 でいい。 がいし割明る	学習の意義や目ける。生涯学習のままではいけないはないはないではでいた。 では、①生涯学習では、①生涯学習であることできることができる、以上の4点にある。	

				業	科	目	<i>o</i>	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			生涯学習論Ⅱ	や必としのりまして取り生	<ul><li>・職員の役割</li><li>基礎技能を付り</li><li>企り</li><li>基礎技能を付け</li><li>基礎技能を付け</li><li>基礎技能を付け</li><li>基礎技能を付け</li><li>を理算</li><li>を理算</li></ul>	割についる と で で で で で で で で で で で で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	概説し、生 とを目指す。 目的を理解 ②生涯学習 ることがで	涯学習支援 と生する をきるができるができるがきる。 できるがきる。	習に関する制度での担い手と違目をの担い手と違目を変して悪と変して悪と変して、社会進出では、全進とでは、全がである。	
		人間を学ぶ科目	社会福祉概論 I	でとら祉度理やでとら祉度ではし現、的解背景では、	まず社会福行ギリスやででる。 ででででは、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	社論の基本アメルを のが の齢の は、 で が は で が は に で に る に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ	的視点を紹か 中心に学び、 すさえる。 そ といった個別 いて取り上い 社の諸現象に 社の諸現象に	介し、次に 、 し、本に かる。 で がる。 で が る に が る に と で 、 が る 。 と で 、 が に が に が に が に が に が に が に が に が に が	学習する。授習する。授習する。授習する。のでは、 学習をは、ないて、 は、いいのでは、 は、いいのでは、 は、 は、 は、 に、 は、 に、 は、 に、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	
			社会福祉概論Ⅱ	クの実際では クログ 理 ( ) 接助技術	祭として、 る。授業後 別援助技術 の具体的 病に関する	社会福祉の 半では、各 (ケースワ な事例に取 知識や技術	実施体制や 自がソーシ ーク)おより 組み、発	社会福祉援 ャルワーカ び集団援助 表と討議を 社会福祉援	ソーシャルワー 助技術について 一の立場に一ついて ・技術(グループ 行う。社会福祉 助活動に活用で	
人間総合学群	教養知		日本の歴史	開、社会国と関係の変遷を	会や文化の特別とする。 対とする。 竟などの特別 本の文化的特別 を総合的に打	特色、国際 具体のいい 色徴にいい 特握し、考	関係に関す、 、各時代のi 、歴史資料 て学習する。	る基礎的知 政治、経済 や先行研究 の思考力を の思考力を	国家の形成と展 識を修得するこ 、社会、、て解説 に基づいて、現代社 修得し、現代社	
教養教育科目	科目	+	世界の歴史	「権利」 びつける に権利を が持つ	と、それら ながら学習っ 対立する を獲得したの 「権利」を	らを獲得する をこれで と と と と と と と と と と と 、 こ 、 と 、 こ 、 こ 、	るために行え、受講生の! 、そして国! 疑問を考える	われた様々 思考能力を 家のととい なこといい ないと	えていなになる様々ななではない。 なではないがいないがいがいないがいがいがいがいがいがいがいがいでいる。 ないいいではないがいないが、これでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	
		文化と歴史を学ぶ科目	戦争と平和の歴史I	のなが、 界大 19† も 考方法	か?この問いまでの国際 までの国際 世紀後半に ける。国際 を身につけ	ハに対する 関係を分析 国際社会で 関係史の基 ることが目	答えを求め する。欧米 頭角を現す 礎的知識の 的である。「	て、19世紀 その国際関 ようになっ 習得、さら 映像資料を	避けらいないといい。 選けらの第二次に にないといい。 には には には には には には には には には には	
		П	戦争と平和の歴史Ⅱ	の冷アカしのだり、つつに	か?この問い終結までの ヨロッパ 東、アフリン 現代史の けることが	ハに対する 対関際 はも世界 基礎的 まめである	答えを求める分析するに、アジア、俯瞰し、現るの習得、さ	て、第二次 。 アメアニ オセア形 在進行会 を 多用し、	避けられないかもられないかもられて、、際問題考方と、 一次ので国際のでは、 で国学のでは、 で国学のでは、 で国学のでは、 で国学のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
			西洋文化史	概観し、は日は、日は、日は、日は、日は、日は、日は、日は、日は、日は、日は、日は、日は	一つの文 記、手紙、 ヨーロッ 弋世界(古1 中世、その紀	化の成長が 装飾品や日 パ各地の人 代ギリシア 結実として	ら衰退まで 常の必需品 々の生活と 文化)から のルネサン	での経緯を などの多岐 さ考え方を ヨーロッパ スまでを扱	イドを多の。ことを 研究するモノを にわたるモノ義 知る。本講義を 文化の 西洋文化の ことを は、ことを と、ことを は、ことを は、ことを は、ことを と と と と と と と と と と と と と と と と と と	

			授	業	科	B	<i>o</i>	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			日本美術史	時代別に 基礎知言 工芸の言 通じて、 様なデサ	こテーマを 戦を傷を 信仰・ ドインなど	設定し、日 ることを目 に日本美術 種儀式から	本美術史上 的とする。 の歴史につ 生み出され の特徴、さ	の名品を  具体的に  に  は  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に	展開について、各 油に、日本美術の t、絵画・彫刻・ - る。この学びを を で、工芸にみる多 ・ 美意識に大きな 5。	
			比較文化	たらに当時における。	の「衝撃と 関することを なるこうない、メリカンスの であるとの である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	憧憬と葛崩 界の中の日 目的とする ルトガルと 時代のオラ	を を、歴史 。16世紀後 スペインの ンダの実用	く、第一次 的にも、空 半から17世 南蛮文化と 学への憧れ	て化に初めて接し 資料を読むを主なが に間的にも、安土確 に同初頭の安土地 の衝撃的な出会 と探求、明治対 いた状判的な交流	
		文	日本の文化	いりし人の行為を利	日本で生ま 常生活仏と おないに で 教 と き 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	れ育った者 選し無意識 は、禅から派 拶のような られた心を	だは誰でもお はに文化とし 生にしこ 性 無解し、自 は は は は は は は は は は は と は は は は は は は	検拶と言う と言う となりに付 であること に付いてい に、無意	て化を中心にみて 主葉をいる。 はない。 は、日本人の日常の は、日本人のでいる が、 が、 が、 が、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
人間総合学群	教養知	义化と歴史を学ぶ科目	観光地理 (日本)	特産物がので、どのでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	などについ できるよ ・チャンく。 る。また、	て幅広く学 う知識を高 旅行を意識 「旅行業務	ぶことによ める。 地 り な が り 理 者 上 げ た 観 光	り、「旅行 と現地の映 光資源の特 」の資格を 資源の所在	での文化・風物、 「」に対して東門 上像などを利用し き徴、位置関係な でである では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
教養教育科目	和科目	I	観光地理 (世界)	史・文化知識を見る と地形、	と・習慣な すに付ける こ向けての けることも	どを学び、 家で を学び を が に を と 立 ち の 成 り 立 ち ち き ち ろ り ち り ち り ち り ち り ち り ち り ち り ち り ち	国際人とし 務取扱管理 学ぶ。また ので、講義	てのしっか 者」の資格 、世界遺産 の対象とな	・な観光資源や歴 いな観光資幅広い を得るための国 を得るや地理検定 でかた各国の位置 でかた資産を合わ	
			日本の文学	に 記 と ボ い に が に に が に る た れ に る た れ に る た れ に る に た に れ に る に れ に る に れ に る に れ に れ に る に れ に に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に に れ に に れ に に れ に に に に に に に に に に に に に	道化の華」 説の読み方 大宰の小説 学研究の基 こで、小説	を読み、そのテクターのでは、テクターででは、でののでは、、このでは、いまないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	れぞれの作 アプローチ 分析を通し けることを りについて	家について の仕方につ て、単なる 目的と かと 強自の 論点	無いいます。 短編基礎講会は にはいなする。な想は はいなずる。なは はない感想を はないできる。な はいできるように はいいできるように はいいできるように はいいできるように	
			ヨーロッパの文学	代にない。『アンドル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5 外国文学 中世の文学 ウンタジュー ナンスト』 マンパの個々	:のテーマと :である『、 一物語』、 「エット』、 グリム童話	その問題性 ーサーテの『 ゲーテの 、カフカ『 を通史的に	を 歴 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	下のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 な、 な、 な、 な、 な、 な、 な、 な、 な、 な	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	交代に る。私 る。 る。 と一緒	スポットラ 幸の日常生 台に対する ただ希望の こ考えると	イトを当て E活は、様々 無関心は、 持てる日本	ながら探る な局面で呼 政治家任せ にする為に 生として知	ことが、本 女治と密接 の生活を送 、今何をす	歳員、官僚、政権 は講義の目標であ に結びついてい さることにつなが べきか事問題力を さき時事問題力を	

( )		公人市	授学群(観光文化学類)	業	科	目	<b>o</b>	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			世界の政治	るのが される か。日 本政治	この講義の 場合が多々 本が「異質 の特徴や日	目標である ある。なぜ な国家」と 本国憲法の	。国際社会 日本は世界 思われる構	で日本は異 から「異質 造を、国際 証する。ま	ポジションを探 質な国家とみなの 政治における日 た、1 でいく。	
			政治と市民参加	権なった議の大利ので	選挙権、レ いの会みを通じる することを することを	ファレンダ 講義 は、 一般 と 一般 とする	ム) を通じ 挙権や被選 ファレンダ による政治	て様々な政 挙権の歴史 ム (国民投 参加を 選挙権の意	る参政権 (選挙と 治参変権の明会や 所変と住民を 関係と は と と と と と と と と と と と と と と と と と と	
			日本の経済	する。 ニュは、 デフレ、 経済の	それにより スが理解で 実際の新聞 、GDP、失業 動きを学び	、新聞や染 きるように 記事や雑誌 率等の基本 、経済全般	iii 起 能 記事、ニュー に の経済用語	事を読む 最低限の目 ースを題材 や現在の日 知識を修得	般について教育を 素養とする。 で、まなのフレスを をした、 をで、 をで、 をで、 をで、 をで、 をで、 をで、 をで、 をで、 をで	
人間総合学群	教養知	社会と自然	世界の経済	視さは源さてが経れない	語ることは まな問題は 済の基礎理 仕組みを理	できない状論や基礎とというできない。	況になってい と連動した! 識を身に付い を目的とする	いる。政治 動きを見せ けたうえで る。さらに	外との関係を無 も含めた社会の ている。本講義 、世界経済の根 は、世界在世界で起 導くための考え	
教養教育科目	目	を学ぶ科目	新聞と報道	である。社会報道に対するので	。具体的に 会問題報道、 分類し、そ 一能力を養	は、記事の 、事件・事 れぞれの文 う。そこに 動的に理解	内容を、政済 対報道、生活 脈の理解の付 書いている。	怡報道、経 報道、スポ 仕方を学ぶ ことをただ	が本授業の目的済報道、国際報道、国際報道、国際報道とで新聞のリこと動的に受け取解釈する能力を	
			グローバル共生論	的はでは、記述には、記述には、記述には、記述には、記述には、記述には、記述には、記述に	は近年活発 去最高を記 私たちの周 語、宗教な 考察し、グ	になってい 録し、今後 りの「多づ どを有する ローバルな	vる。海外で も増加する。 で化」化に目 人々とのコ	で仕事や生活 ことが見込  を向けな:  シュニケー  お多文化	国境を越えた人 活をする日本授業 まれる。本授文 から、異なる状と ションの現状と との共生のあり	
			法学	んでいる。 何か」 る。新 ための	くための手 くだ業では ということ 聞やテレビ きっかけを	段であるだ 、近代以降 をていねい を れ 会 し の 社 会 問 題 に い れ と の 社 く の れ と の れ り れ り し 、 り 、 り 、 し 、 し 、 し 、 り 、 り 、 り 、 り	が、時に私た の市民社会( に伝えてい などについ	たちの生活 のあり かあり が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	会をよりよく営を厳しく制限とははない。 おまえ 「法とはす お紹介すに考えるがずにでる未解 がってて未解、	
			法と社会	各種なとは司はることは	格取得や卒 分立と考いうと 料かい意義と との意義と	業後に向け 基本の政 現 員制 員 制 員 を 考 窓 の 変 の の 度 の の 度 の の 度 の の 度 の の の の 度 の	た社会人力のえを確認したを立憲民主実践に触れ、する。日本	の育成を目 た後、立 主義に照生 主市基本法 国の基本法	得することで、 指す。国民主を 国民で と行みがでする。 を おいに を おいて と た と で と で と で と で と で と で と で が に で り に り に り に り る に り と り に り と り に り に り に り と し と し と で ま り る と で ま と で よ と で よ と た と た と と と た と と と と と と と と と と と	

	884	<b>~^</b>	授	 業	———— 科	目	の	概	要	
	科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			詩	義等の内容			備考
			日本国憲法 I	業では、 史的に和 理解を記 役割を記	第二次世 検証する。 主義」といく ないく、 ないく、異	界大戦後に その上で、 う3つの柱に 。日本国に なる意見を	定められた 「基本的人 こついて、急 おける基本	憲法の基本 権の尊重 がずに具体 去である「 筋道を立て	意味する。本授的な仕組みを歴」「国民主権」「例を踏まえつつ日本国憲法」のて未解決の社会	
			日本国憲法Ⅱ	人の政治にている。	りの 国民 大 の あ び 、 。 な よ る る る る る る る る る る る る る	人格の担い 定めている 憲法をめぐ 国における	手として尊重。こでででいる。 こでででででいる。 こででである。 を を でしている。 こでできる。 こででできる。 こでできる。 こでできる。 こでできる。 こでできる。 こででもできる。 こでできる。 こででもできる。 こででも。 こでをも。 こでをも。 こでをも。 こでをも。 こでを こでをも。 こでをも。 こでを こでを こでを こでを こでを こで こでを こでを こでを こでを	重するため では、国家 れている問 る「日本国	制定された。一に、憲法は国家統治の仕組みを題点について制憲法、制憲法、制定の批判を制度を対象を制度を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	
			社会学 I	為とが、会の政治という。	己、社会を たいなな といる との との との との との との との との との との との との との	序と権力、 ・取りとはましいる おったななない。 を を を を を を を を を を を を を を と と と と と	組織とネットのは、理論では、できるでは、理論では、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	トワーク、講覧 かいての講覧 かいていていいでいい。 からないではいい。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではないではないではないではないではないではないではないではないではないでは	は何か、再生ない、相互産、ない、再生ない、再生ないと中心と呼ばれることは、といいない。といい、は、といい、に、ととする。	
人間総合学群	教養知	社会と自然	社会学Ⅱ	な社会ま デは、 では、 ができる。 現代の 現代の でもの にいる。	見象の理解 を取り上げ がや概念に るようについ 問題につい	ができれれてきるらいできれれて土かれるといい、台での理るとの理解を	う、家族、表 家族、代の を表とし、 を表して、 を と 族、め、 身の と が、 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	教育、労働の を行うを が行うを が が が が が が が が が が の り し の り り り り り り り り り り り り り り り り	に、より具体的はいった身となる。 長年の大きな一種のでは、 を選手では、のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
教養教育科目	科目	を学ぶ科目	数学の世界	学ともは、会談に対しています。	<ul><li>詰び付く、</li><li>まず数学</li><li>てからも役</li><li>平方と平</li></ul>	人間の本質 の楽しさ、 立つような 方根、一元	と深い関わり 奥深さについ 数学の基礎を	りをもった いて講義 と講じる。 連立方程	実は、数学は哲学問である。本る。その後、社具体的には、式 、グラフと関	
			物理の世界	い。した の問題に の講義で 深めたい 造、剛性	かし、物理 こまで展開 では、目に い。加速度	学は、物質 するような は直接見え 、遠心力な	を極限まで3 ダイナミズム ない「力」の どの物理学的	だき詰めて Aを秘めた D物理現象 りな理解か	とはほとんどないくと宇宙の成 学問でいてきのいでまりについじまりにいいまりまする。 計算する手法を	
			生物と生命	得られたしまでたる。程を助った。	た知見を基 生したのか どり着いた づけること	に講義する 、生物は進 のか、生命 が本講義の と生物の多	。地球という 化しどのよう の大切さを乱 目的である。	う惑星に生 にしてホー 意識しなが そして個	遺伝子学等から 命はどのように モ・サピエンスに ら生物進化の過 々の生物の生き 人間が生きてゆ	
			地球と宇宙	巨大なに割せる。	会を描いた てとからら い宇宙の成 すを見つめ	り、運命を 講義は、さ まる。そし か立ちを、	託したり、こまざまな民族 て、宇宙創 星の誕生や かけがえのな	また宇宙に 実が描いて 战であると ^終焉を学.	人類は、夜空に まつわる物語を きた宇宙観を概 されるビックバ ぶことで理解す ある地球の特質	

			授	業	科	目	Ø	概	<del></del> 要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			≘± □#	<b>葬義等の内容</b>			備考
			物質と化学	る。中接に関電話、いる。	でも「化学 わっている パソコンな 本講義では	」は、最も 。たとえは どは、すべ 、実生活に	身近な姿・ 、医薬品や て化学に基	形で私たち 化粧品、香 づく「物質	活を享受してい の日常生活に密 料、で構成されて 識を教授するこ	
	教養知科目	社会と自然を学ぶ科ロ	情報と科学	再編しまります。再編している時では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	あらたな表 クの仕組み する。特に である情報	現として発 、おまない 、 るという と なっ と で り で も と で り で り り り り り り り り り り り り り り り り	信するため その安全 現点を重視 を重視 を重視	に必要な、 策について 情報の歴史 したい。こ	得られた情報を IT端末やより 理解するこの新たと のような理解を の可能性と限界	
		目	色彩と科学	色的のた要識と	心理的、社 を深める。 的理論の習 感性を養う。 の解説を行 て、色の表	会的、文化 会彩を加える 得文が ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので	的に果すさ ュニケーな 視覚後援の を支援して	まざまないまないまないまないませんといまりませんといますとといます。	本質を理解し、常知のでは、一個では、実際では、実際では、実際では、実現では、実現では、実現では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	
人間総合学群 教養			ボランティア実習 I	献するイな設勢イ	ことにより ア活動の実 どを想定し との事前面	、新しい自 施場所は、 ている。① i談、③危村 前提出(学	分を発見す 大学の地元 担当教員に 幾管理ガイク 生支援課)	ることを目 の稲城市お よる個別カ ダンスへの	トし、社会に貢 的とする。ボラ よび近隣地域の イダンス、②担 参加、④ボラン ティア活動記録	共同
教育科目	1		ボランティア実習Ⅱ	献する 場所は 活動を 将来、 体が行	ことにより 海外を想定 通して、履 国際社会の う海外ボラ	、新しい自 してるいる。 修者で生きない となっている。 してい。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい	分を発見す 海外ボラン 多様な文化 く術を学ぶ	ることを目 ティ習慣の遺 。 夏季休晴 かすること	トし、社会に貢 的とする。実施 、海外における いを受け入れ、 中に、学外の団 ・が要件である。 いる。	
	実践知科目	実習科目	海外英語研修 I	で常語でテコてめる。	総合のかなスラーカーなステラーを表示研修者では、 学本のを業とでするからなるできます。 学者できますが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	ミイ講の全ンる英ニケム。をうをを任った。をうをを任めるのでである。	ショ、大学指語の学生では、ションスキーでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ルのの でののの ののの ののの ののの でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた	れ、では、 目標に通常な必要を で受まで必要を が通英とスるしな はででいる。 でででいる。 でででいる。 でででいる。 でででいる。 ででいる。 でいる。	共同
			海外英語研修Ⅱ	生ル的に行等かで、きのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	に研修でる選のなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのな	必の 間語 かい では では では では では でいる では でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	限の総合的 いたでは いたでは で で で で で で で で で で で で で で で で で で	な展が「にっている」と、これので、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変では、大変で	対象とする。 するススト をすっている。 を対するとを学行のでは一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次	共同

				<del></del> 業	科	目	<b>0</b>	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		実習	国際協力実習	力には現意つい、場合は、場合は、場合には、場合には、場合には、場合には、	JICA 。 に 現地様 感 を 体 や や や や さ れ	) 現訪なるの後、者を済まなる。 (となるの後、者を済まない。) といる (となる) といる (となる) はいる (となる) はい	助実施機関で 実施機関で かかた かかた のと のと のと のも 数、 のと のと のも のも のも のも のも のも のも のも のも のも	職員や専門を専門を要して習りです。 を関いて、これで、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	関係者、国際協 家など多力 実なとの まな と から は い が 難 し 間 は い が が 、 が い が 戦 し 制 に が が 、 難 し 、 が が が 、 が が が が が が が が が が が が が が	
		科目	国際協力実習フォローアップ	しらと域にも国気報会与、に社関に、する	協力の点備を の大べ習成果 の大さま の大さる の大で で で で で の た の た の た の た の た り た り た り た り た り た	場視察や援 参加学生同 行う。学生同 日分の意見	助関係者な 士でプレゼ の成果とし 人) が国際 をまとめた	どとの交流 のウント 日本 開習報告書	参加者を対象と 対象とが を返りなれる 変れ、 なのの が が が が が が が が が が が が が が が が が が	
			進路設計	産業構造 と さ て が 卒 人 社 会 く く く く く く く く く く く く く く く く く く	や人口構 。本講義 「子就 後 「家族」	成は、大き では、女性 」などを に際 して てな 観」をつな	く変化し、 の「生き方 通して議論を 企業が求め	就業形態や 」について と進める。 る人物像」	済を支えてきた 人生観も多様化 「就業観」「生 この作業を通し と「個人の抱く 体的に語ること	
人間総合学群	実践知		社会と教養演習A	的な者で を を を で メる 最可 に し に に に に に に に に に に に に に	以外に「 すべき知 を描くここ 限のコミ	社会人基礎 識・知見が とコニケーシ めの自己啓	力」と呼ば 求められる。 、そのうえ ョン能力を	れるような 。本講義で で、社会人 身に付ける	は、大学の専門 、生きていくう は、自分自身ら として必要とさ としてそれを ションスキルの	
教養教育科目	科目	就業力育	社会と教養演省B	業人とし とし は めた に は 体 に は は に は は に に は に に に に に に に に	て個人が の個性を 本的ビジ 、個性を	守るべきル 生かした対 ネスマナー 重視しなが	ールーやマ 応も求めら の習得と個	ナーがある る。本講義 性の発見を 女子大学生	会人あるいは企 。しかしそこで では身体技法を 目指したい。具 としてふさわし	
		F成科目	社会と教養演習C	さん「しん」では、一大を一大を一大を一大を一大をおけ	社てでてる 人立くく想 い、想 は りた。	礎力」をさるためには 」が必要と めの、実践	らに養って 、「前に踏 いわれる。 的訓練を行	いくことを み出す力」 毎回の授業 う。特に、	るために必要と 目的とする。社 「考え抜く力」 では、これらの チームワーク作 律性を涵養する	
			社会と教養演習D	りわけ、 とは何れが レーう。 そ	道元禅師 を深く どのよう ンや、学	の禅を建学 んでいきた に活かされ 生の自主性 、社会に出	の精神とす い。具体的 いるのかを素 を尊重した	る本学なら には、社会 対授したあ グループ学	しての規範、と ではの身体技場 での様々な現場 と、想定シミ習 、体験・身に付 の素養を身に付	
			キャリアリテラシー	の職己た授てをで」個進。	緩和し、の と 人め 自 り 業 チ 同 自 身 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	前向きな気 「軸」をを見い ・仕で調べ、 に、社会に	持ちで行動 でロップでは のでいま がいい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい	していくこ スを学ぶ。 合うなど 立つ意識や	は、就職活動へ就能活動へ就自りとを自的には、そのではいいでいる。そのでは対論ができませい。ままないではいいない。ないではいないではいいない。	

()	<b>し間</b> 終	総合≒	授 親光文化学類)	業	科	目	Ø	概	要			
	科目区分		授業科目の名称		講義等の内容							
		就業力育	就業への知識と技能A	ホテル る。様 エピソー 教授する り、社会	・モバイル 々な業種に ードを交え る。業界・	等の業界について実業ないら、業種の社会 関心を深め	こついて、そ 界で豊富な 種や会社を 会的な使命と	この成り立 経験を積ん 研究するた こその実態	リース・航空・ ・航空・ を教員が様々 がの基礎と めの名を を知を を知を を和を を観的に 考			
		<sub>B</sub> 成科目	就業への知識と技能B	版・相がをおいる。本語を表現の主義を表現のこれを表現のこれを表現のこれを表現のこれを表現しています。	動産などの 関係を考える 関係を様と 関係を 関係を はなり、	業界や、公 る。様々な エピソード る。組織に	務員・教育 業種につい を交えなが おける様々 に関心を深	職における て実業界で ら、業務を な業務の役	、損害保険・出容積 様々な経験を移った 豊富ななるための 選択とその実態等 分に適した業務			
	実践知		女性と健康 I	によな生れてながらい。	て発症し易 埋機能とそって 活題を提供 いて論じて	い病の種類の健康管理 欲しい女性 し、少女か いく。本講	も異なる。 を取り上げの健康と病が ら大通して を通して	本講義は、 る。特に、 気にの成長 性に成本質	こるが、各年代 女性の体のな交生 大生の様になるで 大生の様になるで 大生の様では は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は			
人間総合学群	科目	健康体	女性と健康Ⅱ	に性なしいた達いた達の人	て 発症病 素と 対 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	い病の種類 ついく。 なに着け、 に着けで、 自	も異なる。 選、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	本講義は、 出産、育児 てして自分で ず家族や友	こるが、各年代 二十歳以降の 二十歳保するこ、 に関を理解して 考えるどの周り 人などの しい う い う た い と い で と し に 関 を ま り を る し 、 で る し 、 で り で り で り で り で り で り で り た り に り に り り に り り し り し し し し し し し し し			
教養教育科目		育科目	スポーツ I	目がるとする。	継続でき向いき でき向の目標 こととスポー	身体運動( の動機付け 法を自分自 とする。ス	テニスとリ を図り、実 身に当ては ポーツ文化	ラックスョ 践に関する め、応用展 に親しむと	ている。この科が が)を選択しな 知識するに 対力をとが を は が 最大のねら と が 最大のねら			
			スポーツⅡ	目は、なる。	継続できる がら、健康 ると共に、 験すること	身体運動 ( 志向への動 その方法を を目標とす	バドミント 機付けを図 自分自身に る。スポー	ンとゆがみ り、実践に 当てはめ、 ツ文化に親	ている。この 修正体操)を 関する知 関する知 関する 関する に し し た と と が 最 し た く が 最 し た く が し た に た り た に た り た り た し た し た し た し た し た し た し た し			
	技法知	日本語育	言語表現演習 I	ときっている。またい。またい。	ちとする。 とする と た た た た た た た た た た く た く た た た た た た	具体的には響を与える に欠かせな 文章表現に	は、日本の名 「敬語」のい日本語文 親しみ、各	上会におけ 体系、およ 法について 自の言語生	用能力を養うこーを養うこった。 るづ、会話におさいの基礎知なも間である。 が基を豊かなも目標 をしたを目標			
	<b>科</b> 目	成科目	言語表現演習Ⅱ	用能力を 振りにして る。また	を高めるこ りつの け、 文 で 、 文 た 、 人 に 、 く に 、 く に 、 う に で 、 う た う た た う た 、 う た う た く た く た り た り た る た る た る と る と る と る と る と る と る と る	とを目的と の語彙に触 表記で各種 現に親しみ	する。具体に れて、さま の文章を作 、各自の言	的には、自 ざまな表現 ■成できる 語生活を豊	し、日本語の運 らの言語生活を を生み出す力を 能力を身につけ かなものにしな 身につけること			

	884	·// ^ 2	授	業	科	目	の	概	要	
	科目区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			英語A I	的な英語 日常である るように 見を相言	語表現を用 舌においてるといるという。 こする。 6 だいる。 6 だいる。 5	いて、質問 、数字や品 重要な情報 単な単語や れるかを意	したり、答りの値段の を正確に聞 でなせなが でなせなが	えたりで を認いない ないない たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい	を目指す。基本るように等の、できまりに等のででありいている。 人のの大学でのまますのでは、大のの大学でのまます。 という できまり はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はい	
			英語A II	を用いて りのったり 取っする。 手に伝え	て、質問し ピックにつ り、自分の 簡単な単 えることを	たり、答え いて、場所 趣味や興味 語やフレー	たりできる 「や時間とい のあること ズを使って、 会話や英作	ようにする いった具体! などを伝え 、自分の気 文での表現	本的な英語表現回 。自分報を見り かなりでする りなりでする いたりでする かなりでする からりでする がいる がいる がいる がいる できる できる できる できる できる できる できる できる できる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でい	
			英語AⅢ	や自分の理解し、るよい、るを用い、	の家族・学 家族を で で で で で り る の の る に る の る の る の る る の る の る の る の	校・地域さん が食でを表現 なる、すと	ど、身の回 ようにまる 日常とを ること を書く練習	りの事柄に 。基本の 場面させ、 を きせ、 表	する。自分自身を 関連にた 関連語や 関連語や で で 使 が で が は が は が に た フ リ が で が れ れ で で り で り で り で り で り で り で り で り で	
人間総合学群	技法知	外国語育	英語AIV	信よい理英伝れて、どでたい。	る短い簡潔い 関点を 要点を を を を を を を を を を を を を を を る を ま る る を ま た る る を ま る る と る と る と る と る と る と る と き る と き と き	なアナウン 的予定や大 し、英語で 作の一連の とを意識さ	スを理解し 学生現など 手現を英に は、表現の せ、表現の	、自分でそ の明でででま いままでも のででする でれる でれる は で で で で で で で で き れる で き れる に が に が に が に が に が に が に が に が に が に	。公共の場で発 の内容を事実にる 体的なポーツ・る 。ように、自うに、自 を用いるように、 られるする。 う育成する。	
教養教育科目	科目	成科目	英語B I	する 定 ま ま ま ま と し し し し し し	とを目指す: するために、 構終了時に 己分析する 後の学習に	授業である、 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ ま分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたかどうか 毎年、受講開始 り、分野を特別 得意毎時間演習問 いて学ぶ。	
			英語BⅡ	する 記定 ま ま ま し し し し し し し	とを目指す: するために、 構終了時に 己分析する 後の学習に	授業である、 TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 気分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたの受講開か 毎年、受講を時間 り、意分時間演習問 は毎時間演習問 とぶ。	
			英語BⅢ	する 測 き し し し し し	とを目指す するために、 構終了時に 見分析する 後の学習に	授業である、 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることに不 る 受野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたの受講開始 毎年、成績をといい り、意分時間 は毎時間 は個る。	
			英語BIV	する 定 き 測 受 自 し 、 以 し	とを目指す: するために、 構終了時に 己分析する 後の学習に	授業である、 TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたかどうか 毎年、受護開始 り、成績を比較 り、意分野を特定 は毎時間演習問 と図る。	

			授	業						
()	【間網	総合	学群 観光文化学類)							
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			英会話 I	students and wriconversa students topics v structur situatic students become structur (和るうっで、対行ことるだけ	iting, astion will, pronuncy vill be prosent of the confident es.  主にスピー本講義では、より現実により現実にペアワーク	ng and li: s well. be cover ciation, i rovided an will help ugh a com e given n t in us  ーキ音・取り るイアで場り こ近い場面	stening sk Natural ced with a ntonation of students them in bination of multiple a sing the とリス 善と とりなきした での学習を	ills, with and current emphasis and fluents will be a variety of pair arctivities target  グカの向上点を対してあれる。  夢変えるよう	on improving n some reading ent forms of s on improving by. Real world given language of real life and group work, to help them conversational を目指す授業できとして使用する。で学生たちが積極	
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅱ	I lef communic confirma Specific knowledg on a va Real wor exchange modern I opportun through (和訳)シヒック医院にメックを呼にメリックをいる。	t off ation sk tion and attenti e of coll riety of ld media Interac Cnglish wi ities to a variety 芸楽をおいてで、カラにデ現実に乗り	and con tills in declarific in declarific on will loquial En popular a will be ustive structice of commun I J のるこうに対していました方をにげらい場面での	tinue to English. ication c be given given glish and und curren sed as a spectures relavided and their leadicative ta えずっで、これであるたができない。これであるためできない。これである。これである。これではいいます。	strength Students conversation to deve the abilite to conversation to conversation to the conversation to the conversation to the conversation with the conversation with the conversation to the conversati	sh Conversation nen students's will learn strategies. eloping active ty to interact tional topics. for meaningful ommunicating in will be given the each other a sulument a su	
			英会話Ⅲ	Conversa deeper 1 particul periods exposed strategi how pau attainin goal of specific methods (るのたう会と のたらと こと	tion I a evel of r ar emphas of time. to variou es that p see in m g natural f improve pronunci and strate	nd II, pronatural Enatural E	widing stuglish commutaining c with this s of turn forming resation. The coverall ctices that be provid 話II」の学表の分介する。本	dents with unication. onversation goal, students taking an follow up Students their spea fluency. t relate ed on a relate of the state of the stat	ent of English training in a There will be as over longer idents will be d conversation questions and will work on king, with the Additionally to the various gular basis.  、主に英語による話を後しく続ける発する。英語の発	

( )		<b>%</b> △f	授学群 観光文化学類)	業科目の概要
	科目区分		授業科目の名称	講義等の内容 備考
			英会話IV	(英文) This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations.  (和訳) 「英会話I」「英会話II」「英会話III」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Receptive English I	(英文) This is a specialist English course designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key methods used include paraphrasing and summarizing of key content, story-retelling and listening/reading without translation using accessible materials such as graded readers. Students will learn to use existing knowledge to predict the meaning of unknown vocabulary, while developing topic based English ability. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand basic spoken English without listening repeatedly and to read and understand basic written English.  (和訳) 主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。指導方法としては、重要な文の言い換えや要約、内容を理解して第三者に伝えること、または難易度別英語読本等の学習者用英文資料を訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関する英語知識を増やしながら、学生が未知の語の意味を推測する際、既存知識を活用することを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英文であれば一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。
			Receptive English <b>II</b>	(英文) This is a specialist English course which builds on skills developed in Receptive English I designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key additional methods in this course include listening and reading at a near-native speed, listening/reading note-taking skills, using confirmation checks and clarification requests as a means to increase understanding and identifying elements of spoken and written style as a means to understand the intentions of a speaker or writer. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand more complex spoken English without listening repeatedly and to read and understand more complex written English.  (和訳) 「Receptive English 1」の学習を踏まえ、主に基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。授業の方法としては、メモを取りながら自然な速度のものを聞く・読む、「確認」や「明確化」を活用し理解度を高める、(脱落、連結、同化など音変化などの)口述・記述のスタイル要素を認識し書き手・話し手の意図を理解することを含む。内容のある英文を一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。

			授	業	科	目	Ø	概	要	
()	人間約	総合学	学群 観光文化学類)							
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
人間総合		外	Productive English I	support English output this c speed shift communiclarific diffict correct about various student English basic I (和訳「ちって確認」する。	t student: h. Improvi through s class. Key class. Key training fo and turn-t ication a ication fo ulties are ted in det typical Er ts will ha h without o English ser ) 書く、揺れされ しゃして メート 大きない。	s in accing studer speaking a methods or writing taking strate or contine encounter tail by the nglish sen enterces. Enjoyce ave an enlextended gentences. Enjoyce ave are enver extended gentences. Enjoyce ave are enver extended gentences. Enjoyce ave are enjoyce ave a	puiring a atts abilits abilits abilits and writing introduced and speak ategies in egies such uing conveed. In additioned instruct tence form styles. Banced ability uidance and I用能発書すった時も	functiona lity to pris a partin this in this rounder the both spoken as concersations ition to creations and ity to used be confided to the confidence of	会話技法を紹介 ともに、典型的	
合学群 教養教育科目	法知科	国語育成科目	Productive English <b>II</b>	skills support and writypes convers letter, journal matter, phrasin spoken accurace extende English (運英ンラフ・ようした) である意識で内に	developedt students itten Engl: of spoken if sation, indiary, lism and students and write you by the ed ability ed guidance h compositi か 方発ビイ題にて容の また。話の カ発ビイ題にて容の また。 また。 カスチェール はいまれる から 大き はいまれる から から はいまれる から から から はいまれる から から はいまれる から から から はいまれる はいまない	d in Prod in acquirish. Stude English (s English (s report, p online will work et end of e to use m e and be of ions. tive こうのいた。 はせんの等プ明信いを書文を軽いるの等プ明信いきます。	ductive Ening a function a function function will growth as specific part of the function of	glish I , titional comain experie each making, written En rriting, pp Choosing criptive all in producion cocusing on students x spoken E n producin ま言、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書	e building on designed to mand of spoken nce in various presentation, glish (such as rocess writing their subject nd explanatory ing a range of n fluency and will have an nglish without g more complex 本す。会パ験を伝さ、大変と、経動に確さ、大変といるといい、ライク積わを独語・発くこの対象と時のあます。とを目れている。	

			授	業						
()	【間系	総合学	学群 観光文化学類)	ı					1	
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
				course and users of student-ce an English communicat will also group of p	will por English ontered, in-only por ive act teach opeers. Expression of the contract of the	rovide stu outside interact: colicy. Str tivities, something veryone with	dents many of the clive, and r udents will discussion practical ill leave f	opportuni lassroom. reflective l take an ns, games, in Engli Geeling mon	nsive three-day ities to become The course is and will have active part in and students sh to a small ce confident in tion, make new	
			English Summer Seminar	で英語を使型会が見かられている。 で英語を受力を受力を受力を受力を受力を受力を受力を受力を受力を受力を受力を受力を受力を	う多思話やミ関語で、話やミ関語では発動では、対している。	り機会を見望が、 関でではないでは、 でなかっていいではないではないではない。 ではないではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではない。 ではないではないではない。 ではないではないではない。 ではないではないではないではない。 ではないではないではないではないではない。 ではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	供英ッいにロなる。こ使、合持をいいにロ違にもがある。かいないははのでははいいではいいではいいできません。	のわがうつ終ないないとうのというできます。	、学生生、教室外、学生に教室の、学者であるした。 学習原的に参加者は志からの、 を国際のであれば、でででいた。 は、でででいた。 は、ででででいた。	共同
人				2年の英語等クティビテ	対貝が 肠ケイを与え	側でグルー 、休暇中に	こ学生とグル	シープで会話	たし、タスクやア 話をする。	
八間総合学群 教養教	技法知科目	外国語育成科目	フランス語 I	ある。まず うに練習を 部分短詞 る。 動業で ぶ。 授業で	表記とす 重ねる。 使い分に はavoir はコミニ プレイを	発音の関係 文法では すを理解し とêtre、 ュニケーシ	を理解し、 、名詞の性、 、形容詞のの まび第一群 ョンを目的	特徴的な音 と数、不定 性数一致が 規則動詞の として意識	こが音では、 でようでは、 でようでをできる。 では、 では、 でいるができます。 でいるができます。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいるができます。 でいるができます。 でいるができます。 でいるができます。 でいるができます。 でいるができます。 でいるができます。 でいるができます。 でいるがでいるができます。 でいるができます。 でいるがでいるができます。 でいるがでいるができます。 でいるがでいるができます。 でいるがでいるがでいるができます。 でいるがでいるができます。 でいるがでいるがでいるがでいるができます。 でいるがでいるがでいるがでいるができます。 でいるがでいるがでいるができます。 でいるがでいるがでいるがでいるがでいるがでいるがでいるがでいるがでいるがでいるが	
教育科目		П	フランス語Ⅱ	aller、ver を理解して 名詞・疑問 まな状況に る練習を継	ir、par 、テンス 副詞のな ついて愉 続する。	tir、voir ポよく活用 ある疑問文 青報交換が また、比	などの活用 ができぶこう をできるよ した をきるよ した とう	に見られる うに、対る。 で、CDやま にの表現を を見を	れる不規則動詞と 共通のに、 対した。 は通のに、 がいた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 はいた。 は	
			フランス語Ⅲ	文や強調構 目的語・間 うにする。 の現在完了 につける。	文など、 接目的 おと よう おと なる も なる も も も も も り を り を り り り り り り り り り り り	一定のパ 吾の仕組み 直説法複 交しながら 本的な関係	ターンによ を理解し、 合過去の仕 、フランス	る表現を身 代名詞に置 組みと意味 語の時間に  法を学習し	まず、非人称構につける。直接につける。直接という。このではなられるよう。このでは、英語関するで、複文を使うこ	
			フランス語IV	る。また、 フランス語 がら半過去	フランス らしいま の活用と	ス語独特の 表現に磨き と用法を学	しくみであ をかける。 び、会話で	る代名動詞 さらに複合 用いられる	をさらに拡大す の用法を学び、 過去と対比しな 一般的な過去の を奨励する。	

				業	科	目	の	概	要	
	<b>八間</b> 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			2.	義等の内容			備考
			ドイツ語 I	く・話っ ルファン アクセン 冠詞の棒 ら聴き即	す・読む・ ボット・ ボット・ 大変化・ 番り 表り・ 書き	書く)の習 み方から始 の長短)に 本的文型を 取り、また	得を目指す。 め、ドイツ 親しみ、 親	。このドイ 語の単語人 詞の現在人 な日常会話 行う。随時	本的語学力(聴 ツ語 I では、ア 発音(つづり・ 称変化、名詞と を材料にしなが 実施される小テ 検定試験5級に対	
			ドイツ語Ⅱ	ツ語のま この手に を再項を き取り、	基本的語学 イツ語Ⅱで 大名詞しな 自加た話が また話す	力(聴く・ は、名動詞 法の助事易な 練習を行う	話す・読む 複数形、冠記 と未来形、 会話文の学	・書く)の 詞類、前置 分離動詞なる される小テ	基礎としたドイ 習得を目指す。 詞、人称代名詞 どの聴き取りて各 ストによって各 応)	
			ドイツ語Ⅲ	ツ語の 記 記 記 記 記 語 話 話 話 る 語 ま る き る き る き る も う も う も う も う も う も う も う も う も う も	基本的語単 イ文、形語Ⅲ で、形時間を ででででいる。 でででいる。 ででいる。 ででいる。 でいる。 でいる。 でい	力(聴くすの、からない。 大の格のでは、 大ののでは、 大ののでは、 大ののでは、 できる。 随時実施	話す・読む 三基本形、 比較(形容 ついて特に とを目指す。	<ul><li>・過詞多。</li><li>ストーク</li><li>おいる</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り<td>基礎としたドイ 習得を目指す。 在完了形、接続 に一般れ、下 に一般がである。 に一般ができる。 で各人が習得の である。</td><td></td></li></ul>	基礎としたドイ 習得を目指す。 在完了形、接続 に一般れ、下 に一般がである。 に一般ができる。 で各人が習得の である。	
人間総合学群	技法知	外国語育	ドイツ語IV	ツ語の このドイ 学習する イツ文を	基本的語学 イツ語Ⅳで る。聴き取 を読解する	力 (聴く・ は、zu不定 り・書き取 力を養う。	話す・読む 詞句、受動! り、話す練	・書く)の 態、関係代 習と並んで れる小テス	基礎としたドイ 習得を目指す。 名詞、接続法を 平易な日常的ド トによって各人	
教養教育科目	科目	P成科目	スペイン語I	ことをう ネーショ に男性名 則動をペラ したCD	テーマとす。 コンを女性の コランを女性の コース ローマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロ	る。 今期は き ま 記 表 表 に 記 を に 記 を に 記 を に 記 を に に に に に に に に に に に に に	まずスペイン 出して発音、 形容詞、身に 里解し、よに と覚えて応用	語の音、リることに慣ることに関う 記記に 記記で 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	/ス良くつける / ズム、イント 貴れてゆく。次 tar、3種類の規 弱面に応じた会 教科書を録音 ) ごとに小テス	
			スペイン語Ⅱ	本的な力 直説法明 し、場 様 、場 で	力をさらに 見在を中心 こつける。 面に応じた Dを用いた	つけること に、目的語 不規則動詞 会話をペア	をテーマと の代名詞、」 は種類別に で練習し、 習、小テス	する。今期 北較級・最 学習する。 関連語句を	書き・会話の基 は不規則動詞の 上級などを理解 スペイン語 I 同 覚えての用力を て行う。 スペイ	
			スペイン語Ⅲ	本的なが称の背景に過去した。	力をさらに 定命令、 の活用 動 見 則 し マ に に し に し に し に し に り に り に り に り に り に	つけること 過去の規則 現在形の規 多いので時 た会話をペ	をテーマとす 動詞・不規! 則性があて! 間をかけて!	ける。動詞( 則動詞を中 はまらない 学習する。 関連語句	書き・会話の基 は再帰動習する。 心に学習する。 部分ペインを 記し で で で た で 行 う た で に た で が あ り 、 に 同 の に き で り が る り る さ さ く て く て く て た て た て た て た て た て た て た て	
			スペイン語IV	本去まをし書く	力を完したという。たったで、関スを言いまで、関スをある。のである。	つけること 続法現在 代名詞 エ イン に に に に に の た の た れ に れ に れ に れ に た に た に た に た り た り た り た り た り た り た	をテーマと それを用いった複文の 様、テーマ を養う。簡	する。今中ででは す命方では するかりで では では では では では では では でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	書は、会話の場合。 ・動詞習す、練習 ・動詞習す、練習 ・を理解ペーで・ルク ・を話読み、という。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述し、を記述して行いる。 ・を記述し、を記述して行いる。 ・を記述し、を記述して行いる。 ・を記述し、を記述して行いる。 ・を記述し、を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述して行いる。 ・を記述している。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている ・をにしている。 ・をにしている。 ・をにしている。	

			授	業	科	目	の	概	要	
	科目区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			講	養等の内容	:		備考
			中国語 I	とおいると思います。とおいると思います。とおいるというでは、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本	旨す。まず。 ま音、子子 ま音、 ま音を まる まる まる まる まる まる まる まる まる まる まる まる まる	*、中国語の :正しく聞き 現の練習をi 、時間、年	ピンイン 取り、か 通じて中国 の表現や 文、諾否疑	表記法を学 つ正しく発 ]語の発音に 数量表現を 間文などの	Dを身に着けるこ び、中国語の声 音できるように 慣れていく。そ 学び、動詞述語 O文法事項を学習	
		外国語育	中国語Ⅱ	高変択と内基でなる。	くことを ます学を まな まな まな まな まな まな まな まな また また また また また また また また また また また また また	目指す。中間 助詞と共に かい 会話練習 み、動詞ンを かい	国語におけ 学通じ、疑で を通じで を を がなだで なだで ない と を と が と の に の と の に の に り る に る に る に る に る に る に る に る に る に	る完了・紹 詞疑問で、 着さ 詞の語彙を 。同時に身	の基本やのな力を 経験・未来的な力を 反を 反の を を を を を を を は に た に に に に に に に に に に に に に	
		成科目	中国語Ⅲ	くえる学の会話 応文型や	<ul><li>話す」</li><li>話すのやを望いる</li><li>を通ります</li></ul>	の力をつけ、 ベルアップ 頼、感謝や記 じて定着さ	コミュニ を目標に、 射罪などく。 せも学び、	ケーション 様々な場面 表現や関連 豊かな言語 やや難易度	機的な「読む・書 との手段として使 に合わせた表現 語表現のた対えめに呼 をの高い文章を正	
人間総合学群	技法知		中国語IV	目指す。 書や音声 映れる中 ども学び	日中を取る 教材のほ なども使 国語、授業を で 、授業を	り巻く社会へ かに教材と 用する。また 子メールでの	への関心と いて新聞を で で い で い で い で り と は り な り あ り り り り り り り り り り り り り り り り	理解を深め インターネ 集するため で使用され についてロ	を 動力を養うことを かるために、数科 ベット上の記事使用 かる中国国び書面で いる。	
教養教育科目			コンピュータ演習 I	とをビザ報をといい、表、作図	的とする。 対スの現 通信めて 進めて計 し、表計算	。具体的に/ 場において (ICT) を使 く。本授業	は、諸々の 基礎的な文 いこな文ま では、文書 と必要とす	検定を指標書処理がている。 書処理がている。 かの知識と 作成、レイ	型理の基礎を学ぶでしたレベル設定としたレベル設定を名程度)を行った経度習を中心で実技演習を中心ですり、作成、作いでジネス文書作	
		情報力育	コンピュータ演習Ⅱ	ジネスの つ、さら Office S 情報処理 う。併せ	)現場にお うに発展 Specialist 関能力を身	いて基礎的ださせること t」に沿って につけること ゼンテーショ	な文書処理 にある。 ビジネスの とを目標に	が行える程 具体的に り現場で応用 、さらにま	けけたスキル(ビ 程度)を確認しつ は、「Microsoft 目できる基本的な 民践的な演習を行 を信能力を高める	
		成科目	コンピュータ演習Ⅲ	伴い私た 発信のように 彩なメラ	たの扱う ま有する機 け、メディ こなってき	情報も飛躍的 会が多状と アを選択授業 た。たウェス	的に広がっ 0 、情報を 魅力的に では、イン	てきた。と 処理するこ 表現するこ ターネット	まじく、それに: りわけ、情報を: とから、情報をことまで求められ、を中心とした多及を利活用するた	
			コンピュータ演習IV	を確認し 表現で必 度な表現 の機材を	つつ、さった 須を身に 使い、よ	らに発展されている写真まつけることを り実践的なま	せることに 長現や映像 を目標に、 ミ習を行う。	ある。具体 表現、アニ デジタル 1 。併せて、	oけたウェブ表現 s的には、ウェブ -メーション等高 眼レフカメラ等 MOSエキスパート 視野に入れる。	

		授	業	科	目	の	概	<del></del> 要	
,	<b>、間総合</b> 科目 区分	学群 観光文化学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本語AI	ることで発力が見ない。	を目的とす ための口が	る。特に講 表現能力を の語彙・文 や副詞、接	義を聞くた 養うことにといい。 養を動うになる まうになる	めの聴解ナ 重点を置く け、表現ナ 等について こと、人前	語能力を修得す	留学生対象
		日本語B I	る。 書。 きる でも 間 に 間 を る。 と し に し で も で も で り る。 し れ り る。 し た り る。 し た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	本的には、 にに にに に に に し は 、 提 き き き き き き き き き き き き き き き き き き	身近な題材 るとものともの た課題に を含んだ練	に、いいて 文に かいい ない 大大 ない ない ない ない ない ない ない ない ない れい さい さい さい さい さい といい さい といい さい といい かい いい かい いい かい いい かい いい いい いい いい いい い	章を書くこを書い、 を書い、文題を また日本に、 ともに、 ともに、	ことを は とにけるを を とによる を まる を まる 基本 を を を とに はる を 基本 を を と に はる を 基本 を を と に も る と に を を と も も も き き き き き き き き き き き き き き き き	留学生対象
		日本語AⅡ	る発能具らうになった。	を目的とす ための口頭	る。特に講 表現能力を のお文型を をする。 聞 で話すこ	義を聞くた 養うことに 型を身につ さやすくわ	めの聴解ナ 重点を置く け、表現ナ 貫用表現を かりやすい	語能力を修得すする。 し、同時にを図る。 の向上を図る。 使でで話せる。 使音で話せる表現 で話せ表現	留学生対象
人間総合学群	特設科目	日本語BⅡ	る。 具 く こ の ま 出 し が 最 話 の は の に る に の に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に 。 。 に 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	本的には、 こよやはて や課題に あらじを	新聞記事を 本語能力を トの書き方 いて指摘さ	読み、社会 深めて文章 なた問題点 、小論文を	的な題材に 。授業は、 作成を基本 を自らと 作成したり	ことを目的とす こついて文書で 文法での練習、文 ことして文書で、文 ことして、として、として、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 にはいるに、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本語AⅢ	ることう、ことう、ことう、ことう、ことう、ことで	を目的とすと ・ ・ ・ ・ を が は と と と と と と と と と と と と と	る。特に日 口頭表現能 地や日本人 、語彙を増	本人学生の 力を伸ばす の生活習慣 やし、話の ュースに親	中でも臆せるとにない。 などについる とない。 とない。 とない。 とない。 とない。 とない。 とない。 とない。	語能力を修得すさまで、 でできまりできまりできまりできる。 ででは、 ででは、 できるでは、 できるできるできるない。 できるない、 できるない。 できるなない。 できるなな。 できるなな。 できるななな。 できるなな。 できるななな。 できるななな。 できるなな。 できるなな。 できるななな。 できるなな。 できるな。	留学生対象
		日本語BⅢ	るにテおいます。	体的には、 いた は読い 関連 に に いい 関連 に が に が に に い に り に り に り に り に り に り に り に り に	格助詞の使 および確認 要約や感想 こなすこと につける。	Eい方や語句 ステストに即 、レポート によって、 特に、受け	可の使い方 取り組んだ を書いたり 文法や語彙 身や使役と	こをりますめたれたト 目するられたト を得与えらき、 のしたれたト でに関った態に いったが は いったが に いったが に い 表現れ に に に れ に に に に に に に に に に に に に に に	留学生対象
		日本語AIV	る思す読でもに、野り	を目的とける とののという をの少子に を は を は を は し は た の り た の り た の り た の り た り た り し れ り し れ り し れ り し れ り し れ り し れ り し れ り し り し	る。パネル 、ディベー 問題てスピー 、話の内容	ディ等社に、スカ通会とは、したが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これ	ション、ク て日本語能 と で い で き に き る こ ろ る に き り に り る り る り る り た り た り て う ら で う た う た る ら る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ	語力を修った。 語力をといて をからに をからして はいることする はいることする はいること はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる	留学生対象
		日本語BIV	る。具体増大のでは、	本と設調通じにはにつ、、ない報さにいい報さない。	新聞記事を さまな さずる たする ある に日本語	読み、語句 法みの問題 えでいは自高 能力を高め	を調べるこれが にない を に を に を に を に を に と を に り る に り た り た り た り こ と り た り と り と り と り と り と り と り と り と り	ことでまたのを生まれた。。 とでまたのを単語 引ママ論文をいた。 自るといい論文をはすす。能力を身にはなる。	留学生対象

( )	<b></b>	授 授業 観光文化学類)	業	科	目	Ø	概	要	
7	  科目   区分	学研 観元文化子類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本事情 I	に関するでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	る基礎的な かに行くこ 交通、施設 て概説する	知識を修得 と」を食べ 、ので は の の の の の の の の の の の の の の の の の の	することを る」ことな ど、日本で 上のウェブ	目的とする どを出発点 生活するた 青報などを	たぶことで、日本 。 具体的には、 ほとして、日本 にとして、日本の にが 要な情報 といま 実際に 日本に関する情	留学生対象
人間総合学群	特設科目(	日本事情Ⅱ	な知識を能、文化を表している。 ないこう	を修得する 充工芸をは との伝統的 を活用し、 た伝統芸能	ことを目的 じめとする な側面につり 実際に日本	とする。     日本の文化的  いて概説する  の年中行事 <sup> </sup>  などについ	は体的には 的な側面や る。パソニ や祭りや部 いて調べ、	に関する基礎的 、年中行事、岩 観光名所等、日 は大田のウェブ情 が舞伎、能、落語 紹介させること	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本事情Ⅲ	できる計算になっています。	日本語力を 資料をもと しだうえで また、日 ネルギー問	修得するこ に、日本の  、関連する。 本のゴミ問	とを目的と <sup>*</sup> 国土、気候、 ニュースや†  題やリサイ な問題につい	する。具体 政治、経 テレビ番組 クル、交	低広い話題に対応 的には、グラフ 経済、社会等につ 1の映像なども視 通インフラ、具体 たうえで、具体	留学生対象
		日本事情IV	できる計算を持たい。	日本語力を 資料をもと どについま する。ま ギー問題等	修得するこ に、日本の 学び、関連 、ゴミ問題	とを目的と 農林水産業、 するニュー やリサイクク 題について、	する。具体 工業、店 スやテレヒ ル、交通イ 自国と比	届広い話題に対応 本的には、グラフ 対策、貿易や国際 で番組の映像など であることによ することによ する。	留学生対象
		観光学	性をと活理関われた。	している。 ており、今 れるからで たらす効果 中心に観光	なぜならば、後のさいのというでは、それでは、それでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	、観光は人たす役割は に、観光がに、観光がいる。 きと現場でいる。	々の余暇活ますますと ますま済や 国の経済では 本授業では の対応にも	においてその重要 活動の中心的位置 なっていていく 文化・国民の生 は、観光学の基礎 に対る。観光に を対していることや	
間総合学群・観光文	10000000000000000000000000000000000000	観光政策論	推に進明よ国」を対していません。	ていく上で と と と に な 国 に の に の に の で し の で し の で し の で も の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	重要な役割 基本法」が って観光政 光政策が、 進されてき	を担ってい、施行され、、策が行われ、我が国の進行をのかを時まる。	る。我にるそれでは、 ないないでは、 ないないないでは、 ないないでは、 ないないでは、 ないないないでは、 ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	・地域の発 9年 ・地域の発 9年 ・では観光立国は ・大政策論をとどいる ・関係し、「観光を ・観し、「観光を ・観し、「 ・観の基礎 ・のでする。	
化学類 専門教育科	A 目	観光マーケティング論	いそ観多「で連を強いるの点様観は企業を対して、	業である。 面とマーケー イケテー マーケティィ	しかし、「 サティング情報 ングでに関す ングマーケアン	モノ」を売え や「旅の感! 注目を浴び !収集による 性と重要性」 る基礎的な3	るビジネスがてなる。 いいでなる形ではないではないではないではない。 ないではないではない。 ないではないできない。 ではないできない。 ではないできない。 ではないできない。 ではないできない。 ではないできない。 ではないできない。 ではないできない。 ではないできないできない。 ではないできないできない。 ではないできないできない。 ではないできないできない。 ではないできないできないできない。 ではないできないできないできない。 ではないできないできないできないできないできない。 ではないできないできないできないできないできないできないできないできないできないでき	E目を浴び続けて と違い、観光は が求められ、違う た旅行ニーズの の変化など本 でいる。本 を が、マーケティン	
F		観光メディア	い情すので担って担って担っておいます。	送来のマス 言手段のの飛 いや観光としいかい。 きたのかを	メディアにた 躍的な進化 拡大する一 消費に対し てメディア	nえ、インタに伴い、各種 たけである。 でメディアが観光産業の が観続ける。	マーネディント マーネディン・スティン・スティン・スティン・スティン・スティー はんしょ アイス ひんしょ アイス という マース かんしょう アイス かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう はいい かいしょう はいしょう はいしょく はいしゃく はい	で化をもたらして やSNSなどによる かの観光産業に観光 で大論では、観光 が大きなといるが が大きなといる。 が表響を及ぼし が大きなといる。 が、大きなと、 が、ため、 が、ため、 が、ため、 が、、 が、 は、 が、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(人間紅科目		学群 観光文化学類)			⇒#:	<b>美</b> 燃の中央			/## # <b>z</b> .
区分	ì	授業科目の名称				義等の内容			備考
		ホスピタリティ概論	エン経ア・ファンタ済タを産業では、アンスのステティス関連が	テルマント イメ ボス ボス ボス で で で で で を で を で を を で と た た と た た り た り た り た り た り た り で と り で と り で と り で と り で と り で と り で と り と り	ト等、極め とに大スピ めの基礎知 して紹介す 異する。学	て視野の広い 影響力を持 タリティと 1識を修得す ることで、	い産業になまなっせる ででからではいる。 できまれるできる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	、医療、金融、 っており、は、から 本授業ホスピタリ に、のな、まスピタリ でので、 とで きる。	
	基本	ホスピタリティ・マネジメント	け旅行業、業では、「たっこから、本行がでは、「なっこから、また」である。また。	飲食・宿 司業他社と ピタリテ 業では、編 た、履修者	音泊業、エ この差を図 ィ・サービ 現光関連企 音をグルー	ンターテイン るために、 ス」を提供 業各社の取 プに分けて、	ンメント業 どのような はするかが り組みを具 、観光関連	大さい。とりわた と関連だけ を付加価値を付い 重要的には を は を と 関連だけ も を と を を を を を が を に と を が を の に を が を が を が に を が を が た が の に を が が の に を が が が が の が と が と が り に が た る た る た る た る た る た る た る た る た る た	
人	科目	観光社会学	くかこや分の民がたる。	どのようた で学会で と を理 を理 を を と と と と と と と と と と と と と と	な背景で生る 見代社をのいる は本らるといる はないなどの でいるといる ではなどの でもなどの	み出され消費 成り立ちを行る。本授業に 会学の観点だ を目的とし	費され再生 は、社会の は、人のの がいる。 は で が が が が が が が が が が が が が が が が が が	の観光だけでなの産されているる 産気から捉えるの基礎点が的な理論 の基礎が明まを観光現象を 本におけるがいかに もの」がいかに	
間総合学群 観光文		観光人類学	きな産業になった。	見在、観光ないでは、観光ないでは、観光ないでは、できるででででいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 では、でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	出現象は先述 現象は先述 成として 関造を 目標と とであり、	性国のみなら うした世界的 きいででしている。 している。 人類学に隣持	らず途上国 的産業とし い拡た。 また を観 接するその	らい活発化し重発化し重発化し重発化し重要額、 におい観、移動とは大人類のは、人類の科別のでは、人類の科別の科別の科別の科別の利用のである。 は、は、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、	
化学類 専門教育科		旅行業実務論	とにり状観など、	余発界・取り 発界をないにを するでは、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで	間の拡大や な大してきか り巻く環境の ら、旅行業 な行業の仕事	可処分所得( とが、インタ は近年大き 実務論では、 事、旅行商。	の増大によ ターネット く変化して 、旅行業の 品、販売形	三大産業の一つる旅行の大衆化 る旅行の大衆化 やSNSの普及によ いる。こうした 発展の歴史を概 態、経営の現状 行業の課題や業	
目	観光実務	宿泊業・飲食業実務論	私たちのでなる。 私たち業の全体が 事例をある。	ライフスタ レススラン ービスなら。 象の分ービン りして りして りして りして りして した アンスタービン	マイルに大いたかいに大いなどのように このように こまでいる。 まくと はない。 ないない。 ないに大いている。 これでい。 これでい。 これでい。 これでいる。 これでいる。 これでいる。 これでい。 これでい。 これでい。 これでい。 これでい。 これでい。 これでい。 これでい。 これでい。 これでい。 これで、 これで、 これで、 これで、 これで、 これで、 これで、 これで、	きな影響力を 食業の歴史的 は ま態の内容の は またい と い た い た の た の た の た の た の ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	を与えていととなり、といり、それはというという。それは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、こ	役割を果たし、 るホテルな地との解し、のかいないないので、 ののはないでの理解を深め 資系ホテル」と	
	関連科目	航空・空港業実務論	要性は航るのがないであるにといいのではよりである。があるにともいるとなった。	ま業抗抗これが、	り、飛行機 かられる「注	による旅行 ホスピタリ では、日系 の歴史や企 するサービ	テや移動が ティ」の航空会 の航組織・いて とこでがいていていていていていていていている。 だいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たいでいる。 たっでいる。 たっでいる。 たっでいる。 たっでいる。 たっでい。 とっと。 たっと。 たっと。 たっと。 たっと。 たっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	る航空業界の重 日常化するって 日常高本の空港を や日本化を紹介を は 、 は で 、 は で 、 は で 、 に で 、 の に や さ の で を に や り で を の で を り で を り で を り で を り で を が を り で を が と が と が り で を が り で が し で が し が し が し が し が し が し が し が し	
		広告・メディア業実務論	しりお現マをがある。	が、だ告され、 広イを 大なアが 大なアグの上で の上で 大なやメラ	やメディア いらか情報 りを持ってい 発展の過程 はする基礎に で、実際の	は依然としないる。なた生と特徴を制めな知識を制みない容の	ンて重要なの の日常生活 ・メディエ ・ 発し、各種 学業文化な	PSNSなど多様化 位置を占めては のあらみ論では、 業実みメディア理 キンディア理解 とがの実方向性を その後の性を	

/ 1 88	<i>د</i> د د د د د د د د د د د د د د د د د د د	授	業	——— 科	目	の	概	要	
( <b>入间</b> : 科目 区分	1	学群 観光文化学類) 授業科目の名称			講	き の内容			備考
		エンターテインメント業実務論	ていたが、 在は外資 る。本授 比較検討す 要因を日本	既に閉園 のTDLやUS では、 とと会変 でる社会を テインメ	したもの、 Jがエンタ 楽・観光地 こ、 上に着目し	生き残った 生き 残った とう	ているもの メント業界 に挙げて産業 る。インタ	の機能を果たし がある一ドし現 をリー・内と面を 機能・化しいプ を化しップ をレンシ を履修す 本授業を履修す	
		インターンシップ実習A	様じなけてはなりないなりではではではではではではではではではではでいます。	でのホス人! ピタリタと なおおい こうしょ かいり かいしょ かいり かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい	ピタした リアの ま けい ま が、 は で と で と で と で と で 、 で と で 、 で と で 、 で と で た で た で た で た で た で た で と で た で と で と	サービをやとこれで金言イ業に なっこう	を、インタ るとと証券に 配える。 の必要な産	) のみならず、 ーンシップを 、就職準備に発 社等) もリティイ スピタリに 直っ 業全般にしなみ」 っ学習する。	共同
人		インターンシップ実習B	シャランシ では、 アルシャラ でん できる できる できる できる 関 が 緊急 課題	ップ(実 業界は外 を近畿圏 2020 となって み」「礼	習)を実施 国人観光 では空室の 年の東京ス いる。な	し、併せ 客の増加 り少ない状 リンピッ お、この	て社会人と 等により客 況が発生し クまでの客 実習では、	、ホテルでのイ しての素養を 室利用率が上昇 でいる。この対応 室不足への対応 企業人としての 方」等について	
間総合学群 観光文	観光実務関連科目	インターンシップ実習C	際を、そこ ターネット しかし一部 売れる時代 ト広告の増	に携わるののが調子を ののがいいののかかいいい。 にもいるできます。 にもいるできます。 にもいるできます。 にもいるできます。 には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	人達と交 若者のと書 こつを図 り 着 り う り う り う り う り り う り り り り り り り	わる中では 中でよれたくない は大いるを伸い をはなみ」「	学ぶ。現在 り大変厳し 売を供送し 方広いる。	企業 の実務と実 出版 業の実務と実 い状況である。 ており、出せネ はインタニの実は なお、こ で を で を は で と で と で と で と で さ は で と の 、 は で と の に が り 、 は れ と の に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	
化学類 専門教育科品		海外インターンシップ実習	ノルル(ハ 社会人とし キビーチ・ 店」で実習 「ホノルル	ワイ)でで ての素オット マリるとステンスで して「東	のインター を育テル」 トホ、日本 に、ル」 京マリオッ	・ンシップ ハワイで 、かワイく とハザライ ・トホテル	(実習) を の実習先と 社では「J ひ文化交流 ティアも経	深めるため、ホ 大のででは、「サイヤを では、「アインである。」 イベナる。 での「またの」 アカでの「また用	共同
目		国内旅行研修	団体旅行部	門を扱う! おけるツ	旅行社の業 アープラン	養の基礎 の作成と	を概説する	ル分析し、特に 。続いて、1泊2 社の見学、最後	
		海外旅行研修	に、研修旅 究を行って講 訪問などに ルにある	行先である。 後内で現地の である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	る「シングをからない」ではいる。「の研をがいる。」ではいる。これではいる。これではいる。これではいいがいます。これではいいがいます。これではいいます。これではいいます。これではいいます。これではいいます。これではいいます。これではいる。これでは、これでは、これではいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	「ポール」 (行を実施) な情をと幅広 で学」を訪	について旅 する。研修 に、ホテル く学ぶ。ま 問し、事前	務を学ぶととも で事情の調査研 が行では、体験 見学・旅行がポート た、シンガポート に授業で作成大 にで紹介し、大	共同
	観光資源・文化関連科目	世界遺産研究	える責務を ユネスコ総 遺産の種類	負う人類 会で採択 、登録の 込録されて	共通の財産 された世界 基準と手続 いる世界	≦である世 遺産条約 浸きなど基 遺産を鑑賞	界遺産につ に記されて 本的な理解 ばする。また	だ、未来へと伝いて、1972年にいる定義、世界 といるに義、世界 を深めるととも に、「危機遺産」 5。	

/ L 55	40. A 3	授	業	科	目	の	概	要	
科目		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			諸	義等の内容			備考
区分	<b>)</b>	地域観光資源研究	ア活動な ででも たを ことして れる	などについ この関係 とパンフ 発信する 系城市が実	城市を と を は に に に ま と に の り た め た り た り た り た り た り た り た り た り た	貢力本め的市民 が民祭 では本めの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	などを含む 稲城経 での観 でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	化、ボランティ包括協定を結ん 光資源を調査し 光課に対して地 、ボランティア うな貢献活動が 系発表する。	VIII 3
		国内観光資源研究A (東京・首都圏)	圏のるる企定発画のある企業を	と 資源を 選挙 を で で で で で で で で で で で で で	究する。 7 7 で 7 で 3 で 3 に 3 に 3 に 3 に 3 に 6 で 6 で 6 で 7 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8 で 8	修者が自身 プに分かれ ーダーシッ 次のPDCAサー 調査・発表 )の開催、 表会の反省	の出身地別地の出身地質地の間間のでプイイをのいる。これの選問が出いのでは、これのでは	梨からな異ない。 ないは強なのでででででいるないは をないは強なのでででででででででででででででででででででででででででででいる。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	
<u>人</u>		国内観光資源研究B (東日本)	4は発身う割形では発力では発力である。	ックに分けで を4がるがると けると りと りと りと の と の と の と の と の と の の の の の	てロー目議画のでは、、ップ標リのでは、するの学としている。書の関している。というでは、書の関係がある。	ックの観光 け、で が が で で で で 、 が と で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 の 、 の	資源を研究 一プで観光 ダーシップ 大のPDCAサー 調査の開催、	へす資格 東、 東、 東、 東、 東、 東、 東、 東、 東、 でがいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる で	
間総合学群 観光文章	観光資源・文	国内観光資源研究C (西日本)	けブルを議画	ト フロット ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア ア	の観光 資源 各 グル が は 、 調 の 配 が は 、 調 の の の の の の の の の の の の も の に あ 、 調 の の に あ の の の の の の の の の の の の の	を研究する で観光資源 シップやか CAサイクル 発表 第 2 に	。具体的に 表調査など 調査などで で で で で で で で を き う き き で き う き う き う き う き う き う き う き	4 ブロックに分 は、表すりでする。 発表すりに企定を表 りまりででは、 が、こ画 が、この が、この が、この が、この ででいる。 ででいる。 ででいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 で	
化学類 専門教育科品	化関連科目	海外観光資源研究A (ヨーロッパ1)	ペインの ンは、海 界遺産の した芸術	)観光資源を サからの の数も世界の である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	を紹介する。 観光客数は世 第3位を誇る 寺の料理など	ヨーロッ/ 世界第3位、 。また華や: ご観光客を惹	<sup>®</sup> の西端に位 観光収入は かな祭り、 ほきつける要	は、観光大国ス 位置するスペイ 世界第2位、世 天才芸術家の残 達素に事欠かな 注源を見てゆ	
目		海外観光資源研究B (ヨーロッパ2)	の観光が に日本に は敗北し	k行先として 大きな影響 、復興を	て人気のドィ 響を与えたし	イツの観光資 ベイツは、日 斉大国である	₹源を紹介す  本同様第二  。その歴史	は、ヨーロッパ 「る。明治時代 こ次世界大戦で ごを振り返り、 でした。	
		海外観光資源研究C (アジア1)	資源、 上記の れる る 観光	大文観光資 とうないと と を と を と で に き で は で り で り で り で が に が だ が に が で が に で だ り で に で ま で は で は し で は し に し て し て し に し に し に し に し に に に に に	源、複合観 な観光資日 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	光資源に大り が観光対象 本にあまり ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ を き 変 を さ を き で を き を う を う を う を う を う を う を う を う を う	別される。 としれて活ていない といいで把握は いちに は は は れる に れる に れる に れて に れて に れて に れて に れて に	的にはは 近年、 は自 はは、 はに は、 はに は、 はに は、 のは には は、 のは のも 地域 や 地域 や 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世	
		海外観光資源研究D (アジア2)	資源、 上記の れてる。 る観光資	人文観光資々した というした と と と と で に で に で は で い で い で い で い で が に の 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に り に り に り に り に	源、複合観 な観光 に 根 と そ に の き と そ の 差 と と の と と に の の た り と り と り る り と り と り と り と り と り と り と	光資源に大 が観光対象 本に資源にる 光考察する	別される。 といる 知してれて いて に 大 に た に た に た に た に た に た に た に た に た	的近には は は に に は 中 、 保 り の は に な い る と 地 地 地 と り も 地 地 と り も り は り り の り は り り は り り は り は り は り は り	

( 1 四 2	<b>₩</b> △≐	授学群 観光文化学類)	業 科 目 の 概 要
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容 備考
		海外観光資源研究E (オセアニア)	海外観光資源研究シリーズの一つであるこの科目では、オセアニアの観光資源を紹介する。オセアニアはその地理、気候、歴史的要因から、ヨーロッパやアジアとは異なる、独特で多様性に富む豊かな文化を育んできた。まず観光資源の基本を学ぶために、地理、気候風土、歴史の基礎的な知識を修得する。さらにその文化形成に多大な影響を与えてきた複雑な歴史的背景に注目し、オセアニアの豊かで魅力的な観光資源を見てゆく。
人間総合学群 観光	観光資源・	世界のミュージアム	ヨーロッパとアメリカ各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、各館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選んで、その文化的価値について詳細に検討を加え、展示方法・作品の魅力、問題点を探る。最終的には観光文化資源としての欧米のミュージアムの特徴を学び、ミュージアムの成立過程を研究することにより、当該地の文化と歴史を把握する。 (オムニバス方式/全15回) (1 羽鳥修・11 糟谷惠次・2 加藤ナツ子/1回)(共同)海外におけるミュージアムの役割についてそれぞれの立場から概要を述べる。 (1 羽鳥修/5回)アメリカ合衆国の主要なミュージアムを紹介する。 (11 糟谷惠次/5回)ドイツ、オーストリアの主要なミュージアムを紹介する。 (2 加藤ナツ子/4回)スペインの主要なミュージアムを紹介する。
文化学類 専門教育な	文化関連科目	日本のミュージアム	観光資源の観点から日本各地の著名なミュージアムの成立過程とその収蔵品を中心に、ビデオやスライド等の映像資料を多用して、その館の特徴を解説する。次に、収蔵品の中からよく知られた作品を数点選び、その価値について検討を加え、その魅力を探さぐる。さらに、各ミュージアムが現在抱える問題を取り上げ、解決策を考察する。最終的には個々の館の垣根を越えたミュージアムを巡る観光ツアープランを計画する。
科目		西洋美術の旅 I	古代エジプト、ギリシア、ローマ、中世ロマネスク、ゴシックから16世紀ルネサンスまでの西洋美術の流れを多くのスライドやビデオ等によって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞等をおこなうことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求しながら、一点の作品の背後に隠された依頼者と確執を明らかにする。最終的には西洋美術の基本的な知識を習得し、著名な作品とその作者の特質を把握する。
		西洋美術の旅Ⅱ	17世紀から20世紀までの西洋美術の流れをスライドやビデオによって概観しながら、各時代と各地の特徴を捉える。また作品の鑑賞と対比によって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する。対象とするのは、バロック様式と17世紀様式の類似と相違、18世紀ロココ様式、18世紀後半からの新古典様式とロマン主義様式の対比、19世紀後半からの印象主義とそれ以降のフォヴィズムとキュビズムの展開、20世紀後半の多様化する西洋美術までの特徴を明らかにする。
		異文化交流 I	アメリカ合衆国は多人種・多民族国家で、すべてのアメリカ人が「ハイフン付き」である。本授業では、アメリカを構成しているさまざまなエスニック・グループを取り上げるが、特にアフリカ系アメリカ人を取り上げ、彼らの出自の要因、アメリカ社会におけるコミュニティの形成過程、文化的貢献などを歴史的に遡って解説する。併せて、例えばニューオリンズとジャズの関係など、観光資源という観点でエスニック・グループと関係が深い場所・出来事についても随時紹介する。

			業	科	目	の	概	————— 要	
( <b>人間</b> 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			計	<b>素等の内容</b>			備考
		異文化交流Ⅱ	「ハの人パミのカスコミの併	フン付き」 フニッアイションインション フニック マンティ 取り かいり でいい いいい いいい かいいい かいいい ひいいい ひいいい ひいいい だい はいいい だい だいがい だいがい だいがい だいがい だいがい	である。を がアンド、 と が、 と が 発 に 後 源 と い え に る こ 、 た 、 た 、 た 、 た ら た ら た ら た ら た ら た ら た	授業では、 取り上げる ドイツ系の の出自の で に の の の の の の の の の の の の の の の の の	アメリカを メリ特に メリカに アメリア を を れの エス と で れの エス と で れる と で れる と た り れる と り れる た れる た れる た れる た れる た れる た れる た れる	のアメリカ人が 構成するいくつ ギリス系アメリン ・、カ社会における りに遡って解説す ニック・グルー か。	
人間総合学群 観光文化学類 専門	観光資源・文化関連科目	文化交流論A (日本とヨーロッパ)	交急た学日で(1) (コベ (1) ド (2) イ (25)交急た学日で(1) ボーる(1) ド (2) イ (2) ギース(2) ボース(2) ボース(3) ボース(3) ボース(4) ボース(3) ボース(4) ボース(3) ボース(5) ボース(4) ボース(6) ボース(4) ボース(7) ボース(4) ボース(7) ボース(4) ボース(7) ボース(4) ボース(5) ボース(4) ボース(5) ボース(4) ボース(5) ボース(4) ボース(5) ボース(4) ボース(5) ボース(4) ボース(5) ボース(	積導の旅も々バ谷)谷と藤ン 久ス 金極入よ行たなス惠 パ 惠日 ナ日 保と 大本 ツ本 安日 雄/ ス 全 雄/ ス 金	っと流した研 全 15 m 文 でにた文字 15 m 文 2 m z m z m z m 2 m z m z m z m z m z m	特に、明治時国強兵」「所治」「明治時国強兵」「死計を表した。また、また、そこから	対所は 東京は 東京は 東外々 大生 東外々 大生 ・25 の立 ・25 の立 ・3 でする。 ・3 でする。 ・4 でする。 ・5 容する。	かす、文化的なを ・対 ・対 ・対 ・対 ・対 ・対 ・対 ・対 ・対 ・対	オムニバス方式 共同(一部)
2教育科目		文化交流論B (日本とアメリカ)	史を概 でみら アメリ	説する。ま れた異文化 カに「輸出 文化など、	た、例えば 交流の歴史 」された文	『北海道を舞』など日米の 『化、逆にア	台に展開さ 人的交流、 メリカから	政府間関係の歴 れた開拓の過程 そして日本から 日本に「輸出」 例を挙げながら	
		文化交流論C (日本とアジア)	力るいア流再のと化分域つ識料	「共感する 大様の 大様で 大 大 大 に に 歴 を と で と で と で と で と で と で き で り に り に り に り に う に う に う を う と う と う と う と う と う と う と う と う と	心」は重要地でするでは、これでするというです。これでは、できまれている。これでは、でいるでは、でいるでは、でいるでは、でいいでは、でいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	である。特別である。特別である。 はないののとはいるのではいるのではいる。 ではいるではいる。 ではいる。 ではいる。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 であ	に見た目は 関、表 で の の の は の の の の の の の の の の の の の	化に対する理解 似たようで表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		イスラーム文化論	界ス方誤誕界のリで解生の	分が が 増 ル よ る 義 と 社 会 を と 社 会 に の の 概 に の の の 概 表 る 表 と に に の の に の に に の に に に に に に に に に に に に に	めるといれ 新たなデン 大スラーる。 及びムスリ	れ、日本の ネスサヤで イスシー イスが多数 イスが ステー	インバウンスサインが広びないではいる。	、2030年には世 ド観光客にもム ている。その一 起因するる偏見の ・イスラーム世 基本的な知識を	

/   884	w. ^ -	授	業	科	目	Ø	概	要	
( <b>人間</b> 和 科目 区分		学群 観光文化学類) 授業科目の名称			計	<b>葬義等の内容</b>			備考
	観光資源・文化関連科目	キリスト教文化論	世界観りて大ストリーは、	は現代にお 日本社会に 日本社会に 教徒は全人 理解されて	いても国際 いても、16 影響を与え ロの1%に はいないな 関する基本	政治や国際 世紀に近にず、 も満たずで もが現れで かな知識を	社会に大き スト教が伝 じられる- 宗教として ある。キリ	・リスト教やその ・な影響を及ぼし ・決まして以来、日 ・方で、日本のキ ・のキリスト教文化論で 世界のキリスト	
		旅行法規 I	取引にる で、旅行 を学習 らない ぶ。	あたっては 行業の基本 する。併 ま ま ま 族 が 新 が 新 が 新 が 新 が 新 が ま が も が ま が も が も も も も も も も も も も も	「旅行業系である」 で、旅行営 」「宿泊系 業を営む」	款」を遵守  行業法」と  業を行う上  款」や「景	しなければ 「旅行業糸 で理解して 品表示法」 「旅行業務	消費者との営業 さらない。そこ (表)のポイントな おかなければな などの基礎も学 取扱管理者(総	
人		旅行法規Ⅱ	てきよをう。 にまる こう	するもので 「旅行業法 国家試験に とともに、 時に毎年 9	あり、「 が が が が が に が に に の 出 見 に 行 れ れ の は よ の は あ に れ に に れ に に れ に に れ に れ に に に に に に に に に に に に に	行法規 I 」 約款」をよ た、授業で 題問題を中心	の単位取得 り専門的に は毎回「理 いに自己診 の対策科目	取得を目的とし 者のみが受講で 学習することと 2解度チェントを行 断のテストを行 である「旅行業	
間総合学群 観光文		国内旅行実務論 I	躍したい してい 専用の国 る国家記	いと考えて 、旅客鉄道 な知識を習 国家試験に	いる学生、 会社 (JR) 得する。同 向けての基 科目である	または旅行 の運賃・料 時に「国内」 礎知識を得る	業に興味を 金の仕組み 旅行業務取 る。同時に	来、旅行業で活 持つ学生を対象 や規則を学び、 投管理者」資格 毎年9月に行われ 試験特講」を受	
化学類 専門教育科	国家試験対策科目	国内旅行実務論Ⅱ	つ学生 空・学を学 の 会 の の の の の の の の の の の の の の の の の	を対象に、 の他運輸機 び、専門格 内) を養成する	国内の旅行 関や宿泊機 は知識を与 を得る国家 。同時に毎	客鉄道会社 関の運賃や 身に付ける。 試験に向け	(JR) をは 料金の仕組 旅行業務 ての高いレ われる国家	に 興味を持航と じめと 約 新書 出 という を いん いん がき 理 者 歌 で がい の 対策 者 歌 で が 歌 が いん	
目		海外旅行実務論 I	つ学生 運輸機 旅行業 外旅行い 種」な	を対象に、 関などの知 務取扱管理 には国内旅	旅行会社の 識、渡航手 者(総合) 行と異なり が必要とな	海外旅行業 続や出入国 の資格を得 、「旅券」	務の基礎知 に関する法 る国家試験 「査証(ヒ	《行業に興味を持る ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
		海外旅行実務論Ⅱ	かせない 運賃 得 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	ハ国際航空 算の基礎に 家試験にも 運賃、キ	券と国際航 ついて学ぶ 備える。現 まりア運賃 賃も存在し	空運賃につ 。旅行業務 在航空運賃 の他にIA	いて、その 取扱管理者 には I A T T A 不参加	海外旅行には欠 )仕組みと規則、 ・(総合)資格取 A (国際航空運 1の航空会社やL なっている点も	
		旅行業務取扱管理者試験特講	つ学生を 者」資料 試験の同 出来る。	を対象に、 格取得の国 直前にこの 国家試験 実務」から	9月上旬に 家試験合格 集中講義を では「旅行 出題され、	予定されてい を目指して ·受ける事に ·業法」「旅	る「国内店 受験準備を より、効果 行業・運送 ても 6 0 点	・宿泊各約款」 以上が合格点と	集中

			 業	——— 科	目	<b>の</b>	概	要	
		学群 観光文化学類)							
科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		観光の英語 I	つ英語の ベルの自 りように たった。	の運用能力 到達を目標 自行ができ なることを	を習得する とする に	ことを目的 体的な間力 使って対し、 アワークな	とし、観光 してした が単 によ が と に よ る に と る と り る り る り る り る り る り る り る り る ら る ら る	観光業務に役立 英語検定3ので 英語検で3ので 大変を 大変を はなどが でない でない でない でない でない でない でない でない でない でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい	
		観光の英語Ⅱ	海と的観光と的観光をお光地を目れた。	テや国際的に りとしてなどの けいなどのなどのない。 ではないない。 ではないない。	な観光業務 光英語検定 、海外でで を要を英語 概要を英語	に役立つ英ル 2級レンで 旅行とがに うご説明する による実際	語の運用能の運用を の乗りまが またい いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた い	て、学生自身の で力標とする で、学習する。 ではなる。 ではなる。 ではなる ではなる ではなる ではなる ではなる ではなる ではなる ではなる	
人		観光の英語Ⅲ	業こ的処ななるにこと	中心とした  目的とし、観けないであるといるといいで、 これでもいいで、 となるというでもいい。 となるというでもいい。 となるというでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいい。 というでもいるでもいる。 といるでもいるというでもいる。 というでもいるというでもいる。 というでもいるというでもいる。 というでもいるというでもいる。 といるでもいるというでもいる。 というでもいるというでもいる。 というでもいるというでもいる。 というでもいるというでもいる。 といるでもいるでもいる。 というでもいるでもいるでもいる。 というでもいるでもいるでもいるでもいるでもいるでもいるでもいるでもいるでもいるでもいる	国際的な業 光英語検定 、訪日観光 で説明をし	務に役立つ 1級レベル 本人旅行し、対 に対し、対 りなどによ	英語の 語到達内を 選を 発光地る に と と と と と と と と と と と と た と た り た り た り	て、旅行では、 旅行では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
間総合学群 観光文	観光の外	観光のフランス語	地すシ習り返しる	ストラン・ まざ力な場 ける観光客 東習して実	宿泊所・乗 面を想定し う。授業で と応対者に	り物・ション スランス は毎回語彙 分かれ、初修 する。初修	ッピングな <語を使っ とキーフレ ールプレイ 者のために	は、空港・観光 ど、外国で体験 て一ズを説明・ 形式でき、 、発音・ 文法の	
化学類 専門教育科品	国語科目	観光のドイツ語	地・サママントはいる。	ストさかまた ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま	宿泊所・乗 な場面を想 う。授業で と応対者に	り物・ショイ 定毎に は毎れ、 で かれ、 初 を が る。 初 を の で の で の の の の の の の の の の の の の の の	ッピングな ツ語を使っ とキーフレ ールプレイ 者のために	は、空港・観光 ど、観光 がインスを説明・表 で で で で が で で が が が が が が が が が が が が	
目		観光のスペイン語	地・レス 体験 つ を サ・練 野 を 繰り	ストラン・3 るさするカ 留した後、 の返し練習	宿泊所・乗 な場面を想 を養う。授 観光客と応	り物・ショ !定し、ス^ !業では毎回 対者に分か! を養成する。	ッピングな ペイン語を 可語彙とキ れ、ロール 。初修者の	は、空港・観光 ど、観光旅行でニ 使ってレーズを ウンレーズを 会 ために、発音・	
		観光の中国語	地体ショした後	ストラン・3 るさ力とざま かる 観光客 東習して実	宿泊所・乗 な場面を想 う。授業で と応対者に	り物・ショ !定し、中国 は毎回語彙 分かれ、ロ <sup>、</sup> する。初修:	ッピングな 図語を使っ とキーフレ ールプレイ 者のために	は、空港・観光で空港・観光でてゴスを説明を会立で会話を会す。 ・一次式で音・大大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・観光・大学・観光・大学・観光・観光・観光・観光・観光・観光・観光・観光・観光・観光・観光・観光・観光・	
		観光の韓国語	地体ショした後	ストラン・3 るさ力をぎまる まる 観光客 東習して実	宿泊所・乗 な場面を想 う。授業で と応対者に	り物・ショ !定し、韓国 は毎回語彙 分かれ、ロ する。初修	ッピングな 国語を使っ とキーフレ ールプレイ 者のために	は、空港・観光 ど、観光旅行で てコズを説明・ 東 ボ式で・ 東 、 発音・ 文法の	

			業	科	目	Ø	概	要	
		学群 観光文化学類)							
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		観光ガイドの英語	すに発城ア表がで観が、表	りに必要習 に実践まるよう 見光案内に 見光なないに 見いても学	英をないした。 表現でとイ親でいる。 では、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	外国人を対象 得し、地域の 目標とする。 を例に練習い むため、ガ	象の。をイとを魅りている。	イドとして活動 見光ガイドの心得 1頭及び紙媒体や稲 一大学の案内学の来 た、英字メディ などで使われる 別沢女子大学の英 も試みる。	共同
	観光の外国語科目	ホスピタリティ英語 I	の外国/ 力を習得 定型表び に学び、 す。 英語	、客に対する 身することで 見と応答の 英語を使 野での接客	る接客業務 を目的とす パターンや って簡単な に慣れるた	に必要な英語 る。Iでは、 外国人に対 接客ができ め、ロール	語でのコミ 接客の場面 する接客の きるように プレイなと	、、ホテルなどで ・、ホテルなどで ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
人		ホスピタリティ英語Ⅱ	レにる型らまれる 型ら接れて を表れて をまれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をも をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて をもれて	ラン、デパ よ英は、間便いこの ではいこか でしまない での での での での での での での での での での での での での	ート、ホテー コミ発生した しになができ なロールフ	ルなどでのか ション能力 ときず、個別 るようにな	外国人客に を習得する ののことを でいること でいること でいること のいること を になる になる になる になる になる になる になる になる になる になる	フを基礎として、 た対すとを目のに、 うことがはとして業的という。 で学がいるではいいないでは、 気遣すのでは、 がのいるがののは、 がのいるがののは、 がのいるがののは、 がのいるがののは、 がのいるがののは、 がのいるが、 がのいるが、 がいるがいるが、 がいるがいるが、 がいるがいるが、 はいるが、 がいるが、 はいなが、 はいるが、 はいるが、 はいるが、 はいるが、 はいるが、 はいが、	
間総合学群 観光文		観光文化ゼミ I	アープラ 界遺産等 表し、レ ンテーシ	ランを作成	する。今期 調べた後、 書く。パワ うことでプ	は各国の地 各自関心の ーポイント	理、気候、 あるテーマ とレジュメ ション力を	資源を研究し、ツ 歴史、文化、世 について研究発 を用いたプレゼ ・養い、レポート	
化学類 専門教育科		観光文化ゼミⅡ	アープラ がるテー ポイント	ンを作成 ーマを決定 、の使用に	する。今期/ し、基本的 熟達し、レ	は4年次の最 な部分につい	後に提出すいて調査研 き手の理解	音源を研究し、ツ けるゼミ論につな f究する。パワー ほを助けることを る。	
目	専門ゼミ科目	観光文化ゼミⅢ	アープラ 各自でラ ト作成し	ランを作成 テーマ性の レ、パワー	する。今期 あるツアー ポイントを	はツアープ プランを作り 使って実際	ランの作り 成し発表す に販売する	資源を研究し、ツ - 方を学んだ後、 - る。パンフレッ らつもりでプレゼ を進行させる。	
		観光文化ゼミIV	アープラ のための 工程はも	ランを作成 ロツアープ ジミ長を中	する。今期 ランを作成 心に学生が	はゼミ生全 する。担当	員で協力し の分担、発 う。並行し	資源を研究し、ツ で、合同発表会 を表会までの作業 して各自ゼミ論の で提出する。	
		卒業研究	光文化ので、自己になる。   で、ないて深くしますとします。	の研究対象 の分析の 追求して してまとめ	として選び 視点と問題 いく。その る。また、	、専門的な 意識を明確 結果を、体 それらの内	知識の修得 にしつつ、 系的、論理 P容を高度	たいた事柄を観ります。 をふまえたうえ 適切な方法を用 はいて文章化して なプレゼンテー はての実践力も	

			業	科	目	<i>o</i>	概	要	
(人間:	総合	学群 観光文化学類)	ı					T	
科 E 区 S		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		生涯学習論 I	的 に と り る 、 3 4 3 3 4 3 3 4 3 3 4 3 3 3 3 3 3 3 3	や基礎理いい。 学がれてを習い に選挙学習の に選挙での に選挙での に選挙の に選挙の に に で で で で で の に で の で の の の の の の の	論」と 生と本 と本 、 と を と を と を と を と を と を と を と を き と き き き き	習の内容や、ではおけるではおける支えを関います。と、到りと、のでは、対している。これでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	方「達る理・概なとというでは悪いではたい。これでは一次では一次ではいい。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	学習の意義や目行る。生涯学習に対して、介含ではいけなどではいけなどではいます。 できない できない できない できない さい かい	
		博物館概論	きとけ育歴とらいす、と史、、のる博し的国学	は講義は、 構義は、 生涯学習 がに課される。 はない。 はなかの はない。 はいの はない。 はいの はい。 はい。 はい。 はい。 はい。 はい。 はい。 はい。 はい。 はい。	専物館に関 社会役割にとれたのにといい。 ないといいではいい。 ないない。 はいない。 はいない。 はいい。 はいい。 はいい。 はい	する基礎的: 3行する中で ついて考え・ 、存在意義は といった額 : 紹介する。	知識を習得 で、こかから にたかから に がからに、 で がい に が が に が が に た が が に た た た た た た た た た	)果たすとない。 は大きないでは、 はないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
		博物館資料論	とる資く集説の特理をある。	を含めた、 うせに即れた。 対性に が が が は が に が に に に に に に に に に に に に に	資料に対す 古が民族、対する 対する 対する 対する 関係 対する 対する 対する 対する 対する 対する 対する 対する 対する は 対する は 対する は 対する は と に に に に に に に に に に に に に に に に に に	る基本的な 美術・歴史 料の取り扱い いな考え大 二次資料、	能力を養う ・かを養り ・かの講じい ・デジタ研究 で変いで で変いで でいる である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である	他の方法等、理論にとを目標とすに対等、具体的ないで学んでいると、資料の収証がでいると、資料の収証がでいると、資料の収証ができません。	
博物館学芸員	省令必	博物館展示論	について が展示の 展のなま と、展示	に解説し、またの組み立ちま本を持つがまない。 ま本を持つがまた。 がいれた。 がれた。 は、 がれた。 がれた。 は、 がれた。 は、 がれた。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	また具体的 てたといる ことか、展の 類、展示資	事例、あるい インの仕方 とする。博 の意義や実り 料の選定、 料の選定、	いは特定の 等を講じる 物館の展示 態を一般論 展示の設計	ウトリット は で は で が は で が は 定 か は 定 か は 定 か は に か 的 に さ が さ い に さ が さ い に で が さ と で で が さ と む で で が さ と 配 置 計 正 し た 講 を 想 定 し た 講	
養成課程科目	修科目	博物館資料保存論	る。展示の世界に関するのが、のが、のでは、のでは、のでは、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	示環境、収済 に引き継い 物館の資料の 後、資料の はの保存環境 では物館の	蔵環境を科で で動に で動 は り で動 い に お き 、 後 り と お り に お り に お り に お り に お う に り る り る り る り る り る り る り る り る り る り	学的にとらの知識を習っていかに大 資料の修理 件・災害・編	え、資料を 得すると 切ると りると の で の で の の の の の の の の の の の の の の の	っことを目的とす ・良好な状態で次存 ・で、次第料の資料の資料の資料の資料の ・を学ぶの梱包と輸 ・全場の管理・・・・) ・・、 ・・、 ・・、 ・・、 ・・、 ・・、 ・・、、 ・・、、	
		博物館経営論	ついて、 ジア経営 備、組織 マーケラ	具体的事( マネジメ) 営の基盤と 戦と職員等( ティングと)	列を通して ント)の基 なる、博物 こついて学	学び、博物的 礎的能力を 動館行政制度 んだあと、 イ活動、地	館を経営す 養うことを <b>ま、博物館</b> 博物館経営	デ理運営の方法に 「ること(ミュー博のとする。 「目的をする。 「の財務、証設設」 「の使命と評価、 「の物館等、博物館	
		博物館教育論	ら礎す面リ用となるとこうとのといるといるというというというというという。	ける。授業 る理論や実施的な能力が と、生涯教 で、生涯教 がの実際に	では、具体 と関する は身は は身場、人 は は は は は は は は は は は は れ は れ に は れ し に れ し れ し に れ し に れ し れ に れ れ れ に れ れ に れ れ に れ れ れ に れ れ に れ れ に に に に に に に に に に に に に	的な事例を事例を書りたまとのではいる。 おきい おきい はい はい はい かい	示しながら を習得物し る。 地域 る。 その ある。	ない は され され を され を を の の の の の の の の の の の の の	
		博物館情報・メディア論	等 と け ま る は ま を な え を な え を な え る な な え え る よ る よ る よ る よ る よ る な あ な あ な え る た る れ る え る え る え る え る え る え る え る え る え る る る る る る る る る る る る る	\て、ソフ   関する基礎   メディン   え、博物館   こ教授する	ト面、ハー 遊的能力を アの歴史と 館における	ド面ともに 養うことを 意義、博物 デジタル情 、 著作権や	理解し、博 ねらいとす 館活動と情 報発信の基	情報発信の課題 物館の情報提供 る。博物館にお 報ネット化の現 本をネット実習 、博物館の知的	

			業	——— 科	目	の	概	 要	
( <b>人間</b> 科目 区分	1	学群 観光文化学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
		博物館実習A (見学実習)	うでる定定接 をしたし	から、さま した知識を と、学生が ーマ (展示 レポートを	ざ深めない。 博なる ごまめるで配のするで配置ませい いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこ	館を見学し を目的とする いいがある いいが いいが いいが に いいが に いいが に りいが いい に りい に り	、他の博物 る。 見 る。 ど ち 、 展 示 資 料 れ た 博 物館	仕方を学ぶとい 館に関する科目 、教員が引率、 の見説等)を設 の解学芸員から直 なものかについ	共同
	省令必修科目	博物館実習B (実務実習)	博物館 を 資料の 野 の手 が所蔵で 資料の 国	こ関する科 取り扱いや 去等につい する資料や 取り扱いに	目の補足を 収集・保 に 関 い に で に き で に き で に き に き に き に り に り に り に り に り に う に う に う に う に う	兼ねて、学 ・展示・整 を目的とす。 接触れるた	内の実習施理・分の実習を 理・介質と のででである。 のである。 のである。 のである。 といる。 といる。 といる。 はいる。 はいる。 といる。 といる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 に	習の準備と他の設等において、の方法、調査を関すでは、調査館習では、おいて、	共同
		博物館実習C (館園実習)	で実対・場を対してに管一はにいいます。	こ経験する 京理・ う員習 で と し に に に に に に に に に に に に に	こめ 調よの でと でと でと で と で と で と の で と の で と の で と の で と の で と の で と の で と の で に の で の で の に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に る に る に る に る に る に 。	物館の理念 に、博物館 教育としての 養としてるこ	や設置目的資動責との事態を表現の主要を表現の主要を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	を業を 博物の現の現 の現の現 の現 が 、扱い等の収 等 を が を き る 。 習 の つ 事 を に 、 数 に 等 き に ま き る に る き る 。 さ る る る る る る る る る る る る る る る る る	共同
博物館学芸員		日本美術史	時代別に基本芸のでは、様なデザ	こテーマを 戦を修得す 美術品を軸 信仰・各 げインなど	設定し、日 ることを美 にと本美術 に 種 氏 大 美術 に 大 が ら の に 大 が ら に た が り に り た り に り ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら り ら り	本美術史上の 的とする。 の歴史につい 生み出され	の名品を軸 具体的に い 美に は は は は は は は は は は は は は は は は は は	開について、各 に、大 に、 と を を る。 こ 芸 に 大 き を 主 意 に 大 き こ き こ き こ き こ き こ き き こ き き き き こ き	
養成課程科目		西洋文化史	概 観 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、 し、	一つの文 記、手紙、 ヨーロッ 弋世界(古 中世、その	化の成長が装飾品や日 パ各地の/ 代ギリシア 結実として	いら衰退まで 常の必需品 々の生活と 文化)から のルネサン	での経緯をな などの多岐 さ考え方をき ヨーロッパ スまでを扱	イドを多の用した。 多用した。 を多のでは、 おった。 をのでは、 ないでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	
	基礎選択必修科目	日本文化史 I	に対しています。というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	る価値観や とする。 いぞれの いで いても側 日本の文化	個々の文化 体的における 低的における で世界遺産	事象につい 古代から近 文化的特徴 する。なお、	て 基礎知 現代に 現つ に 海外が で も 学び、	、日本人の文化 を修得するこび を修せを 等でであるされる で で に な と で と で と で と で と で と る こ で の に る に る さ る さ る さ さ さ さ さ く た る さ る さ さ く た る と た く た く た る と た と た と し て と と し て と と し と し と し と と と と と と	
		日本文化史Ⅱ	文化には、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいがは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、大学のいいは、はいいは、大学のいいは、はいいは、大学のいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは	おける芸術 神楽歌を またに、 ともに、現	と技芸の全 大文楽・落 に たの新 は の 稲城 ある稲城	体像を把握 舞伎などの などのさま 像や音楽の 芸能文化に	すること目 日本を代表 ざまな芸能 鑑賞を行い こついても	びなかける。日本体では、日本体のは、日本のはのは、日本のはのは、日本のはのは、日本のはのは、日本のはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのは	
		地域文化概論	人は痕て私暮の石が教ちしん	事らしに関 き物、気に関 ら見やまでを い生活で大 こおいて大	する知識を 年中域で る地登場され にが影響力 な影響力	修得すること なについて解 なにい普通こと ないも ないなけってい を持ってい	とた目的ととに残する。 は残すの暮すの子子 ときまれる。 はない。 ときまれる。 ときままれる。 ときままなる。 ときままなる。 ときままなる。 ときままなる。 ときまなる。 ともまなる。 ともまなる。 ともまなる。 ともまる。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも	で する ない まれてき まれてき はない まれて ない ない ない ない ない ない さい さい さい こい	

<b>( )</b> 即 (	松合市	授 親光文化学類)	業	科	目	の	概	要	
科目区分	1	授業科目の名称			譯	義等の内容			備考
		世界遺産研究	える責務を ユネスコ 遺産の種類 に、DVDで	と負う人業 会で採抜 質、登録の 登録され	類共通の財 沢された世 の基準と手 ている世界	産である世 界遺産条約 続きなど基	界遺産につ に記されて 本的な理解 する。また	きぎ、未来へと伝 いいて、1972年に いる定義、世界 を深めるととも 、「危機遺産」 な。	
博物館学芸	基礎選択必修科目	世界のミュージアム	収の選品ミと は蔵特んのユに は は は は な で は に は に は に は に は に は に に は に に に に に に に に に に に に に	<ul><li>中心説の問ム当 ス ・11 を ・12 を ・13 を ・13 を ・13 を ・14 を ・15 を ・15 を ・15 を ・16 を ・16</li></ul>	デアイン ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	ライド等の的 ラボーの で ボール ボール ボール ボール ボール ボール ボール ボール	を像資料を含む、と を含む。 を含む。 を含む。 を含む。 を注文の成立。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 立場から概要	オムニバス方式 共同(一部)
員養成課程科目		日本のミュージアム	の収蔵品をの館の特徴な選び、	と中心に、 数を解説する その価値 ユージには個々 かには個々	ビデオや する。次に 値について ムが現在抱 々の館の垣	スライド等 、収蔵品の 「検討を加え える問題を	の映像資料 中からよく え、その魅 取り上げ、	の成立過程とそそを多用して作品を かられた作品を 力を探索を考察す 解決策を考察が ムを巡る観光ツ	
		西洋美術の旅 I	16世紀ルネマー	マサンスは 概観になる におの個性 に執を明ら	までの西洋 ながらになる ないことに求し ないにない。 ないである。 はいである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といである。 といでものである。 といでものである。 といでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもので	美術の流れ 時代と各地 って、西洋 ながら、一	を多くのス の特徴を捉 美術の作品の は西洋美術	、ゴシックから ライドやビデオ える。また作品 的な特質と画家 背後ににされた の基本的な知識	
		西洋美術の旅Ⅱ	て概観した 対比によった を探え、18世 義様式の対	ながら、名 から、西海と かて、対ロロ 対に 対に が、対ロロ が が、 対に が、 が、 がて 対ロ は に が に が に 対 に は に は に に に り に り に に り に に に に に に に	各時代と各 羊美術のは はは は は は は は と は は と は は は と は は と は は と は は と は に は に に に に に に に に に に に に に	地の特徴を 式的な特質 、バロック 世紀後半か らの印象主	捉える。ま と画家や彫 様式と17世 らの新古典 義とそれ以	やビデオによっと た作品の鑑賞した 対象では、対象では、対象では、 対象では、対象では、 が成立の類似と主 が、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
	専攻選択必修科目	日本の文化財 I	て概説し、 する。具体 がら、日本 果たしてき	日本のプ いかには、 い近代( いた役割や	文化財に関 近代以降 比と文化財 や、日本の	する基礎知 の欧米社会 保護の歩み	識を修得す との関わり について学 化財の特質	な文化財につい ることを目的と を視野に入れな 習し、博物館の を考察し、文化	

			 業	 科		の	 概	 要	
(人間紅	総合字	学群 観光文化学類)							
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本の文化財Ⅱ	知識を活を記して物・観報の記述を記述を記述しています。	深めること された文化 術工芸品) 統的建造物科 学び、近年	を目的とす 財の概要と ・無形文化 群保存地区	る。具体的( 、日本を代 上財・民俗文 ・選定保存 いる世界遺)	には、文化 えまする有野 で化財・記念 技術・埋蔵 産、世界無	文化財に関する 財保護法によっ ド文化財(建造 を物・文化財 会物・文化的基 文化財遺産の概 形文化遺産の概 学習する。	
		歷史資料論	し、そのと 日記録等の 文お必要なお必要なお	の読解、調 する。具体は の文献資料、 の原本史料の 要に応じて	査、整理を 的には、古 、絵図、考 の読解方法	行うための 代から近代 古資料等の 、調査・整 で物館・資料	基礎知識を までの代表 既要を学び 理方法につ ∤館に行き、	料についてでででいる。 修得する工き、の が近世以習する。 いて学習を関いて原本 という。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
博物		民俗資料論	ついてはるないる。本語のは、	既説し、そのととという。 といい といい といい といい といい といい といい といい といい とい	の読解、調 する。具体I 信仰・芸能 通して、稲	査、整理を行 的には、地 ・民具等の! 城市および り扱いなが	行うための 域文化を理 民俗資料に その周辺地 ら、これら	形の民俗資料に基礎知識を修得解するために有で解説して解説して解説して、域に伝承・調査・	
館学芸員養成課程	専攻選択必修科目	歷史考古学	し、ことと関うない。	古学を通史的を目的とする を目的とする中世から での歴 での歴 での歴	的に見据え る。具体的 ら近代まで 史研究にお 研究だけで	る視点を養 には、城郭 の考古学の ける考古学 なく、民俗	うための基 、宗教、交 成果につい その可能性い 学をはじめ	の視点など の視点を が修りで が修りで が修りで がので がので がので がので がので がので がので がの	
科目		歷史地理学	く、地域 修得地域 史的、型域観の可	或的特徴もれることを目 るのと業とするな体的な歴り 可能性につい	視野に入れ 的とする。 くらしにつ 史像、地域 <sup>。</sup>	見据える視, 具体的には いて、それる 像についてな る。この学	点を養うた は、衣食住の を支える人 学習し、新 びを通じて	内特の世界では 大学の世界では では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	
		文化交流史 I	察するる。	ことを目的。と諸外国との主体的に受物についてものできた日本に	とする。具の交流の事の の交流の事の 容した社会の 学習する。	体的には、統例を取り上に 例を取りを 的背景や意 この学びを で、日本文化	縄文時代かず、海外文を 養についてで 通じて、国	歴史的特質を表でした。 を中野性の歴史的を特別である。 を取りの中では、 を取りの中では、 をでした。 をでした。 をでした。 をでした。 をでした。 をでいた。 でい	
		文化交流史Ⅱ	察でしないないない。	ことを目的なと諸外国の主体と諸外国の主体的に対している。	とする。具 との交流の 受容した社 て学習する。	体的には、 歴史を振り 会的背景や 。この学び 義、日本文	平安・鎌倉 返り、海外 意義につい を通じて、	歴史的特質を考ま 時代から幕末ま 文化を取捨選択 ての歴史的変元の中 国際でかように理	

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合者しくは届出を行おうとする場合は、この書 類を作成する必要はない。

		授	業	科	目	の	概	要	
人)	間総合	学群 心理学類)							1
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
	初年次教	基礎ゼミI	習方法持数が、の目の	を学ぶ。受 って講 うな き うな き うな き うな ま う ま う な え り る と う な え り る と う な た る た う な た り た る た り た ま り た り た り た り た り た り と り た り と り と り と	:け身の態度 :参加し、さ :人数クラス :学生活を過	で講義に臨まな対話がいます。また	むのではな 題に対して 通じて大と 大の読み 、本の読み	めの基礎的 く、自に取 主体的に取 学でひとり 方、講義の	題意 り組 学ぶ が自
	\$育科目	基礎ゼミⅡ	の技術ではなる。	と姿勢を養 ためのことがいるというというというというというというというというというというというというというと	う。自分で の習熟を目 目標とする の積極的な	調べ、それんとれいいまでは、、それがはいまでは、これでは、これがある。これでは、これがいる。これでは、これがいる。これでは、これがいる。これでは、これがいる。これでは、これがいる。これでは、これがいる。これがい。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがい。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいいる。これがい。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいる。これがいいる。これ	らを整理し に、自己に 基本的に、 よって進め	充実させる 、他者に的 ついて理解 参加学生の られる。個 通して、大	確に と認 主体 々の
人間総合学群		仏教学 I	マ基ド史るまない。	ッダの生涯の生涯の生涯の生態をあるといる。 があるといるではいるではいる。 といるではいるではいる。 といるではいるでは、 といるでも、 とっと とっと とっと とっと と と と と と と と と と と と	とその教え そく修 で が ず が が が が が が が が が が り で り で り で う く り で う く り て り て り て り て り て り れ り れ り れ り れ り れ	を知り、仏目とないのとのでは、仏目とのでは、というないでは、はいいでは、はいいには、はいには、はいいにはいいに	教学および 的背とする。 的手涯とは教 ととなる。 となる と思する。	の開祖、ゴミスをはいる。原教的にはいる。のはいる。これではいる。これではいる。これではいる。これでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	する イン 、歴 説す に由 の坐
教養教育科目	建学の精神	仏教学Ⅱ	禅師の おけ景で おす景でい 事象、	生涯とそくとそくとろいるとろいるとろいるとうないできいいまではいいまでいる。	教えを知えたる。からない。 またる 嫌を はいい また また また また また や 思 の 哲学 や 思 思 思 思 思 思 思 と 時 上 代 思	、を代のに継ん を代のに継ん とした とした としれて	よるしてた教学的の任意を表示。これの人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一	宗の開祖、 にははも基 ににはか生生の を を はいの を はい を はい を は い に は い と は い に は い が は い が に が り と り と り と り に り に り に り に り に り た り た り に り た り た	本的 Iに 化的 思想 化的 館の
	を学ぶ科目	仏教学Ⅲ	史とそ修 とくびまれて 現や思想	の教えるを知えるをこくをこくなるできるできるできるできるできるといいます。	り、仏教学 を目的と 倉時代を中 本仏教行事や 仏教行事や	および宗教 る。とりはない はない はない はない はない はない はない はない はない はない	学に関する には仏教学 本の歴史い でいま象、 でいる のと禅堂に	て日本仏教 本仏教 ・ I・IIにお ・ 文化する。 ・ には禅の。 ・ には程度の。 ・ に理程度の。	をひ ける 景を また 哲学
		仏教学IV	を 教すにがに は れて れて れて れて れて れて れて れて れて れて れて れて れて	をこづ、承つい、目日史たはの本や仏的本や仏的本や仏学	教学および とする。具 の禅宗文化 曹洞宗の歴 教行事や禅	宗教学に関係を関すに関係を関するという。 会に関すの人のでは、 会には、 会には、 会には、 会には、 会には、 会には、 会には、 会に	する教養・I 教学 I・文 サウン サウン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン	て禅の歴史の歴史ろ・Ⅲに表でいまでは、 ・Ⅲに表でおけい。 ・前には神るのはは神の坐 ・回程度の坐	く修 る学 まえ た現 学や

		授	業 科 目 の 概 要	
		学群 心理学類)		
	科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	(概要)本講義は、駒沢女子大学の学園創立以来の歩み、本学の教育の特色などを学ぶことによって、駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティーを確立させることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (13 光田督良/1回) 建学の精神をふまえた駒沢女子大学の教育理念と教育の特色と題して、テーラーメイド教育、ミッション、教育力、学位授与の方針などについての講義を行う。 (24 佐々木俊道/2回) 駒沢女子大学の1年と題して、学歴会、花まつり、追善記念日、成道会と摂心会、誕生記念日、涅槃会と針供養などについての講義を行う。 (30 千葉公慈/2回) 駒沢女子大学の歩みと校歌・校章と題して、校歌の成立過程、歌詞の内容、解釈などについての講義を行う。校歌をCDで聴かせ周知を図る。 (21 安藤嘉則/2回) 創立者、山上告順先生の生涯と教育理念と題し、学園の歴史に即しながら山上先生の教えについて講義を行う。合わせて明治初頭の日本の様子も紹介する。 (36 皆川義孝/4回) 前半は稲城の自然と歴史、稲城の文化財について紹介したうえで、近隣の高勝寺、三沢川などを散策することで理解を深める。後半は駒沢学園の歩みを草創期から戦前、戦後から現在に分けて講義を行う。学園内の施設や裏山を歩くことで本学に対する愛着を高める。 (24 佐々木俊道・30 千葉公慈・21 安藤嘉則・36 皆川義孝・46 石川創/4回) (共同) 駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティを確立させるため、これまでの学修の振り返りをグループに分かれて行い、また学修結果の確認作業として「駒女検定」を実施する。	オムニバス方式 共同 (一部)
	入門?	日本文化入門 I	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、日本文化を生み出す土壌となった、日常生活やその周辺における身近な文化事象である衣・食・住について解説し、さらにこれらを育んできた日本人の精神についても学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同
	科目	日本文化入門Ⅱ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、自然の中に神を見出し、祭祀・儀礼・芸能などの文化を生み出す土壌となった、日本の多彩な風土について開説し、そこに根ざした特色ある生活文化の歴史について学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同

()	、間総合:	授 授業 心理学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		人間関係入門 I	の理再を紹む ( 心る (社る (29 田) では、 (29 田	ニ会反学。目 ヾ 友視 恵視 ・	ョンに対し、 検服に大きない。 をもいる。 全15回) 一回) 一回) 一回) 一の対象についる。 一回) 一の対象についる。 一の対象についる。 一のの対象についる。 一のの対象についる。 一のの対象についる。	て、人文科研 て、人文科研 メディ供供学 変を を を を の の 力 に で か で の の の の の の の の の の の の の	全・社会際 社会際 に 5。プロ 例 を 紹 紹 の の の の の の の の の の の の の	しん、心をか とど問(は関スつか とと問)は関スつか との論語が関する とででできます。 とででできます。 とででできます。 とど問(は関スつか) は関スつか がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。	オムニバス方式
人間総合学群 教養教育科	入門科目	人間関係入門Ⅱ	(心理など) (心理など) (心関スをかい) (本の) (本の) (本の) (は) (本の) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は	、	、身体文化 生を対象に、 各分野・手 で 全15回) (5回) と研究対象に を かずる。 を 15回) と が完対象に を 25回) と で 25回) と で 35回) と で 35回) と で 35回) と 35回 と 35回 と 35回 と 3 と 3 と 3 と 3 と 3 と 3 と 3 と 3 と 3 と	論、メディフィイス それぞれの まの特徴と鬼 こついて研究 こついて研究	で研究、国 で学的アプト は力につい で事例を紹 で事例を紹	関連する諸などの を は会論などの での での での での での での での での での で	オムニバス方式
皿		英語コミュニケーション入門 I	語運用能が、シスラスを表し、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	力を養う 1人のマ 1人のマ い で 認 気 で る く で る の マ い の マ い の マ い の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	とともに、 をともに、 ちネイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2 <i>り</i> 果を高める	版りを行数りを行数を対している。 教員が少担当 はないをしたがいる。 はないののでは、 ないののでは、 ないののでは、 ないのででは、 ないでいる。 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	けい、自律 とながいました。 はいれる はいまない。 はいれる はいまない。 はいる はいまない。 といまない。 といまと。 といまと。 といまない。 といまない。 といまない。 といまな。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっ	し、基礎的な存 のな育。 かカンドや、発 がカンドや、 利力・ 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	共同
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	礎成ンン表し、 かす、テ現の はなるマンの は、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	語運用能 1人の英 ツーで のマン のに 気 の 学 習 効	力を養う。 野ネイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2 <i>り</i> 果を高める	版り返りを追教するを追教するとのを追りをした。 教員が少を担当 ののの日本人教 ための指導を	通し、自律 といい。 自力 は は は は は は は は は に は に いっ に の に いっ に の に の に の に の に の に り に り に り に り に り	活動を習能度を 行い、 を習能度をシート がカンドや、 発力・ドウ・ の の の の の の の の の の の の の	共同
		観光文化入門 I	が進展し すれる も要産業	、生活の き現ての 親いと での 親いと ジ	豊かさが求る ていくと思 光が国の授 る。この長し して成長し	められる中で われる。また 斉や文化・国 業では、観光 た観光に関わ	<ul><li>で、観光の</li><li>二、「観光</li><li>国民の生活</li><li>社の意義を</li><li>つる基本的</li></ul>	今後高齢化社会 高齢化社会 高齢役割は 対が指すが は すっ いた いた いた いた いた の に 考 な 票題 を 正 、 項 題 を で れた し が た の た り で た り が た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	

( )	月日 4/	& <b>소</b> 수		業	科	目	の	概	要	
	科目区分		<b>子群 心理字類</b> ) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			観光文化入門Ⅱ	い 多 観 と っ ・ も に る 、 光 ま の に の に の に の に れ に の に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に 。 に 。 に る に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に に 。 に 。 に に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。	(側)意様観媒察中で・な事・るに、ない事・るに、	われる活動 果を高め、う 動」意義をという 光行政とれまた、観光	Jを含む、 観光を と は し い 持 観 し つ で 支 え を 表 を 、 の 支 と た き も の し る で き も し る で き も る を う を う を う を う を う を う を う を う を う を	見光に関われ 社会的なこと を構成して を素から観光 る旅行・タ	面など公共性の高 る事業をにしよこのよう。 記象を必れた。 のようなが、 はこのようなが、 はこのようなが、 はこのようなでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
			心理学入門 I	し間がる 問が、歴史的 に 思知を と に を と に を と に と に の に の に り に り に り に り に り に り に り に り	基礎心理決や改善業では、 情動と	学と、基礎 に寄与する 者を柱とし こころを理	心理学の知 ことを目指 た授業を行 !解するた。 !的な知識を	見を活かし す応用心理 う。心理学 かの感覚・	は法則の探求を推 に現実生活上の 実生活上の との に大別さ程と の が の が の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	
			心理学入門Ⅱ	生活の中 法・解説す 究領域は	でどのよ などの領 るととも 学際的で	うに生かさ 域に焦点を に適宜レポ	れているの 当てる。出 ートを課し する他の学	か、教育・ 来る限り ていく。 間との相互	で、心理学が社会 医療・福祉・司 具体例を交えなが そた、心理学の研 正連携が不可欠で する。	
人間総合学群 も			住空間デザイン入門 I	い、建築 ルー ト、見 り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	・インテ ・にデザイ :会や共同	リアからも ンする「リ 作業などの 表現する力	のづくり ( ビングデナ 実践の場を	家具、陶器 ザイン」 に 通してデサ	本的な知識を養 景、織物)までを いいて学ぶ。ま デインの基礎を学 比判する力を身に	共同
教養教育科目			住空間デザイン入門Ⅱ	づくり ( ングデザ 会や共同	家具、陶 イン」に 作業な 表現する	器、織物) ついて幅広 の実践の場	までをトー く客観的な を通してデ	タルにデサ 視点から学 ザインの基	ンテリアからもの ドインする「リビ さぶ。また、見学 E礎を学び、自分 Jを身につけるこ	
			人間と思想 I	かを考察原んだ学り、からないです。	するとか きまれる ままれ で ままれ で ままれ で ままれ きまれ さい きょう さい きょう かい きゅう かい きゅう かい きょう かい きょう かい	が本授業の ら中世ルネ 使って、現 料として西	目的である サンスまで 代的な問題 洋哲学を歴	。ギリシア の哲学的知 についての 史的に学び	つようなものなので、 では、 では で紹介し、学 の考察、演習問題 が、かつ現代社会 であることを	
	養知科	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅱ	存在とり関的、との関連との連	て考えら 代的なテ 実践を活	れてきたか ーマにつち 立てる方、現 間について	ということ てもとりあ を講義する 代社会にお	を考察する げて、知識 。哲学史を ける様々な	人間はどのような 5。倫理や道徳に 成を増やし、哲学 2覚えるだけでな ま事象や社会問題 ごができるように	
			人間と文化 I	考察を深 文化を発 るい と と と と と と と と と と と と と と と と と と	める。 展させて くほど共 、 教育、	本は古来よきた。外国は通した特徴は	り諸外国か から移入さ がみられる 交通などを	らの文化を れた文化の 。このよう 取り上げ、	○日本人について ご受容し、独自の 必変容のパターン な観点から、言 近代日本におけ いく。	

( )	(問約	<b>소스</b>		 業	科	目	<b></b>	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			人間と文化Ⅱ	人や日 は、198 移入と ら、現	本文化の特 53年に放送 の関わりな 在に至るま	徴について がはじまっ こしには語る での日本人	考察を深め たテレビを ることができ	る。1945年 中心とした きない。こ について、	大戦以降の日本 以降の日本文化 アメリカ文化の のような観点か 戦後の日本や日	
			生命の科学	物とい で ら を す る の 到達	う。生命の な機能を進 解する上で 生命科学の 目標として、	連続は細胞 化させた。 必要となる 基礎知識を	を進化させ、 本講義は生 基礎的な知 身につける よの範囲で生	、単純な形 命科学の最 識を学習し ことを目標	する。これを生態からより複雑新の話題とそれ、加速度的に進 ときする。最低限で事内容が理解で	
			倫理学	る。具の現代の場合の現代の表の対象の対象の対象を表しています。	体的には、 展開、科学 終末期医療 紹介する。 を身につけ	倫理学の歴 と倫理、科 と人間の いれらの 学 、倫理的に	史、自由の学の中立性 厳などの諸  修を通じて	価値、功利 、科学技術 問題につい 、平等や正 どのような	テーマを考察す 主義、倫理学の と倫理、例をあげ で義に関する哲学 にとなのかを学 こい。	
人間総合学群	養	人間を学	人権の基礎	間権の権の権要概略を	厳』というのれらがどのな問題性を な問題性を 養といて理解 で解するこ	観念、これ ひようにして 孕んでいる 再なること、 るこれ	を具体化す で形成され、 かを、ささと の の 人権獲得	るための力なのような どまのない。 を は を を との と を と を と を と を と の と の と と の と と り と と り と り と と り と と り と り	ある」とする『人 方法としての「人 た内容を持ち、、 た内容を検討し、が がのの保障等等の ででである。 ででである。 でである。	
教養教育科目	科目	子ぶ科目	女性の人権	すればされてきだい。これできれていますが、これでは、かいかいは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	女性の人権 た原因の把 けでなく、 で、なぜ女 の原因を理	が握れまれまれまれままでのの権力のでは、	るかを、女 除という視 点をも取り 女性の人権	性の人権が 点から解説 入れていな 上げられな が充分に保	検討し、いかにさ、 いかにないかにさ、 し、しるに際のの の人権はならぬに ければれることを けたすることを	
			心理学 I	を行うな様とをしい。	学問である 研究を紹介 大きな目に かともに発	。この授業 し、心理学 とする状態で 達し大人に	きでは、これ の基礎的な 理学 I では 誕生した赤	いまで積み 知識と考え 、主にんが ちゃんがと のかを理解	についての研究 重ねられてきた 方を身に付ける の発達について のような経験を し、自分のこと	
			心理学Ⅱ	を 様こた 団活で 誰	学問である 研究を紹目で おかかかい がかが体験 にす	。この授業 し、心理学 とする。ムに カニズてどの ることが心	では、これの基礎的なが 理学Ⅱでは ついて説明 ようなこと	はまで積み、 知識と考え、 知覚やこう 知りまる。 かとうに かように研	に かられているのの でのできた でのできた でから できた できる	
			生涯学習論 I	的、 歴 に と し 意 る 、 る 。	史 や学ま を学ま を学ま をでれ ので でで でで でで でで でで でで でで でで でで	論、生涯学ける とと本、 にと本、 に を を と を と を と を と を と を と を と を と を と	習の内容や ではおける支 における支 と 展開)を 理論を理解	方法を概説 「達者を概説 とばなと はない はない はない はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	学習の意義や目はする。生涯学習の意義や目はする。生涯学習はいけないはないとままでは、①生涯自覚するを充ることができる、以上の4点	

	1. 四.	公△,	授 (学群 心理学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		学研 心理学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			生涯学習論Ⅱ	や必としの伴かとしの件がある。	職員の役 礎技能を ①生涯を 健女 と で は と で で で で で で で で で で で で で	割について: 修得するこ 習の意義や 修得する、 解・説明す	概説し、生活 し、生活 と目 り 生 性 理 生 と き き き き き き き き き き き き き き き き き き	涯学者 接続 できる できる できる できる できる できる がきる かきる とき さい きょく かいき とい きょく かいき くん かいき くん かいき しゅう	全習に関する制度 そ習に関する制度 その担い手と当して標 おする担い手と は大援の担い手と は大援の担い手と は大援の担い手と は大選挙者 では、 の社会進出に 、 のと選挙者 をあげる。	
		人間を学ぶ科目	社会福祉概論 I	でとら祉度理ない。て在管歴	ずギ至る福や課と習慣、	祉論の基本 アメリカを アの流れを押 高齢者福祉 的問題につ し、社会福	的視点を紹か 中心に学び、 けさえる。そ といて取り上い いの諸現象に 社のなまりまり	介し、次に 、 と本、 でして福 で で で で が る。 で る。 で る。 で え く で 、 が る。 と で る。 は る。 た る。 た る。 た る。 た る。 た る。 た る。 た	学習する。授業 社会福祉の歴かいては、古代電祉、児童 性福祉、児童・野に高の基本の基本の代表の そ考察できること で考察できること	
			社会福祉概論Ⅱ	クの実際理解して、 ワーク () 援助技術	をして、 。 授助技術 の 具体的 で関する	社会福祉の 半では、各 (ケースワ )な事例に取	実施体制や 自がソーシー ーク) およで り組み、発表 を習得し、	社会福祉援 ヤルワース び集団援助 表と討議を 社会福祉援	ソーシャルワー 良助技術について ローの立場に立っ 力技術(グループ 大行う。社会福祉 も も も も も も も も も も も も も	
人間総合学群	教養知		日本の歴史	開、社会 と と 際 環 し、 の 変 遷 を 悪 で 悪 で で る で る で る で る で る で る で る で る	や文化の lとする。 などで の文化的 総合的に	特色、国際 具体的には 色について 特徴につい	関係に関す 、各時代の『 、歴史習する。 で学習する。 察する歴史	る基礎的知 政治、経済 や先行研究 の思考力を の思考力を	国家の形成と展 1職を修得するこ f、社会、文化 f、社会、文解説 に基づいて、明代社 で得し、現代社	
教養教育科目			世界の歴史	「権利」 びかる。 に権利 が持つ「	と、それ が 対立 で が が が が が し た を を れ し た を れ し た た た た た た た た た た た た た	らを獲得す することで 階級、民族 のか。この	るために行る 、受講生の 、そして国 、 、 そしを考える る機会を提 る	われた様々を 思考能力と 家ここてい よしていき	だれている様々な結 な「排除」 高めてがどのよう 人り、受講なお、 たいい。 なおく。 なおく。 ないく。	
		文化と歴史を学ぶ科目	戦争と平和の歴史I	のなのが 界大戦 19世 も 言及す 考方法を	·?この問 での国際 記後半に る。国際 身につけ	いに対する 際関係を分析 国際社会で 関係史の基 ることが目	答えを求めてする。欧米 頭角を現す。 礎的知識の 的である。『	て、19世紀 その国際関 ようになっ 習得、さら 映像資料を	は避けられないも 記末から第二次世 保が中心とついた かた日本について いた社会科学的思 のおし、世界史 を見していき	
		П	戦争と平和の歴史Ⅱ	のなり、かんのかが、中のののの、中のつつについている。	・?この問 ・?この問 ・ と ・ こ ・ こ ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	いに対する。 の国際関係 パはもとより カと世界を 基礎的知識	答えを求めるを分析が、このでは、でいるでは、でいるでは、でいるでは、いいのでは、いい	て、第二次 。アメリ オセアニ 在進行社会 を多用し、	は避けられないも は世界大戦をいま カ、ソ南北ア(アメ) ア、南北アに言と ア、南北アに言と はでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
			西洋文化史	概観し、、、は、し、し、、は、し、し、し、し、し、し、し、し、したしたした。	一つの文 己、手紙、 ヨーロッ :世界(古 i世、その	て化の成長か 装飾品や日 パ各地の人 代ギリシア 結実として	ら衰退まて 常の必需品 、々の生活と 文化)から のルネサン	での経緯をなどの多明 さ考え方を ヨーロック スまでを扱	・イドを多用して 研究する。モノを をにわたるモナるのを 知る。本講義を の本述を が、の本語を が、の本述を が、の で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	

()	<b>し間</b> 約	<b>総合</b> 章	授業科目の概要 合学群 心理学類)							
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			日本美術史	時代別に 基礎の記 通じでデザ	ニテーマを せを は で は で は で は で は で は た い と が は に り に り た り た り に り た り た り と り た り と り と り と り と り と り と	設定し、日 ることを美術 に日本美術 種儀式から 、日本美術	本美術史上の 的とする。 の歴史につい 生み出された	の名品を輔 具体的には い美、建 た きに日本の	開について、各 に、日本美術の 、絵画・彫刻・ 、絵画・の学びを や工芸に大きな ・ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
			比較文化	たらに出いにおけるにおける	つ「衝撃ととなるというであるとない。」であるというできません。 という エリカ	憧憬と葛崩 界の中の日 目的とする ルトガルと 時代のオラ	素」について 本を、歴史 。16世紀後 スペインの「 ンダの実用 パの列強と	、第一次 的にも、空 半から17世 南蛮文化と 学への憧れ	化に初続なる 資料をにも、 ではいる ではいる では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
		文	日本の文化	いりし人の科を記述し、いりし人の名の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人	日本で生ままなないないにない。 お生がいいにないないにいる は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	それ育った者 を践し無意記 でがらが がのような がれた心を	皆は誰でも持 載に文化とし 生した言葉 ・無意し、 ・理解し、 ・ 自分自身	終拶と言う となりであるこう に付いと に付い、無意 に、無意	化を中心にみて 言葉でいる。どの は、はとの日は、 は日本人のでは る識に行って 計量を見直す事が	
人間総合学群	教養知	文化と歴史を学ぶ科目	観光地理 (日本)	特産物ができる。	などについ できるよ ・チャく。 ・。。。 ・。。	て幅広く学 う知能 が行を 意識 「旅行 で 業務 り に 議 で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	ぶことによ める。地図 しながら観 取扱管理者	り、「旅行 と現地の映 光資源の特 」の資格を 資源の所在	の文化・風物、 」に対して東門 像などを利用し 像、位置関係 後、百 日 日 首 日 首 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	
教養教育科目	科目	I	観光地理 (世界)	史・文化 知を見る おります ままま ままま ままま ままま ままま と 地形 と せいしょう かいしゅう かいしゅう しゅう かいしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	と・習慣なけるに付けるに向けてのこともにいる。	どを学び、 。「旅行職 基礎となる まなち等	国際人とし、 務取扱管理学ぶ。また、 ので、講義	てのしっか 者」の資格 、世界遺産 の対象とな	な観光資源や歴りとしためのでは、を得るため理検定を得るため理検定を存った各資産を合わる。	
			日本の文学	記と芥いすまといまでは、これを含されています。	住化の華」 名の読み方 で本の小説 と研究の基 で、小説	を読み、たののでは、ためののでは、	れぞれの作り アプローチの分析を通し けることを りについて	家について の仕方につ て 単さなる は自の論点	短のい感。な講、 に 知る に は は は は は は は は は は は は さ い を 義 は ま は ま は は は ま は ま は ま は ま り は る き る ら り る る ら り る る る る る る る る る る る る る	
			ヨーロッパの文学	代でデ『ロファロット	が 外国文学 コ世のダンラー ナとショー ナといる カスト リスト した。 のので、	のテーマと である。 エット。 グリム童話 の文学作品	その問題性 ーサー王の ダンテの『 ゲーテの [ 、カフカ『	を歴史的に 死』『トリン 神若身』 ずなな なっこ でいるこ	ら、中世から現 ・ 中世から要素 ・ 根親 ケンスピアの ・ アイクス 悩みる。 ・ アイルの がずる。 ・ とで、 ・ いきたい。	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	交代にえる。 私達 る。 未来	スポットラ 幸の日常生 台に希望の こ考えると	イトを当て E活は、様々 無関心は、 持てる日本	ながら探る なお局面で砂 政治家任せ にする為に 生として知	ことが、本 対治と密接 の生活を送 、今何をす	員、官僚、政権 講義の目標であ に結びついてい ることにつなが べきい事問題力を き時事問題力を	

()	人間系	****************		業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			= ±	<b>養等の内容</b>			備考
			世界の政治	るのが される か。日 本政治(	この講義の 場合が多々 本が「異質 の特徴や日	目標である ある。なせ な国家」と 本国憲法の	。国際社会 日本は世界 思われる構	で日本は異 から「異質 造を、国際 証する。ま	ポジションを探 質な国家とみなの 」と思われるの 政治に日本を取り た、いく。	
			政治と市民参加	権ながまる大きを表して表して表して考える。	選挙権、レ いの会を通じる なを通じを なることを	ファレンダ 講義はている 、一般市民	、ム)を通じ 学権や被選 ファレンダ による政治	て様々な政 挙権の歴史 ム (国民投 参加を 選挙権の意	る参政権(選挙と 治参変権の可能を 的変と住民投票) 性と限響につい さい。	
			日本の経済	する。 ニュ ニ で デ ア 経 済 の 「	それにより スが理解で 実際の新聞 GDP、失業 動きを学び	、新聞や発 きるように 記事や雑誌 に 率等の基本 、経済全般	推誌の経済記 なることを 記事、ニュー x的経済用語	事を読む 最低限の目 ースを題材 や現在の日 知識を修得	般について教養を 素養とする。 で、まる。 で、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	
人間総合学群	教養知	社会と自然	世界の経済	視さは、経れない。	語ることは まな問題は 済の基礎理 仕組みを理	できない状 、世界経済 論や基礎知 解すること 問題の原因	況になっている と連動した!  識を身に付ける   を目的とする	いる。政治 動きを見せ けたうえで る。さらに	外との関係を無 も含めた社会の ている。本講義 、世界経済の根 、現在世界で起 導くための考え	
教養教育科目	科目	を学ぶ科目	新聞と報道	である。 道、社会 報道に っつでい	。具体的に 会問題報道 分類し、そ 一能力を養	は、記事の 、事件・事は れぞれの文 う。そこに 動的に理解	内容を、政済 対報道、生活 脈の理解の付 書いている。	怡報道、経 報道、スポ 仕方を学ぶ ことをただ	が本授業の目的 済報道、道、 一ツをで があり こと動的に で 受動かする 能力を 解釈する 能力を	
			グローバル共生論	的はでは、言いては、言いを	は近年活発 去最高を記 私たちの周 語、宗教な 考察し、グ	になってい 録し、今後 ]りの「多っ どを有する ローバルな	ヽる。海外で も増加する。 文化」化に目 人々とのコ	で仕事や生活 ことが見込  を向けな:  シュニケー  お多文化	国境を越えた人人 活をする日本授業 まれる。本授文 がらョンの現状と シとの共生のあり 、。	
			法学	んでい る。こ 何か」 る。新 ための	くための手 た数では ということ 聞やテレビ きっかけを	段であるな 、近代以降 をていねい の社会問題 作り、異な	が、時に私た の市民社会の に伝えてい などについ	たちの生活 のあり かあり が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	会をよりよく営を厳しく、法とは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	
			法と社会	各種方法とは司せること	格取得や卒 分立と考いる 料をがなる は 表 との に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	業後に向け 基本的な考 現在の政治 判員制度の 課題を考察	た社会人力のためでは、た社会人力のためでは、た立憲民主を実践に触れ、する。日本	の育成を目 た後、立 主義に照生 主市基本法 国の基本法	得することで、 指す。国民主権 と行政がする。 して分析に反対 を裁判に日本い。 を裁したい。 提供したい。	

( )	、問名	<b>公会</b>	授 辞 心理学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			日本国憲法 I	業では、東京に対している。東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東京の東	第二次世 検証する。 主義」といく ないく、 ないく、異	界大戦後に その上で、 う3つの柱に 。日本国に なる意見を	定められた 「基本的人 こついて、急 おける基本	憲法の基本 権の尊重 がずに具体 去である「 筋道を立て	意味する。本授的な仕組みを歴」「国民主権」「例を踏まえつの日本国憲法」のて未解決の社会	
			日本国憲法Ⅱ	人の政治にいれている。	りの 国民 大 の あ び 、 。 な よ る る る る る る る る る る る る る	人格の担い 定めている 憲法をめぐ 国における	手として尊重。この授業では、 って議論され 基本法である。 つつ筋道をな	重するため では、国家 れている問 る「日本国	制定された。一に、憲法は国家統治についる。 題点について制度について制度について制度を 表法」の役割を 決の社会問題を	
			社会学 I	為とが、会の社論といい、会の日間では、	己、社会を たいなな といる との との との との との との との との との との との との との	序と権力、 ・取り上ける 結びつ方を理 大会学の「当 生活の「当	組織とネットのは、理論になった。理論をはいる。 理論をはいる。 解するのは、 解するのは、 ないがない。	トワーク、講覧 かいての講覧 かいていていいでいい。 からないではいい。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 からないできる。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 かっている。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではない。 からないではないではないではないではないではないではないではないではないではないでは	は何になった。 は何か、再生ない、相互産、のでは、一次が到されている。 学習は、ことは、理がはなる。といいないは、といいないないない。	
人間総合学群	教養知	社会と自然	社会学Ⅱ	な社会 を せって は の で の で の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	見象の理解 を取り上げ がや概念に るようについ 問題につい	ができるい、分習得るとの、台での、台での、台での理解をといる。	う、家族、表 を要とし、 発表して、 を とし、教育、 を と、 な、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、	教育、労働の を行うを が行うを が が が が が が が が が が の り し の り り り り り り り り り り り り り り り り	に、、より具体的 といった身と茶。 授業は、の授業は、の 接替は、の理史は 社会まける」 におさ。 「社会」 この2点とする。	
教養教育科目	科目	を学ぶ科目	数学の世界	学ともは、会は、会社の会社の会社の会社の会社の会社の会社の会社の会社の会社の会社の会社の会社の会	<ul><li>詰び付く、</li><li>まず数学</li><li>てからも役</li><li>平方と平</li></ul>	人間の本質 の楽しさ、 立つような 方根、一元	と深い関わり 奥深さについ 数学の基礎を	りをもった いて講義 と講じる。 連立方程	実は、数学は哲 学問である。本 る。その後、社 具体的には、式 式、グラフと関	
			物理の世界	い。した の問題に の講義で 深めたい 造、剛性	かし、物理 こまで展開 では、目に い。加速度	学は、物質 するような は直接見え 、遠心力な	を極限まで3 ダイナミズン ない「力」の どの物理学的	だき詰めて Aを秘めた D物理現象 りな理解か	とはほとんどないくと宇宙る。 学問でいてまりについじまりについてまりまた。 ははずる手法を はないである手法を	
			生物と生命	得られたしまででいる。	た知見を基 生したのか どり着いた づけること	に講義する、生物は進 のか、生命 が本講義の と生物の多	。地球という 化しどのよう の大切さを加 目的である。	う惑星に生 にしてホー 意識しなが そして個	遺伝子学等から 命はどのように モ・サピエンスに ら生物進化の過 々の生物の生き 人間が生きてゆ	
			地球と宇宙	巨大はこれを利用を対している。	会を描いた てとから い宇宙の成 おを見つめ	り、運命を 講義は、さ まる。そし むり立ちを、	託したり、まざまな民族 て、宇宙創成 星の誕生や かけがえのな	また宇宙に 実が描いて 战であると ^終焉を学.	人類は、夜空に まつわる物語を きた宇宙観を概 されるビックバ ぶことで理解す ある地球の特質	

( )	1 88 4	<b>~ ∧ </b>	授	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		学群 心理学類) 授業科目の名称			詩	<b>素等の内容</b>			備考
			物質と化学	る。中接に関電話、いる。	でも「化学 わっている パソコンな 本講義では	」は、最も 。たとえは どは、すべ 、実生活に	身近な姿・ 、医薬品や て化学に基	形で私たち 化粧品、香 づく「物質	活を享受していの日常生活に携れてい密帯は、れて構成され、れて構成される。	
	教養知科目	社会と自然を学ぶ科ロ	情報と科学	再ト目なりした。	あらたな表 クの仕組み する。特に である情報	現として発 、おまない 、 るという と なっ と で り で も と で り で り り り り り り り り り り り り り り り り	信するため その安全 現点を重視 を重視 を重視	に必要な、 策について 情報の歴史 したい。こ	得られた情報を IT端末やネッを 理解すること新た 世界史の新た のような理解を の可能性と限界	
		目	色彩と科学	色的のた要識と	心理的、社 を深める。 的理論の習 感性を養う。 の解説を行 て、色の表	会的、文化 会彩を加える 得文が ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので	的に果すさ ュニケーな 視覚後援の を 支援 して	まざいまないまさいまないませいませんといませんとといましたといましたといます。	本質を理解し、学でいなう現で、学でのよう。現代のでは、学でのでのでででででいる。では、できないでは、できないでは、できないでは、できないできない。	
人間総合学群 教養			ボランティア実習 I	献ンを選挙で	ことにより ア活動の実 どを想定し との事前面	、新しい自 施場所は、 ている。① i談、③危村 前提出(学	分を発見す 大学の地元 担当教員に 幾管理ガイタ :生支援課)	ることを目 の稲城市お よる個別ガ ダンスへの	トし、社会に貢 的とする。ボラ よび近隣地域の イダンス、②担 参加、④ボラン ティア活動記録	共同
教育科目	1		ボランティア実習Ⅱ	献する 場所は 活動を 将が行	ことにより 海外を想定 通して、履 国際社会の う海外ボラ	、新しい自 してるいる。 修者で生きない となっている。 してい。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 している。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい。 してい	分を発見す 海外ボラン 多様な文化 く術を学ぶ	ることを目 ティア慣の違 、 夏季休暇 かすること	トし、社会に貢 的とする。実施 、海外における いを受け入れ、 中に、学外の団 が要件である。 いる。	
	実践知科目	実習科目	海外英語研修 I	で常語でテコてめる。	総合のかなスラーカーなステラーを表示研修者では、 学本のを業とでするからなるできます。 学者できますが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	ミイ講の全ンる英ニケム。をうをを任った。をうをを任めるのでである。	ショ、大学指語の学文を表示を表示を表示の学文を表示の学文を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	ルのののでは、 でのののでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでいるでのでいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	れ、標に強力を、中る得なとスるし臨 を、中る得ながある。 に通講た必体引きとのは がの。でいる がの。では がの。でいる がの。でいる がの。でいる がの。でいる がの。でいる がの。でいる がの。でいる がの。でいる がの。でいる がの。でいる がのる がのる。でいる がのる がのる。でいる がのる がのる。でいる がのる がのる がのる がのる がのる がのる がのる がの	共同
			海外英語研修Ⅱ	生ル的に行等かで既習す学こ「まる	に研修でる選のなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのなのな	必の 間語 かい では では では では では でいる では でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	限の総合的発 いたで講びたいの ではなるでは でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで でいるで で	な展が「ない、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、な	対ケされている。学年目校、カのが、自然の方とでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のでは、一切のが、一切のが、一切のが、一切のが、一切のが、一切のが、一切のが、一切のが	共同

			授	業	科	目	の	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 心理学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
		実習	国際協力実習	力には現意つは現意いは、場合には、場合には、場合には、場合には、場合には、	JICA) 。開発の に現地を 察と様 を体感する 歴史や社会	現場は 思想な は は は は は な は 、 者 を え る き と と き き き き き き き き き き き き き き き き	助実施機関で 国が中心の本 際協力でを の交する。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	職員や専門となるない。というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	関係者、国際協議家と当事のではカースのでは、国際学ののでは、明していいのでは、からには、からに、おいいのでは、からに、基本をのでは、といいのでは、といいのでは、これが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	
		科目	国際協力実習フォローアップ	しらと域にも国気報会与、	協力の現 きの点を を か 半備を そ く き か 、 き た く き た く き る た る る し 、 し る し る し る し く し く し く し く し く し く し く	湯視察や援 参加学生 うう か うう 学生 間 り か の の の を 表 り の ち き た う の ち き の り る り る り る り る り る ち る り る ろ ち る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る ろ る	助関係者な 士で成果とし 人) が国と をまとめた	どとの交流 のウント の一日本 関系 で、 の一本 の の の の の の の の の の の の の の の の の り る の の の の	参加者を対象と対象な対象な対象ないでした。 を取り、これをいいののでは、 をでいたがでいるとがでいるとではないではない。 を生はないでのではないではない。 を生まないでは、 をはいるといるといるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといるといるといる。 をはいるといるといるといる。 をはいるといるといる。 をはいるといるといるといる。 をはいるといるといるといるといる。 をはいるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい	
			進路設計	産業構造 しきてが、 会人 社会人観	や人口構成 。本講義 「子育て 後の就業は 」「家族	成は、大き では、女性 」などを こ際して ここの とつな	く変化し、) の「生き方」 負して議論を 企業が求め	就業形態や 」について と進める。 る人物像」	済を支えてきた 人生観も多様化 「就業観」「生 「就作業を通し と「個人の抱く 体的に語ること	
人間総合学群	実践知		社会と教養演習A	的な教習 えイスる は 大人 る は し し し し し し し し し し し し し し し し し し	以外に「 すべき知 を描くこ。 限のコミ	社会人基礎 能・知見が とから始し からかし から から の自己啓	カ」と呼ば 求められる。 、そのうえ ョン能力を	れるような 。本講義で で、社会人 身に付ける	は、大学の専門 、生きていくう は、生自分の要と として必要とれ としてそれを ションスキルの	
教養教育科目	科目	就業力育	社会と教養演習B	業人とし は個々た 含めた 体的には	て個人が の個性を 本的ビジン 、個性を 1	守るべきル 生かした対 ネスマナー 重視しなが	ールーやマ 応も求めら の習得と個(	ナーがある る。本講義 性の発見を 女子大学生	会人あるいは企 。しかしそこで では身体技法を 目指したい。具 としてふさわし 。	
		F成科目	社会と教養演習C	さ会「力をおけると」が表していません。	社会人基礎で て自立する で働く力」 ていくたと	遊力」をさる るために要と かの、発信力 が、発信力	らに養って、 、「前に踏いわれる。 的訓練を行	いくことを み出す力」 毎回の授業 う。特に、	るために必要と 目的とする。社 「考え抜く力」 では、これらの チームワーク作 律性を涵養する	
			社会と教養演習D	りわけ、 とはぞれい とでレーシ 行う。そ	道元禅師のを深く学/ どのよう ンや、学	の禅を建学 んではかされ に活かされ 生の自主性 社会に出	の精神とす い。具体的 いるのかを巻 を尊重した	る本学なら には、社会 対授したあ グループ学	しての規範、と ではの身体技場 での様々な現場 と、 を を と、 と と と と と と と と 、 と 、 と 、 と 、	
			キャリアリテラシー	の職己た授てをで」個進。	緩のと人めらります。	前向きな気 「軸」を見 ・仕事研へ、 こ、社会に	持ちで行動 ででつい でのでででする でいる。 だい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい	していくこ スを学ぶ。 合うなど 立つ意識や	は、就職活動へ就能活動へ就自りに変した。 まり、就職活動ではない。 はとを目的には、それではいいでは、 はいいではいではいいではいい。 は、就職活動にチャレいではいい。 は、就職活動にチャレいではいい。 は、就職活動にチャレいではいい。 は、就職活動にチャレいでは、 は、就職活動によりない。 は、就職活動によりない。 は、就職活動によりない。 は、就職活動によりない。 は、就職活動によりない。 は、は、就職活動によりない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	

()	人間約	総合章	授 授業 心理学類)	——— 業	———— 科	目	Ø	概	要	
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		就業力育	就業への知識と技能A	ホテルる。ピソヤ教り、社会	・モバイル 々な業種に ードを交え る。業界・	等の業界について実業ないら、業種の社会関心を深め	こついて、そ 界で豊富な 種や会社を 会的な使命と	その成り立 経験を積ん 研究するた こその実態	リース・航空・ ちや特員が様々 だ教員が様々 めの基礎とにあ めの表 を知を を 種を 客観的に 考	
		成科目	就業への知識と技能B	版・不見 や相互 んだ教知 基礎知るこ	動産などの 関係を考え 員が提供 とにより、	業界や、公 る。様々な エピソード る。組織に	務員・教育 業種につい を交えなが おける様々 に関心を深	職における て実業界で ら、業務を な業務の役	、損害保険・出容様々な業務内を積豊富な経るための実践との実態とのした業務	
	実践知		女性と健康 I	によってお生れている。	て発症し易 埋機能とそって 話題を提け いて論じて	い病の種類の健康管理 欲しい女性 し、少女かいく。本講	も異なる。 を取り上げ の健康と病が ら大通して	本講義は、 る。特に、 気にの成長で 人間の本質	こるが、各年代 女性の体のを基本 二十人体になる交通 二人体のの健康で 、 、 る過程解し、 、 る能力を 養い た 、 、 る を 理解し、 き で に な を の を は に な を の を を の を し を の を の を の を の を の を の を	
人間総合学群	科目	健康体	女性と健康Ⅱ	に性ないた達いた達の (大きない) (大きない)	て発を 表表 を 表 を の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	い病の種類 ついく。 なに着けて、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	も異なる。 異、妊妊 難義を理には か病気の早	本講義は、 出産の は は 大 で は の で で を で で を が で が で が で が で が で が で が で	こるが、各年代 二十歳以降の に関係するこ、 に関を理解した 質えるどの周り 人などの しい う う う う う う う 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
教養教育科目		育科目	スポーツ I	目がるとする。	継続できるへき でき向の目標 ことスポー	身体運動( の動機付け 法を自分自 とする。ス	テニスとリ を図り、実 身に当ては ポーツ文化	ラックスョ 践に関する め、応用展 に親しむと	ている。この科が が)を選択しな 知識するに 対力をとが 開するに、大の な と が 最大の な と と が 最大 を 体 終 と は が を と は が を と た と た と た と と と と と と と と と と と と と	
			スポーツⅡ	目は、紅板を体制を存在をは、	継続できる がら、健康 ると共に、 験すること	身体運動 ( 志向への動 その方法を を目標とす	バドミント 機付けを図 自分自身に る。スポー	ンとゆがみ り、実践に 当てはめ、 ツ文化に親	ている。この 修正体操)を 関する知 関する知 関する 関する に し し た と と が 最 し た く が 最 し た く が し た に た り た に た り た り た し た し た し た し た し た し た し た し	
	技法知	日本語育	言語表現演習 I	ときました。またい。またい。またい。またい。またい。またい。またい。またい。またい。また	的とする。 に大きなた を を が な た く た く た く た く た く た く た く た く た く た	具体的には響を与える に欠かせな 文章表現に	は、日本の名 「敬語」のい日本語文 親しみ、各	L会におけ 体系、およ 法について 自の言語生	用能力を養うこーを養うこった。 るづ、会話におさいの基礎知なも間である。 が基を豊かなも目標 をしたを目標	
	和 科 目	<b>月成科目</b>	言語表現演習Ⅱ	用能力を表している。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。また。	を高めるこ りつ で い 、 文 で 、 文 た 、 く た 、 く た 、 た 、 た 、 た た た た た た た た	とを目的と の語彙に触 表記で各種 現に親しみ	する。具体に れて、さま 重の文章を作 、各自の言	的には、自 ざまな表現 F成できる 語生活を豊	し、日本語の運 らの言語生活を を生み出す力を 能力を身につけ かなものにしな 身につけること	

( )	. 問丝			業	———— 科	目	の	概	要	
	科目区分		学群 心理学類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			英語A I	的な英語 日常である るように 見を相手	語表現を用 舌にとうにいる こったに いった に に に に に に る た に に る た に に る に に に に	いて、質問 、数字や情 重要な単語や がを がを まるかを まるかを まるかを まるかを まるかを まるかを まるかを まるか	したり、答 物の値段の を正確に聞 フレーズを 識させなが	えたりで を認いない ないない たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい	を目指す。基本。 基本のように等のである。 基本のででのでいる。 を図るを対する。 を図るを図るを図るを図るを図るを図るを図るを図るをできます。	
			英語A II	を用いり りったり 取ったる。 手に伝え	て、質問し ピッ自分の り、簡単なの えること えること	たり、答え いて、場所 趣味や 関映 語 き載させ、	たりできる。 「や時間とい のあること ズを使って、	ようにする いった具体! などを伝え 、自分の気 文での表現	本的な英語表現回 。自分報を開発の身間 りなりでする。 もな情できるよう相 がある。 たちやをはず で の で で で で で で で で で で で で で で で で で	
			英語AⅢ	や自分し、というにある。	の家伝では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	校・地域きな が食でを表 いこと を表 れこと	ど、身の回 ようにまた 日常とを きる きく練習	りの事柄に 。基本の 場面させ、 を きせ、 表	は 関単 は は は は き は き い た り り り ま み り 現 い で り り い の で り の り の り の り の り の り の り の り の り の	
人間総合学群	技法知	外国語育	英語AIV	信よい理英伝	るすのを表れるのでは、これののでは、これででは、これででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	なアナウン か予定共 大の一 大の一連 を を にの の を にの の の の の の の の の の の の の の	スを理解し、 学生活など 表現できる 手順を英語 せ、よく使	、自分でそ の明でででま いままでも のででする でれる でれる に が に で で で で で で き れる で き れる に が に り に に り に に り に に に に に に に に に に	。公共の場で発 の内容を書えるついまでを 体のおポーツ・も 。ように、自分に、自分に、自分に、自分に、自分に を用いるように、自分にするの らればする。	
教養教育科目	科目	成科目	英語B I	するこ を 測 き し 、 以 し 、 以	とを目指す するたり時に 講終分析する 後の学習に	授業である 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英 活用する機	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意	能力が身に 活用する。 ることによ ま分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたかどうか 毎年、受講開始 り、分野を特別 得意毎時間演習問 いて学ぶ。	
			英語BⅡ	するこ を 測 と し 、 以 し 、 以	とを目指す するために 講終分析する 後の学習に	授業である 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英 活用する機	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意	能力が身に 活用する。 ることによ 気分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたの受講開か 毎年、受講を時間 り、意分時間演習問 は毎時間演習問 とぶ。	
			英語BⅢ	する測といい。このでは、以下では、以下では、以下では、以下では、以下では、以下では、以下では、以下	とを目指す するとでは は とるで とる との は で に る で に る で に る で に る に る に る に る に る	授業である、 TOEIC等の 同一資格試 。自身の英 活用する機	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意	能力が身に 活用する。 ることに不 る 受野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたの受講開始 毎年、成績をといい り、意分時間 は毎時間 は個る。	
			英語BIV	するこ を 測 き し 、 以 し 、 以	とを目指す するたい時に は分析する との学習に	授業である 、TOEIC等の 同一資格試 。自身の英 活用する機	。英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意	能力が身に 活用する。 ることによ 分野と不 授業後半で	運用能力を育成 ついたかどうか 毎年、受護開始 り、成績を比較 り、意分野を特定 は毎時間演習問 と図る。	

授 業 科 目 の							の	概	要	
()	人間約	総合	学群 心理学類)							
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			英会話 I	students and wriconversa students topics w structur situation students become structur (和記) 本実しただけ	'speakin ting, as tion will 'pronunc rill be pronunc es that ns. Throu will be confident es.  主に表では、際にメピーンに 以り現実に ポアワーク	ng and li s well. be cover ciation, i rovided ar will help ugh a com e given r t in us  ー発音・取り  元近い場面	stening sk Natural red with a ntonation dd students them in bination of multiple a sing the とリス 善と みと みと がと れた での プワークを	ills, with and current emphasis and fluents will be a variety of pair artictivities target グカの向上に暢文をを対す	on improving a some reading ent forms of son improving by. Real world given language of real life and group work, to help them conversational を目指す授業できとして使用する。で学生たちが積極	
人間総合学群 教養教育科目		外国語育成科目	英会話Ⅱ	I lef communics confirma Specific knowledg on a var Real wor exchange modern E opportun through : (和訳)ションス化」というと呼によりで、より	t off ation sk tion and attentic e of coll riety of ld media . Interact conglish wi ities to a variety チルた話のた デルス話のた にデリスで 現実に近い	and con cills in a clarific on will coquial En popular a will be ustive structice of commun I 」のることまた。 できる学にげらかり上面での場面での	tinue to English. ication c be given given glish and and curren sed as a spectures relaovided and their leadicative ta になができまったができなった。シャツできまれる。シャツでは、	strength Students onversation to deve the abilite to conversation to conversation to deve the abilite to conversation to conversation with the conversation with the conversation with the conversation with the conversation to develop the conversation to	sh Conversation nen students' will learn n strategies. Hoping active ty to interact tional topics. for meaningful municating in will be given th each other a こうとをである。とれて使用する。とを提供できな機会を提供	
			英会話Ⅲ	(英文) This course will build on the content of English Conversation I and II, providing students with training in a deeper level of natural English communication. There will be particular emphasis on sustaining conversations over longer periods of time. To help with this goal, students will be exposed to various methods of turn taking and conversation strategies that pertain to forming follow up questions and how pause in mid conversation. Students will work on attaining natural English rhythm in their speaking, with the goal of improving their overall fluency. Additionally specific pronunciation practices that relate to the various methods and strategies will be provided on a regular basis.  (和訳) 「英会話I」「英会話II」の学習を踏まえ、主に英語による自然なコミュニケーションができるようになることを目指す。そのため、補足質問を作ることや「会話の調整」(会話を途切らすという会話の技法)を学生に紹介する。本講義では会話を長く続けることに重点を置き、会話の進め方や会話技法を指導する。英語の発音や自然なリズム、流暢さについても適宜指導する。						

()	し間組	総合:		業 科 目 の 概	要	
	科目区分		授業科目の名称	講義等の内容		備考
			英会話IV	(英文) This final course in English synthesize the practices thus far learned making students confident and natural communication styles. Students will won fluent, extended conversations about pertine and issues. The differences in casual and of conversation will be studied. Pragma American and British culture will also be particular emphasis placed on hedging disagreements. Students will become sensi differences amongst native English speakers appropriately in different international sit (和訳) 「英会話II」「英会話III」	with the goal of in their English ch on sustaining ent current events more formal types tics relative to be examined, with and expressing tive to cultural and how interact uations.  の学習を踏まえ、 とを目指す。本講義 きるようになること 「フォーマル」な会	
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Receptive English I	(英文) This is a specialist English of support students in improving their abilifications in through listening and reading. Include paraphrasing and summarizing of ke retelling and listening/reading without accessible materials such as graded readerlearn to use existing knowledge to predict inknown vocabulary, while developing top ability. By the end of the course, stude enhanced ability to understand basic spoke distening repeatedly and to read and understanglish.  (和訳) 主に基本的な英語運用能力を習得させた。 特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の意味を推測する際、者に伝えること、または難易度別英語読本等の意訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関しながら、学生が未知の語の意味を推測する際、ることを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英語を取り、一回読んだだけで理解できるだけの力がることを目指す。	ty to understand Key methods used y content, story-translation using rs. Students will t the meaning of ic based English nts will have an n English without and basic written とを見り指す。第年を表現を理解して資料増大器を開発知識を指している。  「大智者、大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大	
			Receptive English <b>II</b>	(英文) This is a specialist English cours skills developed in Receptive English I de students in improving their ability to use through listening and reading. Key additions course include listening and reading at a listening/reading note-taking skills, use thecks and clarification requests as a manderstanding and identifying elements of style as a means to understand the intention writer. By the end of the course, stude enhanced ability to understand more complewithout listening repeatedly and to read are complex written English.  (和訳) 「Receptive English 1」の学習を踏まに再選用能力を向上させることを目的とし、特にう英語を理解する能力の育成を目指す。授業の定を取りながら自然な速度のものを聞く・読む、化」を活用し理解度を高める、(脱落、連結、「の)口述・記述のスタイル要素を認識し書き手解することを含む。内容のある英文を一度で開またけで理解できるだけの力が身に付くようになる	signed to support nderstand English all methods in this near-native speed, sing confirmation leans to increase spoken and written as of a speaker or nts will have an ex spoken English and understand more constant with the constant of th	

	L 88 <i>4</i>	<b>₩</b> Δ²	授	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		学群 心理学類) 授業科目の名称			3# 6#	<b>葬義等の内容</b>			備考
人間総合学		外	Productive English I	support English output this c speed t shift z communi clarifi difficu correct about v various student English basic E 特に一ス 「確認」 する。	t students n Improvi through s lass. Key lass. Key lass. Key cand turn-t lication an ication fo alties are ted in det typical En typical En ts will ha n without e English sen ) 主に話され しきく用 のきな採用 明確 の	s in acc ng studer peaking a methods or writing aking strate or contin encounter ail by the glish sen extended g tences. 的 と方法にの なとり法にの 大きなに添 として精密	puiring a atts abilits abilits abilits and writing introduced and speak ategies in egies such uing conveed. In additione instruct tence form styles. Banced ability uidance and ability abil	functiona lity to pris a partin this in this rounder to the pool of the pool	e designed to 1 command of roduce English ticular aim of course include sational topic en and written firmation and when language reative writing its will learn to use of the course, a basic spoken lent in writing とを目指転転紹りとし、本、「話技法・典型的ともに、典型的とる。	
子群 教養教育科目	技法知科目	国語育成科目	Productive English <b>II</b>	skills support and writypes of convers letter, journal matter, phrasin spoken accurace enhance extende English (運英ンラ立。よ識で力むよ識で	developed t students itten Engli of spoken I f sation, int diary, lism and students ag for effe ability. By the ed ability ed guidance n compositi 力発ビイ題にて容の あだいなり英	in Prodin acquirish. Stude English (s English (s Errview, d report, p online will wore ective control te end of e and be ons. Engliを成りませているの等プ明信いを書文を頭にませるの等プ明信いを書文をする。	ductive Ening a function a function function into will ground a function as specific between the course white function it while function in a function function in a function functio	glish I , titional com ain experie each making, written En rriting, pl Choosing criptive al in produciocusing of students x spoken E n producin ま言説をある。 まなは日野な田に前になる。 まなは日野な田に前になる。 まなは日野な田に前になる。 まなは日野な田には、本事には日野な田には、本事には日野な田には、本事には、本事には、本事には、本事には、本事には、本事には、本事には、本事	e building on designed to mand of spoken nce in various presentation, glish (such as cocess writing their subject nd explanatory ing a range of n fluency and will have an nglish without g more complex 基話表ことを経りに確し、英い、ラを伝さ、英い、と話が表して変勢に確し、英い、方をを目れている。	

				業科	目	の	概	————— 要	
()	人間糸	総合皇	学群 心理学類)						
	科目 区分		授業科目の名称		講	義等の内容			備考
			English Summer Seminar	(英文)The Eng course and will users of Englishtonly communicative a will also teach group of peers. her ability to friendships with (和英語学出版的文字 (本文字),其一次,其一次,其一次,其一次,其一次,其一次,其一次,其一次,其一次,其一次	provide str sh outside d, interact policy. St ctivities, n something Everyone w communicate all partic de to かったかって を がったなシスてョ本的な。 は ので がったない は は ので がったない は は ので がったない は は ので がったない は は ので がったない は は は ので がったない は は は は な が れ い に な が れ い に な ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	udents many of the c ive, and r udents will discussion practical ill leave f in Englis ipants.  3日本語の表情を表現しまれる。 集工機 大学 には で は で で で で で で で で で で で で で で で で	r opportuni lassroom. reflective l take an as, games, in Engli feeling morsh in addi マルム会をもるすが、 ではと積持にこ々 ドをなり、 メント	ties to become The course is and will have active part in and students sh to a small re confident in tion, make new 学習原則で参加を表す。 を主事である。、 とを国際 タスクやア	共同
間総合学	法知	外国語育成科目	フランス語 I	フラン ま語表と と を を で を で で は な の の で は な の の の の の の の の の の の の の	発音の関係 。文法では けを理解し rとêtre、ま ュニケーシ	を理解し、 、名詞の性 、形容詞の らよび第一群 ョンを目的	特徴的な音 と数、不致 性数一致詞 関則動言識 として意識	が発音できるよい 冠詞を記言に できるようにす 活用と用法を学 し、CDによる練	
教育科目		П	フランス語Ⅱ	第二群規則動詞aller、venir、pa を理解して、テン 名詞・疑問副詞の まな採習を継続する 合的な言語運用能 励する。	artir、voir /ポよく活用 )ある疑問文 情報交換が ら。また、比	などの活用 とできること をで数る をで数 をで数 をで数 をで数 をで数 をである。	に見られる うにする。 で、CDや にの表現を 級の表現を	共通のパターン はいい、 疑問に、 がいる はいかれて にいる はない がいない に がい に がい に い の い く に の い く に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	
			フランス語Ⅲ	フランス語を1年「 文や強調構文なと 目的語・間をらい うにする。了形つの現在完る。7形つの につける。4より後 とにより、より複	、一定のパ う語の仕組み こ、直説法複 ご較しながら 基本的な関係	ターンによ を理解し、 合過去の仕 、フランス K代名詞の用	る表現を身 代名詞に置 組みと意味 語の時間に  法を学習し	につける。直接 き換えられるよ を理解し、英語 関する感覚を身	
			フランス語IV	単純未来形の活月 る。また、フラン フランス語らしい がら半過去の活用 表現ができるよう	ス語独特の ト表現に磨き 日と用法を学	しくみであ をかける。 び、会話で	る代名動詞 さらに複合 用いられる	の用法を学び、 過去と対比しな 一般的な過去の	

	( <b>担</b> 9 幺	۵△÷	授 授 学群 心理学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			書	義等の内容			備考
			ドイツ語 I	く・話っ ルファイ アクセン 冠詞の棒 ら聴き耳	す・読む・ ボット・ ボット・ 大変化・ 番り 表り・ 書き	書く) の習 み方から始 の長短) に 本的文型を 取り、また	得を目指す。 め、ドイツ 親しみ、 簡単 彩ぶ。 簡単 話す練習を	。このドイ 語の単語人 詞の現在人 な日常会話 行う。随時	本的語学力(聴 ツ語 I では、ア 発音(つづり・ 称変化、名詞と を材料にしなが 実施される小テ 検定試験5級に対	
			ドイツ語Ⅱ	ツ語の基 この再帰を 事項を き取り、	基本的語学 イツ語Ⅱ 代名詞した話しながま また話す	力(聴く・ は、名動詞 法の助事易な 練習を行う	話す・読む 複数形、冠記 と未来形、名 会話文の学	・書く)の 詞類、前置 分離動詞なる される小テ	基礎としたドイ 習得を目指す。 詞、人称代名文語 のの、 がいな・・ を いの、 で いので で いって そ で いって そ で の で の で の で の で の で の で の で の で い を し で い を り で り で り で り で い で い で し て に し こ て に と こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	
			ドイツ語Ⅲ	ツ語のま このと 記 る 語 間 る 語 ま る 話 る ま る き る き る も る も る も る も る も る も る も る も	基本的語単 イ文、形語Ⅲ で、形時間を ででででいる。 でででいる。 ででいる。 ででいる。 でいる。 でいる。 でい	:力(聴くの は、動変に の格の構造の 習熟する 。 随時実施	話す・読む 三基本形、 比較(形容詞 ついて特に とを目指す。	<ul><li>・過詞多。</li><li>ストーク</li><li>おいる</li><li>のの</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>現り</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの</li><li>のの<td>基礎としたドイ 習得を目指す。 在完了形、接続 に一ついれ、取り に触れ、取り得 で を 人が習得の</td><td></td></li></ul>	基礎としたドイ 習得を目指す。 在完了形、接続 に一ついれ、取り に触れ、取り得 で を 人が習得の	
人間総合学群	技法知	外国語育	ドイツ語Ⅳ	ツ語の基 このドイ 学習する イツ文を	基本的語学 イツ語Ⅳで る。聴き取 を読解する	力(聴く・ は、zu不定 り・書き取 力を養う。	話す・読む 詞句、受動類 り、話す練習	・書く)の 態、関係代 習と並んで れる小テス	基礎としたドイ 習得を目指す。 名詞、接続法を 平易な日常的ド トによって各人	
教養教育科目	科目	成科目	スペイン語I	ことをラ ネーショ に男性名 則動詞の こたCD を	テーマとす。 コンを女性の コランを女性の コース ローマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロマン ロ	る。 今期は を き 司法など を で で で で で に に に に に に に に に に に に に	まずスペイン 出して発言、形容詞、 形容し、身に 理解して応用 を覚えて応用	語の音、リることに慣ることに関う 記記に 記記で 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	イス良くつける イント イント がれてゆく。次 tar、3種類の規 計画に応じた会 教科書を録音 ごとに小テス	
			スペイン語Ⅱ	本的な力 直説法明 し、身に 様、場面 養う。C	力をさらに 見在を中心 こつける。 面に応じた Dを用いた	つけること に、目的語 不規則動詞 会話をペア	をテーマとっ の代名詞、」 は種類別に で練習し、『 習、小テス	する。今期 北較級・最 学習する。 関連語句を	書き・会話の基 は不規則動詞の 上級などを理解 スペイン語 I 同 覚えての用力を て行う。スペイ	
			スペイン語Ⅲ	本的な対称の背景に過去した。	力をさらに 定命令、 の活用 動 見 則 し マ に に し に し に し に し に り に り に り に り に り に	つけること 過去の規則 現在形の規 多いので時 た会話をペ	をテーマとす 動詞・不規則 則性があてい 間をかけて	ける。動詞( 則動詞を中 はまらない 学習する。 関連語句	書き・会話の基 は再帰動詞、2人 心に学習する。 部分ペイン部 II 同 を覚えて応用力 で行う。	
			スペイン語IV	本去まをし書くな現接が過ぎます。	力を完したという。たったで、関スを言いまで、関スをある。のである。	つけること 続法現在と 代名詞を イン語Ⅲ えて応用力 CDを用いた	をテーマと それを用いった複文の 様、テーマに を養う。簡	する。今年では す命方では するなな では では では では では では では では では では	書き・動詞ない 基調は いっぱい 会話の線る過い に 理解 しい で 理解 と で 乗 習 語 読 み 、 継続 し て 行	

()	、間線	公合章	授学群心理学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			中国語 I	とを目打して、続いて、おおいまでは、また。	旨す。まず 音、子子 子子 子子 音 子子 子子 子子 子子 子子 子子 子子 子子 子子 子子	、中国語の 正しく聞き 現の練習を 、時間、年 、名詞述語	)ピンインま 取り、かく 通じて中国 Eの表現や数	表記法を学 つ正しく発 語の発音に 数量表現を 問文などの	を身に着けるこ声に び、中きるように 音でれていまでいい。 でれて、動詞を学び、 で法事項を学習	
		外国語育	中国語Ⅱ	高変択と内基でなる大きのである。	いくことを をす用法を な文章を で文章を読 でなびリエ	目指す。 申請 まま まま は まま まま まま まま まる まる まる まる まる まる	国語におけ 学通じ、疑問を を を を を を を を を に て る に て る に る に る に る に る に る に る に る	る完了・経 詞疑問文、 着させてい 詞の語彙を 。同時に身	の基本的な力を 験・未来おれる 反復また、 を経験である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
		成科目	中国語Ⅲ	・間へ える学の 際文型	、・話す」 国語望や依 願習を通 まさまざま	の力をつけ ベルアッ 頼、 で定 着 に て 着 に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に た れ に た れ に た れ に た れ に れ に	、コミュニ を目標に、 謝罪などの せていく。	ケーション 様々な場面 表現や関連 豊かな言語 やや難易度	的な「読む・書 の手段として使 に合わを覚えとして表現 語表現のた文を の高い文章を正	
人間総合学群	技法知		中国語IV	目指す。 書や資料 される とも学れ	日中を取 る数材のほ いなども使 の国語、電 で に で に で に で に で に で に で に で に の に に に の に の	り巻く社会 かに教材と 用する。ル 子メても、 離れても、	への関心と して新聞や た情報を収 のやりとり	理解を深め インターネ 集するため で使用され について口	力を養うこと教うこと教育した。 あたりとの記して、教事をあたりというという。 からないでは、 もっないでは、 もっな。 もっな。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと	
教養教育科目	科目		コンピュータ演習 I	こと 定 に に に 接 、 に 長 を に を に を に を に を に を を に を の に を の に を の に を の に の に の に の に の の に る に に る に る に る に る に 。 に る に る に る に 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に 。 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。	目的とする。 ジネスの現 设通信技術 と進めて計算 図、表計算	。具体的に 場において (ICT) を使 く。本授業	は、諸々の 基礎的な文 [いこなすた では、文書 を必要とす	検定を指標書処理がで かの知識と 作成、レイ	理の基礎を学ぶ設としたレベルを とした程度)を中心 実技)を中成 実技)・作成、書作 ビジネス文書作	
		情報力育	コンピュータ演習Ⅱ	ジネスの つ、さ Office 情報処理 う。併せ	D現場にお らに発展。 Specialist 理能力を身	いて基礎的 させること :」に沿って につけるこ ゼンテーシ	な文書処理 にある。 ビジネスの とを目標に	が行える程 具体的には 現場で応用 、さらに実	けたスキル(ビ 度)を確認しつ は、「Microsoft 引できる基本的な 践的な演習を行 信能力を高める	
		成科目	コンピュータ演習Ⅲ	伴い私たまない 発信 分に おいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま か	こちの扱う は有する機 け、メディ こなってき	情報も飛躍なる 会が選本だった。 はなり、 たったりままでは、 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	的に広がっ り、情報を 、魅力的に では、イン	てきた。と 処理するこ 表現するこ ターネット	まじく、それに りとけい 情報を とと 中心 たっぱい からい まい とと 中心 活用 するた	
			コンピュータ演習IV	を確認し表現で必要な表現の機材を	ンつつ、さ 必須となっ 見力を身に と使い、よ	らに発展さ ている写真 つけること り実践的な	せることに 表現や映像 を目標に、 実習を行う。	ある。具体 表現、アニ デジタル 1 併せて、N	けたウェブ表現 的には、ウェブ高 メーション等高 眼レフカメラ等 MOSエキスパート 視野に入れる。	

			<del></del>	科	目	の	概	要	
,	<b>、間総合:</b> 科目 区分	学群 心理学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本語A I	ることを表表は制作の表現である。	を目的とす ための口頭	る。特に講 表現能力を の語彙・文 や副詞、接	義を聞くた 養うことに 型にいる 続うになる ようになる	めの聴解力 重点を置く け、表現力 等について こと、人前	語能力を修得す うと、ゼミや研究 。同時に日本語 の向上を図る。 ・学び、聞きやす で話すことに慣	留学生対象
		日本語B I	る。書くぎるのでもに違いる。	本的には は とは、 とは、 提 り とは も き は 世 は 世 は 関 出 課 き は は 、 は り は り は り は り は り は り は り も り も く り も く り も く り も く り も く り も く り を り を り を り を り と う と り と り と り と り と り と り と り と り と	身近な題材 るとものともの た課題に を含んだ練	についないないないないといいないないないないないないないできるといいできます。 といいではいいできるいいできる。 といいでも。 といいできる。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といいでも。 といとも。 としても とっと と と と と と と と と と と と と と と と と と	章を書くこを書くこを 連習、文章 また日本に ともに、 ともに、	こと書 目って とにけるを基本る をよる基本な をよる を とにはるを 基本な を とに が と に は を と に は る と を と に る と を と と と と と と と と と と と と と と と と と	留学生対象
		日本語AⅡ	る発能具らうになった。	を目的とす こめの口が	る。特に講 表現能力を のますを なする。 関 をする。 関 が で話すこ	義を聞くた 養うことに 型をよりについま きやすくわ	めの聴解力 重点を置く け、表現力 関用を現を かりやすい	語能力を修得研究語し、同向上をりしている。 同向上をりしるののので話せる。 で話いなるが、 ・発論理的な表現	留学生対象
人間総合学群	特設科目	日本語BⅡ	る。 具体 また また 表 を を を を を を を に の に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 。 に 。 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	本的には、 こよやにはて りつけい おいました おいました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないました ないないました ないないました ないないました ないないないました。 ないないないないない。 ないないないないないないないない。 ないないないない	新聞記事を 本語能力を トの書き方 いて指摘さ	読み、社会 深めて文章 なた問題点 、小論文を	的な題材に 。授業は、 作成を基本 を自らしたり 作成したり	ことを目的とす こついて文とす 文法での練習、文 ことする。 ことすると関 としると関 まとしると こともを通し	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本語AⅢ	ること さん るこよ 、 にする ここう ようにする	を目的とすと 聴解の観し 日本を通しと とるとと	る。特に日 口頭表現能 地や日本人 、語彙を増	本人学生の 力を伸ばす の生活習慣 やし、話の ュースに親	中でも臆せるとにない。 などについる とのない。 ではいい。 ではいい。 でもいい。 でもいい。 でもいい。 でもいい。 でもいい。 でいるにいい。 でい。 でいるにいい。 でいるにい。 でいるにい。 でいるにいるにい。 でいるにい。 でいるにい。 でいるにい。 でいるにい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でいるにい。 でいるにい。 でい。 でいるにい。 でいるにい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 で	語能力を修得すって でできまりできる。 ででででいる。 ででは、 できる。 できる。 できる。 できるない、 できるなが、 様々な	留学生対象
		日本語BⅢ	るにテおいるにテおいる。、一よ日本は日本語	本的には、、年このは、、年このは、大きのは、大きのは、大きのは、大きのでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たらでは、たら	格助詞の使 および確認 要約や感想 こなすこと につける。	い方や語句 プテストに明 、レポート によって、 特に、受け	可の使い方 取り組んだ を書いたり 文法や語彙 身や使役と	こをりずない という こと修 与するられたト という は関ったれた ト この して 態の した ま 現 な ど に 関 な ど に し 表 現 な ど に し 表 現 な ど に し 表 現 な ど に し 表 現 な ど に	留学生対象
		日本語AIV	る思す読でもに、語のである思す。これである。これでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	を目的とすりとすりとする 本の少子の少子に でいるを増やします。 を増える。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見	る。パネル 、ディベー 問題てスピー 、話の内容	ディ等社会といいるがある。 アイン がったい いいい でんしい いいい でんしい はいいい でんしい でんしい でんしい でんしい でんしい でんしい いんしい かいいい いいいい いいいい いいいい いいいいい いいいいい いいいいい いいいい	ション、ク て日本語能 ど ト に き し い で き に き え こ る こ り る り る り こ り こ り こ り こ う こ う こ る ろ こ る ろ る ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	語力を修った。 語力をといて をからに をからして はいることする はいることする はいること はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる	留学生対象
		日本語BIV	る。具体増大のでは、また	本ととなる いとなっている はにつ、、要 での、、要 での、、要	新聞記事を さまな さずる たする ある に日本語	読み、語句 文とで、問題 えいは自高 能力を高め	を調べるこれで に取り を に を に を に を に を と を 関 と を り と り と り と り と り と り と り と り と り と	ことでまた。 とでまたのを出まれている 自語 気引マー いっことでまたらといい かい かい かい から おって おって おって おって おって おって おって かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう はって かっこう かっこう はって かっこう はっこう はっこう はっこう はっこう はっこう はっこう はっこう は	留学生対象

()	、間総合:		業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本事情 I	に関するが出ている。	る基礎的な たに行くこ。 を通、施設、 て概説する。	知識を修得 と」「食い 食い 食い は り り り り り り り り り り り り り り り り り り	することを る」ことな ど、日本で 上のウェブ	目的とする どを出発点 生活するた 情報などを	本ぶことで、日本 。具体的には、 ことして、要な情報 として必要な情報 が活用し、実際に情 日本に関する情	留学生対象
人間総合学群	特設科目	日本事情Ⅱ	な知識を 能、伝統 本のとどを といった	を修得する 充工芸をは この伝統的 で活用し、 こ に伝統芸能	ことを目的 じめとする な側面に日本 実観光名所	]とする。 具 日本の文化的 いて概説する の年中行事	4体的には 的な側面や る。パソコ や祭りや歌 いて調べ、	に関する基礎的 、年中行事、芸 制光名所等、日 が 光のウェ 落 で が 大舞伎、さ は ること	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本事情Ⅲ	できる計算ができる計算ができます。	日本語力を低 資料をうとし しだった、日 に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	修得するこ こ、日本の 関連する 本のゴミ問	とを目的と 国土、気候、 ニュースや ]題やリサイ な問題につい	する。具体 、政治、経 テレビ番組 ・クル、交	広い話題に対応 的には、グラフ 済、社会等につ の映象とも ・ 通インえで、 具体	留学生対象
		日本事情IV	できる計算協力なども視れなります。	日本語力を何 資料をもとり だについまた、 ける。また、 デー問題等、	修得するこ に、び、 学ゴミ問題 、身近な問 、身近な問	とを目的と 農林水産業、 するニュー。 やリサイク。	する。具体 、工業、商 スやテレビ ル、交通イ 、自国と比	居広い話題に対応 な的には、グラフ が選組の映像など が選組の映像など であることによ することによ する。	留学生対象
		心理学の基礎	め、2年 受 習 」 リ げ 、 社 的、 社 会 る っ れ っ れ っ れ っ れ っ れ っ れ っ れ っ れ っ れ っ	次以降に配 5 準備段階 「発達」、 「」、「社会 で、理学という 会相互的な	当されるよ として 思 り し き も り い が ら り に り が ら り の ら り り ら り り り り り り り り り り り り り	り専門性の な知識習得 語」、「動 、「心理学」 人の内的世	高い講義 は行う。 りしたではいていてはいではいている。	では、 では、 では、 では、 では、 では、 でがいませい。 では、 でがいませい。 では、 でがいますが、 では、 では、 では、 では、 でがいますが、 では、 では、 では、 では、 では、 でがいますが、 では、 では、 では、 でがいますが、 でがいますが、 では、 でがいますが、 でがいますが、 でいまが、 でいま	
<b>少</b> 間終名等群 心理	用於介全羊 · · · 基本	心理学実験実習 I	し、心理 実習内容 憶、思考 において	里学実験のi 容は、実験 ぎ領域の基礎 で行う。そ 4(データ)	遂行上必要 心理学とし 遊的実験で して、問題	となる基礎に て総称され あり、複数 ⑤ (仮説) の	的な実験技 いる感覚・ の実験課題 )設定から	実験研究を理解 変術を習得する。 知覚、学習、記 記を 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 き と い 理 学 実 験 手 ま の 実 り ま 、 記 記 き い 、 記 り き い ま り ま り ま り ま り ま り ま り ま き ま り ま ま き ま り ま り	
<b>学数</b> 專門教育科目	頁 享見女育斗	心理学実験実習Ⅱ	験研究を を習得る 憶、理学 手続きの	と理解し、, ける。実習 き、社会、 に験室におい	心理学実験 内容は、実 性格領域の いて行う。 科(データ)	の遂行上必 験心理学と 基礎的実験 そして、問 そして、問	要となる基 : して総称 であり、複 題(仮説)	である心理学の実 芸礎的な実験技術 される学習、記 扱の実験課題を の設定から実験 で至る、一連の心	
		心理学研究法 I	や研究資	資料の分析が 近年日常生活 について、 をわれた具体 と考察する。	方法を解説 舌の力理研 その方法論 本的研究例 。なお、研	する。本講究が注目された 究が注目された を検討する 究によって	義では、実 れる中多く 解説する。 ことにより 得られた心	具体的実施方法、 譲た、調では、 用いられてれの、 をにそれぞれの、 手法の利点や ご理学データ(資 「手続きも論究す	

/ 1 895	<b>₩</b> Δ:	授 授業 心理学類)	業	科	目	Ø	概	要	
科目区分	1	学群 心理学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		心理学研究法Ⅱ	入門授業 リングや ある。本 スト解釈 研究法の	だである。 さい理療では は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	質的研究法 などの実改 、グラウン のアプロー 究例の紹介	は、調査の 活動の過程 デッド・セ チ,エスノ を通じて、	際だけでは を分析する オリー・ィ グラフィ、 質的研究法	、質的研究法の なく、カウンセ ためにも必 デキ 会話分析などの の基礎で、方法の 通して、方法の	
		心理統計法 I	観察・	実験・調査 必要な講覧 い。本講義 に、統計	などによっ 、これに基 では、「循 づけていく	て得られた づいて実証 見測データを かに関する	実際の研究 的に研究を とどのよう 方法(統計	一領域として、 資料(観測デー すすめなけれが に整理し、3得を 法)」の習 法)」の 対 が が が が が が が が が が が が が	
人服		心理統計法Ⅱ	統計的理 対を使っ 力イ2乗 析を解記	里解を深めったデータ を検定、平 説する。基	ることが、 の入力・加 均値の差の 本的な統計	本授業の目 工・統計処 検定・分散	標である。 理を説明し 分析、回帰 理解すると	の処理と解析」のまずコンピュー、、基礎計算量、分析など統計分ともに、各自が	
間総合学群 心理学類	基本科目	文芸と心理	フス解でトでなるという。これをは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	ノスの『オ ノプレクス 恐すること における ノグの心理	イディプン のら始をのアプを、 種学的のアプまな手法	マ王』に描か 言語芸術作 さらにいく 学的テーマ ーチを紹介	いれる、い F品である つかの文字 を検証する しながら、	本講義では、ソプ報 をエディては、ソプ原作品を通びという。 では、特におけるでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
想 専門教育科目		言葉と心理	義用い ( は話語な「 (段手ものでのて オ 6 一者、影言 5 でに、授をでのを響楽 保め伝言業 はんずない 米の (報報) といる まずい かい	「」「」、 金() ・ 「」、 金)() ・ 「」、 る)() ・ で 、 本 を、 他 ) で 。 か 。 か 。 か 。 か 。 か 。 か 。 か 。 か 。 か 。	語心 / 1) デ彙調でメー) 言合め謝野学   215 話スないる。ズーたであはのまれたであはのまった。ズーをある。 たこのはまいる。   5 乗りが   1 乗りが	イスクールか ニルスを手話存在、表情な、 で、表表でいい、 で、表表でいい、 な表表のいい、 な表表のいい、 な表表のいい、 な表表のいい、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、	分り とる前が言む 行祭 同左析に 聞と や両運。 上自じさ、語る う、じさい にっぱん での容れる	が が が が に用葉 が に用す で にの で で には、に終 が には、に が でが には、に が には、に が には、に が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にな が にる にる が にる にる が にる にる が にる にる が にる にる にる にる にる にる にる にる にる にる	オムニバス方式
		心理学英語講読	ことをこ ピクス to back Conditio Develop Intelle Adjustm Adolesc	と目的と (英文)を ground of oning」「 ment」 ctual and ent and ence」「1	する。この 教材として psycholog 4. The 「6. Head I Social Stress」 1. Mental	ため次の心: C講読演習を gy」「2. Na Developing lth, Mind Developmen 「9. Defe	理学におい た行う。「 ature vs. g Child」 and Beh t」「 8. nse Mecha 「12. Ps	Personality, nisms J [10. ychotherapies]	

,			業	科	目	Ø	概	 要	
(人間紅科目		学群 心理学類)			<b>≑</b> #	美色の中容			/#= <del>**</del> -
区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
	基本科目	学外実習	て、報 あるが、 職に直 生活の	酬を伴わな 、就職活動 接結びつく 現場感覚を	い勤務実習 の一環とし ものではな	を行う。イン てのインタ い。実習体 の進路につ	ンターンシ ーンシップ 験を通して	等の職場におい ップ。的な活動就 。とは異なり就 ・社会生活と職業 ・高め、今後の勉	共同
		社会心理学 I	点から、 方題間が 題が	、「社会化 ついて理解 経て社会化 関わってい じるのか」	」の問題を を高める。 していくの るのか」、 をテーマと	解説し、「 本講義では か」、「社 「社会化が	社会と個人 、信の過程 会化の過程 と、家族 ななな	社会心理学の視との関係のあり、どの関係のような発達にはどのような問とどのような問とがあるない。	
		社会心理学Ⅱ	との関係 「組織」 や西洋 学の中	系の成立・   、うわさ 文化といっ でも、「他	維持・崩壊 や流行など た「文化」	といった「 の集合現象 まで幅広い 団・組織」	他者」、学 である「集 心理を対象	(人など親しい人 校や会社などの (団」、東洋文化 にし、社会心理 の心理への関心	
人間総合学群 心理		発達心理学 I	つつ発 につい 「成人( ことを)	達心理学的 て解説する の精神構造 理解し、大	視点から、 。また講義 は子供のそ 人の内なる	誕生から児 のなかでは れを基礎と	童期に至る 、発達の連 して発展的 話は、自分	注理論を参考にし 子供の心理過程 続性、すなわち に構築される」 自身の精神をよ	
坚学類 専門教育科目	現代心理学関連科目	発達心理学Ⅱ	発者長いわったに特神的に対する	階論的は をなるがこ、 とをなるがこ、 と超し た と を に た と を る に た と を る に た る が る が る に る に る に る に る に る に る に る に	に」ラ年考齢豊かいでいている。をいアみる会老がでいる。を後	る。青年期 理解を期を の長期に らず中以降の それいる現代	かるや齢いるやい人り人の人の人の人の人の人の人味を一のゆの終れる一名を	、エリクソンの けっては「若年期のは、 は、「青年期のとと は、「意ともいことを が、一年期のたとして、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
		犯罪心理学 I	どものとうカニスによって、	発達、家族 非行は発生 ズムや処遇 自己心理学	関係、学校 する。本講 を考えてい 、認知行	や地域社会 義では臨床 くため、精	といった多 心理学的な 神分析的視 気等を学ぶ	緑ではない。子様な要因が絡み観点から発生の とは(主に対象関。また、地域社 はれていく。	
		犯罪心理学Ⅱ	の理解の者犯者の支に、米	を深める。 罪などを取 援, 裁判員 国やカナダ	その上で, り上げ, 具 制度などの の司法制度	性犯罪,薬 体的に考察 分新しい流れ や実証的な	物犯罪,女 していく。 ぃについて 研究に基づ	でや犯罪について 性の犯罪,高齢 また,犯罪被害 も触れる。さい らくアセスメント ついても紹介す	
		認知心理学	景講問 心さ社 心	成る失的人の大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きない、大きない、大きない、大	に人をチ機しの代の一よに、ういま主マり関教に、ういまで、からいまで、からいまで、からいまで、からいまで、からいまで、おいまで、おいまで、それで、それで、それで、それで、それで、それで、それで、それで、それで、それ	の発展を概な な認知機能 しくく解明さる るモデルに 場面、産業	観で研れて、それでいるにいるにいるにいいでででいるでででいるででででいる。これではいいとのではいいとのではいいとのではいいとのではいいとのではいいとのでは、	・方に ・方に ・方に ・方に ・方に ・方に ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、 ・で、	

(人間紅	総合章	授	業	科	目	Ø	概	要		
科目区分		授業科目の名称		講義等の内容						
		家族心理学	題を抱る。間関係で考察	えている現 うした理解 や社会との する。また	代の家族の を踏まえて かかわりに 、離婚や家	形態、機能 家庭構成員 ついて、家 庭内暴力、	、役割につ の発達課題 族ライフサ 虐待などの	是童虐待など諸問いて理解を深め 直及び家族内の人 一ないとの関連 一ながないの人間関 にないて学		
		教育心理学	教育を教育を教養といる。 教育を教養を教養を発生を発する できまる おいまい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい かいい	考える能力 機づけ、学 学級のはた 理解の上で	を高めるこ 習行動、測 ら、 みど と が 必要で	とを目的と 識獲得、問 と評価など の心身の発 ある。授業	する。本講 題解決過程 をとりあけ 達的特徴を	《し、個に応じた 義では、学習意 、、自己学習力、 、 、 る。また、もの かり、子どもの ・発達・教授法		
		健康心理学	療、機能を表の健康を表する。	能回復、健 東的な側面 識と健康問 ストレス	康管理シス に注目して 題に関する とストレス	テムなどの 考察するこ 見方・考え への対処や、	諸問題に対 とによって 方を身につ 、健康に対	疾病の予防・治・して、人のここ、健康心とを目的いることを目的いする価値観、態 生解を深める。		
人間総合学群 心理	現代心理学	コミュニティ心理学	取とのシ事する すると	くコミュニ る。 理論を 変と など、 実際 通して学ぶ	ティ(集団などの) 大イ機 で ( 集団など) で ( できまる で ) で で で で で で で で で で で で で で で で で	l) との関係 ど、コンサル で、かするため 校現場にお など、さま	という視点 ニティ心理 レテーショ の方法や対 ける支援、	人とその個人を   から理解関連理解   対的な可が立りボレンやコラボレー   応法について、   精神障害者に対   ユニティの問題		
学類 専門教育科目	子関連科目	スポーツ心理学	のスポー として( のかか) ンスに, の心に	ーツ、心身 のスポークのの かかがい かがい かがい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい が	の健康増進 スいるのでは でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	のためのス 観戦など、 科目の目標 ているのか るか理解す	ポーツ、レ すべての人 は、スポーツ ることであ	て、教育として クリエーション クリスポーツと ツのパフォーマ をすることが人 る。スポーツと ムワークなどに		
		産業心理学	ること を解決 が。 プ、 より	を目標とすで できる率とする を を と の と の と の と の に り れ へ に り に り れ し り し り し り し り し り り し り り り り し り り し り	る。また、 に援助 全、 全、 策、 領 係 や 職 場 環 場 環 、 環 、 環 り 環 り で え 対 策 し 援 り の 長 り に 長 り に り に り の に り に り の り の に り の り の り の	心理学的方 産業カウン 適性、モチへ く人たちの	法を用いて セリングの ベーション キャリア開 めの働きカ	・理学的に理解す 、それらの問題 力方法について学 とリーダーシッ 月発、職場におけ けや援助など、		
		消費者心理学	側」と 費者目標 心理に	して適切な 心理を把握 とする。消 訴える商品	消費行動を し、 者の と 者 画 と と を と を と を と を と を と を と を と を と	行うことと ルにアピール 捉えるマー ゼンテーシ ービスにお	、「メーカ する方法を ケティンク ョンの手法	らが「ユーザー」 一側」として消 身につけること の方法、消費者 :、広告が消費者 かコミュニケー		
		社会福祉援助論	て学ぶ。 的にに、 質を向こ 身体障害	。発達障害 複しな社で 適切させて と 者のリハ	・適応障害 を抱えると 的がまると がポート ・	・心身症な 々に対して 療的援助を のあり方を	ど、生物的 、心理学的 導入して、 学ぶ。また 福祉臨床の	近接領域につい ・心理的・社会 に支援すると同 対象者の生活の 、精神障害者・ 現状と課題につ 。		

(人間	総合章	授 授	業	———	目	の	概	要			
科目区分		授業科目の名称		講義等の内容							
		高齢者心理学	心理的な 型的なラ いかに豊 期に顕著	☆変化につ ・イフイベ そかに生き	いて学び, ントが与え るかという な疾患を学	高齢期においる影響などで ことを考える	ける社会的 を考慮しな る。また,	生理的な変化や な生活環境や典 がら, 高齢期を 認知症など高齢 的サポートのあ			
	現代心理	対人援助論 I	は、ソー を学えてそれ を深めて	シャルワ る。 I で ら、対人 ぞれに短 いく。対	ークの視点 は、 が は いで 関 り で り を り し で を り で を り で り で り を り た り た り た り た り た り た り た り た り た	に立ち、対。 助技術の定 られる基本的 介しながら、	人援助に関 義、原則、 内な理論、 発表と習得 支術を習得	。対人援助論で する知識や技術 過程プローバー 選ででいい、 選に、 ででいい、 は、 ででいい。 は、 ででいい。 は、 ででいい。 は、 ででいい。 は、 でいい。 は、 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい			
	学関連科目	対人援助論Ⅱ	は、ソヨサアリン・オースを学って、対人援助	シャルワ る。 II で 、 グループ 」を実践的	ークの視点 は、I アプロ イブアカン アフカで に学んでい	に立ち、対 んだエコロ: ーチの理解で ション等に。	人援助に関 ジカルを を と な と り を か と り た り た り た り た り た り た り た り た り た り	。対人援助論で する知識や技術 ローチ、行動ア め、長習を図り、 ので、実践的、主			
人間総合学群 心理学		現代心理学実習	分類が大変を表現がある。	た質的様・コ毎の紙を査に授った。	法を習得す 査の実際、 用い実施、東 の実る、一種が 業に積極的	る。実習内% コミュニケの構想と実施 の構想と実施 得データの%の心理学実験 かに参加して	容は、行動 一である。 分析、進め方 実験・調 実験・調	事象を科学的にに間のに間で、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個で			
子類 専門教育科目		臨床心理学 I	ぶ為や物は 制が も も も も も も も も し る り れ り れ り る し る し る し る し る し る し る し る し る し る	生活で見いませい。 生活に見るしてS.といませいことが で見なない。 はいまではない。 というではない。 というではない。 というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	気なくやり 夢な書話材を かな領しい あるというと ロイトやC.	過ごしていった 小説といって、 無意として、 無意的な見た の。ユングなる の。ユングなる	る些細な生 を文学ので 動を理かい 動を理力ので が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	関する理論を学行る理論を認めれて 地域に描いれて は描いれて ではでは ではでは では では では では では では では			
	臨床心理学	臨床心理学Ⅱ	ぶ。 と し 人 ス か ら れ そ れ そ れ そ れ そ れ そ れ そ れ そ れ そ れ そ れ	間の臨床心 ①個人の 族理論、3 2解するコ	理学Ⅱでは動の個ミ歴史 ・で行との関系を ・で行とのできる。 ・で行とのできる。 ・でできる。 ・では動のには、 ・では、	、人の心や? の特徴から! 対人関係と? するコミュ: ・アプロー?	「動の問題 理解する認 の関係の観 ニティや環 チ、の3つ	関する理論を学 を理解する理論を理論 知行動理離する。② 点からの関係のの 境との関係の観 を取り上げる。 て理解を深める			
	関連科目	人格心理学 I	ナリティ てアイ アイへへ を理解す	とはどの !論と特性 達、対人 影響など	ような概念、関係な概念、一までは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	か、パーソン パーソナリラ ソナリティ、 な角度からん	ナリティを ティの測定 文化や社 パーソナリ	て学ぶ。パーソ 捉える視点とし 法、パーソナリ 会のパーソナリ ティの成り立ち 、精神分析等の			
		人格心理学Ⅱ	病を目りました。ことはいる。ことはい	ろの発達まの するの影響 は 実践力を身	の障害につ た、こて、 につ、良好な につける。	いて理解をi の病を抱える 理解を深める 人間関係を	生め、基礎 た方実の る。 まくた いの いた と た が の の に た り の の に り の り の り の り の り の り の り の り の	などのこころの 知識を得る点か わりといぞを が、 毎年 が、 ので が、 ので が、 ので が、 ので が、 ので が、 ので は で の と い が り を り り を り り り り り り り り り り り り り り			

/   BB /	<b>∿</b> ♪∸	授	業	科	目	Ø	概	要		
( <b>人間</b> 紅 科目 区分		学群 心理学類) 授業科目の名称		講義等の内容						
		心理検査法 I	必種成用限 るにを 物質 いっぱん かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた	される種々 特に質問程に 単化過を身に 受勢て実践	の知識を引いている。の法のつけて、の力をいけてののは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、	ぶ。またた、 、統計的観 にいる	心理検査法 法の基礎、 、実証的に 査を体験し 実際の心理	するにあたって の歴史、目的、 心理検査法の作 心理検査法を活 心理検査用性と と 援助の場におけ る理解を深める		
		心理検査法Ⅱ	しい説明 メントカ かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう での体験	月を行う。 が重要で及び 方法としたい 食を通して	臨床心理学 る。心理検 検査法を心 。投影法検	の領域では 査を通して 理学研究験 査の被験者 対する理解	、パーソナ ポ神状態を の一ての としての体 を深め、検	などについて詳 リティのアセス 査定し行動を分 で大法にし で大法にし であるとし での投影 きする。		
		精神医学	たとマ知て物にいる。	り身体症状史の身体症状史の を見いでのは を で の に り の に り の に り の に の た の に の の に の に の に り に り に り に り に り に り	や不安症状 的な変遷か DSMまでを総 の基本的な 抗うつ薬,	,また人格 ら現在に学れ 現点に学い 現点を安薬に 大なと同時	障害など, とも多く使 。主だった つける。ま ど精神科で	経症と呼ばれてい 精神医学が対象 われている診断 実表の状態像を た,治療につい 使われている薬 法以外の精神科		
相丰 己	臨床心理学	学校心理学	理学につ 関連する すい問題 に起こっ	ついて学ぶ る法律、風 ける。また <b>運</b> について	。学校とい 土や文化 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	うコミュニ ど、児童・ 思春期の心 そして、不	ティの制度 生徒を取り 理的発達と 登校やいじ	における臨床心 や組織の特徴、 巻く環境につい 臨床的に生じや ぬなどの、実際 えて具体的に考		
学類 専門教育科目	子関連科目	医療心理学	ながら する ら プロ に で 害 に た	患者を支援 まず、身を 慢性疾 りの き で き で き で た き で き で き で き で き で き で き	するための の健康と心 や成人病、 を理解する	臨床心理学の関係には の関係になる のないではない。 の精神疾患	的知識を学いて いて療に の の 時 で り で り で り で り で り で 、 の り で り の り で り の り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り	をで家族と協力した。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 でいる。 でい。 でいる。		
		カウンセリング論	的には、 史、③ ラーの資	①カウン カウンセリ 質質と姿勢	セリングの ング法、④	) 定義と意 ) カウンセ! て理解を深	&、②カウ リングの理 めたうえて	的である。具体 ンセリングの歴 論、⑤カウンセ 、教育現場にお 」ていく。		
		障害者援助論	具体的に 地域なる る。 家族や知	こは、自立 止、家族など 日介目では 日人が抱え	生活運動、 援・生活支 ら近年のサ 明日の自分	介助論・ ・ ・ 活 に で 問 し れ な な な な な な な な な な な れ に に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に に れ に に れ に れ に に に れ に に に れ に に に に に に に に に に に に に	ランティア 文化と障害 ・利用に関 るかもしれ いという視	度を概説する。 論、施設福祉と  学などのトピッ  する動向に触れ ない、あるいは  点から、障害者		
		精神病跡学	疾患の特性につれている。	特徴につい 作品でけん での が は で の 機 が 等 ら の が ら の き ら の き ら の き ら の き ら ら ら ら ら ら う ら う ら う ら う う う う う う う	て学ぶ。作 く多面 人 深め、ま え なアプロ た	品だけでな 見るとってと 作品や 学ぶこ	く伝記的な よって 新 い と で が の よ が ら と っ て の あ ら る た う に う に う に う に う に う に う に ら ら ら ら こ と ら こ に よ っ て と ら こ に と ら こ く と ら と ら と ら と ら と ら と と ら と と ろ と と と と	ま、とりわけ精神 資料などをあわっの作家の生き方 が持つ意味につい うなこれが言え 、 である自が任力とし である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。		

(人間系	総合:		———— 業	科	目	の	概	要	
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		神経心理学	をおる。とおいる。では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ると共に、 授業では 「言語と脳 また、臨床	脳を解明す 、「神経細」 」「記憶と」 的な神経心 の研究」な	る脳科学の 胞と脳の構 脳、「脳研 理学の古典	現状を理解 造」「機能 究の現状」 的研究であ	いて生理学的理解 になることを目的 にの局在」「視覚 について説明を いる「分離脳患者 言語に係わる最	
		言語心理学	力ばてのの学、からない。	かられる。 って複雑な こと質を は性を は性な で と で と で と で と で る と で る と で る で る で る	人は、考え 情報をことのよ たことのて、 について、	ることで、 ここることでとの ここるの き でとの き でとの き で と が か る る る る る る る る る る る え る る え る ら る に る た る ら る ら る ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	適で、るく、 (かる) (かる) (かる) (なる) (かる) (なる) (なる) (なる) (なる) (なる) (なる) (なる) (な	た思考では、た思考では、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	
		比較行動学	る。動物 人間が対 深める。 物から	物の進化や 進化のの過程 となったせて い比較にお	生態につい における位 言語の問題 いる側面に	て学ぶこと 置づけやそ 、自己意識 ついて学ぶ	により、重の特殊性にの問題など。また、攻	しながら検討す 物の種としての こついての理解を 、人間を他の動 、撃性についても きなどについて理	
人間総合学群 心理	臨床心理学関連科目	発達臨床	視点かられる。	っとらえる などの生活 ついて学ぶ 点をあてて	。乳幼児に 習慣上の諸 。 良好なけ を深める。	おける授乳 問題につい 母子のコミ 子関係がど	・摂食障害 て, その実 ュニケーシ のようなも	な問題を発達の 等や睡眠障害,排 態や生起メカニ ションの様相につ のなのかという のは待などの母子	
学類 専門教育科目		心理療法論 I	としての日はいるというとしている。	票とする。 やまままではいる。 でもいったといる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	まず、認知 他の理論と んだ上で、 るという認 成法などの	行動理論の の 事例検討を 知 知 記 知 記 が 記 が し を が し と を き と り り り り り り り り り り り り し し し し し し し	特色、認知の 特色、認知の が が が が が が が が が が が が が で で で で で で	の基礎離論が記立動理論が紀元立動理認知行政に、 3年の変容が行動。 3年の変容が行動。 3年の変容が表示を 3年の変容が表示を 3年の有効性や限	
		心理療法論Ⅱ	の理解を表現の目のようにあるようにあるようにある。	を深める。 を深める。 ない理 は かいない ない	人間の心を な問題をそ を学ぶ。そ 察し、具体	自我、エス れらの治療と いな症例を という精神	、超自我と からての は し が し し し が る が る た る た る た る た る た る た る た る た る	無意識について という構造から成 という精神分 を対しるという精神分 を対析を理解でき ながある。 無がある。 は、これでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
		臨床心理学実習	とく心にでを向にてを	そのため どを通してもしるはない。 そのではない。 とのではない。 とのではない。 とのではない。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでものでものでも。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	、他者だけ 切でおる。 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ さ り さ る も は る こ る と も と も と る と る と る と る と る と る と る と	ではなく、、 本授業には まり まり を関係の と 関のの を がの を は い が の は に り の り の り の り の り の り り の り り り り り り	自分自身に 幾つかの心 ることのな する。この で体験され	性が非常に重要 に重要に ・ 世療法のの ・ 大理自分の ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は	
	専門ゼミ科目	現代心理学ゼミI	し高で学領な 、数を は、認を は、認を は、記を は、記を は、この と、この と、この と、この と、この と、この と、この と、この と	会的な存在 家体的と ないで ないで ないで でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる で	として他者 知を 発達」を をして と 学 で が で で で で で で で で で で で で で で で で で	とコミュニ を発達さいる 動している い理論的立 。卒業論文	ケーション ていく。 多基盤につ 場である生 のテーマ影	情ちた環境に適応、 をとり理学ゼミI いて、発達心理学 いて、理学という 対定にも役立てら またその方法につ	

(人問名	松合草	授 辞 心理学類)	業	科	目	の	概	要	
科目区分		授業科目の名称		講義等の内容					
		現代心理学ゼミⅡ	に関するテーチを通	るさまざま のを選択し ションおよ して、自ら	なトピック 、関連する びディスカ	のなかから、 論文の講読、 リッションを ・探求し、	、学生各自 、レポート 行う。こう	のカスキルの発達 で興味や関心が の作成、プレゼ した実践的な作 的確に表現する	
		現代心理学ゼミⅢ	方法を存在した。   大法を卒と   を見例で   イン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	確業関されて 実論すれピッス でのテこクションショ	することを 筆をは多るとと まなない ないない ないないない ないないない	目標にする た具体的な わたり、実 ここで学生各 ろで探し出	一方の 大 大 は は は が 、 、 が 、 、 対 が 、 、 対 の に が 、 が 、 が 、 が 、 が の た う に う に う に う に う に う に う に う に う に う	研究およびその 心理学できまで でいいないでは、 は生活の中にふ は象にできそうな イディアについ どのような心理	
		現代心理学ゼミIV	抱いて 沿った いてプ うにし、	いる研究テ 実験・観察 レゼンテー	ーマとの打 ・分析を進 ションを行 における学	要点を改めて め、卒業論〕 う。学生が	「精査する」 文を執筆し 主体性を持	生各自が関心を 。研究テーマに 、その内容につ って取り組むよ かりとした形に	
人間総合学群 心理	専門ゼ	臨床心理学ゼミI	の対象 メンタ もよい。 のテー	となってい ルスルスに 調べたい でにいるの じているの	るテーマを、狭義の ーマについ は何が問題	:ゼミで手分「精神保健」 「精神保健」 いて、まずは・ ほとなってい	けして調べ でも広義の その実態を るのか、そ	メンタルヘルス える。この場合の )「心の健康」で :把握し、今、そ :れはどの程度の のかなど、理解	
学類 専門教育科目	ミ科目	臨床心理学ゼミⅡ	ヘルス( ループ 略を自 こにど	こ関わるテ ワークによ 分たちなり のように関	ーマを1つ) り抽出する に検討し、 われるかを	選び、そのテ 。次に、その そのうえで、	ーマに潜む の問題を解 臨床心理 最終成果	『ごとにメンタル □問題を参加型グ 注決するための方 !の立場からはそ 物については、	
		臨床心理学ゼミⅢ	後 か ば 的 が 広 が が 広 が	本的な上げる な上げる な上げりに を がただれて、 ただま を でただま を でただま を でただま を できる たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと	計画を立て テーマは、 である。 の 何を明らか く。 目的が 材を並べ立	、ゼミ論文 メンタルへ f究目的を書 かにしたいの 漠然としてい	<ul><li>・卒業に対する</li><li>・本スとを</li><li>・本スとを</li><li>・本スとの</li><li>・本スとの</li><li>・本スとの</li><li>・本スとの</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の</li><li>・本の&lt;</li></ul>	の演習を行ったこの準備に取りかれるもるだけ具体 にしていましていまれていまるものでは具体にしていいではでしまといいでしまいました。 になってしまいけていく。	
		臨床心理学ゼミIV	研究の ミ論文 た研究 ション	手法は、量 ・卒業論文 発表会で、 する。研究	的研究でも としてまと 自分の研究 発表は、人	質的研究で め上げる。 ごを他人にも	もよい。研 最後は、Po 分かるよう かるものに	Sに研究を行う。 F究の成果は、ゼ owerPointを用い にプレゼンテー することが、聴 t性となる。	
		卒業論文	究対象 分析の	として選び 視点と問題 ハく。その	、専門的な 意識を明確	:知識の修得 <b>E</b> にしつつ、i	をふまえた 適切な方法	↑だいた事柄を研 :うえで、自らの :を用いて深く追 :して卒業論文と	

( L BB 4	松本市	授学群心理学類)	業	科	目	Ø	概	要	
科目区分		学研 心理子類) 授業科目の名称			켥	<b>講義等の内容</b>			備考
		生涯学習論 I	的にとのるる(4)をある(4)を表す(4)を表	史や基礎理 「含や基礎たてを習いませい ではれ的学習習の はでいい理のを でいる。	論、生涯等に とを とを を を を を を を を を を を を を を を を を	全習の内容や、 すではおする をときでいる をときではいる をといる をといる を ではいる ではいる ではいる ではいる を にと ではいる ではいる ではいる ではいる ではいる ではいる ではいる ではいる	方「達る理・るに、といいではなどでは標の・明がいといいがい。」とがいる。	学習の意義や目れる。生涯学習の意義や目ればいけないけないでで、① 大きなできることができることができる、ことが、以上の4点	
		博物館概論	きとけ育歴とらい。る博りの国際によりの国際によりの国際によりの国際によりの国際によりの国際によりの国際によりの国際によりのでは、これの国際にはなりのでは、これの国際によりのでは、これの国際には、これののでは、これの国際には、これののでは、これの、これののでは、これの、これののでは、これの、これののでは、これの、これののでは、これの、これののでは、これのでは、これののでは、これのでは、これのでは、これのでは、これののでは、これ	本講義は、 。 生涯課業 を は に は は は は り は り は り は り は り は り は り は	博物館に関社会へと見れた役割に知じていて、 はない はない はいましま しまま はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はい	まする基礎的 多行する中で こついて考え 、 存在意義 といって看 を紹介する。	知識を習得 で、ことが にこかから に いかいらに、 も に に る に る の に る の の の の の の の の の の の の	果たすでは大い。 はする本を対している。 中では、 中では、 中では、 中では、 でもいる。 は、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	
		博物館資料論	とる資く集説できる。	を含めた、 きせてい 特性に即料に 変活 でいまれた、 は では では に に に に に に に に に に に に に	資料に対する 古がらいる 対する基準 一次資料と 物館では資	る基本的な 美術・歴史 そ料の取考え 本的な考え力 二次資料、	能力を養う ・力を養り ・の講り ・ ・ ・ ・ ・ ・ で い で い で に で に で に で に で に で に で に り に り に り に	の方法等、理論 ことを目標とす :料等、具体的な :ついて学んでい あと、資料の収 :料等について解 動がいかに行わ	
博物館学芸員	省令必	博物館展示論	についる。展示ない、展示ない。展示ない。	て解説し、 京の組 京の 京本を 学 京 解説 が が が が が が が が が が が が が が が が が が	また具体的である。また人のでは、人のか、展示資	]事例、ある ドインの仕方 ]とする。 まの意義や実 「料の選定、	いは特定の 等を講じる 物館を一般論 展示の設計	ら博物館の展示な 展示を想にない 展示ををしても は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
養成課程科目	修科目	博物館資料保存論	るのが存送環保	示環境 環境 表別 の で で で で で に で に で に り の に り の に り の に り の に り の り で し し し り り し し り り り り り り り り り り り	蔵環境を利 でいくため 活動におい 現状調査、 境(劣化条 の役割等に	学的にとら  の知識を習   ていかに大   資料の修理  件・災害・#	え、資料を 得なことが 関との との の の の の の の の の の の の の の の の の	・良好な資本とす、 と好な資本のでは、 をするでは、 をするでは、 を学が、のでは、 を学が、のででは、 で学が、のででは、 で学が、できるでは、 で学が、できるでは、 で学が、できるできる。 とするでは、 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	
		博物館経営論	ついて、 物館経済 横、 は なった。	具体的事・マネを 学の基盤と でなな でなる でなる でなる である。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいまた。 はいました。 はいまた。 はいまた。 はいまた。 はいまた。 といました。 といま。 といまた。 といまた。 といまた。 といまた。 といまた。 といまた。 といま。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	例を通して ント)の基 なる、博物 について学	学び、博物 一一 一学が 一学が で で で で で で が に で あ と 、 で で が に た で た り に た り た り た り た り た り た り た り た り た	館を経営す 養うことを 隻、博物館 博物館経営	理運営の方法に ること(ミュー博の財務、施設の の財務のと評価の の使命と評価、 での使等、博物館	
		博物館教育論	ら礎す面リ用とな基しラ学で	する。 きっている。 を表している。 をましている。 をまし	では、具体践に関するが身に付く有の場、人場等の視点	いかな事例を かいな事例を おきれる がいます。 はないない。 がいいない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではない。 はないではないではない。 はないではないではない。 はないではないではない。 はないではないではないではない。 はないではないではないではない。 はないではないではないではない。 はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	示しながら、 と る。地域 を る。 を る。 を る。 を る。 を る。 を る。 を る。 を る	さななることを なま 博物館 理 化 の と で 教育館 理 化 館	
		博物館情報・メディア論	等とけ状等を交次	ハて、ソフ こ関・メラン と、大き はた、 関・大 関・大 で を で も た 、 が で り が り だ り り た り た り た う た う た う た う た う た う た う	ト面、ハー 礎的能力を アの歴史と 館における	ド面ともに 養うことを 意義、博物 デジタル情 、著作権や	理解し、博 ねらいとす 館活動と情 報発信の基	情報発信の課題 物館の情報提供 る。博物館にお 報ネット化の現 本をネット実習 、博物館の知的	

/ 1 884	<b>₩</b> ^ 2	授	 業	科	目	Ø	概	要		
( <b>人间</b> 科目 区分		学群 心理学類) 授業科目の名称		講義等の内容						
		博物館実習A (見学実習)	うでる定定接 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	から、さまを した知識を と、学生を レマ( トマ レポートを	ざ深めない。 はなるでいる はなるでいる でいる でいる でいる でいる いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっ	館を見学し を目的とする いが採光 、見学に訪	、他の博物 る。 見 どち る。 展 示 資 れた博物館	の仕方を学ぶといり館に関する科目 は、教員が引率する。 の見学でも、特別の解説等)を設 の学芸員から直 なものかについ	共同	
	省令必修科目	博物館実習B (実務実習)	博物館は 資料の耳 究の手流 が所蔵で 資料の耳	こ関する科 取り扱いや は等資料や なり扱いに	目の補足をを 収集・ に で に で に で に き ぶ に 直 き る に き る に き る に き る に き る た る に き る た る た る た る た る た る た る た る た る た る	兼ねて、学 ・展示・整 を目的とす 接触れるた	内の実習施理・分の実習施理・ 分の実習を は、 のででである。 のでである。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	医習の準備と他の 設等において、 の方法、調査研 習では、博物館 学内において、 もに、資料や展	共同	
		博物館実習C (館園実習)	で 実 解 す え だ き 端 、 に は う に う に う っ け い に に り に り に り に り に り に り に り に り に り	こる示しままとれている。とれているでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	とで、同ないで、同時では、同時では、同時では、一時時では、一時時では、一時時では、一時時では、一時時では、一時時では、一時では、一	物館の理念 に、博物館 教育としての 瀬養するこ	や設置目的 資料を 動 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	系を博物館の現場 J、業務の流れ等 扱い等の収集・務の 対応等の多身に、 対応意識また人 する。習の反省・ は実習の反省・	共同	
博物館学芸員		日本美術史	時代別は 基礎知識 工芸のする 様なデサ	こテーマを 戦を傷を 信仰・ ドインなど	設定し、日 ることを美 に を 養式 から 、 日本 美術 ら 、 の は 、 の に り で り の り の り の り り り り り り り り り り り り	本美術史上の 的とする。 の歴史につい 生み出された	の名品を輔 具体的には い美、健 を き に日本の	開について、各のに、 日本美術の・ (、絵画・の学びをこの学みるをこと、 芸に大きなき、 (大きない)		
養成課程科目		西洋文化史	概観し、 観日 は し、 し 、 し 、 し 、 し た	- 一つの文記、手紙、 ヨーロッ 大世界(古 中世、その	化の成長が 装飾品や日 パ各地の <i>リ</i> 代ギリシア 結実として	から衰退まで 常の必需品 への生活と 文化)から のルネサン	ごの経緯を などの多岐 考え方を ヨーロッパ スまでを扱	イドを多る。ととを 用した。 が究けたるモノ にいわたるモ はいのる。本 はいの はいの はいの はいの はいの はいの はいの はいの		
	基礎選択必修科目	日本文化史 I	に対すれるというできる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	る価値観や とする。具 れぞれの時 いたても側 日本の文化	個々の文化 体的には、 代における 面的に学習 や世界遺産	事象につい 古代から近 文化的特徴 する。なお	て基礎知識現代 現代に至る に海外が でも学び、	、日本人の文化 を修得すること 文化史を学びつ。 祭評価されること 社会人として理		
		日本文化史Ⅱ	文化には、正は、正は、正は、正は、正は、正は、正は、正は、正は、正は、正は、正は、正は	おける芸術 神・歌を を きれる は いまれる は も に い ま り り り り り り り り り り り り り り り り り り	と技芸の全 大楽・ 大楽・ は たの 新に で の 稲城 ある 稲城	体像を把握 舞伎などの などのさま 像や音楽の 芸能文化に	すること目 日本を芸芸 鑑賞を行い こついても	でなながる。 ・ 大ないでは、 ・ 大ないななななななななななななななななななななななななななななななななななな		
	•	地域文化概論	人は痕で私春の石が教ちに	事らした関札らした関札らり、 を見る事をはいる。 はないでではいる。 はないではいる。 はないではいる。 はないでは、 もないでは、 もないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないでもないで	する知識を 知識を事 る地域場と には形成場と は がまな影響力	修得するこ など、地域 なについて角 ない普通と て持ってい を持ってい	とを目的と に残する。 は説する で 発する で 学 社 を う る る る る る る る る る る る る る る る る る る	でするは、       でする。       はないでする。       はないでする。       ないできまれてきいできる。       のできまとなってきませる。       できません。       はいできません。       はいできませんできませんできませんできませんできませんできませんできませんできません		

(人間組	総合章		業 :	—————————————————————————————————————	<b>の</b>	概	要	
科目区分	1	授業科目の名称			講義等の内	容		備考
		世界遺産研究	える責務を ユネスコ総 遺産の種類 に、DVDで登	負う人類共通 会で採択され 、登録の基準 録されてい	重の財産である ιた世界遺産条 ≛と手続きなど	世界遺産につ 約に記されて 基本的な理解 監賞する。また	だざ、未来へと伝いて、1972年にいる定義、世界 いる定義、世界 な深めるととも に、「危機遺産」 5。	
博物館学芸	基礎選択必修科目	世界のミュージアム	収 成 は は は は の の の の の の の の の の の の の	<ul> <li>心脱の関の当時の当時の当時の当時の当時の当時の当時の表別で、</li> <li>一次の一次で、</li> <li>一次の一次で、</li> <li>一次の一次で、</li> <li>一次の一次で、</li> <li>一次で、</li> <li>一次で、</li></ul>	やスライド等の 、収蔵品の中が にこかいて詳細し 。最終的には着 び、ミュージン と歴史を把握っ 到)	の映像管外を含む、 を含む、 を対して、 を対して、 を対して、 を対して、 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。 でする。	同) り立場から概要	オムニバス方式 共同(一部)
員養成課程科目		日本のミュージアム	の収蔵品を の館の特徴 数点選び、 に、各ミュ	中心に、ビラを解説する。 その価値に そのアムがり には個々の食	デオやスライド 次に、収蔵品 ついて検討を力 見在抱える問題	等の映像資料の中からよく の中からよく 加え、その魅 を取り上げ、	の成立過程とそその の成立過程とそそを を多れた作品を 知を探策を考察 解決を巡る観光ツ	
		西洋美術の旅 I	16世紀ルネ 等によって の鑑賞等を: や彫刻家た 依頼者と確	サンスまでの 既観なうこと おこの個性をお 執を明らかに	) 西洋美術の流 o、各時代と各 :によって、西 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	れを多くのス 地の特徴を捉 洋美術の様品の には西洋美術	、ゴシックからオインタイプを表示のでは、 ライドやビデオリティンのでは、 ライドでは、 ラインのでは、 一点では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
		西洋美術の旅Ⅱ	て概観しな 対比によっ を探求する。 相違、18世 義様式の対	がら、各時代 で、対ないで、対ない。 が、対ない。 がない。 が、 が、 が、 が、 が、 が、 がい、 がい、 がい。 がい、 がい、 がい、 がい、 がい、 がい、 がい、 がい、 がい、 がい、	たと各地の特徴 所の様式的な特 らのは、バロッ た、18世紀後半 後半からの印象	を捉える。ま 質と画家や彫 ク様式と17世 からの新古典 主義とそれり	やビデオによっと た作品の鑑賞性と 対象様式の類似と主 総式とロマヴィが 降のフォヴィが 洋美術までの特	
	専攻選択必修科目	日本の文化財 I	て概説し、 する。具体に がら、日本の 果たしてき	日本の文化則 的には、近代 の近代化とす た役割や、F	付に関する基礎 は以降の欧米社 て化財保護の歩	知識を修得す 会との関わり みについて学 文化財の特質	は文化財についることを目的とを視野に入れない。 で見野に入れない。 で考察し、文化	

			業	——— 科	目	の	概	 要			
(人間紀	総合	学群 心理学類)									
科目区分		授業科目の名称		講義等の内容							
		日本の文化財Ⅱ	知識を記憶を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述されています。	深めること された文化 術工芸品) 統的建造物 学び、近年	を目的とす 財の概要と ・無形文化 群保存地区	る。具体的 、日本を化 に財・民俗で ・選定保存 いる世界遺	には、文化 大表する有 文化財・記 技術・埋蔵 産、世界無	文化財に関する 財保護法によっ 形文化財(建立 会物・文化財 会物・文化財 で 文化財 で 大文化財 で 大文化財 で で で で で で で で の を り で り で り で り で り で り で り で り で り で り			
		歷史資料論	し、その目録等のでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の読解、調 する。具体 の文献資料 の原本史料 要に応じて	査、整理を 的には、古 、絵図、考 の読解方法	行うための 代から近代 古資料等の 、調査・整 物館・資料	基礎知識を までの代表 概要を学び 理方法につ 斗館に行き、	料につって概説 修得する書、の 近世学習する。 いて本史料を関 う。			
博物		民俗資料論	ついてれ するこ 益な風 学内外 きた民	既説し、そと習を日間で、それで、それで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、こ	の読解、調 する。具体 信仰・芸能 通して、稲	査、整理を 的に に は い 民 其 お よ い な が が が が が が が が が が が が が が が が が が	行うための 域文化を理 民俗資料に その周辺地 ら、これら	形の民俗資料に 基礎知識を修に有 解するた解説し、 ないに伝承さ調査・ 切収集・調査・			
館学芸員養成課程	専攻選択必修科目	歷史考古学	し、考 ること から る。さ	古学を通史 を目りと を目の世の世の と での歴史 と での歴史	的に見据える。具体的 ら近代まで 史研究によ 研究だけで	る視点を養には、城の に考古学の はる考古学 なく、民俗	うための基 、宗教、交 成果につい 学の可能性い 学をはじめ	の視点など の視点など がら得等 がら得等 がら得いて がいて がいて がいて がいて がいて がいて がいて が			
科目		歷史地理学	く、地 修得す く、地 史的、 域観の	域的特徴も ることを 域の を 業と を 業と が は が に た に た た た た た た た の の た り た り た り た り た り た	視野に入れ 的とする。 くらしにつ 史像、地域	見据える視 具体的にに いて、それ 像について る。この学	点を養うた は、衣食住 を支える人 学習し、新 びを通じて	的特別な めか世界では で、、、文 をなをなが、、文 たな地域る。 に得する。			
		文化交流史 I	察する。の日本のおります。	ことを目的と諸外国と主体のについて、	とする。具 の交流の事 容した社会  学習する。	体的には、 例を取り上 的背景や意 この学びを や、日本文	縄文時代か げ、海外文 義について 通じて、国	歴史的特質を考で ら平を取けるで 化を取りの中で の歴 変でで いかで が が が が が が が が で が で が り の に で の に の に の に の に の に の の り に の り に り の り り り に り の り り に り に			
		文化交流史Ⅱ	察する。での日本とそのなが、とその名	ことを目的 本と諸外国 ら主体的に 特徴につい れてきた日	とする。具 との交流の 受容した社 て学習する	体的には、 歴史を振り 会的背景や この学び 表、日本文	平安・鎌倉 返り、海外 意義につい を通じて、	歴史的特質を考ま 時代から幕末選 文化を取りを変 ての際交流の中 国際交流のに理 らどのように理			

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合者しくは届出を行おうとする場合は、この書 類を作成する必要はない。

		授	業	科	目	の	概	要	
(人	間総合	学群 住空間デザイン学類)							
	科目 区分	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
	初年次教	基礎ゼミI	習方法語を勢い、の目の	を学ぶ。受 って講義 で き うな な り を 発 り な 大 り な 大 り な た り た る た り た る た る た う た る た る た う た る た る た う た る た う た う	け身の態度 参加し、さ 人数クラス 学生活を過	で講義に臨まな対話を対かを考する。また	むのではな 題に対して 通じて大と 大の読み 、本の読み	めの基礎的 く、自に取 主体的に取 学でひとり、 講義の 。	題意 り組 学ぶ が自
	教育 科目	基礎ゼミⅡ	の技術が伝える。これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	と姿勢を養 ためることが かと、相互 をめぐって	う。自分で fの習熟を目 目標とする の積極的な	調べ、それん はゼミ が き 見 う し た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	らを整理し に、自己に 基本的に、 よって進め	充実させる 、他者に的 ついで理解 参加る。 して、大 通して、大	確に と認 主体 々の
人間総合学群		仏教学 I	マ基ド史るまで	ッダの生涯 かないないないないないないないないないない。 いったいないないない。 かったいないないないないないない。 かったいないないないないないない。 かったいないないないないないないないできません。 かったいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	とその教え そく修 アジーター ある 本で が が は で が り が り で り で り で り で り で り で り て り て り て り て	を知り、仏目とないのとを文ををない。とを文化のがないが、とないのでは、とないでは、はいいには、ないには、ないには、ないには、ないには、ないには、ないには、ない	教学および 的背とする。 的手涯とは教 ととなる。 となる となる。	の開発はは、対象体にはいる。原動をはないではないではないではいいではないではいいではないでは、はいいでは、はいいでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないでは、	する イン 、歴 説す に由 の坐
教養教育科目	建学の精神	仏教学Ⅱ	禅師の識なおままで おけまった。 事象、	生涯とそくを学なている。とれているとうないできればれている。これではいいできませい。これではいいできませい。これではいいではいいできない。これではいいできない。これではいいできない。これではいいできない。	教えを知えを知るを知るを知るを知るを知るのでは、、まれのでは、またのでは、ないでは、これのでは、	、仏教学お を代のと を代のと と と は は に れ と し れ と と し れ と る と る と る と る と る と る と る と る と る と	よるしてた教学的の任意を表示。これの人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一個人の一	宗の開祖、 に関する基 ににはなりを 歴の生まの を はいの に に と と に に は い と 生 の 生 の 生 の 生 の 生 の 生 の 生 の 生 の 生 の 生	本的 Iに 化的 思想 化的 館の
	を学ぶ科目	仏教学Ⅲ	史とそ修 とくびま代に 現や思	の教すが承ないない。ないないできるできるできるできるできるさいでいまった。	り、仏教学 を目的と 倉時代を中 本仏教行事や 仏教行事や	および宗教の心になる。とは、というないはない。というないはるのでは、これ	学に関する には仏教学 本の歴史い でいま象、 でいる のと禅堂に	て日本仏教 ・ I・IIにお ・ I・文化する。 ・ はばはは ・ はでは ・ でとして ・ でいます。 ・ でいまする。 ・ でいます。 ・ でいまな。 ・ でいま	をひ ける 景を また 哲学
		仏教学IV	教すにがに想に を で で で に が に に に に に に に に に に に に に	をこづ、承のいる。	教学および とする。具 の禅宗文の 曹洞宗の歴 教行事や禅	宗教学に関 体的には仏 に関する歴 と上の文化的 お照心館の お照心館の	する教養・I 教学 I・文 サウン サウン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン リン	て禅を 知職を い 記 で い 前 い 背 る る の の 程 と る に は 程 を る の の で は は は は は は は は は は は は は は は は は	· 〈修 る学 え た現 学や

	55 (1) 4 )	授	業 科 目 の 概 要	
	科目	学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合学群 教養教育科目	区 建学の精神を学ぶ科目	駒沢女子大学入門	(概要)本講義は、駒沢女子大学の学園創立以来の歩み、本学の教育の特色などを学ぶことによって、駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティーを確立させることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (13 光田督良/1回)建学の精神をふまえた駒沢女子大学の教育理念と教育の特色と題して、テーラーメイド教育、ミッション、教育力、学位授与の方針などについての講義を行う。 (25 佐々木俊道/2回)駒沢女子大学の1年と題して、学燈会、花まつり、追善記念日、成道会と摂心会、誕生記念日、涅槃会と針供養などについての講義を行う。 (33 千葉公慈/2回)駒沢女子大学の歩みと校歌・校章と題して、校歌の成立過程、歌詞の内容、解釈などについての講義を行う。 校歌をCDで聴かせ周知を図る。 (21 安藤嘉則/2回)創立者、山上曹原先生の生涯と教育理念と題し、学園の歴史に即しながら山上先生の教えについて講義を行う。合わせて明治初頭の日本の様子も紹介する。 (38 皆川義孝/4回)前半は稲城の自然と歴史、稲城の文化財について紹介したうえで、近隣の高勝寺、三沢川などを散策することで理解を深める。後半は駒沢学園の歩みを草創期から戦前、戦後から現在に分けて講義を行う。学園内の施設や裏山を歩くことで本学に対する愛着を高める。 (25 佐々木俊道・33 千葉公慈・21 安藤嘉則・38 皆川義孝・47 石川創/4回) (共同)駒沢女子大学の学生としてのアイデンティティを確立させるため、これまでの学修の振り返りをグループに分かれて行い、また学修結果の確認作業として「駒女検定」を実施する。	オムニバス方式 共同 (一部)
	入門	日本文化入門 I	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、日本文化を生み出す土壌となった、日常生活やその周辺における身近な文化事象である衣・食・住について解説し、さらにこれらを育んできた日本人の精神についても学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同
	科目	日本文化入門Ⅱ	本講義では、言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化について、広く基礎知識を習得し、日本文化の専門的学習に必要不可欠な教養を学習する。具体的には、自然の中に神を見出し、祭祀・儀礼・芸能などの文化を生み出す土壌となった、日本の多彩な風土について解説し、そこに根ざした特色ある生活文化の歴史について学習する。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。	共同

	== tu A	授	業	科	目	<i>o</i>	概	要	
	、間総合: 科目 区分	学群 住空間デザイン学類)   			粪	義等の内容			備考
		人間関係入門 I	の理再を紹む ( 心る (社る (31 田))	ニ会反学。目 バ 左視 真視 一次的を分と 方 恵座 佳をと 一 15研 で 15研 で 15研 で 15研 で 15研 で 15円 で 15	ョンに対し、   は	て、人文科研 スディ供 文学 文学 文学 文学 大学 で 大学 大学 で 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	全・社会 発 記 い い と い り の を 紹 の の の の の の の の の の の の の の の の の	、人びとどうし心 学の諸学問(は、 の諸学問に因のの のおな理解を かか しながら解説す しながら解説す しながら解説す でえながら解説	オムニバス方式
人間総合学群 教養教育科	入門科目	人間関係入門Ⅱ	(心理かられる) (心理のでは) (心理のでは) (で関連を紹む) (本では) (は、) (は、) (は、) (は、) (は、) (は、) (は、) (は	、寄介こ バ 田論 実の 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	、身体文化 生を対象に 各分野・毛 を 全15回) (5回) と研究対象 (5回) と研究対象 (5回) と研究対象	論、メディフィイス それぞれの まの特徴と鬼 こついて研究 こついて研究	で研究、国 で学的アプト は力につい で事例を紹	関連する諸学問際社会論など) で一大統領のなるでは、 で一大統領のなるでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	オムニバス方式
囯		英語コミュニケーション入門 I	語成ンン表し、おり、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	力を養う記している。 1人のででいる。 1人の確に気がいる。 1人のででいる。 1人のでででいる。 1人のででいる。 1人のででいる。 1人のでできる。 1人のでできる。 1人のできる。 1んのでも。 1んのを 1んのでも。 1んのを 1ん。 1んのを 1ん。 1ん。 1ん。 1ん。 1ん。 1ん。 1ん。 1ん。 1ん。 1ん。	とともに、ヴ おイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2) 果を高める	版りを行数りを行数を対している。 教員が少担当 はないをしたがいる。 はないののでは、 ないののでは、 ないののでは、 ないでいる。 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	けい、自律 とながいました。 はいれる はいまでは、 といまでは、 といまでも、 とったも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっと。 とっとも、 とっとも、 とっとも、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	し、基礎的な英育 的学習態度をシップ リンバマキー・ リカンバマキー・ リカードで、間を設定 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
		英語コミュニケーション入門Ⅱ	(礎成ンン表し、 大の なるマンの個 はんこく こうしゃ しょう しょう しょう しょう しょう はんしょう はんしゃ はんしょう はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ はんしょ	語運用能 1人のマン ので認 ので認 の学習効	力を養う。 語ネイティヴ カンバセー 定着を図る。 かせる。2) 果を高める	版り返りを追教するを追教するとのを追りをした。 教員が少を担当 ののの日本人教 ための指導を	通し、自律 数グルキラ 自然 は大容の は は は は で が に で が の に が の に の に の に の に の に の に の に の に	活動を行い、基 前学習態度を かンパや リフードや し、間を 野 手 に は は は は と の で り の で り り で り で り で り で り で り で り で	
		観光文化入門 I	がままれる を はまい いま を 変 を き で の ま で ま で ま で ま で ま で き で き き き き で う を き き き き き き き き き き き き き き き き き き	、生活の まくな、 まく在、 での 、 で の 光 ビ ジ の 、 ど り だ り で り だ り だ り だ り だ り だ り だ り だ り だ	豊かさが求 ていくと思 光が国の経 る。この授 して成長し	められる中で われる。また 斉や文化・国 業では、観光 た観光に関わ	<ul><li>ご、観光の</li><li>二、「観光</li><li>国民の生活</li><li>社の意義を</li><li>つる基本的</li></ul>	今後高齢化社会 果たす役割はさま 立国」が推進場 立にもたらかが国の 考え事項を正しく の課題を正しく	

				業	科	目	の	概	要	
	科目 区分		学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			観光文化入門Ⅱ	い 「 う 立 象 的 に の 。 、 光 ま の 。 の 。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	(側) の の は の は の は の は の は の は の は の は の に の の に の の に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。	デわれる活動 果を高め、 動」という の意義を理 光行政とい また、観光	lを含む、 観光を 説念を しつ を 業 を 変 業 を え を 表 の 支 る と う る と た る 、 の る り る り る う る も る る も る る る る る る る る る る る る る	親光に関われた関われた 社会的なこと を構成して を素から で で で で で が に で が に の る。 で る。 で る。 で る。 で る。 で る。 で る。 で る。	面など公共性の高いる事業を言い、 記象を認めにしたこのよう・のます。 記象を盛かにしたこのよう・観光者・観光者でいて宿いでででいる。 記事運輸ではいてもいてもの課題についてもの。	
			心理学入門 I	し間がる 問が歴 を に を と に を と に を と に と に の に り に り に り に り に り に り に り に り り に り	基礎心理 決で改善 業に では に し に し し し し し し し し し し し し し し し し	学と、基礎に寄与する 者を柱とし こころを理	心理学の知 ことを目指 た授業を行 解するため 的な知識を	見を活かし す応用心理 う。心理等 かの感覚・	改法則の探求を推 こて現実生活上の 理学に大別される さの成立。学習といい ったいらを通じ これらを通じ	
	月禾	人門科目	心理学入門Ⅱ	生活の中 法・産業 ら解説す 究領域は	でどのよ などの るとと などと などと などと が	うに生かさ 域に焦点を に適宜レポ	れているの 当てる。出 ートを課し する他の学	か、教育・ 来る限り ていく。 間との相互	で、心理学が社会・医療・福祉・司 ・医療・福祉・司 具体例を交えなが また、心理学の研 五連携が不可欠で する。	
人間総合学群 数			住空間デザイン入門 I	い、建築 ルー た、見 り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	・インテ レにデザイ 会や共同	リアからも ンする「リ 作業などの 表現する力	のづくり ( ビングデナ 実践の場を	家具、陶器 ザイン」 に 通してデサ	本的な知識を養品、織物)までをよいて学ぶ。まずインの基礎を学れまする力を身に	共同
教養教育科目			住空間デザイン入門Ⅱ	づくり ( ングデザ 会や共同	(家具、陶 ゙イン」 ]作業な ·表現する	器、織物) ついて幅広 の実践の場	までをトー く客観的な を通してデ	タルにデサ 視点から学 ザインの基	νテリアからもの ドインする「リビ ≤ぶ。また、見学 ⊑礎を学び、自分 □を身につけるこ	共同
			人間と思想 I	かを考察原始や学説を行う。	くますること されて を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	が本授業の ら中世ルネ 使って、現 料として西	目的である サンスまで 代的な問題 学哲学を歴	。ギリシア の哲学的知 についての 史的に学び	つようなものなの ア、ヘレニズム、 口識を紹介し、学 0考察、演習問題 、かつ現代社会 こうになることを	
	養知科	人間を学ぶ科目	人間と思想Ⅱ	存在とり関的くの関連をの連	て考えら 民代的な 実践 で 役 と で と 活 な た た た た た た た た た た た た た た た た た た	れてきたか ーマについ 立てる方法 用して、現 間について	ということ てもとりあ を講義する 代社会にお	を考察する げて、知識 。哲学史を ける様々な	、間はどのような5。倫理や道徳に 6、倫理や道、哲学と覚えるだけでなままや社会問題 であるようにできるように	
			人間と文化 I	考察を深 文化を発 はお 、 思想	める。 日 と は と と と ど き く き き き き き き き き き き き き き き き き き	本は古来よ きた。外国 通した特徴	り諸外国か から移入さ がみられる 交通などを	らの文化を れた文化の 。このよう 取り上げ、	P日本人について →受容し、独自の 少変容のパターン な観点から、言 近代日本におけ いく。	

( 1	(門名	公合品	授 辞 住空間デザイン学類)	業	科	目	の	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			人間と文化Ⅱ	人や日2 は、195 移入と ら、現7	本文化の特 33年に放送 の関わりな 生に至るま	徴について がはじまっ :しには語る での日本人	考察を深め たテレビを うことができ	る。1945年 中心とした きない。こ について、	大戦以降の日本 以降の日本文化 アメリカ文化の のような観点か 戦後の日本や日	
			生命の科学	物といっ で ら を する の 到達 に	う。生命の な機能を進 解する上で 主命科学の 目標として、	連続は細胞 化させた。 必要となる 基礎知識を	を進化させ 本講義は生 基礎的な知 身につける よの範囲で生	、単純な形 命科学の最 識を学習し ことを目標	する。これを生態からより複雑新の話題とそれ、加速度的に進 、加速度の最低限でする。現解で	
			倫理学	る。具作現代の現代の対象の対象の対象の対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	本的には、 展開、科学 終末期医療 紹介する。 を身につけ	倫理学の歴 と倫理、科 に は い は い は ら の 学 、 に の 学 、 の の の の の の の り の り の ら ら ら ら ら ら ら ら ら	史、自由の 学の中立性 厳などの諸 修を通じて	価値、功利 、科学技術 問題につい 、平等や正 どのような	テーマを考察す 主義、無理学の と倫理、例をあげ て、関する哲学 にとなのかを学 こい。	
人間総合学群	教養知	人間を学	人権の基礎	間 権 の 権 要 概 を の か 略 を の れ と の か い る の れ る の れ る り る に る ろ る る る る る る る る る る る る る る る る	厳』という れらがどの な問題性を といて理解 で理解するこ	観念、これではいるでは、これでないでいする。 ③これ	を具体化す 形成され、 かを、人権と ②人権獲得	るための力 どまないな観点 は何歴史と 権保障の実	ある」とする『人 方法としての「人 た内容を持ち、、 た内容を検討し、が がその保障等等の 種人にかの 種人にかの でも でも でも でも でも でも でも でも でも でも	
教養教育科目	科目	子ぶ科目	女性の人権	すればれて等だりです。	女性の人権 た原因の把 けで、なぜ女 で、なぜ女 の原因を理	が握権性解いた。大は、大変を制のの権力のの権力のの権力をある。	るかを、女 除という視 点をも取り 対性の人権	性の人権が 点から解説 入れていな 上げられな が充分に保	検討し、いかに し、いかに し、しるに際 が、その障の の、人権はならぬい ははれる にする ことを もいかに にすることを	
			心理学 I	を行うなをし、説しています。	学問である 研究を紹介 大きな目標 非常に無 身ともに発	。この授業 し、心理学 とする状態で 達し大人に	きでは、これ の基礎的な 理学 I では 誕生した赤	1まで積み 知識と考え 、主にんがど のかを理解	についての研究 重ねられてきた 方を身に付ける の発達について のような経験を し、自分のこと	
			心理学Ⅱ	を 様 と 基 と 基 と 酒 活 活 る と 本 の 活 る た る た う て う た う た う た う た う た う た う た う た う	学問である 研究ないのい で紹得のいい でいいが体験 でいる。	。この授業 し、心理学 とする。心 カニズムに よってどが心 ることが心	ぎでは、これの基礎的な 理学Ⅱでは ついて説明 ようなこと	いまで積み、 知識と考え、 知知の。 知知の いない いない いように のように のように のように のように のように のように のように の	についたの研究 重方を学者といいなり 原、他のかいま を学者よりで が、これでいるの で、これでいるで、これで、これでいるで、これで、これでいるで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これ	
			生涯学習論 I	的、 に と し き る 、 3 2 3 3	史や基で 大学を基でない。 大学では、 ため、 たる たる たる たっと たる たる たる たる たる たる たる たる たる たる たる たる たる	論」る解歴史 と本、生涯学け業 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	習の内容や、においているではおけるではいるではいるではいるではいるでは、到いたのでは、到いたのでは、対しているでは、対しているでは、対しているでは、対しているでは、対しているでは、対しているできない。	方法を概説 「達る理と をばなと はない は で と が い い い に り に り に り に り に り に り い り に り に	学習の意義や目はる。生涯学習の意義や目はる。生涯学習ればいけないまないとないできる。とないできることができる、以上の4点	

, .			授	<del></del>	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			生涯学習論Ⅱ	や必としのとして取り生	職員の役割 磁技能を値 ①生涯学音 磁技能を値み)を理解を理解を理解を理解を理解を理解を理解を理解を理解を理解を理解を理解を関める。	割についる りについる でのままる のです。 でのです。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。	概説し、生 とを目指す。 目的を理解 ②生涯学習 ることがで	涯学習支援 と生する をきるができるができるがきる。 できるがきる。	習に関する制度 の担い手と目 がまり ではいる 担いる 担いる 担いる 関連 手 を した できまる できまる できまる できまる はいまる はいまる はいまる はいまる はいまる はいまる はいまる はい	
		人間を学ぶ科目	社会福祉概論 I	で と 現 、 て 在 障 な 段 解 を を の を の を の を の を の を の を の を の を の	ず社会をできませる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	☆論の基本アメルをリカを の流れる いがれる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はい	的視点を紹か 中心に学び、 すさえる。 そ といった個別 いて取り上に 祉の諸現象に 祉の諸現象に	介し、次に 、 し、本に かる。 で がる。 で 対して に対して、	学習する。 受習する。 受習者 は 会に は 会に は 会に は 会に を 会に を る に る に る に る に る に る に る に る に る に	
			社会福祉概論Ⅱ	クの実際 理解 ( D ) 援助技術	として、 。授業後 援助技術 の具体的 に関する	社会福祉の 半では、各 (ケースワ な事例に取 知識や技術	実施体制や 自がソーシ ーク)おより 組み、発	社会福祉援 ャルワーカ び集団援助 表と討議を 社会福祉援	ソーシャルワー 助技術について 一の立場に一ついて 大街(グループ 行う。社会福祉 助活動に活用で	
人間総合学群	教養知		日本の歴史	開、社会 国 と際環日 し、変遷 の変遷	や文化の特 とする。 などの特 の文化的特 総合的に 対	特色、国際 具体的に 色像について 特徴し、考	関係に関す、 各時代のi 、歴史資料 て学習する。	る基礎的知 政治、経済 や先行研究 の思考力を の思考力を	国家の形成と展 識を修得するこ 、 に基づいて、明 に を 傾 し 、現代社	
教養教育科目	科目	+	世界の歴史	「権利」 びつある。 に権利っ が持つ「	と、それら がら学習で 対立する り を 相 したの 権利」を る	らを獲得するを獲得と をこく と いか。 と と と に た の た る 、 こ く る 、 こ く る 、 こ く こ ら る 、 こ る 、 こ る 、 し る と う る 、 ろ と ろ と ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	るために行え、受講生の! 、そして国! 疑問を考える	われた様々 思考能力を 家のととい なこといい ないと	えている様々な結で、 でいる様々な結で、 では、 では、 でいる様々をはいる。 でいるで、 でいるで	
		文化と歴史を学ぶ科目	戦争と平和の歴史 I	の 界 が ま 形 も 表 方 法 を 表 大 に ま た に ま た に た に た に た に た に れ に に れ に に れ に に れ に に れ に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に る 。 に 。 に る 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	?この問いでの国際 記後半に る。国際 身につける	ハに対する 関係を分析 国際社会で 関係史の基 ることが目	答えを求め する。欧米 頭角を現す 礎的知識の 的である。「	て、19世紀 その国際関 ようになっ 習得、さら 映像資料を	避けられない世 未から第二ない世 保が日本につない を日本につない を日本会科学的思 を用し、世界 を用し、世界 エ夫をしていき	
		П	戦争と平和の歴史Ⅱ	のなのか終アカしつについたのか終日 、中つつけ	?この問い? まってのでの 現代史のま 現代とが ることが	ハに対する 対関 はも は も 世界 は ま の と の の の の の の の の の の の の の	答えを求める分析するでいますが、アジア、「「大阪」では、現るの習得、されば、	て、第二次 。 アメアニ オセア形 在進行会 を 多用し、	避けた大戦によった。 世界大戦では、大戦では、大戦では、大戦では、大戦では、大戦では、大連では、大連では、大連には、大きないが、大きない。 国際のは、大きない。 では、たちない。 では、たちないない。 では、なないなななななななななななな	
			西洋文化史	概に通は成し、記し、記し、代中	一つの文 !、手紙、! ョーロッ 世界(古f 世、その)	化の成長が 装飾品や日 パ各地の人 代ギリシア 結実として	ら衰退まで 常の必需品 々の生活と 文化)から のルネサン	での経緯を などの多岐 さ考え方を ヨーロッパ スまでを扱	イドを多用している。 研究する。モノをいたなる。 にわたる本講像を 知る。本書を 文化の西洋文化の ことを目標とす	

			授	業	科	B	Ø	概	要	
	<b>人間</b> 科目 区分		学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			譯	義等の内容			備考
			日本美術史	時代別に基礎知識工芸のでは、様なデザ	こテーマを 載を よ術品を 信仰・ よん にん にん にん にん にん にん にん にん にん に	設定し、日 ることを目 に日本美術 種儀式から	本美術史上 的とする。 の歴史につ 生み出され の特徴、さ	の名品を  具体的に  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に	展開について、各 由に、日本美術の は、絵画・彫刻を さ、絵画の学びを その工芸にみる多 美 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
			比較文化	たらに対けているとき考えている。とき考えている。とき考えている。	のいるないできたいですることでいるというできるこうできませんが、メリカンをは、アメリカ	憧憬と葛藤 界の中の日 目的とする。 ルトガルと 時代のオラ	を」について 本を、歴史 。16世紀後 スペインの ンダの実用 パの列強と	く、第一次 的にも、空 半から17世 南蛮文化と 学への憧れ	で化に初めて接いて 資料を読みで 証間的にも、なな確 注記初頭の安土桃 :の衝撃的な出会 はと探求、明治対 いつ批判的な交流	
		文	日本の文化	いりし人の利力を利力を利力を利力を利力を利力を利力を利力を利力を利力を利力を利力を利力を利	日本で生ままな生ままなないない。 お生がいないにないないでで、 おいないでは、 はいないないで、 はないない。 といった。 はいないでは、 はいないとは、 はいないと。 はいないと。 はいないと。 はいないと。 はいないと。 はいないと。 はいないと。 はいないと。 はいないと。 はいないと。 と。 はいと。 はいないと。 はいないと。 と。 はいと。 はいと。 はいと。 はいと。 はいと。 はいと。 と。 は、 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	れ育った者 践し無意識 ・禅から派 拶のような られた心を	がは誰でもお はにないとしま 生にし識し、自 理解し、自身	検拶と言う と言う となりに付 であること に付いてい に、無意	て化を中心にみて 言葉を知る。 けているとしている。 は、ほとんどの は、日本人の日常 意識に行っている 「景を見直す事が	
人間総合学群	教養知	文化と歴史を学ぶ科目	観光地理(日本)	特産物がのできる。	などについ などきっしるよ ーチャンく ものまた、	て幅広く学 う知識を高 旅行を意識 「旅行業務	ぶことによ める。 地 り か り 数 管 理者 上 げ た 観 光	り、「旅行 と現地の時 光資源の特 」の資格を 資源の所有	成の文化・風物、 庁」に対して専門 全像などを利用し を像など置関係な に得る国県を説明 に得る関係なに に構造解し に構造解し に構造を には には には にが にが にが にが にが にが にが にが にが にが	
教養教育科目		I	観光地理 (世界)	史・文信知を見る ままま ままま ままま ままま ままま ままま と 地形、	と・習慣な 身に付ける こ向けての することも	どを学び、 。「旅知識を 事能となち がなる等	国際人とし 務取扱管理 学ぶ。また ので、講義	てのしっか 者」の資格 、世界遺産 の対象とな	、な観光資源や歴 、な観光資幅広い を得るための国 を検定や地理検定 で向た各資産を合わ での光資産を合わ	
			日本の文学	記と芥いすまとれています。	道化の華」 说の読み方 太宰の小説 学研究の基 とで、小説	を読み、そのテクスののでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、	れぞれの作 アプローチ 分析を通し けることを りについて	家について の仕方につ て、単なる 目的と かと 強自の論点	か短編集 が記録を が記録を がいなする。 が思想に できる。 が思想に できる。 が記述を できる。 で。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 で。 で。 できる。 で。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 で。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 で。 できる。 で。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	
			ヨーロッパの文学	代でデ『ロファック	る外国文学 中世のアンタントリンスという。 カンとのでは、リンパの個のでは、	のテーマと である『ア 一物語』、 エット』、 グリム童話	その問題性 ーサンテの『 ゲーテの 、カフカ『 を通史的に	を 歴 更 更 明 曲 き よ で な る こ で な る こ こ に し に し に に に に に に に に に に に に に	下のでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
		社会と自然を学ぶ科目	日本の政治	交代に る。 る。 る。 と 一緒	スポットラ 幸の対すま おに新望の こ考えると	イトを当て 活は、様々 無関心は、 持てる日本	ながら探る ・な局面で呼 政治家任せ にする為に 生として知	ことが、 <sup>本</sup> 女治と密接 の生活を迫 、今何をす	銭員、官僚、政権 □ 本書 は であいていていていている。 ○ 本書 は であいていていているができることにを受講生といる。 ○ 本書 は であればました。 ○ 本書 は であればました。 ・ 本書 は でき	

( )	人門名	公合品	授 学群 住空間デザイン学類)	業	科	目	<b></b>	概	要	
	科目区分		字群 任空间テザイン字類) 授業科目の名称			詳	義等の内容			備考
			世界の政治	るのがこ される <sup>は</sup> か。日 <sup>2</sup> 本政治の	この講義の 場合が多々 本が「異質 の特徴や日	目標である ある。なぜ な国家」と 本国憲法の	。国際社会 日本は世界 思われる構	で日本は異 から「異質 造を、国際 証する。ま	ポジションを探質な国家とみなの」と思われるの 政治における日 た、日本を取り かていく。	
			政治と市民参加	権なった。被がなった。他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、	選挙権、レ いるのは と いるの は が る と る と る と る と る と る と る と る ら る ら る ら	ファレンダ講義は、 、 、 、 、 一般とする	ム)を通じ 挙権や被選 ファレンダ による政治	て様々な政 挙権の歴史 ム (国可能 参加を 選挙権の意	る参政権(選挙 治参変権(選挙と 的変と住民や 票と住民界に 性と限響につい 義と影響につい い。	
			日本の経済	すニでデアングラングでは、	それにより スが理解で 実際の新聞 GDP、失業 動きを学び	、新聞や報 きるように 記事や雑誌 幸等の基本 、経済全般	i	事を読む 最低限の目 ースを題材 や現在の日 知識を修得	般について教授素養とする。 標とする。授業に、そのフロス に、経済、本をの、 は、経済、本をの、 かけさせる。	
人間総合学群	教養知	社会と自然	世界の経済	視さは派的では経れない。	語ることは まな問題は 斉の基礎理 士組みを理	できない状論や基礎知知をはいまな経済をはいます。	況になって! と連動した! 識を身に付! を目的とす	いる。政治 動きを見せ けたうえで る。さらに	外との関係を無 も含めた社会の ている。本講義 、世界経済の根 、世界在世界で起 導くための考え	
教養教育科目	科目	を学ぶ科目	新聞と報道	である。社会報道にある。	具体的に 会問題報道 分類し、そ 一能力を養	は、記事の 、事件・事故 れぞれの文 う。そこに 動的に理解	内容を、政治 対報道、生活 脈の理解の付書いている。	治報道、経 報道、スポ 仕方を学ぶ ことをただ	が本授業の目的済報道、国際報送、国際報道、「一ツ報報」が、「一の場合」でおいています。 このものにないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	
			グローバル共生論	的はで化課を記述し、	は近年活発 は最高を記 私たちの周 番、宗教な 考察し、グ	になってv 録し、今後  りの「多ゞ  どを有する ローバルな	いる。海外で も増加する。 で化」化に 人々とのコ	で仕事や生 ことが見込  を向けな  ミュニケー  方や多文化	国境を越えた人人 活をする日本授業 まれる。本授業 がら、異なる大と ションの現状と ショの共生のあり	
			法学	んでいる る。 の る。 新 る。 か る。 か る。 か る。 か る。 た め る。 た め る り る り る り る り る た め ろ り る り る ろ り る ろ り る ろ り る ろ り る ろ り る ろ り る ろ り る ろ ろ ろ り る ろ り る ろ り る ろ ろ ろ ろ	くための手 の授業では ということ 聞やテレビ きっかけを	段であるが 、近代以降 をていねい の社会問題 作り、異な	が、時に私た の市民社会 に伝えてい などについ	こちの生活 のあり いあり が いた いた ない たい たい たい たい たい たい たい から いっ たい ない たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい	会をよりよく営を厳しく制まえ「法とは裁判例も紹介すに考える治を立てて未解	
			法と社会	各種資料を指針を	各取得や卒 分立と対を いた おいで まな との き との き との き と た き は き こ と き こ と き た う し た う に も る し る し る し る し る と り る と り と り と り と と り と と り と と と と	業後に向け 基本の政 現 担 員 制 員 制 員 を 多 の 変 の の 度 の の 度 の の 度 の り の り の の の の の の の	た社会人力のえを確認したを立憲民主実践に触れ、する。日本[	の育成を目 た後、立法 主義に照生 まの基本法 国の基本法	得することで、 指す。国民主権 と行政について して分析する。 を裁判に反映さ である日本国憲 ・提供したい。	

( )		公人占	授学群 住空間デザイン学類)	<del></del>	科	目	の	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			日本国憲法 I	業では、気管をは、気管をは、大きのでは、たらのでは、たらいでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのではいりでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、たらのでは、	育二次世界 正する。 き」という とこいく。 きえ、異れ	界大戦後に その上で、 う3つの柱に 日本国に なる意見を	定められた? 「基本的人 こついて、急 おける基本?	悪法の基本 権の尊重 がずに具体 法である「 筋道を立て	意味する。本授的な仕組みを歴」「国民主権」「例を踏まえつつ日本国憲法」のて未解決の社会	
			日本国憲法Ⅱ	人ひとりの の政治のは 中心に学び 触れていく	の国民を見 あり、現日を見 が、。なる はなる はなる	人格の担い を を 法と は と お は と お け る く る く る く る く る く る く る く る く る く る	手として尊。 。こで 。こで 表本法である。 この で 表本 で る で ある。 で も で も の だ る で も る り る で も の も の も る り も り も り も り も り も り も り も り も り も	重するため では、国家 れている問 る「日本国	制定された。一に、憲法は国家統治の仕組みを題点についな割をを要法」の役割を決めていました。	
			社会学 I	為とが、会理解を表していません。	社会秩序 デーマを は話題と 基本的じて 分の日常生	字と権力、 取りでおき まび方を きる を を を を を を を を を を を を を を を を を を	組織とネック。理論を対するは、理論表を対解するののであるのである。	トワーク、 まいての講 はめて、社会 きに大」 と」に対し	は何にない。は何にない。本は何と中心と中心と中心と呼ばれた中心と呼ばれた。一般のでは、といいない。一般のでは、といいない。といいないない。こととは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	
人間総合学群	教養知	社会と自然	社会学Ⅱ	なテは会現を対している。なっては、のでは、のででのでいる。これでは、のでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、のの	象の理解が なり上げ、 と概念にかる ででいる。 ででいる。 ではない。	ができるい それれて かれて土、 習得こと、 ての理解を ての理解を	う、家族、 を を 表 を と と し 教 と し 教 と し 教 と 、 、 、 、 教 き 、 、 、 、 、 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う	教育、労働 の問題を行う。 を り り り り り り り り り り り り り り り り り り	に、、より具体的 といった身後 大力を 大力を 大力を 大力を 大力を 大力を 大力を 大力を 大力を 大力を	
教養教育科目	科目	を学ぶ科目	数学の世界	学とも結び 講義は、ま 会に出てか と計算、平	バ付く、/ まず数学ℓ いらも役立 本方と平力	人間の本質 D楽しさ、 とつような 方根、一元	と深い関わ 奥深さについ 数学の基礎	りをもった ハて講義す を講じる。 連立方程	実は、数学は哲学問である。本る。その後、社 具体的には、式 式、グラフと関	
			物理の世界	い。しかし の問題にす の講義では 深めたい。	、 物理学 で 展開で は、 加速度に 耐震に で	さは、物質 けるような は直接見え 遠心力な	を極限まです ダイナミズ、 ない「力」の どの物理学的	突き詰めて ムを秘めた の物理現象 的な理解か	とはほとんどないというというというというというというというというというというというというという	
			生物と生命	得られた知 して誕生しまでたどり 程を跡づけ	印見を基に したのか、 う着いたの けることだ けた戦略と	こ講義する 生物は進 のか、生命 が本講義の と生物の多	。地球とい 化しどのよう の大切さをす 目的である。	う惑星に生 うにしてホ <sup>っ</sup> 意識しなが 、そして個	遺伝子学等から 命はどのように モ・サピエンスに ら生物進化の過 々の生物の生き 人間が生きてゆ	
			地球と宇宙	巨大な絵を 創世してい 観すること ン以後の写	と描いたり いる。本記 いから始ま 宇宙の成 と見つめる	)、運命を 講義。 まる。 ちったと ることで、	託したり、 まざまな民 て、宇宙創 星の誕生や かけがえの	また宇宙に 族が描いて 成であると 終焉を学	人類は、夜空に まつわる物語を きた宇宙観を概 されるビックバ ぶことで理解す ある地球の特質	

	、問約	· 스스	授学群 住空間デザイン学類)	業	——— 科	目	Ø	概	要	
	科目 区分 授業科目の名称 講義等の内容 高度な科学技術の発展により、現代人は豊かな生活を享受して									備考
		÷1.	物質と化学	る。中でも 接に関わっ 電話、パソ	「化学」 ている。 コンなど 義では、	は、最もたとえば、は、すべ、実生活に	身近な姿・ 医薬品や て化学に基 没に立つ「	形で私たち 化粧品、香 づく「物質	活を享受していの日常生活に密料、で構成されて、携帯で大力で構成されて、譲を教授するこ	
	教養知科目	社会と自然を学ぶ科ロ	情報と科学	再編しあら トワークの 目的とする な段階であ	たな表現 仕組特に る情報 は、 な、	として発作 および、・ 過去という。 イスブック	言するため その安全対 現在に至る 現点を重視 クに代表さ	に必要な、 策について 情報の歴史 したい。こ	得られた情報を IT端末やネッを 理解することを 世界史の新た のような理解を の可能性と限界	
		田	色彩と科学	色彩が心理 的理解を深 の基本的理 ための感性 要項目の解	的、社会 める る る る る る る る そ る そ る そ る そ る そ る そ	的、文化的 彩をコミ、 を加え、 で で の で の で の を の を の を の を の を の を の の の の	的に果すされ ニケン 見覚接受の色 を 支援 を を を を を と を と を と と と と と と と と と と	まざまな役 さまない まざい とう まさい とう まま といま は まま とと とい とも とと もん と と もん と もん とん しん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かん	本質を理解し、学を理解して、学でいなります。これでもにないでは多までのではいままでのではいいではがある。といいでは、世界のでは、世界のでは、世界のでは、世界のでは、世界のでは、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	
人間総合学群 教養			ボランティア実習 I	献すること ンティア活 施設などを 当教員との	により、 動の実施 想定し面前 事の事前	新しい自 :場所は、 いる。① &、③危機 :提出(学	分を発見す 大学の地元 担当教員に 管理ガイタ	ることを目 の稲城市お よる個別ガ ブンスへの	トし、社会に貢 的とする。ボラ よび近隣地域の イダンス、②担 参加、(④ボラン録 ティア活動記録	共同
教育科目	+		ボランティア実習Ⅱ	献すること 場所は海外 活動を通し 将来、国際	により、 を想定を な会に との とが が といる といる といる といる といる といる といる といる といる といる	新しい自然でなる。 者が多種で生き抜いでする。 で生き抜いでする。 でするでするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでする。 でするでするでする。 でするでするでする。 でするでするでする。 でするでするでするでする。 でするでするでする。 でするでするでするでする。 でするでするでする。 でするでするでするでするでする。 でするでするでするでするでするでするでするでするです。 でするでするでするでするでするでするでするです。 でするでするでするでするです。 でするでするでするでするでするでするでするです。 でするでするでするでするでするでするでするでするでするでするでするでするでするで	分を発見す 毎外ボラン 多様な文化 く術を学ぶ。 週間以上参	ることを目 ティア慣のは 、夏季休暇 加すること	トし、社会に貢 的とする。実施 、海外における いを受け入れ、 中に、学外の団 が要件である。 いる。	
	実践知科目	実習科目	海外英語研修 I	でなる。 総示 でなる 間語 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	的ム修授こ一にすなスを業とシ対るコテ選とでョす。	ュニケーな英語では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点	ンョンスキルスキルス学行ったのでです。大みでぶんな学文を考れている。というないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ルののではないできます。 でいたないでのでいいでいいでいいでいいでいいでいいでいいでいいでいる。 でいるではいいでいいできる。 でいるではいいでいる。 でいるではいいでいる。 でいるではいいでいる。 でいるではいいでいる。 でいるではいいではいいではいいできる。 でいるではいいではいいできる。 でいるではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいで	れ、 はで、 はで、 で、 に通識する、 にはずする。 にで、 で、こ、 ない、こ、 、い、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	共同
			海外英語研修Ⅱ	生は既習すと通うが、にの外引	修て通英で英き語での必の間語がである週間語が個子語のな研を手続専任人	要なるような。最近では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	限の総合的 たの力ををした ではないではない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	な 展が に、 外 発 も 学 に た た か の の の の の の の の の の の の の	対か 対か ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	共同

			授	<del></del>	科	目	Ø	概	要	
	<b>間</b> 科目 区分		学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			計	<b>構義等の内容</b>	7		備考
		実習	国際協力実習	力機構 ( a k k k k k k k k k k k k k k k k k k	JICA 。開発の に現地を 察と体感す 歴史や社	) 現 現 現 は は は は に る 会 と 経 を 済 と を 済 と を 済 と を 済 と 済 を る ら ら ら ら ら ら に の ら の ら の ら の ら の に に に に に に に に に に に に に	受助実施機関 に国際協力が はのないのを はのといるでいる。 はのかとのできる。 はいる。	間職員や専め、専びないでは、 でないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	関係者、国際協 家国際協 家国際が の ま 国際 は カカ、 関 は は 力 、 、 対 に は は は は は は は は は は は は は は は は は は	
		科目	国際協力実習フォローアップ	し、国際では、気に気に、気になる。 は、気になる。 は、 は、 は は は と は と は と は と は と は と は と は	協力の現 の点を準備を 大べ習が では 、 の の に で き が の に の に で る の た の た の た の た り た り た り た り た り た り た	場視察や扱 参加学生同 行ははの学生 の分 の 発表内容や 発表の容や	受助関係者な 司士でプレセ 習の成果とし 国人)が国際 見をまとめた	などとの交流 だとの交流 だンテート本 に開発・国際 に実習報告書	参加者を対象と 対象ながも を返れを をし、 での が が が が が が が が が が が が が が が が が が	
			進路設計	産業構造ないる。 きがい」 で、卒業行 社会人観」	や人口構 。本講義 「子育て 後の就業 」「家族	成は、大きでは、女性でなどを: と際して 観」をつな	く変化し、 生の「生き力 通して議論 「企業が求め	就業形態や デ」について を進める。 かる人物像」 で再編し、具	済を支えてきた 人生観も多様化 「就業観」「生 この作業を通し と「個人のむと 体的に語ること	
人間総合学群	実践知		社会と教養演習A	的な教育! えで習得 イメージ れる最低!	以外に「 すべき知い を描くここ とするた	社会人基礎 識・知見が と から から から から で こ こ の 自 己 見 己 こ ろ に る に う に う に う に う に う に う に う に う に う	を力」と呼ば が求められる う、そのうえ ション能力を	ばれるような る。本講義で たで、社会人 と身に付ける	は、大学の専門 、生きていくう は、生自分自身の として必要とさ としてそれを ションスキルの	
教養教育科目	科目	就業力育		業人としては個々人と は個々人を 含めた基準 体的には、	て個人が <sup>4</sup> の個性を2 本的ビジ 個性を1	守るべきバ 生かしたダ ネスマナー 重視しなか	レールーやマ け応も求めら の習得と個 ぶらも、駒沢	マナーがある っる。本講義 国性の発見を	会人あるいは企 。しかしそこで では身体技法を 目指したい。具 としてふさわし 。	
		成科目	社会と教養演習C	される「 <sup>1</sup> 会人とし 「チ磨い	社会人基 て自立く でいて でいれた る、想像	礎力」を るために 」が必要と めの、 実践 力、発信力	らに養って は、「前に路 いわれる。 浅的訓練を行	ていくことを 皆み出す力」 毎回の授業 うう。特に、	るために必要と 目的とする。社 「考え抜く力」 では、これらの チームワーク作 律性を涵養する	
			社会と教養演習D	りわけ、i とは何か でそれが レーショ	道元禅師を を深のよう といる といる といる といる といる といる といる といる といる といる	の禅を建営 んでいきた に活かさ 生の自主性 、社会に出	さの精神とすい。 具体的 いるのかを よを尊重した	トる本学なら 的には、社会 教授したあ ニグループ学	しての規範、と ではの身体技場 での様々な現場 と、根 を 習、体験 ・ の素養を身に付	
			キャリアリテラシー	の不安を終れる。 では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	緩和し、「 和しなの 自分にない。 を を の の の の の の の の の の の の の の の の の	前 前 前 前 神 は 事 が 、 に で 、 可 に で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で に で に で に で に で に で に で に で に に で に に に に に に に に に に に に に	、持ちで行動を とは、 きまなが、 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	かしていくこ アスを学"。 い合わせ"に、 と立つ意識や	は、就職活動へ就自なとを目的には、就職活動ではとを目的にはいる。 東外のは自いない。 東団計論を引いる。 大学のでしている。 大学のでしている。 大学のでしている。 は、記事のでは、 は、記事のに、 は、記事のでは、 は、記事のでは、 は、記事のでは、 は、記事のでは、 は、記事のでは、 は、記事のでは、 は、記事のでは、 は、これが、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	

()	- 間網	総合≘	授学群 住空間デザイン学類)	<del></del>	——— 科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		就業力育	就業への知識と技能A	ホテル・る。ピソー教 (大) 社会	モバイル な業種に -ドを交え 。業界・	等の業界について ついら、業種の社会 関心を深め	こついて、そ 界で豊富な 種や会社を き的な使命と	その成り立 経験を積ん 研究するた とその実態	リース・航空・ ・航空・ を教員が様々 がの基礎と めの名を を知を を知を を和を を観的に 考	
		成科目	就業への知識と技能B	版やんだ 相だ を 基 数 は こ と	加産などの 関係を考えな が様と はを提り、	業界や、公 る。様々な エピソード る。組織に	務員・教育 業種になな を なける様々 に関心を深	職における て実業界で ら、業務を な業務の役	、損害保険・出容積 様々な経験を移った 豊富ななるための 選択とその実態等 分に適した業務	
	実践知		女性と健康 I	によって 的な生理 なに知ら ながらい 題につい	発症し易 機能とそっておいて 話題を提供 で論じて	い病の種類 の健康管理 欲しい少女性 し、少本講 いく。本講	も異なる。 を取り上げの健康と病が ら大通して を強して	本講義は、 る。特に、 気にの成長で 人間の本質	こるが、各年代 女性の体のを基本 二十人体になる交通 二人体のの健康で 、 、 る過程解し、 、 る能力を 養い た 、 、 る を 理解し、 き で に な を の を は に な を の を を の を し を の を の を の を の を の を の を	
人間総合学群	科目	健康体	女性と健康Ⅱ	に性なしいた達りいた達の はないた達の	発症し易に を 会 会 会 会 の 一 の 一 の 一 の 一 の 一 の 一 の 一 の 一	い病の種類 ついく。 ていく。 に着け、 を はの中で、 自	も婚講を理なる。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	本講義は、 出産の 出産の は は は に に は に に に に に な に る に る に る た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	こるが、各年代 二十歳以降の に関係するこ、 に関を理解した 質えるどの周り 人などの しい う う う う う う う た り し に し で る し 、 で る し 、 で る し 、 で る し 、 で り で り で り で り で り た り た り の り り り し り し り し し し し し し し し し し し	
教養教育科目		育科目	スポーツ I	目がらとせることは、機能に対している。	送続できる。 は康志の方 、とを目標 、とスポー	身体運動( の動機付け 法を自分自 とする。ス	テニスとリ を図り、実 身に当ては ポーツ文化	ラックスョ 践に関する め、応用展 に親しむと	ている。この科が が)を選択しな 知識するに 対力をとが 開するに、大の な と が 最大の な と と が 最大 を 体 終 と は が を と は が を と た と た と た と と と と と と と と と と と と と	
			スポーツⅡ	目は、総が保証を存る	送続できる いら、健康 いと共ること きずのため、	身体運動( 志向への動 その方法を を目標とす	バドミント 機付けを図 自分自身に る。スポー	ンとゆがみ り、実践に 当てはめ、 ツ文化に親	ている。この 修正体操)を 関する知 関する知 関する 関する に し し た と と が 最 し た く が 最 し た く が し た に た り た に た り た り た し た し た し た し た し た し た し た し	
	技法知	日本語育	言語表現演習 I	ときまれる。またい。	かとする。 二大きな影 上防ぐため 二、様々な	具体的には 響を与える に欠かせな 文章表現に	t、日本のを 「敬語」の い日本語文 親しみ、各	t会におけ 体系、およ 法について 自の言語生	用能力を養うこーを養うこった。 るづ、会話におさいの基礎知なも間である。 が基を豊かなも目標 をしたを目標	
	和科目	成科目	言語表現演習Ⅱ	用能力を 振り返り 身につけ る。また	高めるこ つの正確な 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	とを目的と の語彙に触 表記で各種 現に親しみ	する。具体 れて、さま の文章を作 、各自の言	的には、自 ざまな表現 F成できる 語生活を豊	し、日本語の運 らの言語生活を を生み出す力を 能力を身につけ かなものにしな 身につけること	

()	間線	——— ※合章	授 学群 住空間デザイン学類)	<del></del>	科	目	Ø	概	要	
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			英語A I	的な英語 要なよう を は り に り た り た り た り た り た り た り た り た り た	表現を用いて、 と同いて、 と同時に する。簡 に伝えら	いて、質問 、数字や品 重要な情報 単な単語やご れるかを意言	したり、答. 物の値段ので を正確に聞 フレーズをで 識させなが	えたりできない ないでいいでいい ないないでいい ないない ないない ないない ないな	本 を は す。 ま うに等すり、 で も は に 等 りりや き り り で り の で り で り で り で り で り で り で り で	
			英語AⅡ	を用いて りのった に い た る こ ま る た る え る た る る え る る る る る る る る る る る	、質問した。ックについます。 ・ックのが ・のが ・のが ・のが ・のが ・のが ・のが ・のが ・	たり、答えたいて、場所 いて、場所 趣味や興味( 語やフレー)	たりできる。 や時間とい のあること ズを使って、 会話や英作	ようにする いった具体! などを伝え 、自分の気 文での表現	本的な英語表現回 。自分報を聞きう かりなりでも からりでも がある がある が が が が が が が が が が が が が り が り が り が	
			英語AⅢ	や自分の理解し、るよい、を用い、に	家族・学家族をこれる。	校・地域な とがでなど、 外でなど、 語たいこと	ど、身の回 ようにする。 日常生活の ることを を書く練習	りの事柄に 。基本の 場面させ、 を きせ、 表	・関連 関単語 関単語 では では では では では では では では では では	
人間総合学群	技法知	外国語育	英語AIV	信よい理英伝れに、どでたない。	短る。 簡潔人に 高を理たる に 続しする を も と を き き き き き き き き き き き き き き き き き き	なアナウン 的予定や大学 し、英語で 作の一連の とを意識さ	スを理解し、 学生活など 表現で英語 手順を まく使 せ、表現の	自分確する のようででする ででする の幅を がある がある がある がある がある がある がある がある がある がある	。公共の場で発 の内容を事実にそる 体的なポーツ・るように、自 るように、自分に、自分に、自 を用い、ようにするの らればする。 う育成する。	
教養教育科目	科目	成科目	英語B I	する記を時し、以とする。	を目指すれる るために、 終了時に 分析する の学習に	授業である。 、TOEIC等の 同一資格試験 。自身の英	英語運用1 資格試験を 験を受験する 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 気分野と不 受業後半で	運用能力を育成かいたかというにからいたかとりがから 毎年、受講開からの場合を特別を持続を特別では毎時間演習問いて学ぶ。	
			英語BⅡ	する別定時し、以とする。	を目指す! るために、 終了時に! 分析する の学習に!	授業である。 TOEIC等の 同一資格試験 。自身の英	英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 気野と不 受業後半で	運用能力を育成 ついたの登講開始 毎年、受講と り、意分時間 得毎時間 は毎時間 は毎間 はが。	
			英語BⅢ	すを時し、以とす。以	を目指する るために、 終了時にこ 分析する の学習に	授業である。 TOEIC等の 同一資格試験 。自身の英	英語運用 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 分野と不 受業後半で	運用能力を育成 ついたの登講開始 毎年、成績をといる り、意分時間 は毎年間 は毎年間 は個名。	
			英語BIV	する測定時し、以受自後し、以後のは、以後のは、以後のは、以後のは、以後のは、以後のは、以後のは、以後のは	を目指す! るために、 終了時に! 分析する の学習に!	授業である。 TOEIC等の 同一資格試 。自身の英	英語運用i 資格試験を 験を受験す 語力の得意 会とする。	能力が身に 活用する。 ることによ 分野と不 受業後半で	運用能力を育成 ついたかどうか 毎年、受護開始 り、成績を比較 り、意分野を特定 は毎時間演習問 と図る。	

	884	<b>ΛΛ</b> 2	授	業 科	要				
禾	. <b>间</b> 和 科目 区分		学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称		講	義等の内容			備考
			英会話 I	students' spea and writing, conversation w students' pron topics will be structures the situations. Th students will become confic structures.  (和訳) 主にスで行う。実際にメことで、より現	aking and lis as well. vill be cover unciation, i e provided an at will help nrough a combe given medent in us ピーキング力では発音・抑揚ディアで取り上実に近い場面	stening sk Natural red with a ntonation of students them in bination caultiple a sing the とリス善きんたでの学習を	ills, with and curron emphasi and fluen s will be a variety of pair and ctivities target グカの巨馬大を材料 できるよう	on improving h some reading ent forms of s on improving cy. Real world given language of real life nd group work, to help them conversational を置いて使用するに上来する。で学生たちが積極	
群教	技法知科目	外国語育成科目	英会話Ⅱ	I left of communication confirmation Specific atte knowledge of con a variety Real world med exchange. Intermodern English opportunities through a variet (和訳)「英会ションスキルを化」という会話トピックにファビ、より現実にメメディで、より現実に	f and con skills in and clarifi intion will colloquial En of popular a ia will be us ractive structor practice ety of commun であることでの仕方さとげのしたがあります。近い場面でのにいいます。	tinue to English. ication c be given given glish and curren sed as a spectures relavided and their le icative ta 注を とまままと文できまれたができまれたができまれたができまれたができまれたができまれたができまれたができまれたができまれたができまれたができまれた。	strength Students conversatio to deve the abilit conversation to conversation to the conversation to conversation to conversation tive to conversation with the conversation with the conversation to conversation to the conver	n strategies. Ploping active ty to interact itional topics. for meaningful ommunicating in will be given the each other るコミュニケー確認」や「明確、の学習と様々な	
			英会話Ⅲ	Conversation I deeper level of particular emp periods of timexposed to variategies that how pause in attaining nature goal of improperiods and structure of the particular of improperiods and structure of the particular of the particular of improperiods and structure of the particular of the partic	I and II, prof natural Enghasis on sus me. To help rious methods at pertain to mid conversal English roving their notiation practation practation practation practation for mid English inciation practation in English inciation practation in English in	widing stuglish comm staining constaining constainin	dents with unication. onversation goal, st taking ar follow up Students their spea fluency. t relate ed on a re えこ会会でである。 (は 音楽 という は できない でも ない は ない は ない は ない は ない は いい	、 主に英語によ とを目指す。そ 話を途切らすと	

	、問約	授業科目の概要 「間総合学群 住空間デザイン学類)								
	科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容 備考						
			英会話IV	(英文) This final course in English conversation will synthesize the practices thus far learned with the goal of making students confident and natural in their English communication styles. Students will work on sustaining fluent, extended conversations about pertinent current events and issues. The differences in casual and more formal types of conversation will be studied. Pragmatics relative to American and British culture will also be examined, with particular emphasis placed on hedging and expressing disagreements. Students will become sensitive to cultural differences amongst native English speakers and how interact appropriately in different international situations.  (和訳) 「英会話I」「英会話II」「英会話II」の学習を踏まえ、自信を持って自然な英語を使えるようになることを目指す。本講義では時事問題を話題にして、より長く英語で話せるようになることに主眼を置く。また、「カジュアル」な会話と「フォーマル」な会話の相違について学習する。英米の文化について考え、自身の考えを主張できるような力をつけさせる。						
人間総合学群 教養教育科目	技法知科目	外国語育成科目	Receptive English I	(英文) This is a specialist English course designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key methods used include paraphrasing and summarizing of key content, story-retelling and listening/reading without translation using accessible materials such as graded readers. Students will learn to use existing knowledge to predict the meaning of unknown vocabulary, while developing topic based English ability. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand basic spoken English without listening repeatedly and to read and understand basic written English.  (和訳) 主に基本的な英語運用能力を習得させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。指導方法としては、重要な文の言い換えや要約、内容を理解して第三者に伝えること、または難易度別英語読本等の学習者用英文資料を訳さずに読む・聞くことを含む。トピックに関する英語知識を増やしながら、学生が未知の語の意味を推測する際、既存知識を活用することを学ぶ。本講義終了時には、基本的な英文であれば一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。						
			Receptive English <b>II</b>	(英文) This is a specialist English course which builds on skills developed in Receptive English I designed to support students in improving their ability to understand English through listening and reading. Key additional methods in this course include listening and reading at a near-native speed, listening/reading note-taking skills, using confirmation checks and clarification requests as a means to increase understanding and identifying elements of spoken and written style as a means to understand the intentions of a speaker or writer. By the end of the course, students will have an enhanced ability to understand more complex spoken English without listening repeatedly and to read and understand more complex written English.  (和訳) 「Receptive English 1」の学習を踏まえ、主に基本的な英語運用能力を向上させることを目的とし、特に「聞く・読む」という英語を理解する能力の育成を目指す。授業の方法としては、メモを取りながら自然な速度のものを聞く・読む、「確認」や「明確化」を活用し理解度を高める、(脱落、連結、同化など音変化などの)口述・記述のスタイル要素を認識し書き手・話し手の意図を理解することを含む。内容のある英文を一度で聞き取り、一回読んだだけで理解できるだけの力が身に付くようになることを目指す。						

			授	業	科	目	Ø	概	要	
()	【間約	総合学	学群 住空間デザイン学類)							
	科目 区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
人間総合学	技	外国	Productive English I	support English. output this classed treshift arcommunic clarific difficul correcte about tyvarious senglish basic En (特に一ない。 特に一ない。 特に一ない。 まで、「本る」、教	students Improving through spans. Key raining for the spans at the s	s in acqng studen peaking an methods or writing aking strate or continuencountercail by the glish sen extended gutences. 語 英い とい 法で ない 大変に がって ない 大変に がって ない 大変に がって ない 大変に がって ない 大変に かい とい 大変に かい とい 大変に かい とい 大変に がって ない ない 大変に がって 特密に いっぱい ない はい ない はい	uiring a tts' abil ad writing introduced and speak: ttegies in rigies such ling conveed. In addite instruct tence form styles. By anced abil lidance and 用能を発言す・たち自	functiona ity to pris a parrian this ing, conversions and as congresations ition to croor, studer actions and y the end ity to usual be confidered to the	se designed to l command of roduce English ticular aim of course include sational topic en and written firmation and when language reative writing nts will learn learn to use of the course, e basic spoken lent in writing とを目指転転紹力し、本、「話技法、典型的、る。	
·群 教養教育科目	以法知科目	四語育成科目	Productive English <b>II</b>	skills support and writt types of conversal letter, journal i matter, phrasing spoken accuracy enhanced extended English	developed students ten Engli ten Engli spoken Engli spo	in Prod in acquir in Studen in Stu	uctive En. ing a func ing a func its will ge uch as speec beate) and aragraph w rriting). k on desc munication t while f the course onfident i らしまう表プことを時間	glish I , tional comulin experie, exch making, written En riting, pp Choosing ariptive arin production occusing of cocusing of x spoken E n productin ま言、書英・手には日撃している。 まなきない アイル	se building on designed to mand of spoken spresentation, in glish (such as rocess writing their subject and explanatory ing a range of a fluency and will have an inglish without g more complex 本す、との経り正確は、英い、予を伝さ、との経り正確は、英に関する。	

			授	業科	目	Ø	概	要	
			学群 住空間デザイン学類)	l				-	
	科目 区分		授業科目の名称		Î	構義等の内容			備考
				course and wi users of Eng student-center an English-or communicative will also te group of peer her ability	ill provide s glish outside ered, interac aly policy. S e activities, each somethin	tudents many e of the c tive, and r tudents wil discussion g practical will leave to be in Englis	opportung lassroom. reflective latake and ns, games, in Engli Geeling mon	nsive three-day ities to become The course is and will have active part in and students sh to a small re confident in tion, make new	
			English Summer Seminar	で相学小英語や言葉を関へて相学小英語や関への文語やまりには切にの文語では、一切の文語では、一切の文語では、一切で、一切で、一切で、一切で、一切で、一切で、一切で、一切で、一切で、一切で	多くの機会をあり、アラスの機会をあり、アラスを動いたったのというになったった。これでは、大きのでは、たきのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、たらのでは、たらのでは、ないでは、たらのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	是供する。。 と は は は は は に に に に に に に に に に に に に	のわがうのとすべい かっかかり かんしょう しょう かんしょう しょう はい かんしょう はい かんしょう はい かんしょう はい かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はい かんしょう かんしょう はいしょう はい かんしょう はいしょう はいりょう はいしょう はい はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はい	で、学生な 学習原的。参加 を 関係で が極つ、とな を 関係の が が を 対の が が が が が が が が が が が が が が が が が が	共同
人				クティビティ	を与え、休暇中	に学生とグル	ノープで会計	舌をする。	
八間総合学群 教養教	技法知科目	外国語育成科目	フランス語 I	ある。まず表 うに練習を重 部分冠詞の使 る。動詞では ぶ。授業では	記と発音の関係 ねる。文法では い分けを理解し avoirとêtre、 コミュニケーシ レイを取り入れ	系を理解し、 は、名詞の性 し、形容詞の および第一群 ションを目的	特徴的な音 と数、不定性数一致が 規則動詞の として意識	ことがテーマとがデーマるようで発言・定発言・定対にまた。できまりできまる日本には、では、では、これによるでは、これによるできません。自己名ができません。	
教育科目		П	フランス語Ⅱ	aller、venir、 を理解して、 名詞・疑問副 まな状況につ る練習を継続	、partir、voi テンポよく活月 詞のある疑問で いて情報交換だ する。また、よ	rなどの活用 用ができること ができるよよ が較級・最上	に見られる うに、対る。 で、CDやま にの表現を をある	れる不規則動コン代表 共通のに、疑さまに、 ではないでは、 ではないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
			フランス語Ⅲ	文や強調構文目的語・間接うにする。さの現在完了形につける。4	など、一定の/ 目的語の仕組み らに、直説法を と比較しながら	ペターンによ みを理解し、 复合過去の仕 っ、フランス 係代名詞の用	る表現を身 代名詞に置 組みと意味 語の時間に  法を学習し	まず、非人称構かにつける。直接されるようという。 東京 はいる はまま ままま はいま 英野 はい 英語 関する 変を使う こく ない ない ない ない ない はい	
			フランス語IV	る。また、フ フランス語ら がら半過去の	ランス語独特の しい表現に磨る	のしくみであ きをかける。 学び、会話で	る代名動詞 さらに複合 用いられる	をさらに拡大す Jの用法を学び、 過去と対比しな 一般的な過去の を奨励する。	

	884	w A 2	授	業	——— 科	目	の	概	要	
	科目 区分		学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
			ドイツ語 I	く・話す ルファベ アクセン 冠詞の格 ら聴き取	・読む・ シトの読 ト・母音 変化、基 り・書き	書く) の習 み方から始 の長短) に 本的文型を 取り、また	得を目指す。 め、ドイツ 親しみ、動 学ぶ。簡単 話す練習を	。このドイ 語の単語の現在人 な日常会話 行う。随時	本的語学力(聴 ツ語 I では、ア 発音(つづり、名詞な化、名詞な化、とない。 を材料にしなが 実施される小テ 検定試験5級に対	
			ドイツ語Ⅱ	ツ語の基 この 事項 を 事 取 り 、	本的語学 ツ語Ⅱで 名詞、話 加しなが また話す	力 (聴く・) は、名詞の 法の助動詞 ら、平易な	話す・読む 複数形、冠記 と未来形、会 会話文の学習 。随時実施	・書く)の 詞類、前置 分離動詞なる される小テ	基礎としたドイ 習得を目指す。 詞、人称たなりで が を いい で い で い で い て る 、 る 、 る た 、 り た の り る り る り る り る り る り る り る り る り る り	
			ドイツ語Ⅲ	ツこ詞る語のとのド副動有はたい。	本的語学 ツ語 W語 で 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の 、 の	力 (聴く・) は、動詞の の格変化、. 文の構造に 習熟するこ	話す・読む 三基本形、i 比いいで で特にで とを とれる いた とれる	<ul><li>・過詞多。</li><li>ストーク</li><li>おいる</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの現り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り</li><li>のの理り<td>基礎としたドイ 留得を目指す。 在完了形、学子 に一般に、 に触きと にを を と は で が で が 、 が で が 、 が り で で の に の れ 、 の り で り で り で り で り で り で り れ い 、 り り り り り い り り り り り る り の り る り の り の り の り の り の</td><td></td></li></ul>	基礎としたドイ 留得を目指す。 在完了形、学子 に一般に、 に触きと にを を と は で が で が 、 が で が 、 が り で で の に の れ 、 の り で り で り で り で り で り で り れ い 、 り り り り り い り り り り り る り の り る り の り の り の り の り の	
人間総合学群	技法知	外国語育	ドイツ語IV	ツ語の基 このドイ 学習する イツ文を	本的語学 ツ語IVで 。聴き取 読解する	力(聴く・ は、zu不定 り・書き取	話す・読む 詞句、受動類 り、話す練習 随時実施され	・書く)の 態、関係代 習と並んで れる小テス	基礎としたドイ 習得を目指す。 名詞、接続法を 平易な日常的ド トによって各人	
教養教育科目	科目	成科目	スペイン語 I	こネに 則話 に 別話 に の アを の の の の の の の の の の の の の	ーマとする ション ション ション ション ション ション ション ション ション ション	る。今期はま 徳き、声に出 名詞、冠詞、 用法などを理 関連語句を	<ul><li>ぎ スペイン</li><li>計 て発 、</li><li> 形 に うま まま まま</li></ul>	語の音、リることに慣ることに関う 記記に 記記で 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述 記述	イス良くつける イイント イント はないのく。 はない、 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	
			スペイン語Ⅱ	本的な力 直説法現 し、場に 様、。CD	をさらに 在を中心 つける。 に応じた を用いた	つけることに に、目的語の 不規則動詞の 会話をペア	をテーマとつ の代名詞、 は種類別に で練習し、 『 習、小テス	する。今期 北較級・最 学習する。 関連語句を	書き・会話の基 は不規則動詞の 上級などを理解 スペイン語 I 同 覚えて、スペイ て行う。 スペイ	
			スペイン語Ⅲ	本的な力称の肯定の場合にある。	をさらに 命令、点 活用形は 則動詞も マに応じ	つけること 過去の規則 現在形の規 多いので時	をテーマとす 動詞・不規 則性があてい 間をかけて アで練習し、	ける。動詞( 則動詞を中 はまらない 学習する。 関連語句	書き・会話の基 は再帰動習する。 心に学習あり、こ 部分ペインで応用力 を覚え。 で行う。	
			スペイン語IV	本去まをし書な現接り関連習	を完に接続できる。に接続のである。	つけること 続法現在と 代名詞を使 イン語Ⅲ同 えて応用力	をテーマとそれを用いった後、テーマとは、そう。簡単を養取り練	する。今中ででは す命方では するかりで では では では では では では では でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	書き・ 会話の基 期は動詞でする は動詞でする を理解し、理解と 話をペメールを 話み、継続して行	

	、問約	公合金	授学群 住空間デザイン学類)	業	科	目	Ø	概	要	
	科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容	:		備考
			中国語 I	と調しの後、形容	旨す。まず。 子、挨い 子、挨て で で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 り て 表 り て え に る る る る る る る た る た る た る た る た る た る	、中国語の 正しく聞き 現の練習を 、時間、年	)ピンイン 取り、かつ 通じて中国 の表現や 文、諾否疑	表記法を学 つ正しく発  語の発音に 数量表現を  問文などの	を身に着けるこ が、中国語の声 音できるように 慣れてい が 学び、動詞述語 学び法事項を学習	
		外国語育	中国語Ⅱ	高変択と内基でを関った深型	くことを さまな とまま とまま とまま できまる こうない こうない こうない こうない こうない こうない こうない こうない	目指す。中に間は、共産のでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、いいの	国語におけ 学通じ、疑で を で が で で で る に る に る に る に る に る に る に る に る	る完了・経 詞疑問文、 着させ重な 詞の語彙を 。同時に身	の基本的な力を 験・未来おける 反復また、 を経験である。 では、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の	
		成科目	中国語Ⅲ	く・聞く える 中国 を学ぶ。際文型や	<ul><li>話す」</li><li>語すのの</li><li>願望や依</li><li>練習を通っ</li><li>まざま</li></ul>	の力をつけ ベルアップ 頼、感謝や じて定着さ	、コミュニ を目標など 謝罪ないく。 法も学び、	ケーション 様々な場面 表現や関連 豊かな言語 やや難易度	的な「読む・書。 の手段として使 に合わを覚え、 におりを覚え、 事表現のために呼 の高い文章を正	
人間総合学群	技法知		中国語IV	目指す。 書や資料 され学び とも学び	日中を取る おおい は は は で は で で で で で で で で で で で で で で	り巻く社会 かに教材と 用する。ま 子メールで	への関心と して新聞を た情報をり 身近な事柄	理解を深め インターネ 集するため で使用され について口	力を養うことを科うこと教科、 るために、記を見いい。 をめたりので表事していいで表現でいる。 はない。 はないないである。	
教養教育科目			コンピュータ演習 I	ことをビジャに表、作業を図	的とする。 ネスの現 通信技術 進めて計算 、表計算	。具体的に 場において: (ICT) を使 く。本授業	は、諸々の 基礎的なすな いこなすた では、文書 を必要とす	検定を指標書処理がで さめの知識と 作成、レイ	理の基礎を学ぶ としたレベル設 きる程演習を中、 実技) 作成、書 ビジネス文書作	
		情報力育	コンピュータ演習Ⅱ	ジネスの つ、さら Office S 情報処理 う。併せ	現場にお っに発展 pecialist 能力を身	いて基礎的 させること :」に沿って につけるこ ゼンテーシ	な文書処理 にある。 ビジネスの とを目標に	が行える程 具体的には )現場で応用 、さらに実	けたスキル(ビ 度)を確認しつ は、「Microsoft 引できる基本的な 践的な演習を行 信能力を高める	
		成科目	コンピュータ演習Ⅲ	伴い私た 発信・分 う い く い く い く い く に く い く に 、 に 、 に 、 と い く に く に く と に く と に く と に と に と に と に と	ちの扱う (有する機 (なってき) (なってき	情報も飛る 情報を選本を を またり またり またり またり またり またります。	的に広がっ り、情報を 、魅力的に では、イン	てきた。と 処理するこ 表現するこ ターネット	まじく、それにりとけい、情報をととまった。までいた。までいた。までいたので、まないた多を利活用するた	
			コンピュータ演習 <b>IV</b>	を確認し 表現で表現 の機材を	つつ、なっと 力を身を 使い、よ	らに発展さ ている写真 つけること り実践的な	せることに 表現や映像 を目標に、 実習を行う。	ある。具体 表現、アニ デジタル 1 , 併せて、N	けたウェブ表現 的には、ウェブ表現 メーション等 眼レフカメラ等 MOSエキスパート 視野に入れる。	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
,	<b>、間総合</b> 科目 区分	学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		日本語AI	ることを発力は制度を表する。	を目的とす ための口頭	る。特に講 表現能力を の語彙・文 や副詞、接	義を聞くた 養うことに 型詞や いい かい でい でい でい で た り に な り に な り に り に り に り に り に り に り に	めの聴解力 重点を置く け、表現力 等について こと、人前	語能力を修得す	留学生対象
		日本語B I	る。書くさるでも間をいる。	本的には は とは、 とは、 提 り とは も き は り は り は り は り は り は り は り は り は り は	身近な題材 るともの を語題に を含んだ練	についないないないないないないないないないないないでででいるというできるいできるいできるいできるといいます。	章を書くこを書くこを 連習、文章 また日本に ともに、 ともに、	こと書 目って とにけるを基本 を とにはる を まる 基本 を とに を とに を とに を と に と に と に る と を と と と と と と と と と と と と と と と と き き き き き き き き き き き き き き き き う ら う ら	留学生対象
		日本語AII	る発能具られる発制を表表が	を目的とす こめの口が	る。特に講を 表現語彙・文 をする。 をする。 をする。 はなする。 はなする。 はなりで話する。	義を聞くた 養うことに 型を身につ こったり、 し きやすくわ	めの聴解力 重点を置く け、表現力 関用を現を かりやすい	語能力を修得すする。 し、同時にを図る。 の向上を図る。 使でで話せるがより を音で話せる表現	留学生対象
人間総合学群	特設科目	日本語BⅡ	る。 具体 また また を に を に を に に に に に に に に に に に に に	本的には、 こよやにはて りつけい おいました おいました ないない かいました ないない ないない ないない ないない ないない ないない ないない ない	新聞記事を 本語能力を トの書き方 いて指摘さ	読み、社会 深めての文 での で の の の り の り の り の り の り の り の り の	的な題材に 。授業は、 作成を基本 を自らしたり 作成したり	ことを目的とす こついて文書で 文法での練習、文 ことして文書で、文 ことして、として、として、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 ことして、 にはいるに、 には、 にはい。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本語AⅢ	ることで、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、ことでは、こ	を目的とすと 聴解の観し 日本を通しと とるとと	る。特に日 口頭表現能 地や日本人 、語彙を増	本人学生の 力を伸ばす の生活習慣 やし、話の ュースに親	中でも臆せるとにない。 などにのいい。 というではいいい。 というでは、 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はい	語能力を修得すさまで、 でできまりできまりできまりできる。 ででは、 ででは、 できるでは、 できるできるできるない。 できるない、 できるない。 できるなな。 できるなな。 できるななな。 できるななななな。 できなななな。 できななな。 できなな。	留学生対象
		日本語BⅢ	る。具作る、一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では、一次では一次では、一次では一次では、一次では一次では、一次では一次では、一次では、	本的には、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	- 格助詞の は および を お い を あ い を ま た と た こ た う に う に う に う に う に う に う に う に う に う	Eい方や語句 Rテストに ストルポート によって、 特に、受け	可の使い方 取り組んだ を書いたり 文法や語彙 身や使役と	こをりずない という こと修 与するられたト という は関ったれた ト この して 態の した ま 現 な ど に 関 な ど に し 表 現 な ど に し 表 現 な ど に し 表 現 な ど に し 表 現 な ど に し ま れ い ま れ い た か に し か い た か に し か い か い か い か い か い か い か い か い か い か	留学生対象
		日本語AIV	る思す読でもにいる。	を目のとすりとします。 本の少子にはいる。 と手手にはいる。 を増える。 を増える。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見る。 を見	る。パネル 、ディベー 問題 てスピー 、話の内容	デト学社に、カ通会とは、しいのでは、これでは、しいのでは、しいのでは、しいのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ション、ク て日本語能 ど ト に き し い で き に き え こ る こ り る り る り こ り こ り こ り こ う こ ろ こ る ろ こ る ろ る ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ ろ	語フをいること 語フをさいて資料を でのこことである。 はいるである。 はいるでもの。 はいるである。 はいるである。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいるでもの。 はいる。	留学生対象
		日本語BIV	る。具体増大のでは、 は方では ためでは で成を追	本となります。	新聞記事を おまざん、 告に 日本 おいる おいる おいる おいる おいる おいる おいる おいる おいる おいる	読み、語句 文との問題 えていは自 を がある。 記力を高め	を調べるこれで に取り を に を に を に を に を と を 関 と を り と り と り と り と り と り と り と り と り と	ことでまたのを生まれた。。 とでまたのを単語 引ママ論文をいた。 自るといい論文をはすす。能力を身にはなる。	留学生対象

( )	即纵入	授	業	科	目	Ø	概	要	
7	<b>                 </b>	学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			善	養等の内容			備考
		日本事情 I	に関する が理いで に関せいの に で で で で で で で の の の の の の の の の の の	基礎的な知识 に行くこと 通、施設、 概説する。	田識を修得 こ」「食べ 食事情な パソコン	することを る」ことな ど、日本で 上のウェブ	目的とする どを出発点 生活するた 情報などを	学ぶことで、日本 5。具体的には、 気として、日本の とめに必要な情報 と活用し、実際に 日本に関する情	留学生対象
人間総合学群	特設科目	日本事情Ⅱ	な知識を統不なといるといった。	修得する、 工芸をはし の伝統的な 活用し、 に 伝統芸能	ことを目的 じめとする は側面につい 実際に日本の	とする。 日本の文化 いて概説す の年中行事 などについ	具体的には 的な側面や る。パソコ や祭りや聞 いて調べ、	はに関する基礎的 は、年中行事、芸 に、年中行事、 日 に、年中行事、 日 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	留学生対象
教養教育科目	(留学生)	日本事情Ⅲ	できな計でを統一でもいいできる計学のです。	本語力を修 料をもとで、 また、日々 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	を得するこ。 こ、日本の 関連する: 本のゴミ問	とを目的と 国土、気候 ニュースや 題やリサイ は問題につ	する。具体 、政治、経 テレビ番組 イクル、交	届広い話題に対応 体的には、グラフ 経済、社会等に 租の映像なども視 圧通インフラ、物 ンたうえで、具体	
		日本事情IV	でや協力を設める計ないでも、おります。	本語力を修料をいるにいる。一問題等、	<ul><li>修得すること</li><li>に、日本の</li><li>が、関連</li><li>ゴミ問題</li></ul>	とを目的と 農林水産業 するニュイク 短について	する。 具体 、工業 レ スや、交通 ル、 自国と は	■広い話題に対応 本的には、グラフ 新業、貿易や国際 ご番組の映像など ご番つラ、物価、 比較することによ ける。	
人間総	]	住空間デザインの基礎 I	体デのしたが、学ン空らに、	習の方法をに取り組みに取り組みに取り組みに表してという。 ままること	と体得する。 み、多彩な どの共同作 美を潤滑に	地域協 関 表現 を 現 を 力 と 力 と 力 と う こ と た な と た な た く と た る と く と た る と と と と る と と と と と と と と と と と と	の一環とし 得する。す て、ディ う。自分の について、	をテーマに、主 して、ポスターの また、りんどう祭 たいの基礎現 インの基を実践 う 課題をとおして	
総合学群 住空間テザ	基本	住空間デザインの基礎Ⅱ	体がが大のをとのでは、一体がでは、一体がでは、一体では、一体では、一体では、一体では、一体では、一体では、一体では、一体	習に業行するとなる。	体得する。 ・	地域 り 地域 り り り り し 大 の し 大 の に 、 ま に の に に の に に に に に に に に に に に に に	の得を見とする で り し は り し い し い に り し 、 WE に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	をテーマに、主 って、ポスターのと た、学科PRなど ながら、伝達すると といながら、 とびながら、 B、紙媒体などの ける。	
ッイン学類 専門教育	科目	平面と立体表現の基礎	し、三次と一と大きれる一人をおいる一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一次の一	元によるまた にとに、三 に、三 に 題を通じて 思考する	長現技法の )、三次元 次元として で空間構成	基礎を学ぶ で空間を認 の建築空間 や三次元的 多様な手続	。連続する 識する習慣 を二次元で 空間認識 去で表現す	空間について理解 5建築空間の構成 責を身につける。 で表現する技法を うと高め、空間を 一る力を養う。ま	共同
彩目	ŀ	製図の基礎	的面のたる は最み 建み を 習得す	。企画・計 重要な表現を学び、図 図面のトレ る。図面が	十画・設計 見手段の1 図面から空 レース作業	・施工の一 っでを正のり、間を正して を正して、 を正して理	連の設計活 伝達手段で 把握な図 正確なと同 解すると同	所を学ぶことを目 舌動において、図面 である。建築図面 5ようにする。基 面表現技術の基礎 間で、図面の種 る。	共同

/ ! ==	en e	授	業	<u></u>	目	Ø	概	要	
( <b>人間</b> : 科目 区分	1	学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		図学と透視画の基礎	ぶ。特に、 法)による の検証やプロ を習得する。	建築・イ 内 料 料 料 が 対 で 関 で で が で が で が が が が が が が が が が が が	ンテリア 観の空間 ーション 示す空間 法を身に	・造形に 表現を中心 に使用する や立体を正 つける。さ	2要な透視に要な透視に進める。 にパースとして とく理解し とに、空間 となるでも	何学に沿って学図法(パース/ 図法(パース/ また、デ表現技術、 まを着色や立体を の空間に相応し か立体に相応し かにつける。	共同
		建築・インテリアデザイン入門	て学ぶ。日本建築計画の つけ、イン 寸法計画、	本の近代 手法リアを 動いま かりまの を を で が が が が が と で が り の と り り り り り り り り り り り り り り り り り	・現代に 得する。 計画手法 、環境計 礎につい	おける住宅 また、身で にのい は での な 理解を	作品を題材 な空間のス 習得する。 画など、空 深めること	間をデザインす により、建築や	共同
人間総合学群 住空間デザイン学類	基本科目	プロダクトデザイン入門	ングジジン フロとを ででである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	クトにとす クト標とす ス	ける3種類 る。3グル 全15回) 『) でして でして でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいでいて でいて	の自然素材 シープに分り 行う。素材 けや窯詰めま を行う。織 び、織造形	を使い、デナ、それぞれ である土を で経験する の基本的な の入口とす	要素である素材	オムニバス方式
専門教育科目		設計製図 I	の基礎を習行 を行い、詳 る。敷地分析 まで、建物の	导する。 細な素を 折からーク アリアの	また、小 けや造作に 例研究、 ルなデザ 図面作成	店舗部分にこついての気 建築計画、 インスキル 方法やプレ	ついてはイ 知識や計画 建築設計、 を習得する ゼンテーシ	より、建築設計 シテリアを身について 手法シテリア計で インとを手法なども にコンションを できる。	共同
		設計製図Ⅱ	習得する。 <sup>立</sup> えた建物の記 建築計画、発 で、建物の	平面・断計 計事を設ける かまない。 からない。 うる。 からない。 うるない。 うるない。 もっと。 うるない。 もっと。 うるない。 もっと。 うるない。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと。 もっと	面計画や! 計スキル 、インテ なデザイ 面作成方	動線計画、 を習得する リア計画、 シスキルを 法やプレゼ	インテリア 。敷地分析 ランドスケ 習得するこ ンテーショ	築設計の技術をま 計画などを踏究、 計画の事ががイナープで とを手法なども 習	共同
			している。特別では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	央適な生 で理知 かる解 かた かた が が が が が が が で で で で の た の た で う た う た う た う た う た く う た う た う た う た う	活を送るは、習な生活を選集化る。	ためにはにないためにになったといるににはにているというというというというというというというというというというというというというと	ライスタ けるタースタル と間 関係性に 関係性に	は非常に多様化の生活によれていた。 は非常に全体ではない。生活ではないと住空と間ではないではです。 はいではないではないではない。 理解ではるのき目標の2点を到する。	

(人間紅	<b>総合</b> :	授 学群 住空間デザイン学類)	業	科	目	Ø	概	要	
科目区分		授業科目の名称			클 라	構義等の内容			備考
		住空間とインテリアプロダクト	能してイログアイは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	る。この テリアプ クトの数 間で、環境	授業では、 ロダクトと マを通し 一ディネー 性、経済性	様々なイン 住空間の関 て、造形、素 -トスキルを	テリアプロ 係を学んで 唇材、機能 高めること 社会性など	:を目標とする。 :の要素を考慮し	
		福祉住環境デザイン	高齢者やる 習得基技術 を行う。	障害者に こと いる 高齢 期 東京商工	とって住み とって とする まる と で き で き で き で き で き で き で き で き き き き	やすい住環: たその背景 。具体的に 、福祉のま	境を整備す にある社会 は、 は で は で は の は の は の は の は の は の は い り の に り の り の り の り の り の り の り の り に り の り の	1識を身につけ、 - るための手法を *制度などについ の整備のたと ・ でについて講義 - ディネーター検	
人間似		環境デザイン	を理解す 「地球環 適性を追 ぶ。建築	るため、 境」の基礎 求する「2 をとりませ 社会、持続	地球の生態 礎知識を辟 生活環境」 く環境を様 続可能な社	系保全(エ Sまえ、住宅 に重点を置 をな側面か	コロジー) や建築物に いた「環境 ら捉えて理	ドロップメント) について考える だける人間の快 だけイン」を学 呼し、これから 画できるよう、	
総合学群 住空間デザ	基本	色彩デザイン	形要素とるのした。	しての色 豊かな色 イメージ 配色カー 文部科学	彩の本質を 彩表現のあ 、象徴、流 ドによる調	心理学的側 り方を考え で行を文化的 関準に成を通 いまななである。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	面から理解 る。理論の 背景や調査 して基本的	学を与えるか、造 はし、人や環境と と習得に加え、色 データから理解 はの習得は は、重要事項の解	
ッイン学類 専門教育	科目	CAD I	一般的と Computer 「Vector 「VectorV 慣れる。	なってレ Aided D Works」 Works」の さらに、	ヽるコンヒ Oesign) 技 (エーア 基本的な技 「VectorWo	『ュータによ 支術の基礎 ンドエー株 操作を学び、 rks」による	てる作図( を学ぶ。 :式会社) 基本図形な 二次元作図	マンなどの分野で (CAD: キャド、 CAD ソフトは を使用する。 よどの作図操作に 図の基礎的な機能 技術を身につけ	
		CAD II	一般的と Computer (エーア や商業施 習得する。	なってい Aided De ンドエー 設などの 。 テえられ	Nるコンヒ esign) 技 株式会かい 建築物示 を ま た 課題に た	゚゚ュータによ 術を学ぶ。( を用いて、: ・デリングや ゙゚゚゚゙゙りのモデリ	こる作図( CADソフト 3Dの基本操 プレゼンテ ングができ	ンなどの分野で (CAD: キャド、 「VectorWorks」 負作を学び、住宅 ーション技術を るようになると ノグができるよう	
		CAD <b>II</b> I	一般的と Computer (エーア データを を用いて	なってV Aided De ンドエー CGにする 、建築や	いるコンヒ esign) 技 株式会社) ための技能 インテリア	゜ュータに↓ 術を学ぶ。( を用いて、 を習得する。	こる作図( CADソフト 3Dの操作 さらに、 ゼンテーシ	ンなどの分野で (CAD: キャド、 「VectorWorks」 を学び、三次元 「VectorWorks」 ョン資料をまと	
		プレゼンテーション技法	アンドる。 「テーション アンドる。 アンション アンテンター	ー株式会「Vector' トレータ ン技術を 、グラフ	社)を用レ Works」だ 一」や「フ 習得する。 イックソフ	rて2Dや3Dのけでなく、ジャトショッ「VectorWor	作図におけ グラフィッ プ」などを ·ks」の技能 することに	orWorks」(エー ける応用技術を習 クソフトである 用いたプレゼン に加え、手書き より、建築やイ 指す。	

(人問名	公全	授 授 学群 住空間デザイン学類)	業	科	目	Ø	概	要	
科目区分		授業科目の名称			誰言	長等の内容			備考
	基本	学外実習	社会性を ののの のの して の の の の の の の の の の の の の の の	養う。 事 え き き き 身の ・ に 験かと も り と も り に も り に も り に も り に も り に も し に も し に も し に も に も し に も に し に に し に し に し に し に に し に に に に に に に に に に に に に	前学習では、 そのうえで 生き方が社 つめ直し、 <sup>2</sup> たな学習意欲	学外実習 企業にお 会でどのよ 後の進路 でを喚起し	の目的を明 もかに い き い き に い に に 性 に と れ に き れ に き れ に に に に た は に た れ に た れ に れ た れ に れ に れ に れ に れ に れ	とおして、その 用確にし、実習へ を校での分かを、実習を されるかを、実 されるかを、実 されるまたで さい。またで またで でいるがで、またで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがでがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでがで でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがでが でいるがで でいるがで でいるがで でいるがでがで でいるがで でいるがで でいるがでがで でいるがで でいるがでがでが でいるがでがでがで でいるがでがでがでがで でいるがでがでがでがで でいるがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでが	共同
	科目	フィールドワーク	トによる 体験 調 関 当 期 の 下 判 断 の 下	現代建築が感する事に 研究する いての事に に行動し、	などを見学し こより、地力 る事を目的と 前調査を実施	、芸術、 における する。 する。 な収集・	工芸、食文 衣・食・住 前にいい が が で で で で で が で が で が で り で り で り で り	はなびアーティス に化などを実際に の生活文化に、見 計画を立て、見 リークでは適切な フィールド調査	共同
人間総		インテリアデザイン I	類と特別イマオのでは、	がある。記 アデザイン 、設計条件 食店におり シテリア	果題を通して ンの設計プロ 牛を踏まえた けるインテリ の目的に合	、用途や セスを習 がら、飲 ア設計の う適切な引	条件をふま 得する。 食店舗の機 基本知識な 手法で、空	でのさまな種のまた飲食店舗できた飲食店舗でまたのででは、 とこれではいまでは、 といれででである。 といれていまでは、 はいれています。 ではいれています。 ではいれています。 ではいますが、 ではいまが、 にはいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 にはいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 ではいまが、 にはいまが、 ではいまが、 ではいまが、 にはいまがはいまが、 にはいまがはいまがはが、 にはいまがはがながはがながはがながはがながはがながながながはがながながながながながなが	共同
総合学群 住空間デザ		インテリアデザインⅡ	バるシ旨を正した	販、式典、 を通イン く理解し、 うえで、	会合など、 ホテルの式 の企画提案と 設計条件を	さまざま :地条件や: 設計プロ :踏まえ、 :分を含め	な用途施設 客層をふま セスを習得 を消室など たホテルに	、レストラン、 との複合空間でなイ とえた具体的題の表する。 はの機能やが がしている。 ではけるインテリー ではける。	共同
9イン学類 専門教育	インテリアデザ	インテリアデザイン論	る。の様。テタるンらの、かまあのア識	テリア空間 、要ない。 、の容がない。 でいるでがまえる。 でいるではまえる。	間をデザイン どの知識が必 か授と かて各自がに と考える上で	するで 要問意 要問 題 要 関題 要 関題 要 関題 要 関 記 要 関 記 を の れ る で り の り る り る り る り る り る り る り る り る り る	には、さま 。要末と有り えち、研究 た幅広く	ための授業でありを対している。そのでは、できまでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、では、でいる。それでは、でいる。これでは、でいる。これでは、でいる。これでは、でいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	
科目	ッイン関連科目	インテリアデザイン計画A	一、光を通いた。	音・香り む、情景 て、また、 タリー・乳	・映像・会請 /シーン」と テリアの材質 エントラン	、そして して考察 感やスケンス・リビン 部屋など	朝・昼・明 する。住宅 ール感覚な ノグ・ダイ 、住空間に	: らえるだけでな といった時間の Eの実測や空間体 : どを理解し、身 ニング・キッチ よけるインテリ とする。	
		インテリアデザイン計画B	光「情とのは、「よいなない。」というというという。	香り・映り シーコ法を目り 方とセプト」	象・会話そし として考察する アト」といい アーンと で アーン で アーショー アクラー アクラー	て朝昼時である。マースの対している。マースの対しているがいた。これではいる。これではいる。これではいる。これではいる。これでは、これではいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	といった問い いイン に定ずで空間でいる で で で で で で で で で で で で の で し で の で し で し	るだけでなる。 時間のザインのなき的 ア重要してを通してを を通し、を を通り、を を明ととを は、 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。	
		インテリアデザイン計画C	イ光・情のンイも上でいる。	香り・映像シーン」 マールドる マールドる マーカー はまり はまり はまり はまり はまり はまり かい こう かい はい	象・会話そし としの事のを その事かを との事かの と との中の と との と との と と の ま の ま の に り の に り の に り の に り る に り る に り る に り る に り る に る ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	て朝昼時について朝昼時についた。これではいいというできます。これではいいできます。これではいいできます。これではいいでは、これではいいできます。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできません。これではいいできない。これではいいできない。これではいいできないできない。これではいいできないできない。これではいいできないでは、これではいいできないできないできない。これではいいできないできないでは、これではいいできないでは、これではいいできないでは、これではいいできないでは、これではいいではいいでは、これではいいではいいでは、これではいいでは、これではいいではいいではいいでは、これではいいでは、これではいいではいいでは、これではいいではいいでは、これではいいでは、これではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではい	といった時 に多ンゼン といがなイン とでなる したでした とって とって とって とって とって とって とって とって とって とって	るだけでなく、 計で経過でが がをきずイクスペース重要である。 からいるではですができます。 からいるではできます。 がはいるでは、 がはいるでは、 がはいるでは、 がはいるでは、 がはいるでは、 はいるでは、	

(人問經	全会(	授群 住空間デザイン学類)	業	科	目	の	概	要	
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		家具デザイン I	となる木 工方。また の描き 式会社)	材につい どについ 、デザイ について を使いな	て「加工材 て学ぶ。基本 ンし、制作 、CADソフト	料学」と連 的な木材の するために 、「VectorW さらに家具	動しながら 特徴を理解 必要となる orks」(エ	の、主要な材料 素材の特性や加 付ることを目指 基本的な家具図 ーアンドエー県を り方や手工具を	共同
		家具デザインⅡ	す」 しい した とる を 検証	いて考え わるかか 素材の特 のかる。 問 ーション	る。生活の ち」とはど 性を理解して 題の発見か	道具として んながら 実際に シイメージ	本当に座り のかる」という 制作してみ の展開、そ	ためすない はい 美合 はい が きょく をからない できる かっと かっと かっと しょう るこ て 具 る プロ けん かい はい かい	共同
人間総		家具デザインⅢ	もののデ り り に 明 で の 方 と の た の た の た の た の た の た の た の た の た の	ザインを インさり せ が が が が れ く が げ に が に た が に た が に た に た に た る た に た る た る た る た り に た ら た ら た ら た ら た ら と ら と ら と ら と ら と ら	考えること しが環定さい かま考える。 り制作する	に重点を置 生み出せる れ、各自がそ デザインを	き、家具が かどうなまれ 件を はただ そこ そこ そこ そこ そこ そこ そこ そこ そこ そこ そこ そこ そこ	わりを放った 地域ではない を がなりる。 はない はない はない はない はない はない はない はない はない はない	
合学群 住空間デ	インテリアデザ	家具デザイン研究	ロはる成をしている。	ついて理り プロダク にあふれる。それ ている現	解し、専門 トデザイン る多くの「 らの「もの	性を生かし やユニがの ののあが 学びながら	た制作に結 サルデザイ わたしたち が地球環境 、これから	ついて学ぶ。 プ びつける。後半 ンについ環境を の生活環境を影響 にも大続可能な社	
イン学類	ッイン関連科目	陶芸デザイン I	現そ活さンて	<ul><li>修練を</li><li>けをない</li><li>ない</li><li>収る</li><li>資料</li></ul>	目的とする。 し制作する。 をデザイン 性、食べ物 飯碗にはど	。 日常生活 。 弁柄・現 くする 時の と な り と な も の に した した した が した が した が した が した が が が が り の り の も の も の も の も の も の も の も の も の	で最もよく 須で最も 経付 要素い の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	知使ける 一般を 一般を 一般を 一般を 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で 一般で	共同
科目		陶芸デザインⅡ	板丸態るめ 接り少花器 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	を用いて 、型に押 し乾かす や苔、ド をデザイ	器物を考え しつはてを と、板とし ライフラワーン制作する 成形技法の	る。2~10mm 形させるこ て張り合ね ーまで植物の 。好きな場	nのタタラは とが出来る っせて形を の中から1つ 所を選び、	。タタラ (粘土 、柔らかいうかに 、変形しないでることがでることがでることができない、 を選び、そのたいい空間設定を いいで調和する器	共同
		陶芸デザインⅢ	する。 を要を を を で を で で で で に で い た で た し た り た り た り た り た り た り た り た り た り	用頻度の 飲み方する。 ランス考 地に品をデ	高いコーヒ 茶悪の種類 。 あと同時 といると研究 とので、	ーや紅茶を 、サイオカス でいる。空間 でいる。空間	飲む器・カ素材、またプと取った プと取った さ、洗い易 や飲みたい	るコピーター としているのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	共同
		陶芸デザイン研究	事を目がいた。	的とする。 びねりと インとの いてのデ 生産(反	。また、石 は異なる、 関わりを研 ザインを研 復生産)の	膏型を使っ 独自の大会 変する。 でイテムが	た形成形を 生産(反れ を製タイル を型を用い どの様に製	る視野を広く持 用いて、やプログリ 生産)や大形成るの認 でが形成るの認 できされるを確認 できるである。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	

(人間紅	総合章	授 接群 住空間デザイン学類)	業	科	目	Ø	概	要	
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		立体織デザイン I	具体的に異なる事で	には、 は、 は、 は、 は、 は、 はる。 は を は る が イン る と る と る と る よ く 、 に る ら く た く だ 、 だ 、 だ 、 だ 、 だ 、 だ 、 だ 、 だ 、 だ 、 だ	れ織」によ 「つづれ織 糸でカバー 糸整経とそ 造、技術の	る制作実習」とはいい しながられる の仕組み 基礎知識を	を行い、タ絵に従って横込いて理解	ン計画を行う。 ペストリーをぞに 経(ためいする。 様をらわする。 まる。 テキスタ 。 は様と はなる。 はな。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はな。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はな。 はな。 はな。 はな。 はな。 はな。 はな。 はな	
		立体織デザインⅡ	て実裂をてせることである。	考察する。 「裂き織り」 のととにより 。 織機やフ	物を生み。 をもう。 とこ、現代構の ただがイン	だすための 「裂き織り した(生かし) その仕組	コンセプト 」とは、伝 ある。 伝承させて みについて	ンワークを 通し を 制化 の代わりに 工芸に方法に 方法に 理解する。 で る「裂き織り」	
人間※		立体織デザインⅢ	けるテキ 感にテキ り、 を選択 制作する	テスタイル」 いて考察し、 テスタイルに そしながら ラキスタ	をテーマ   制作実習   こかセプト   イルデザイ	にコンセプ を行う。様 解を深める を立案し、	トを立案し 々な素材を 。	<ul><li>に (本 (本 (本 (本 (本 (本))</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li><li>(本)</li></ul>	
総合学群 住空間デザ	インテリアデザ	加工・材料学	領域にま インは、 ここ ここ る。ままた	たがる重要 今や環境同 り授業では ずザインので こ、講義、	要な要素で 問題な素抜 引近性を素が がザイン演	ある。また にしては考 を切り口に ーマに、環	、全てのも えられない して、 題問題 という	ダクトの全ての のづくりやデザ 時代になってい 特性や加工技術・ めながと習業や 体験型の授業や まに付ける。	
ッイン学類 専門教育	ッイン関連科目	芸術論	術を を見った。 を りた。 も が も が も が も が も が も た り た り た り た り た り た り も り も た り も た り も り も	背景となる なおす。 ドスケープ 景を照合る 意味を考え	る世界とのここの世界といる世界とはできまる。 させて、芸術である。芸術	関係を探り 欧の各時代 賞し、それ していく。 全般につい	ながら、その特徴的な いののを ないない ないない ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 といい。 でいい。 といい。 といい。 といい。 といい。 といい。 とい	会の真のというでは、芸性のというでは、はいいのでは、またので	
科目		工芸デザイン論	現在の生産を発生した。	E活・芸術の ら。社会・ はらし合われて検討する。 って、これの	<ul><li>こ直結する</li><li>文化・超差</li><li>せ、 工芸</li><li>さ。</li><li>ひの工芸</li><li>からの工芸</li></ul>	近代以降の の動向とエ くりによる 論とその実	工芸理論と 芸デザイト これ動を考 可能性や伝	角的に考察し、 その実践活動を との関連性・ 課題や真の豊か えること 統との向き合い	
		空間演出A	示れる。・理を発生を	t、その空間 いの」や「f が は 対 が が が が は な を す る が に く れ に く れ く に く に く さ く さ く さ う さ た う た う た う た う た う た ま き ま う だ う だ う だ う だ う だ う ぎ う ぎ う ぎ う ぎ う ぎ	間のデザイ! 作品」をよ ギャラリー ンテリア設 能力、企画	ンや演出自( り良く見せ -」を提案で 計をおこな アイデアを	本が表現でる るための背 ける想定と う。 対象 具体的なイ	インの展示や展 あり、まと展示さま し、また置いのでは し、またでものでいる。 は、またでは、またでは、 は、またでは、またでは、 またでは、 またでもでは、 またでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでも	共同
		空間演出B	て研究し をデザイ 周囲コンへ 柔軟な発 ルの中で	理解した」ではまる関係では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	とで、デザイン とテーマとする そを考れている と と と と と と と と と と き き と と き き と と り と り	イン的にも美 する。ショッ る。ショップ ンジする。 記 るインテリア	をして、機能 いプ立地も名 パデザインを と 定 発 に で で で で で で で で で で が り で が り と で が り で り で り で り た り で り た り た り た り る る る る る る る る る る る る る	要求機能につい 性的なショップ S自で設定し、 E課題とした学 Pない課題での ERのよれたパネ S表現手法のス	共同

(人間紅	総合章	授 学群 住空間デザイン学類)	業	———	目	Ø	概	要	
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
	インテリアデザ	インテリアの知識と技術 I	ナー、イン で間の ない知識 特に、イ	ンテリア 空間に関 ンテリア とインテ ンテリア	コーディネ わる基本知 をデザイン リア計画技 コーディネ	ーターなど 識と技術へい するためにこ 術の内容に	を目指す際 の総合的理 不いて理解 ンテリアブ	ンテリアプラン ドに必要となる。住 解を深める。住 るま習得する。 ランナー、建築	
	ッイン関連科目	インテリアの知識と技術Ⅱ	ナテし基しンナテリをある。	ンテリア 間に空間 の幅広い する。問 コーディ	コーディネ る知識と カインテリン 知識習によ	ーター等を 術について、 アをデザイン アナ計画 マ学習を重さ インテリア	目指す際に 実践的な ンするため 「技術の内 ねることに	ンテリンク アプライン 必問題不可にな習をとな理をなるとと理解でいて、 特になり、 禁士などの は、 から	
人間公		建築デザイン I	住宅のまされる。ましています。またのまましています。	画及び設 で を 住戸の と 築単体の 重 と 期課題 セスを リヤスを リヤスを リヤスを	計を行う。 関係の方を あ性をうを を を がに 関係を が が が が が が が と が に が に が に が が が に が に	そのテーマ 住戸と外部: ではなく外 。また、外 期課題を通	は住居の内保 空間の関係 部空間を でででで でで で で で で で で で で で で で で で で で	、小規模な集合は が変見えることに を考えのつながり えるトレーニンま シテーショセス と作業プロセス	共同
総合学群 住空間デザ		建築デザインⅡ	にす展案たうのは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	み、より がいまれて、リンない がいない。 はいないではない。 はいないでは、 はいないとは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないとは、 はいないでは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 はいないとは、 は、 はいとは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 は、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	高度な提案 建築デザイ 環境のける考え に空間を考え 題内容をコ	をプレゼン ン【」で設 、複合的な 築物の今日 なトレーニ	アーショ規 学したもうといいもかといい がないないがい だいがい だいがい だいがい だいがい だいがい だいがい	雑な建築的課題 地スキルを目を を基準を目標を を基準を を基準を を基準を を基準を で短期を で短知ンセプトを とない。 でを でを でを でを でを でを でを でを でを でを	共同
ッイン学類 専門教育	建築デザイ	建築デザイン論	は何かを 件の関係 代住を習得 ちの作品	考えて行 や、住空 楽の基礎 し、20世 とその歴	く。具体的 間及び建築 を築いた建 紀 い に が に が に が に が に が に が に が に が に が に	には平面計 空間に対す 築家の代表 み建築を切 学ぶ。以上	画と様々な る考えに対 り開いた近 の事を踏ま	築外的いる。 学がいる 学のは 学のは 学のは 学のは 学のは 学のは 学のは 学のは	
科目	ン関連科目	建築計画A	を過さい法画とというというというというというというというというというというというというという	「住宅」。われる「他し、建築に関・パブ	。建築設計 住宅設計」 設計の基礎 リック空間 ととして、	の基本であ を題材に、 を学ぶ。敷 ・プライベ	りながら、 建築計画に 地環境の分 ルデザイン	中で多くの時間し 一方で深く難や方 必要な知動線計 析から、収納計 計画、収 も考え と広げる。	
		建築計画B	設計に関 集合住な の居場者福	する基礎! の事例に ことしての 社施設の	的な知識を ついて、ま 指す。 学校や、 計画・ 設計	習得するこ 築計画の視 、住空間を 者・高齢者	とを目的と 点かい視点 幅ど居場所 基礎的な知	て、その計画・ する。国内外の ・考察できる。 で捉え、の医療・ とした習得すると	
		建築計画C	築計画的 た施の市の 体的に 体的、 複合	知識の習 建築計画 の公共的 美術館、 的な建築	得をふまえ の分がを は いる は いる は いる は いる は いる は り いる は り は り は り は り り り は り は り は り は り り り り り り と り り と り と	て、より公 例研究とと 計画の意味、 物館、コミ	共的、複合 もに行う。 内容をイー カニティー 計画の基礎	間についての建的な機能を持っそのうえで、都察していく。具施設などの公共、知識を習得し、	

(人間系	<b>公会</b>	授 学群 住空間デザイン学類)	———— 業	科	目	の	概	要	
科目区分		授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		建築計画D	画知養試繰り、	分野についる かににに実し いきでいる で り り り り り り り り り り り り り り り り り り	て、基礎的 こと問題問題 とに題の とに で で で が と に え に り の う と に り の り に り に り に り に り に り に り に り に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ こ に れ た れ り と に れ り と り と り と り と り と り と り と り と り と り	な内容を重 、対容を重 対応とといる 、資格取得 などををしている。 などのである。 などのである。 などのである。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 といるでも。 といるできる。 といるでも。 といるでも。 といるでも。 といるでも。 といるでも。 といるでも。 といるでも。 といるでも。 としても。 としても。 としても。 とっとも。 とっとも。 とっとも。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。	点的に習得 学科試験に 得も目指す て、問題の 导のための	される「建築計 する。基礎的な対応できる力をできる力をできる力をできる力を の建築士の学科 傾向や解き方を 対策を行う。。学	
		構造力学 I	るために る。 静定 を 等 の 原 財 の 断 面	こ必要とな 三構造物を モーメン こどについ 一算定が数	る建築構造 中心に荷重 トの概念、 て理解する	力学の知識 ・外力の中部 部材の伸縮 。 設定とを目	を習得する デルに力度 ・ た構造 演習	・設計・施工す ことを目標とす う力で変形のトラス かずみける、 ルにおける、 問題を繰り返す	
人間総		構造力学Ⅱ	識、すな 学的なた 解法モデバ す。それ	はわち、 力 お 市 お 市 力 に お に に に に に に に に に に に に に	の流れや構力を習得す 静定構造物 、部材の断 、部材内の	造のしくみ ることを目 などについ f面算度にが 応力度につ	、構造材料 標とする。 て理解する 数値的にで いて理解を	築構造力学の知知の知力学の知力学の別点の対象をである。 ・のラスのされを種類であることを きることとをといる。 学に対する理解	
総合学群 住空間デザ	建築デザイ	建築構造 I	空間を形造といる。 空間 よい ここ できる はい ここ はい ここ はい ここ はい ここ はい こう はい こう はい こう こう はい こう こう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっ	が作る種々 では、 とない とを基 と と を 基 と と と と と と と と と と と と と と	の構造体の 建物を中心 とする。木 、屋根の形	概念と成り に、建築物 材の壁質の構 ことを目指	立ちを理解 の成り立ち 構造原理、 造、集成材 す。また、	るものである。 :する。「建築構 について理解を 木造の小足いて などについなと 歴史的建造物や	
ッイン学類 専門教育	ン関連科目	建築構造Ⅱ	の設計に る。「類 中心に、 質や構造 ンクリー 理解を済	こおいて、 建築構造Ⅱ 建物の成 造原理、鉄 トの構造	建物に要求 」では、、 り立ちとの 骨構式や柱・ た、 鉄骨鉄	される断記 構造双解 徴を理解 組、鉄配 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	面・材料の 筋コンクリ ることを目 造の継手や についての	のである。建物 基本を身定では 上下す。 指する 指する がいい。 知識を習得し、 第 PC構造などの基	
1科目		日本建築史	展してきる。を報視技術を受ける。	たかを概 身がになった かにでする かにできる たまなど にななど	観し、その し、賞を ない と ない と で き で き で き で き で き で き で き た う た う た う た う た う た う た う た う た う た	技術や意の 大術代集を 大変を 大変を 大変を 大る 大変を 大る 大変を 大る 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を	、様式上の 代の日本建 ついて、自分 指す。日本	建築がいかに発 特質について理 築・都市などに 式上の特質や意 自身の日本建築 の住様式から から江戸時代、	
		西洋建築史	世界の対象を理解を理事を表する。	世築に対すな 会社深めている で理解を持つで でザンテ	る関心を高 化と合わせ のでい視野を ようにする	めて建ったいはないはないないでないではないできるといいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	する。 建解 理解 様 る で、 自 古 く さ く く く く く く く く く く く く く く く く く	て基的という。 でお時に、技術などを では、では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
		ランドスケープ論	進のドいじる。	は、街の風の風では、 一プを通りでは、 かたちを はた、 はた、 はた、 はた、 はた、 はた、 はた、 はた、 はた、 はた、	景が少じずん かがデ後ででいる。 まないできる。 かったい かったい かったい かったい かったい かったい かったい かったい	つ変化して変化して変化して変化して変形をある。 でないないではないである。 で変のの基ででである。 で変のをできる。 で変のできる。 で変している。 で変している。 で変している。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	き得境の考別をできる。宅で、対し、対学でででいる。	的な緑化計画も ランドスケランドスケランドスケランドスケラン・ アプローチン・ ザイン手法をけい 能力をの環境と関 はなりでする。 でする技術を習	

(人間4	総合:	授 授 学群 住空間デザイン学類)	業	科	目	の	概	要	
科目区分	1	授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		建築環境設備	備調にの知に記れている。これではこれの関連の関連の手しています。	い・ 押 乗 乗 乗 乗 が は は は は は は は は は は は は は	やかないできるでは、これでは、これでは、目ができる。は、目がは、目がは、目がは、目がは、目がは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	の基礎知識 では給排水 エネルギー とし、建築 生活の実現	を習得する ・省貨を ・ ・ ・ ・ の 、 に に に に に に に く に く に り た り た り た り た う に り た う た う た う た う た う た う た う た う た う た	必要な「建築設。 ・前半他のでは空気 ・・そでがまでしている。 ・そでがまでいるでは、 関連では、 関連では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	
		環境工学	境り温法といて空え	っても広い いる諸要は 気がら な る 基 で る 基 で る ま き は う る ま う ら う る ま う ら う る も う る も う る も う る も う る も う る も う る も う る も う る も う る も う る も ろ も う も う と う と う と う と う と う と う と う と も ろ と も ろ と も ろ と ろ と ろ と う と う と う と う と う と う と う と	い定義を持て 因にどのの 義する。建 な知識を習	っている。 基礎的な知 理環境要素 築の気候・	その中で、 か理解を を を と 発 に と を と を と を と と と と と と と と と と と と と	一口に「建築環 建築の環境を作 深める。気候・ 深り込むす環境・ 中空気・音環境に 取り巻く環境に	
人間公	建築デザイ	建築材料	る知識は 料の性質 されてい は、主に といった	は建築を学んで でを知るだい でいるのかを は材料の力で お位構成材	ぶ者にとっ けでは不十 理解する必 学的性質に 対では、各	て重要であ 分であり、 な要がある。 ついて解説 部位に求め	る。ただし なぜそこに 構造材料 する。一方 られる機能	り、材料に関す 、単に個々の材 その材料が使用 の講義において 、屋根、壁、と ・性能を知る解説 についても解説	
総合学群 住空間デザ	ン関連科目	建築生産	用述のクるストで、大経験理	最終処分で 建築生産工 (新と施工と (済) アロジェ	を包括した のしくみと 管理マネジ しての意義 クトにおけ	建築生産及 発注者と受 メント技術 、建設産業 る企画/発	びそのプロ 注者との係 を習得する 構造の実情 注と企画/	設計・施工・運講 セスについて りを学ププロ の建築ププロ 理解いた について でいて でいて でいて がいで について がいで について でいて について にいて にいて にいて にいて にいて にいて にいて に	
ッイン学類 専門教育		建築法規 I	れするはないという。これではないではない。これではないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	なが建り が建り では で で で で の る の る る る る る る る る る る る る る	して、これ 認制まび 度および手 (単え、単 を覚え、単	らの法規制 る。「建築 続き」から について 体規定の概	に適合して 法規 <b>I</b> 」 勉議 と 関 を と 解 を 関 を 関 を 関 る る る る る る る る る る る る る る	規にこうには、 は、次学建なる。 は、次学建なる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。	
科目		建築法規Ⅱ	造物高なと使第路限規でと	設備及び居と敷備及び居と敷け、居民と といいました。 といいまではいました。 というでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいでは、 といでも、 といでは、 といでも、 といでも、 といでも、 といでも、 といでも、 といでも、 といでも、 といでも、 といでも、 とことも、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	用途」は、 用途地域 域制、 がある。 を を に の を に の と に の と に の の の の の の の の の の の の の	一般に集団 、形態制限 な市街地環 築法規Ⅱ」 認申請書の	規定と呼ば、 建な整備で ではなを で成を を はを を に を と に が と に と に と に と に り に り に り に り に り に り に	築物の敷地、建築物の敷地、建各の敷路と建各間が 大谷の別規建等を 大谷の別建築団規建 である。 集ている。 ・把握する。	
	専門ゼ	インテリアデザインスタジオI	心や興味がインとの別のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	のあるテー 動などを に、4年次 知識を深る どを高め	ーマを選定 とおしてがま のスタジオ める。とを目 ることを目	する。テー 究・考察す および卒業 に、発表を	マに基づき る。それら 研究へ向け 通して、プ また、社会	レゼンテーショ 人基礎力を高め	
	ミ科目	インテリアデザインスタジオⅡ	ンの領域 基づらの たいけて て、プレ	を中心に、 事例のまと が、ゼンボン で求め で求められ	関心や興やデザインとめるとと も専門分野ション能力	味のあるテ 活動などを もに、4年次 の知識を深 1などを高め	ーマを選定 とおして研 のスタさら めることを	ンテリアデザイ: する。テアデマに 守・考察する。 および発を楽し、 に、発する。 に、 リークカなどの アークカなどの	

(人間糸	総合:	授学群 住空間デザイン学類)	業科	ł B	Ø	概	要	
科目区分		授業科目の名称			備考			
		インテリアデザインスタジオ <b>Ⅲ</b>	定し、そのテ を踏まえしし を繰り返られら シテーション	ーマに基づいた のプロセスに がら、各自の 成果をまとめる	た研究計画を おいて調査でいるとともに、 ると表現手法	立案する。 事例研究・ て発表などを 発表方法	通して、プレゼ についても検討	
		インテリアデザインスタジオIV	ンの領域を中 に基づいたおい ロセ、各自のにおい 成果をまとめ なプレゼンテ	心に、関心や野究計画を立案で で調査・事例ででいているとともに、	興味の ある まる い を まる き き き き き き き き き き き う の を き う の き き う の き う き う ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら う と う と う と う と	ーマを選画を 研究作なを まって で で き で き で に き で に き で に き で に き で に り た り た り た り た り た り た り た り た り た り	ンテリアデザイ し、その、そのデーマア でを繰りる。最終的なのあるを かる。あるを かのある方法につい 発表する。	
人間総合学群		建築デザインスタジオI	味のあるテー 活動などを次の もに、4年次の の知識を深め などを高める	マを選定する。 おして研究・ カスタジオおよ る。さらに、	テーマに基 考察する。そ び卒業研究へ 発表を通して する。また、	づき、事例 れらの成、 向けてゼゼ 社会人基礎	心に、関心や興心で、関心で、関心でない。のまない。のまとめ専門分とという。 かいいい かいいい かいいい かいいい かいいい かいいい かいいい か	
住空間デザイン学類	専門ゼミ科目	建築デザインスタジオⅡ	心に、関心や 研究やデザる のまとめる専門分 テーション能	・興味のあるテーン活動などをな ともに、4年次 野の知識を深る	ーマを選定す とおして研究 のスタジオギ める。さらに ることを目的	る。テーマ ・考察する よび卒業の 、発表を とする。ま	インの領域を中側に基づらの成本を に基本れらので、成成 。それらけてレゼゼウンで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でいて、 でいて	
期 専門教育科目		建築デザインスタジオⅢ	そのテーマに え、そのから ない れらの成果を ション力など	基づいた研究記 セスにおいて記 各自のテーマル まとめるとと	計画を立案す 間査・事例の こつに、発表 見手法や発表	る。 各 自 の ・ 計 新 析 し て 法 法 に っ た い た い し た い し に っ い し っ し っ い る に っ い る に っ い る に り っ い る に り っ い る に り る に り る と り に り と り と り に り こ り と り と り と り と り と り と り と り と り と	ー研究はという。 一研究はどを繰ったでいる。 考察をでいる。 でも検討を重ね でも検討を重ね いても	
		建築デザインスタジオIV	心に、関心や 究計画を・事の でについて、 というに、 というに、 というに、 を身の を身の をする。 を見いて、 をよりに、 をよりに、 をよりに、 をよりに、 をよりに、 をよりに、 をよりに、 をよりに、 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。 をした。	・興味のあるテージする。 でする。各自のでいる。 日研究・対析・デージを通し、 ではなどを通し、	ーマを選定し 研究計なと で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	、まのテーのテーのよう を表し、というできる。 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、 を表し、	インの領域を中研でに基づいた。 ででは、大学では、大学では、大学では、大学をまという。 は、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学で	
		卒業研究	一査ンロす問題である。 一・のグラ知識をにもをにもをにまる。 でのがあり、 でのがあり、 でのがあり、 でのがあり、 でのがあり、 でのがあり、 でのがあり、 でのがあり、 でのがある。 でいるのでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいる。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでいるでいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいる。 でいるでは、 でい。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でい。 でいる。 でいるでは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	い、作品や論 いっわる問題に めて提案する め、問題解決の になることを になることを	文を 作 作 た た た た た き 制 に き 制 に と も り と き れ と も り に り に り に り に り こ っ こ っ こ っ こ っ ま っ ま っ ま っ ま っ ま っ ま っ	.。、すにトンテ・住て 調。 いずに かった きょう はった はった はった はった はった はった がん はん はん がん はん	マアを強いた。 ででを通していたがずで、 にを達通している。 ででを通りでする。 でで、にいる。 でで、にいる。 でい。 でいる。 でい	

	60. A .	授	業	科	目	<i>o</i>	概	要	
( <b>人間</b> 科目 区分		学群 住空間デザイン学類) 授業科目の名称			講	義等の内容			備考
		生涯学習論 I	的 に と の る の る の る の る の る の る の る の る の る の る の の る の の の の の の の の の の の の の	や基礎理に対しています。 学まれいででは、 を習いてででいる。 とは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	論、生涯学け とをと本、 と本、 は とを を を を を を を を を を を を を を を を を を	習の内なけるではお習いではお習いではいるではいるではいるではいるではいいではいいではいいできませい。これではいいではいいではいいではいいできない。	方「達る理・るに、といいでは、ことでは標の・明がいことがいった。	学習の意義や目 ける。生涯学習 ればいけなにこ て、①生涯学習 しを充分に自ずで しまることができる、 ことができる、 きる、以上の4点	
		博物館概論	きとけ、 とす、 は、 と し い る。 は き と り と り い り に り い り い り に り い り に り れ り に り れ り れ り に り れ り れ り に り れ り れ	講義は、特 集選学習 第 第 第 第 第 第 第 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	専物館に関 社会役割に ないにと課題で ない事例を	する基礎的: 3行する中で ついて考え を在ま といって といする。	知識を習得 で、こかから にたかから にかから に、る概 さいがらに、	果たす役割は大 はするとを身に の基件のを身に付 専門質的明した 事のまりの期に 事のまりの明した のまりの明した のまりの明した が明した場合 できるように できるように できるように	
		博物館資料論	と知識を行る。料の物は、生物では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	含めた、 うめた、 きせに即した ない に 変料に が に は に に に に に に に に に に に に に	資料に対す 対い民族、基対 対する資料で がするない がなる。 が変がでいる。 がない。 がない。 がない。 がない。 がない。 がない。 がない。 がない	る基本的な 美術・歴史 料の取り扱 いのな考え力 二次資料、	能力を養う ・かと ・の ・かを ・がを ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ で き で き で き で き で り た り た り た り た り た り た り た り た り た り	の方法等、理論 ことを目標とす ・料等、具体的な ・ついて学んでい あと、資料の収 ・料等について解 ・動がいかに行わ	
博物館学芸員	省令必	博物館展示論	についてが 成示の展示の基準 ような意味 と、展示が	解説し、これでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、 はい かい	また具体的でたという たかを目かい という という という という という という という という という とい	事例、あるインの仕方とする。博りの登表を実施の選定、	いは特定の 等を講じる 物館を一般論 展示の設計	ら博物館の展示な 展示を想度しな にいるで会のでは にからと、 で会ので いただで でのので いただが に で 会ので の に で 会ので の に で 会の で 会の で 会の で	
養成課程科目	修科目	博物館資料保存論	る。展示がある。展示がある。展代に対する。では、は、のでは、のでは、では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	環境、収 開 見 り り り い い い い い い い い り の り の り の り の り	臓環境を科 で動場で動状の で動りで で動りで で 動りで が が で が で が が に お が に お り に お り に り に り に り に り に り に り る に り る に り る に り る に り る に り る に り る に り に り	学的にとら の知識を習 ていかに大 資料の修理 件・災害・約	え、資料を 得すると 切ると りると の で の の の の の の の の の の の の の の の の の	ことをする ・良好な状態で保存 ・で、などのでは、 ・で、などのでは、 ・で学ぶの梱包と ・で学ぶの棚包と ・で学ぶの棚包と ・で学ぶの棚包と ・で学ぶの棚包と ・で学ぶの棚包と ・で学ぶの棚包と ・できない。	
		博物館経営論	ついて、。ジアム・・物館経営備、組織マーケテ	具体的事例 マネジメン の基盤と と 職員等 パイン グとノ	列を通して ント)の基 なる、博物 こついて学	学び、博物 礎的能力を が館行政制度 んだあと、 ィ活動、地	館を経営す 養うことを 度、博物館 博物館経営	理運営の方法に ること(ミュー 目的とする。博 の財務、起設 の使命と評価、 物館等、博物館	
		博物館教育論	らとなるとテとする。となるとこうとなるとこうというというというというというというというというというというというというという	る。意とは実践で、一般を主題をは、一般を主題をは、一般を主題を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	では、具体 と関する は身は は身に付く はの場、 は は は は は は は は は は は は は	的知よ材を事例を表している。 ある、おります。 ある。 ないのでは、 ない	示しながら、 と と る。地域 を る。 を る。 を る。 を る。 を る。 を る。 を る。 を る	さない 大学 できない はい	
		博物館情報・メディア論	等につい と活用に ける情報 状を踏ま 等を交え	て、ソフト 関する基礎 ・メディア ・ な、博物館 て教授する	ト面、ハー 楚的能力を アの歴史と 宿における	ド面ともに 養うことを 意義、博物 デジタル情 、著作権や	理解し、博 ねらいとす 館活動と情 報発信の基	情報発信の課題物館の情報提供る。博物館にお報ネット化の現本をネット実習、博物館の知的	

(人門:	松全市		業	科	目	Ø	概	要	
科目区分		授業科目の名称		備考					
		博物館実習A (見学実習)	うでる定定接いるとした間であります。	ら、さま た知識を 、学生が 、マ(展示 、ポートを	ざまな博物 深独るご訪れ 関のする。 関いま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま で	館を見学し、 を目的とするものがある。 照明と採光、 見学に訪っ	、他の博物 る。 見学は る。 どちら 、展示資料 れた博物館	か仕方を学ぶとい 館に関する引率 ・ 教員が引率 ・ の見学等)を設 の解説員から の学芸員から直 なものかについ	共同
	省令必修科目	博物館実習B (実務実習)	博物館に 資料の取 究の手法 が所蔵す 資料の取	関する科 対扱いやい 等につい る資料やり なり扱いに	目の補足を 収集・保管 て学ぶに直 関する注意	兼ねて、学 ・展示・整 を目的とする 接触れるた	内の実習施理・分の実習を 理・館園第 会のでは 関係である。 関係であると を でいる。 と でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	習の準備と他の設等において、の方法、調査研習では、博力によいする。	共同
		博物館実習C (館園実習)	でに管一け前にでは、には、	- 経験する - 経験を理・ - 1 - 1 - 2 - 3 - 3 - 4 - 5 - 5	ことでとでといい。このでとのでとのでというでというできるでいい。これではいいできる。これではいいではいいできる。これではいいではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいできる。これではいいではいいではいいできる。これではいいではいいできる。これではいいできる。これではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいできないではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいでは	物館の理念。 に、博物館 教と 教としての を 養するこ	や設置目的資料、受力を設置の変数を受ける。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。	を博物館の現場 ・業務や収集・務いの事・ ・扱い応等のを身に、対 ・対応でである。 ・対応ではまでである。 ・対のである。 ・がのでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもの	共同
博物館学芸員		日本美術史	時代別に 基礎の 選 選 で で が が が が が が が が が が が が り が り が り が	デーマを 我を修得すず を術品を軸い 信仰・各様 ボインなど、	設定し、日記 ることを目 に日本美術 に	本美術史上の 的とする。 の歴史につい 生み出された	の名品を軸 具体的に説い い美、日本の にとる	開について、各の・本美別で、人名の・を多工主義に大きな。	
養成課程科目		西洋文化史	概観し、記し、古代は、した中	一つの文 2、手紙、 ヨーロッ 3世界(古 1世、その)	化の成長が 装飾品や日 パ各地の人 代ギリシア 結実として	ら衰退まて 常の必需品 々の生活と 文化)から のルネサン	での経緯をでなどの多岐 さ考え方を ヨーロッパ スまでを扱	イドを多用してらを 研究すたるましてらいたったることを 知る。本基層を形 文化の西洋文化の う。 を目標とす	
	基礎選択必修科目	日本文化史 I	に対するとかられることをついます。	価値観や作ってる。 具作 はぞれの時代 いても側で は本の文化・	個々の文化 体的には、 代における 面的に学習 や世界遺産	事象につい 古代から近 文化的特徴に する。なお、	て基礎知識 現代に至る に は で は で は で が び で が び で が が が が が が が が が が が が が	、日本人の文化 を修得すること 文化史を学なで 察すること の の 、 の 、 日本人の文化 と で と で と で と で と の こ の に と の に の る に れ る ら れ る ら れ る ら れ る と う れ る と う と う と る と る と る と と と と と と と と と	
		日本文化史Ⅱ	文的め説芸お、世紀には映ると大き、世紀には映ると大きのできます。と	が 神楽、能、 ず・歌謡・ また必要に さもに、現	と技芸の全 文楽、薬師 と技楽、落語 とでの新しい ある稲城市	本像を把握 舞伎などの などのさま 象や音楽の 芸能文化に	すること目 日本を代表 ざまな芸能 鑑賞を行い こついても	でなける。本体には解析では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	
		地域文化概論	人は痕て私暮の石が教のに	下らしに関った。 を を は を は で に 関えてく は き は ま で に ま で に ま で に で ま に で に で に で に で に に に に に に に に に に に に に	する知識を作ります。 年中行事に る地域文化には登場した。 で形成された。 でな影響力	修得すること などつい ないで ない ない ること で かっ で いる ここ で かっ で の き で の き の り の き の で の き る こ て の ち る て の ち る て り る て り で り て り で り で り で り で り で り で り で り	とた目的とに残する。 は残すの暮する。 とき と き き き き き き き き る き る き る る き る る る ら る ら	でするない でする くっぱい まま 人 本 は 本 くっぱい さい しい さい さい さい こう いい こう いっぱい いい い	

(人間:	総合	授学群 住空間デザイン学類)	<del></del>	——— 科	目	Ø	概	要				
科目区分		授業科目の名称		講義等の内容								
		世界遺産研究	える 責務を ユネスコ総 遺産の 種類	負う人類 会で採択 、登録の と録されて	共通の財産 された世界 基準と手続いる世界	産である世 界遺産条約 売きなど基 遺産を鑑賞	界遺産につ に記されて 本的な理解 する。また	だ、未来へと伝いて、1972年にいる定義、世界 と深めるととも に、「危機遺産」 た。				
博物館学芸	基礎選択必修科目	世界のミュージアム	収蔵品を放っている。 収蔵品をを、力がりの選品をというがりになった。 大ム ニバス 14 羽鳥修	心説の問ム当 方 ・ 3 / 衆 次一 ツ で、 io的を徴 :	デ次価で デ次価で で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで で大いで でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた で	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	快像資料を含む、と 会に対する。 会は主なの。 子では、 子でである。 子である。 子である。 子である。 子である。 子である。	)立場から概要	オムニバス方式 共同(一部)			
員養成課程科目		日本のミュージアム	の収蔵品を の館の特徴 数点選び、 に、各ミュ	中心に、 を解説価値 そのジは値 には個々	ビデオや: る。次に、 について が現在抱; の館の垣村	スライド等 収蔵品の 検討を加え える問題を	の映像資料 中からよく え、その魅 取り上げ、	の成立過程とそそ を多用してた 知られた作品さ 知を探策を 考察す 解決を 3 4 4 4 4 4 5 4 7 8 8 8 8 8 8 9 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8				
		西洋美術の旅 I	16世紀ルネ 等によって の鑑賞等を や彫刻家た	サ概おち執 となり性の はなの はなり はなり はなり はなり はなり はなり はなり はなり はなり はなり	での西洋野がら、西洋野がら、とに求した。 ないにする。	美術の流れ 特代と各地 っている ながら、 最終的に	を多くのス の特徴を捉 美術の作品の は西洋美術	、ゴシックから ライドやビデオ えるな特質と が後に画家 背後基本的な知識				
		西洋美術の旅Ⅱ	て概観しな 対比によする 相違、18世 義様式の対	がら、西象コロの大の大き、大変を対して、対は、19世、人の大きの世、人の大きの大きのは、19世、大きの大きのは、19世、大きのは、19世の大きのは、19世の大きのは、19世の大きのは、19世の大きの大きのは、19世の大きの大きのようには、19世の大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの大きの	時代と各 美術の様 するのは、 様式、18 紀後半か	地の特徴を 式的な特質を ババルの 世紀後半か いの印象主	捉える。ま と画家や彫 様式と17世 らの新古典 義とそれ以	やビデオによっと た作品の鑑賞性と 対象ではいの類似と が成式とロマヴィが 様のフォヴィが は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、				
	専攻選択必修科目	日本の文化財 I	て概説し、 する。具体 がら、日本	日本の文 的には、 の近代化 た役割や	化財に関 近代以降の と文化財の 、日本の	する基礎知 の欧米社会 呆護の歩み 代表的な文	識を修得す との関わり について学 化財の特質	な文化財についることを目的とを視野に入れない。 を視野に入れな習し、博物館のを考察し、文化				

			 業	——— 科	目	の	概	————— 要		
(人間紅	総合	学群 住空間デザイン学類)								
科目区分		授業科目の名称		講義等の内容						
		日本の文化財Ⅱ	知識を深る物質を認めて物で、物質をはいる。	だめること された文化 所工芸品) た的建造物 だび、近年	を目的とす 財の概要と ・無形文化 群保存地区	る。具体的 、日本を化 対・民俗に ・選定保存 いる世界遺	には、文化 大表する有 文化財・記 技術・埋蔵 産、世界無	文化財に関する 財保護法によっ 形文化財(建立 会物・文化財 会物・文化財 で 文化財 で 大文化財 で 大文化財 で で で で で で で で の を り で り で り で り で り で り で り で り で り で り		
		歷史資料論	し、その目記録等の文字をお必要	o読解、調 る。具体的 文献資料、 の原本史料の ででででで	査、整理を 的には、古 、絵図、考 の読解方法、	行うための 代から近代 古資料等の 、調査・整 『物館・資料	基礎知識を までの代表 概要を学び 理方法につる 計館に行き、	料について概とと 修得することでででいる。 修存な古世のでででいる。 いでは、 いになるである。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、		
博物		民俗資料論	つすな な な 大 と で で こ 風 外 氏 氏 氏	で で で で に に で に で に に で に に に に に に に に に に に に に	の読解、調する。 具体に 言仰・芸能 通して、稲	査、整理を 的には い 民具およい が 扱がなが	行うための 域文化を理 民俗資周辺地 ら、これら	形の民俗資料に 基礎知識を修に有 解するた解説し、 ないに伝承さ調査・ 切収集・ 調査・		
館学芸員養成課程	専攻選択必修科目	歷史考古学	しる等とはいる。	ゴ学を通史的と目的とすってる中世から での歴のでの歴のに、歴史のに、歴史の	的に見据える。 具体的 ら近代まで 史研究にお 研究だけで	る視点を養 には、城郭 の考古学の ける考古 なく、民俗	うための基 、宗教、交 成果につい 学の可能性! 学をはじめ	の視点が の視点が の視点がを修 の視点で がら得 の視点で がは がは で に に に に に に に に に に に に に		
科目		歷史地理学	くのは、地域の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の	成的特徴も行ることを目 成の産業と 工体的な歴り 「能性につい	視野に入れ 的とする。 くらしについ 史像、地域	見据える視 具体的にに いて、それ 像について る。この学	点を養うた ま、衣食住 を支える人 学習し、新 びを通じて	的特別な めか世界では で、、、文 をなをなが、、文 たな地域る。 に得する。		
		文化交流史 I	察のなる を する本ら いなの いな の いな の れ の れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ り れ	とを目的。 : 諸外国との E体的に受験 はについて できた日本	とする。具作の交流の事情をした社会に 学習する。	体的には、 例を取り上 的背景や彦 の学びを や、日本文	縄文時代か げ、海外文 義について 通じて、国	歴史的特質を考で ら平を取けるで 化を取りの中で の歴 変でで いかで が が が が が が が で が で が で が で が の に の に で の に の に の に の の い う に の り い り に り の り り に り の り に り に り に り に り に り		
		文化交流史Ⅱ	察するこれでないない。そのはその特別では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	とを目的 と諸外国 っ主体的に	とする。具 との交流の 受容した社 て学習する。	体的には、 歴史を振り 会の背景や のこの 最、日本文	平安・鎌倉 返り、海外 意義につい を通じて、	歴史的特質を考 時代から幕末ま 文化を取捨選択 ての歴史的変遷 国際交流の中で らどのように理		

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合者しくは届出を行おうとする場合は、この書 類を作成する必要はない。